加須市埋蔵文化財調査報告書　第５集

埼玉県加須市

騎西城武家屋敷跡

第４～６・10～12・46・47・53～56次調査

2013

加須市教育委員会

加須市埋蔵文化財調査報告書　第５集　騎西城武家屋敷跡　第４～６・10～12・46・47・53～56次調査　加須市教育委員会

加須市埋蔵文化財調査報告書　第５集

埼玉県加須市

騎西城武家屋敷跡

第４～６・10～12・46・47・53～56次調査

2013
加須市教育委員会

第４次　陶磁器１

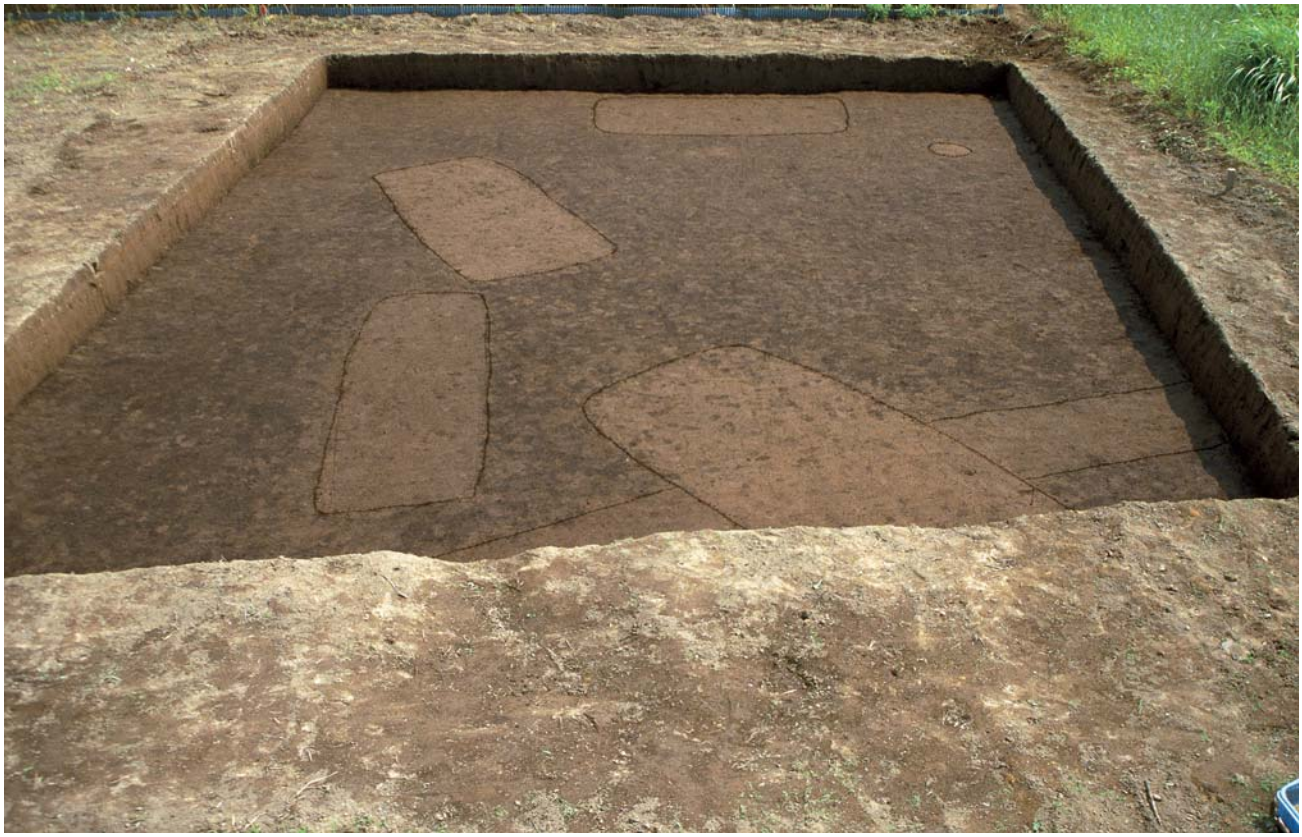
同　陶磁器２

口絵２

第５次　完掘（西から）

同　陶磁器１

第５次　陶磁器２



第６次　検出状況

口絵４

第10次　陶磁器１

同　陶磁器２

第11次　１・２号溝完掘

同　陶磁器

第12次　陶磁器

土製品

第46次　陶磁器１

同　陶磁器２

第47次　９号溝　骨出土状況

同　陶磁器１

口絵８

第47次　陶磁器２

同　陶磁器３

第53次　陶磁器 1

同　陶磁器 2（取瓶）

口絵 10

第55次　完掘（南から）

同　陶磁器

第55次　１号井戸　完掘

箸？

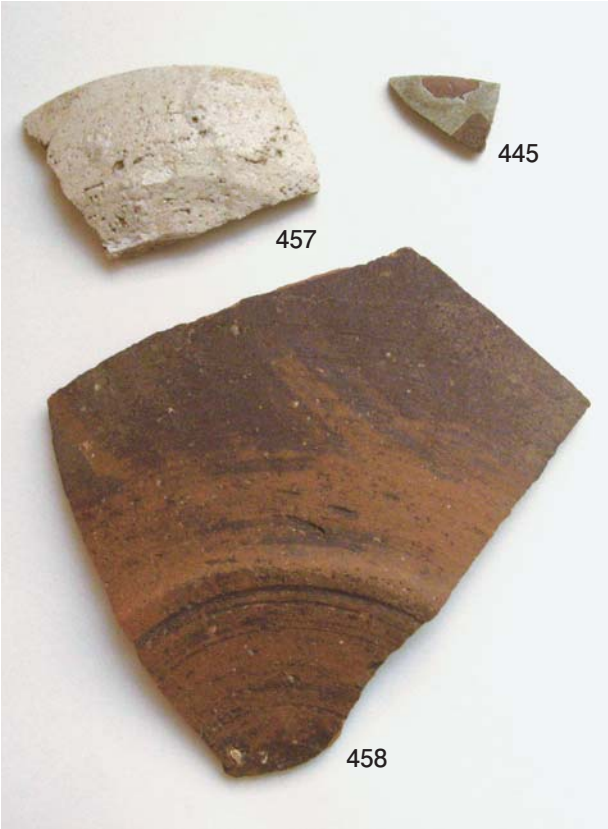
栓？

荷札

漆椀

木製品

第56次　２号溝完掘



同　陶磁器１

同　陶磁器２

金粒子付着かわらけ（土－134）

図１a　可視光画像（調査部位）

図１b　透過エックス線画像

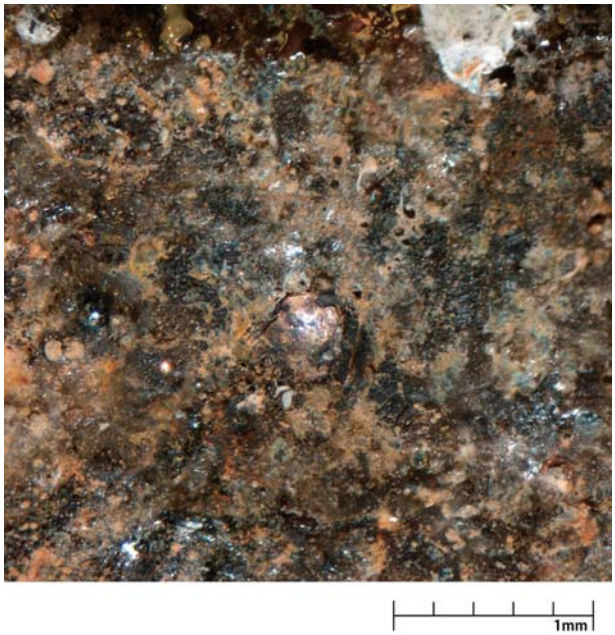


図２a　部位１顕微鏡画像

図２b　部位２顕微鏡画像

図２c　部位３顕微鏡画像

第５次　かわらけ科学調査

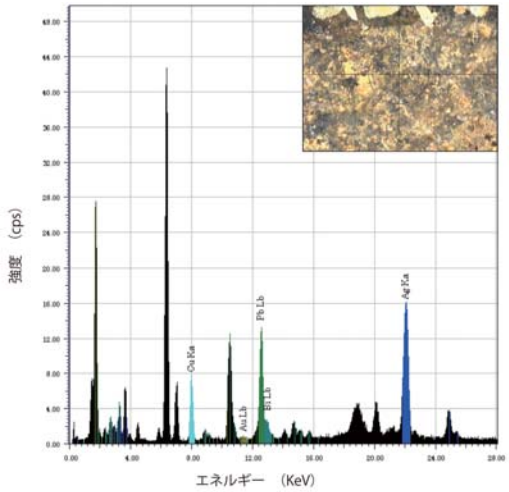


図３a－１（部位１）

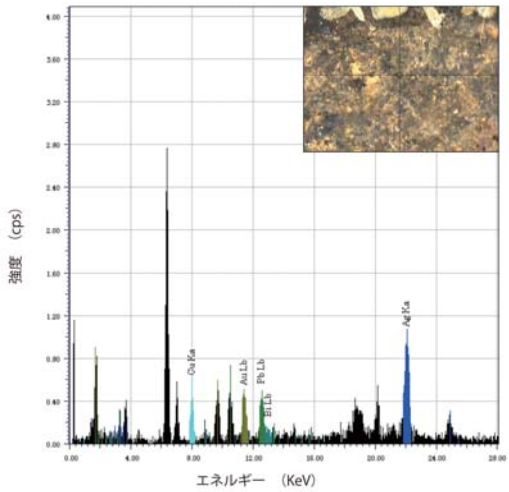


図３a－２（部位１）

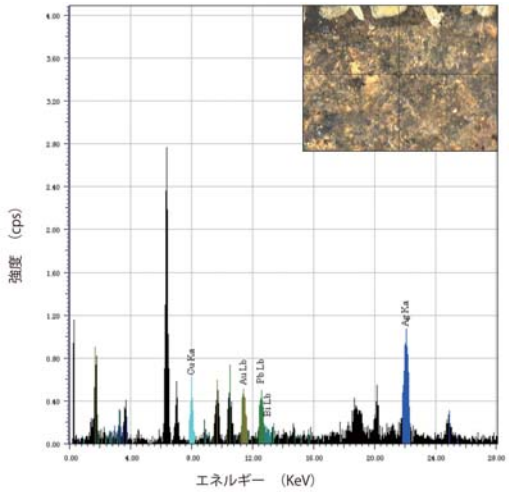


図３a－３（部位１）

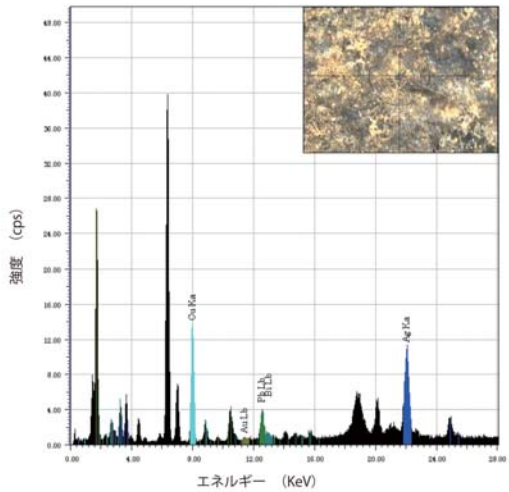


図３b－１（部位２）

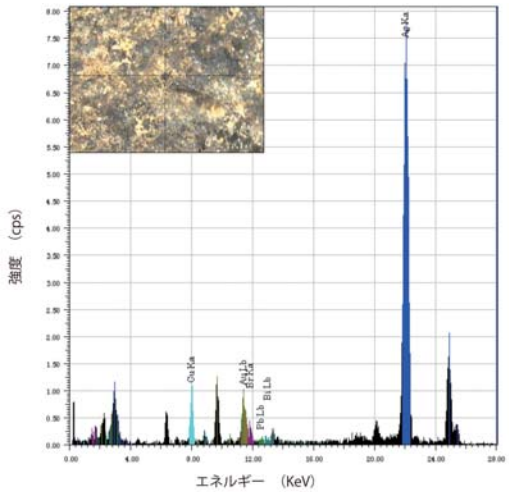


図３b－２（部位３）

蛍光エックス線分析１

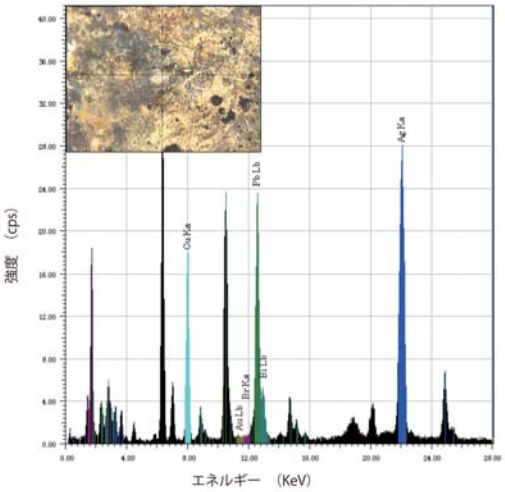


図３c－１（部位３）

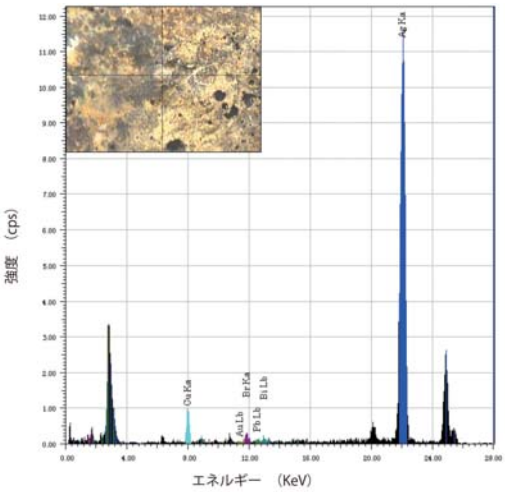


図３c－２（部位３）

蛍光エックス線分析２

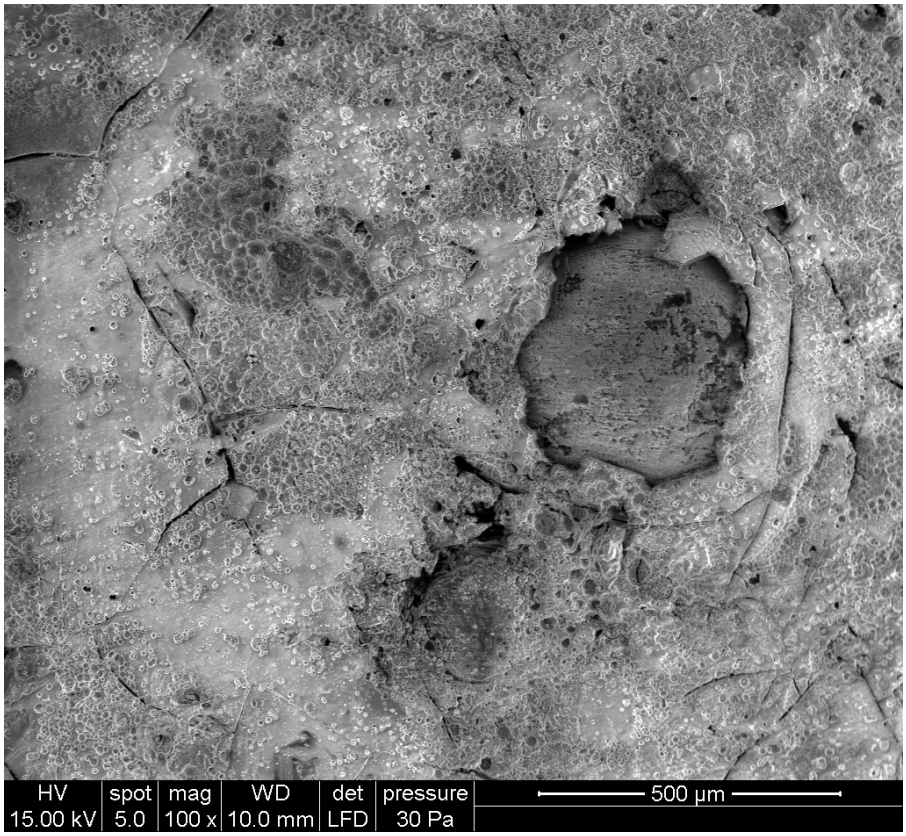


図４a　部位１　SEM 画像（２次電子画像）

第５次　かわらけ科学調査

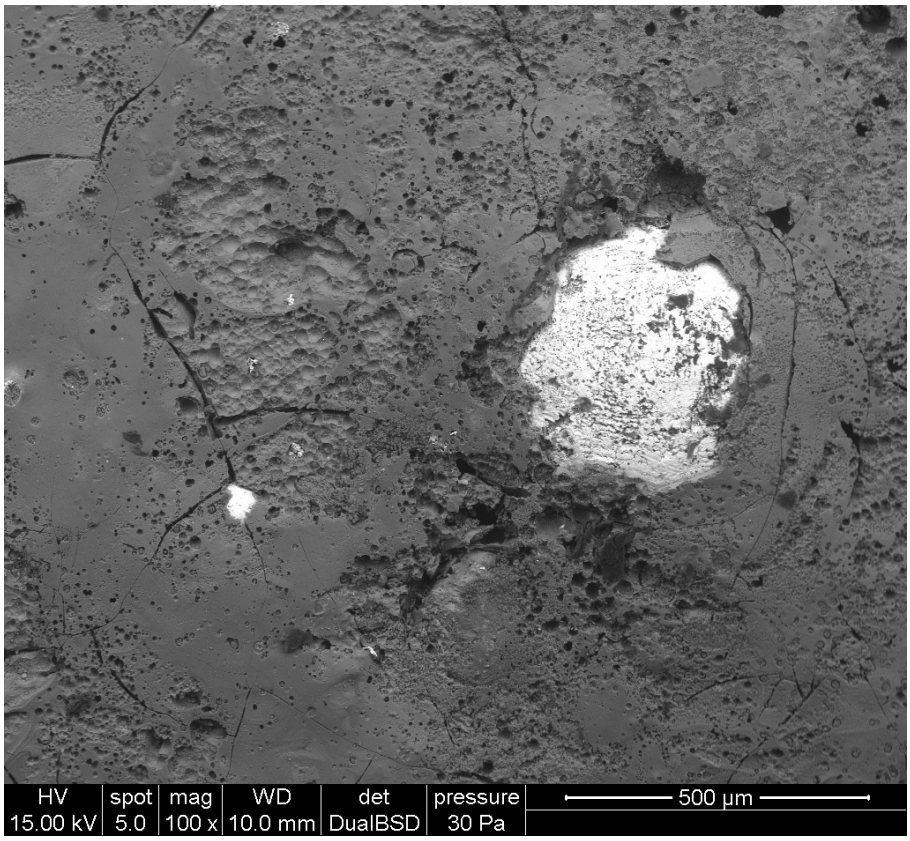
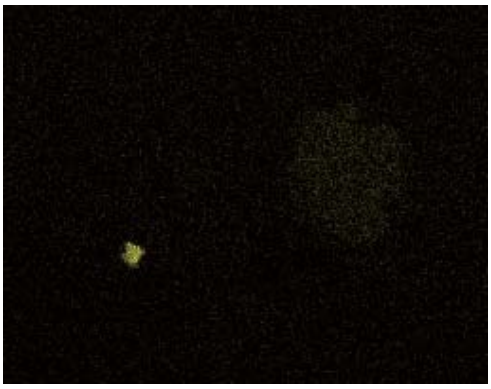
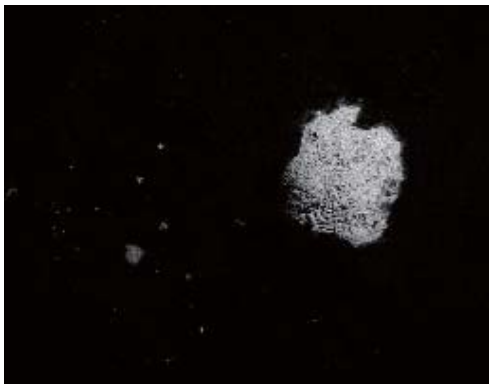


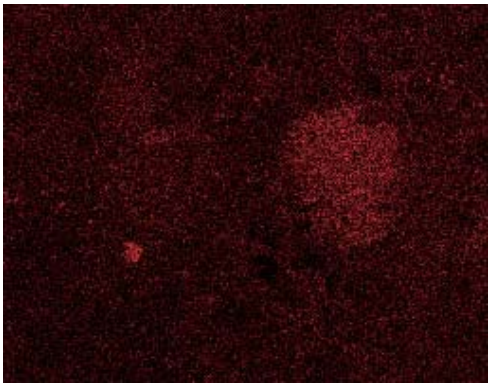
図４b　部位１　SEM 画像（反射電子像）



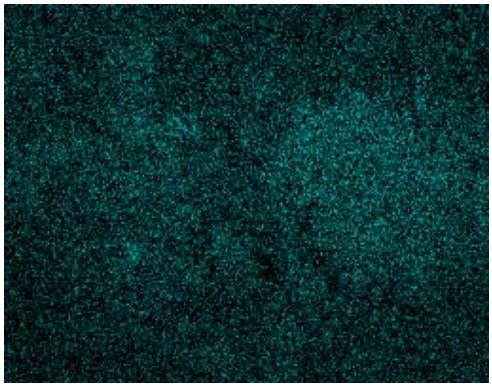
Au



Ag



Cu



Pb

マッピング分析結果

序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯であります。

今回報告いたします騎西城武家屋敷跡が所在する騎西地域はその中央に延喜式内社玉敷神社が鎮座する、歴史の古い地域であります。

地域内には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が所在いたしますが周辺の市町村とともに都市化が進み、景観が著しく変貌しております。

今回の調査報告は、昭和57年～平成16年に実施された根古屋地区に所在する騎西城武家屋敷跡第４～６・10～12・46・47・53～56次調査の記録であります。調査の結果、当時の堀や井戸の跡、居住した武士が使用した陶磁器など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました開発者の方々をはじめ関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成25年３月

加須市教育委員会

教育長　渡邉　義昭

例　言

1　本書は埼玉県加須市内遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は住宅建設に先立つもので、昭和57年～平成16年に、報告書の刊行事業は平成24年度に、いずれも国・県の補助金を受けて、実施した。

3　本書の刊行に際して次のように分担して業務に当たった。

（1）執筆　　嶋村英之

基礎データ　陶磁器　島村範久

※第Ⅲ章　第６節　科学調査については、沓名貴彦氏（山梨県立博物館）より玉稿を賜わった。

（2）写真撮影は現場のものは調査担当者が、その他は嶋村英之の指導の下整理協力員が行った。

（3）出土品の整理・図版の作成は下記の指導者の下、整理協力員が行った。

指導者

陶磁器及び木金属石製品の一部　島村範久

銭貨　　坂本征男

ほか　　嶋村英之

※木製品は嶋村薫が実測・修正した。

※『騎西町史考古資料編１』掲載のものは本報告の図を優先する。

※板碑は『騎西町史考古資料編２』をもとに作成した。

整理協力員

新井博子　小川美津子　長谷川恵　松村順子

4　本書の編集は嶋村英之が行った。

5　資料は加須市教育委員会が保管している。

6　騎西城は遺跡名・調査名は私市城であるがここでは武家屋敷が存在していた時期の古文書等により騎西城とする。

7　発掘調査・整理報告に際して下記の方からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

沓名貴彦氏　小菅将夫氏　中野達也氏

藤沢良祐氏　山梨県立博物館

組　織

1　発掘調査組織

調査主体者　騎西町教育委員会

担当者　各調査に記載

調査協力員　　同　上

2　整理組織

（平成24年度）　加須市教育委員会

教育長　　渡邉義昭

生涯学習部長　　牛久保達二郎

生涯学習副部長　奈良邦彦

騎西教育事務所　所長　中野一成

主幹　嶋村英之

主査　坂本征男

凡　例

1　本文および表について

○（　）の数値は残存値である。

○煩雑な記載を避けるため下記の通り略した。

井戸状遺構→井戸・井。□号溝→□溝。□号土壙→□壙

○銭貨の文字は欠損等しているが確定できるものは明記した。

2　挿図について

○縮尺は以下の通りである。

遺構　溝　土層堆積　１／40

溝断面・井戸状遺構・土壙　１／60

遺物出土１／40

遺物

縄文　土器片１／３　石器１／１

古墳　土製品１／２

中近世

陶磁器類・木製品１／３　　鉄・銅製品１／２
土製品・石製品１／４　銭貨１／１
○遺構断面図の基準標高は各々に記載した。
○土層説明は土層色調／含有物の順に記載した。
略称凡例
※テフラ＝T、ローム＝L、炭化物＝C、焼土＝S、酸化鉄＝FE、黒褐色＝BB、黒色＝B、褐色＝Br
※粒子＝R、ブロック＝B
※非常に多い＝☆、多量＝◎、少量＝△、微量＝▲、万遍なく＝万
※やや明るい＝やや明、やや暗い＝やや暗
※非常に軟らかい＝軟度高・軟らかい＝軟質・やや軟らかい＝軟度低・硬い＝堅緻
※締まり良し＝締良・締まり悪し＝締悪・粘性強し＝粘強・粘性有り＝粘有

目　次

序／例言・組織・凡例／目次
第Ⅰ章　遺跡の立地・環境
第１節　遺跡の位置……1
第２節　遺跡の地理的環境……1
第３節　遺跡の歴史的環境……2

第Ⅱ章　調査概要と検出された遺構
第１節　第４次調査……9
第２節　第５次調査……12
第３節　第６次調査……19
第４節　第10次調査……22
第５節　第11次調査……25
第６節　第12次調査……29
第７節　第46次調査……32
第８節　第47次調査……41
第９節　第53次調査……46
第10節　第54次調査……49
第11節　第55次調査……51
第12節　第56次調査……54

第Ⅲ章　出土した遺物
第１節　土器類……58
第２節　木製品類……101
第３節　金属製品……105
第４節　石製品類……110
第５節　他時期の遺物……121
第６節　科学調査……127

第Ⅳ章　出土遺物補遺……129

第Ⅴ章　まとめ……130

引用参考文献／図版／報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置（騎西地域）……1
第２図　周辺の微地形分類と縄文･古墳時代遺跡…3
第３図　周辺の微地形分類と城館跡……3
第４図　騎西城を取り巻く勢力図……7
第５図　各調査区の位置……8
第６図　第４次遺構位置図……10
第７図　第４次遺構……11
第８図　第５次周辺の調査……13
第９図　第５次遺構位置図……14
第10図　第５次遺構１……16
第11図　第５次遺構２……17
第12図　第５次遺構３……18
第13図　第６次周辺と遺構位置図……20
第14図　第６次遺構……21
第15図　第10次周辺と遺構位置図……23
第16図　第10次遺構……24
第17図　第11・12次周辺と第11次遺構位置図……26
第18図　第11次遺構１……27
第19図　第11次遺構２……28
第20図　第12次遺構位置図……30
第21図　第12次遺構……31
第22図　第46・47次周辺の調査……33

第23図　第46次遺構位置図……34
第24図　第46次遺構１……35
第25図　第46次遺構２……36
第26図　第46次遺構３……37
第27図　第46次遺構４……38
第28図　第46次遺構５……39
第29図　第47次遺構位置図……42
第30図　第47次遺構１……43
第31図　第47次遺構２……44
第32図　第53～56次周辺と第53次遺構位置図……47
第33図　第53次遺構……48
第34図　第54次遺構位置図と遺構……50
第35図　第55次遺構位置図……52
第36図　第55次遺構……53
第37図　第56次遺構位置図……55
第38図　第56次遺構１……56
第39図　第56次遺構２……57
第40図　土器類１（第４次１）……60
第41図　土器類２（第４次２）……61
第42図　土器類３（第５次１）……62
第43図　土器類４（第５次２）……63
第44図　土器類５（第５次３）……64
第45図　土器類６（第５次４）……65
第46図　土器類７（第５次５）……66
第47図　土器類８（第５次６）……67
第48図　土器類９（第６次）……68
第49図　土器類10（第10次１）……69
第50図　土器類11（第10次２）……70
第51図　土器類12（第11次）……71
第52図　土器類13（第12次）……72
第53図　土器類14（第46次１）……73
第54図　土器類15（第46次２）……74
第55図　土器類16（第46次３）……75
第56図　土器類17（第47次１）……76
第57図　土器類18（第47次２）……77
第58図　土器類19（第47次３）……78
第59図　土器類20（第47次４）……79
第60図　土器類21（第47次５）……80
第61図　土器類22（第47次６）……81
第62図　土器類23（第53次１）……82
第63図　土器類24（第53次２）……83
第64図　土器類25（第53次３）……84
第65図　土器類26（第54次）……85
第66図　土器類27（第55次１）……86
第67図　土器類28（第55次２）……87
第68図　土器類29（第56次）……88
第69図　土器類30（土製品）……89
第70図　木製品１……103
第71図　木製品２……104
第72図　金属製品１（鉄）……106
第73図　金属製品２（銅・鉛）……107
第74図　金属製品３（銭貨）……108
第75図　石製品類１（石臼１）……111
第76図　石製品類２（石臼２）……112
第77図　石製品類３（碁石・硯・砥石）……113
第78図　石製品類４（砥石・磨石）……114
第79図　石製品類５（磨石）……115
第80図　石製品類６（磨石・火打石）……116
第81図　石製品類７（板碑）……117
第82図　石製品類８（板碑・五輪塔等）……118
第83図　他時期１……122
第84図　他時期２……123
第85図　他時期３……124
第86図　他時期４……125
第87図　出土遺物補遺……129
第88図　調査地点の推定位置……131
第89図　第５次周辺遺構の変遷……133

表目次

第１表　第４次遺構一覧表……10
第２表　第５次遺構一覧表……15
第３表　第６次遺構一覧表……21
第４表　第10次遺構一覧表……24
第５表　第11次遺構一覧表……27
第６表　第12次遺構一覧表……30
第７表　第46次遺構一覧表……40
第８表　第47次遺構一覧表……45

第９表　第53次遺構一覧表……48
第10表　第54次遺構一覧表……49
第11表　第55次遺構一覧表……52
第12表　第56次遺構一覧表……55
第13表　土器類一覧表１……90
第14表　土器類一覧表２……91
第15表　土器類一覧表３……92
第16表　土器類一覧表４……93
第17表　土器類一覧表５……94
第18表　土器類一覧表６……95
第19表　土器類一覧表７……96
第20表　土器類一覧表８……97
第21表　土器類一覧表９……98
第22表　土器類一覧表10……99
第23表　土器類一覧表11……100
第24表　木製品一覧表……102
第25表　木製品樹種同定結果……104
第26表　金属製品一覧表……109
第27表　石製品一覧表１……119
第28表　石製品一覧表２……120
第29表　他時期一覧表……126
第30表　出土遺物補遺一覧表……129

図版目次

図版１　遺構１　第４次－１
図版２　遺構２　第４次－２
図版３　遺構３　第５次－１
図版４　遺構４　第５次－２
図版５　遺構５　第５次－３
図版６　遺構６　第５次－４
図版７　遺構７　第６次－１
図版８　遺構８　第６次－２
図版９　遺構９　第10次－１
図版10　遺構10　第10次－２
図版11　遺構11　第11次
図版12　遺構12　第12次
図版13　遺構13　第46次－１
図版14　遺構14　第46次－２
図版15　遺構15　第46次－３
図版16　遺構16　第47次－１
図版17　遺構17　第47次－２
図版18　遺構18　第47次－３
図版19　遺構19　第53次－１
図版20　遺構20　第53次－２
図版21　遺構21　第53次－３・第54次
図版22　遺構22　第55次－１
図版23　遺構23　第55次－２
図版24　遺構24　第56次－１
図版25　遺構25　第56次－２
図版26　出土遺物１　第５次－１
図版27　出土遺物２　第５次－２
図版28　出土遺物３　第５次－３・11次・46次
図版29　出土遺物４　第47次－１
図版30　出土遺物５　第47次－２
図版31　出土遺物６　第53・54次
図版32　出土遺物７　第56次
図版33　出土遺物８　金属製品
図版34　出土遺物９　石製品類－１
図版35　出土遺物10　石製品類－２
図版36　出土遺物11　他時期

第Ⅰ章　遺跡の立地・環境

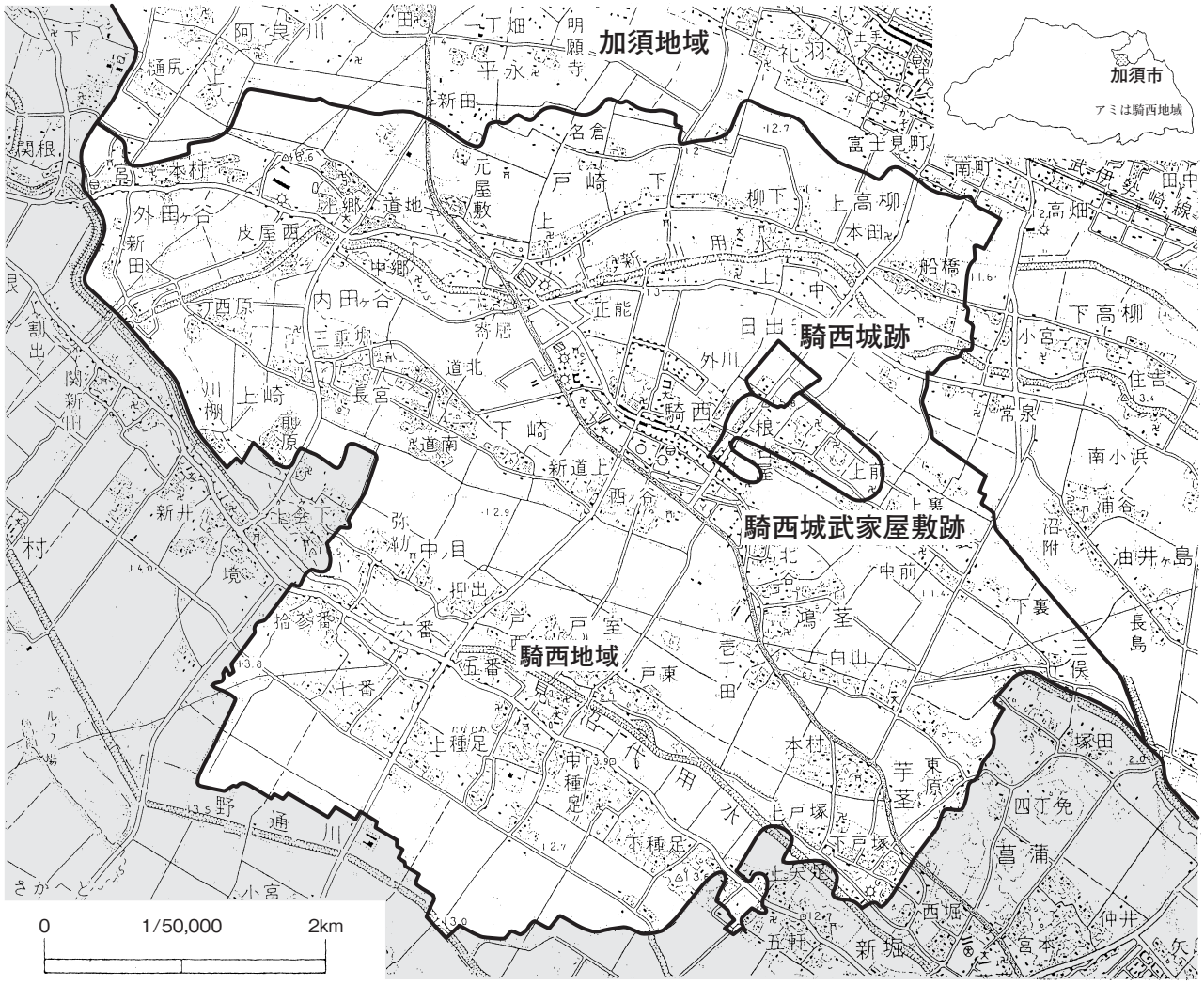
第１節　遺跡の位置（第１図）

加須市騎西地域は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡は地域のほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治９年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西生涯学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在地区内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。

第２節　遺跡の地理的環境（第２図）



第１図　遺跡の位置（騎西地域）

第３節　遺跡の歴史的環境（第2･3図）

※（遺跡名）は騎西町史考古資料編１に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直した。

１　旧石器時代

約２万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ（前）・（中宿）遺跡で該期の遺物が出土している。（前）遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が２カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約１万５千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、（道上）遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

２　縄文時代

草創期に（中宿）遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・（前）・（道上）遺跡で撚糸文系土器、（前）遺跡では集石遺構が、（道上）遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で土器が出土しており、特に修理山・（中宿）遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・（前）・（道上）で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に（道上）・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曽利Ｅ式期その後半に（中宿）遺跡で柄鏡形住居・（道上）遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壙などが見つかっている。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で加曽利Ｂ～後期安行式が出土している。晩期では安行３a～３d式が修理山・町並・（道上）・（前）・（中宿）遺跡で出土している。

３　弥生時代

地区内の遺跡は少なく中期では上種足三番遺跡で磨製石鏃が、（道上）遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

４　古墳時代

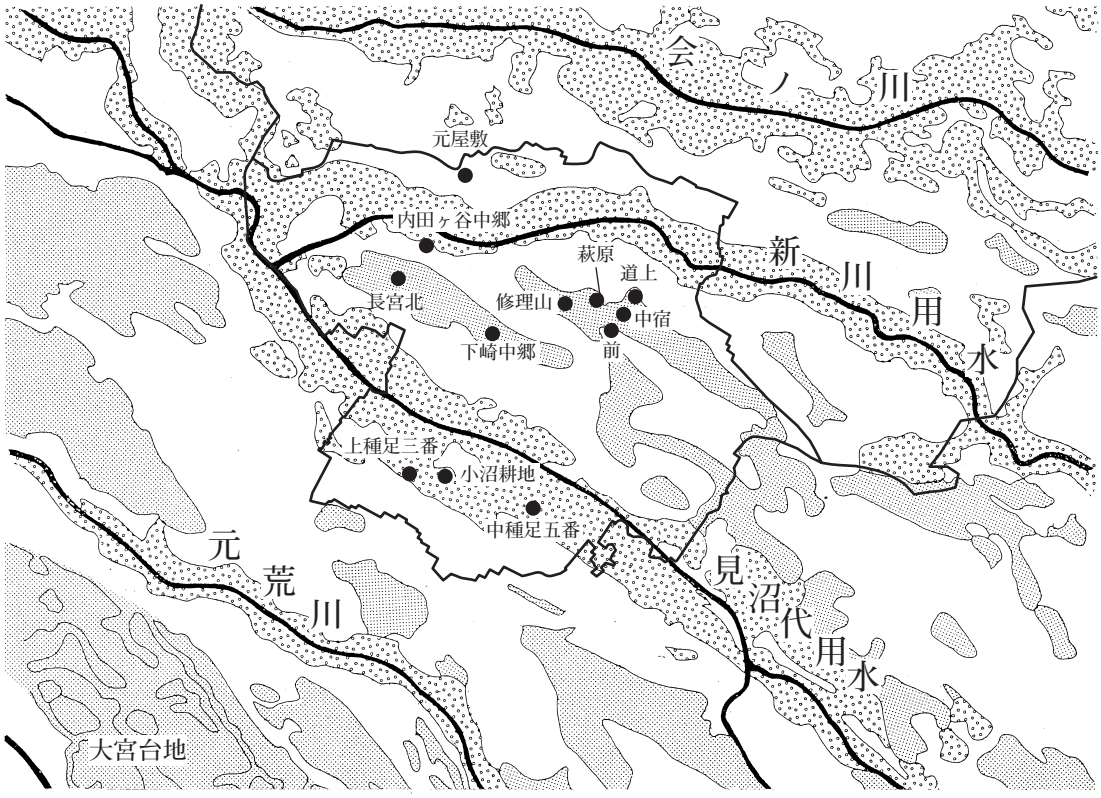
古墳跡は小沼耕地遺跡※で６～７世紀の前方後円墳１基・円墳５基が確認されている。（内田ヶ谷中郷）遺跡で勾玉や埴輪片、（前）遺跡の埴輪片や隣接する（中宿）遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材（町内の玉敷神社所在）等からこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・（中宿）遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・（道上）遺跡・（中宿）遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は地域内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

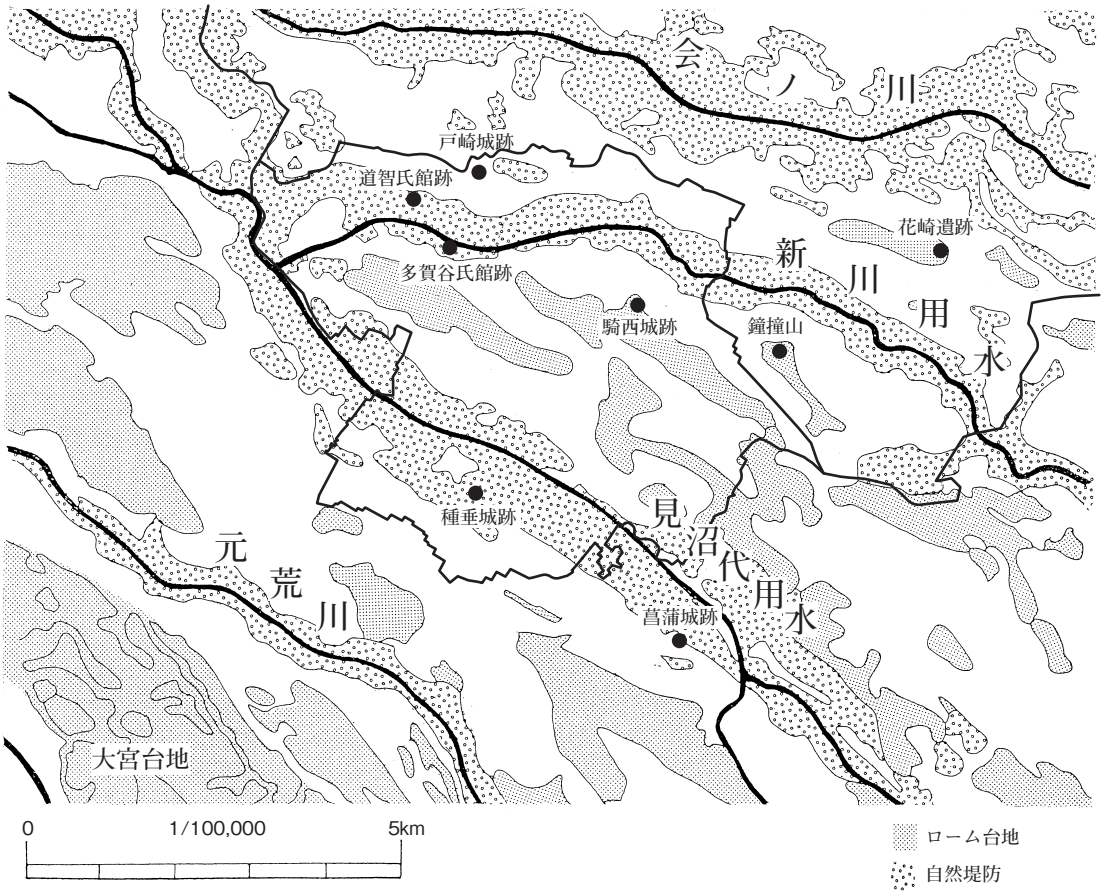
※町史の上種足三番遺跡を含む

５　奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは（道上）遺跡・上種足三番遺跡で８世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、（中宿）遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。



第２図　周辺の微地形分類と縄文･古墳時代遺跡



第３図　周辺の微地形分類と城館跡

６　中近世

騎西地域内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏館跡は内田ヶ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年（1190）多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長３年（1251）多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間（1429－41）初め頃に結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端で、溝から12～14世紀の同安龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、ほぼ中央大福寺の北で、土壙から12～13世紀の同安龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

道智氏館跡は、道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を務め、承久３年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している

種垂城跡は、上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。『雲祥寺縁起』には騎西城主小田顕家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したとある。発掘調査では、溝・井戸・土壙・火葬跡を検出し、漆椀・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壙・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・篭状木製品が出土している。

小沼耕地遺跡では県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果はそれらに関わるものとも思われる。

やや南よりの中種足五番遺跡では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

戸崎城跡は『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允の居跡なりとの記載がある。また『吾妻鏡』には戸崎右馬允国延が寿永３年（1184）源頼朝の御前の射手となるとある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

騎西城跡（年表参照）は文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壙1600基・井戸状遺構200基・障子堀５ヶ所・橋跡４ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。**武器武具**では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野沓・腰刀・薙鎌など、**生活品**では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆椀・杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、**生業**では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・坩堝・金粒付着土器など、**信仰**では護符・呪符・舟形・位牌・銅鋺・数珠など、**流通**では金・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を比定できる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・擂鉢などがある。

このほかに、日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。

騎西城周辺年表

康正元年（1455）	足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・庁鼻和など）を攻略する
文正元年（1466）	足利成氏、南多賀谷（田ヶ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ
応仁元年（1467）	★応仁の乱
文明３年（1471）	上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり
文亀２年（1502）	騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）・雲祥寺を復興。忍城（行田市）主成田長泰の子助三郎家時を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
天文８年（1539）	騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
天文12年（1543）	★鉄砲伝来
永禄３年（1560）	長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略。
永禄４年（1561）	騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する 長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎（謙信）に辱めを受け、北条方となる。助三郎も同様
永禄６年（1563）	北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略
永禄12年（1569）	上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
天正２年（1574）	上杉謙信、羽生・関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩槻城を焼き払う
天正３年（1575）	小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
天正４年（1576）	騎西城主成田泰喬、家臣に知行を行う
天正６年（1578）	小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
天正18年（1590）	★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西城２万石を与える
天正19年（1591）	松平康重大英寺を開基、日出安・保寧寺に田畑１町歩を寄進する
慶長元年（1596）	康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる。根古屋・金剛院、日出安から移転する
慶長４年（1599）	松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
慶長５年（1600）	★関ヶ原の戦い
慶長７年（1602）	大久保忠常、騎西城２万石を拝領する
慶長８年（1603）	★徳川家康、江戸に幕府を開く
慶長11年（1606）	騎西藩の家臣、領内（正能村）を検地する
慶長16年（1611）	忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西城２万石を拝領する
慶長19年（1614）	大久保忠隣改易となり小田原・羽生城を没収、騎西城主忠職は閉門に処せられる
寛永４年（1627）	大久保忠職、久伊豆大明神に社領を寄進する
寛永９年（1632）	騎西城廃され、代官所置かれる

騎西城周辺の歴史的経過（年表･第４図）

当遺跡では濃密ではないが中世を通して遺物が出土している。12世紀代の常滑甕、舶載白磁、渥美製品、また古瀬戸陶器等が見られる。騎西城以前にも集落・館等が存在していたようである。

【享徳の乱】

文献では騎西城は、康正元年（1455）に初出し寛永９年（1632）廃城となり姿を消す。享徳の乱では、関東公方足利成氏が古河に移り、関東管領上杉氏と対峙する。その争いの中に崎西郡を舞台として争う場面がある。これが騎西城とされる。残念ながら現在のところ当該期に相当する遺構は確認されていない。だがこの時期に騎西城の前線基地としての重要性は格段に高まり、戦闘の拠点としての城の整備がされたものと思われる。関東管領家臣の太田道灌が岩付城・河越城・江戸城の防衛ラインを張ったとき騎西城はすでに古河方の足場として機能していたのではないだろうか。

【永禄・天正期の軍事的緊張】

また、永禄から天正年間にかけての後北条氏対上杉謙信の覇権争いにおいても境の城であった。騎西城は何度となく厳しい立場に追い込まれている。特に謙信が関東の足掛かりとした羽生城を間近にしており、２度の戦火を被っている。

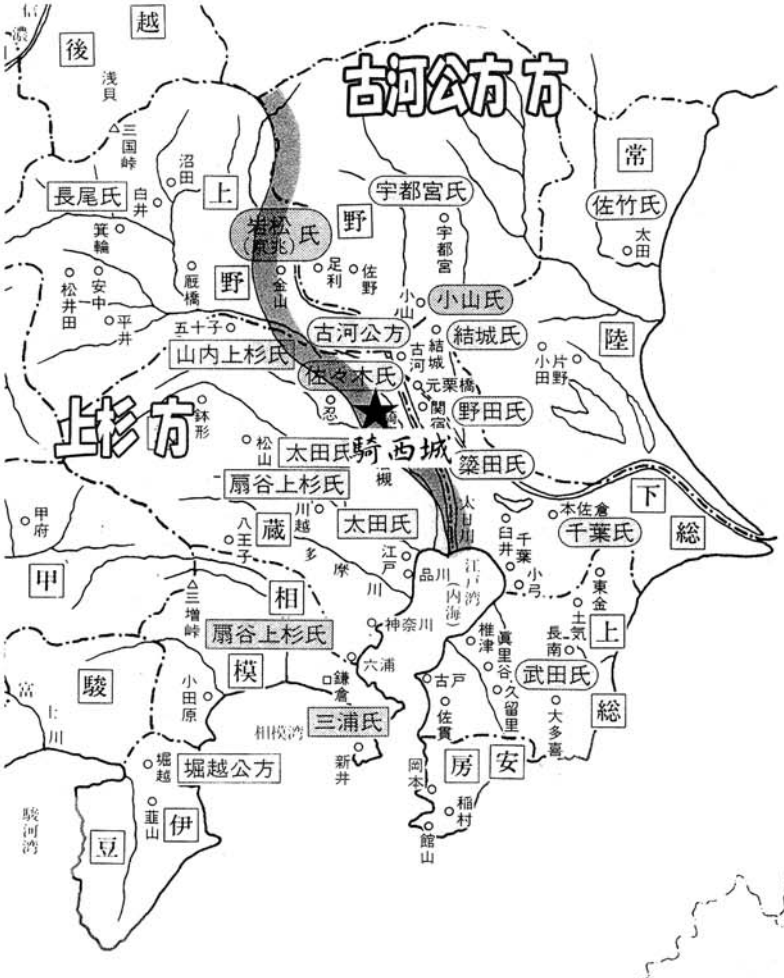
文献では、永禄６年、北条氏康・武田信玄が松山城を包囲したが、その救援に間に合わなかった謙信は攻める方向を転じ騎西城を陥落したとされる。その後、謙信は武田信玄との敵対関係から後北条氏との和睦（越相同盟）を成し、しばし平安であった。しかし北条氏康没後、甲相同盟の復活により再び北条・上杉の合戦が再開された。天正２年には謙信が羽生・関宿城援護のため出陣し、古河・栗橋・菖蒲・岩槻城とともに騎西城を焼き討ちにしている。

当該期の遺物・遺構は豊富で、城郭部周辺の障子堀（KB15区・騎13次）から炭化物・遺物が多量に出土している。これらはこの頃の戦火に伴う戦後処理のものと思われる。

【秀吉の小田原攻めと家康の関東入封】

豊臣秀吉が小田原城を攻めたとき、忍城も石田三成に水攻めを受けている。騎西城も備えとして城の拡張・改良を行なったものと思われる。特に城郭部を巡る障子堀を二重にしたり、堀幅を広くしたのはこの時期の可能性がある。

その後家康が関東に入り、騎西城には松平康重、大久保忠常・忠職が藩主となっている。その際に城郭部の縮小や城下の再編成を行なったものと思われる。実際『武州騎西之絵図』に載る御蔵屋舗には外側に障子堀を備えており、戦乱時は城郭部であったことを物語っている。

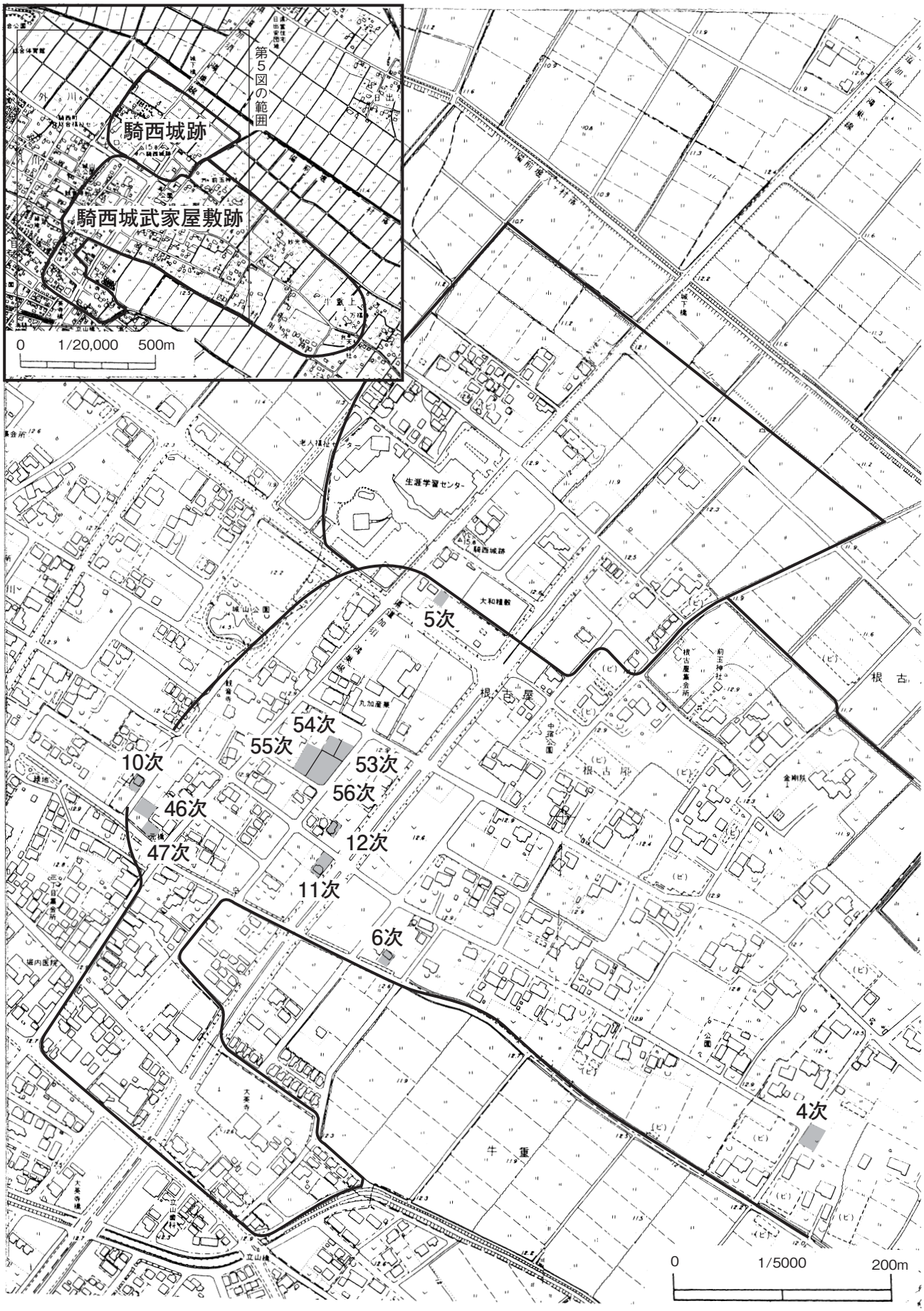


享徳の乱初期の関東
(1454 ～)

氏康 × 謙信の頃の関東
(永禄～天正年間)

『古河公方展』古河歴史博物館
『中世・下町再発見』葛飾郷土と天文の博物館
掲載の図を改変

第４図　騎西城を取り巻く勢力図


第5図の範囲
騎西城跡
騎西城武家屋敷跡
0 1/20,000 500m
5次
54次
55次
53次
56次
10次
46次
47次
12次
11次
6次
4次
0 1/5000 200m

第５図　各調査区の位置

第Ⅱ章　調査概要と検出された遺構

第１節　第４次調査

（１）調査の概要

（調査に至る経過）

開発者相沢一郎氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋152における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事島村範久が担当した。

（調査協力員）

相沢静子　相関広治　五十嵐喜一郎　五十嵐まさ子　五十嵐米太郎　小野田靖　籠宮義人　斉藤伊曽次　斉藤年治　斉藤はる子　斉藤豊　篠塚よね　土屋トヨ　吉沢幸夫　渡辺秋彦

（文化庁通知）57委保記第２－2734
昭和57年11月18日

（調査期間）　昭和57年11月15日～11月30日

（調査面積）　115㎡

（調査の経過）

建設予定地に14m×8.4mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。その際土層の堆積状況を確認するため、先行して１カ所トレンチ状に掘り下げた。掘り下げ途中に陶磁器やスラグ・炭化物が出土した。南側にトレンチを設定し、溝の断面を確認する。ローム面を確認面として溝・土壙などの調査を行った。調査地点は比較的高く降雨等がなかったため、排水の為の側溝は不要であった。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

（周辺の調査）

区画整理地内でなく隣接地の調査はない。西方170mに第43次、北方250mに妙光寺第１・２次・第52次が調査されている。いずれも遺構は散漫で、時代も騎西城時代のものが確認できない。しかし、出土遺物は当該期のものがある。

（２）遺構と遺物

【溝】　１～４号溝は、西側に南北方向に走行し、５号溝は東側にＬ字型に走行する。断面形態はいずれも箱薬研である。

１号溝　幅28cm深さ36cmと小規模である。

２号溝　１号溝と同様、幅46cm深さ42cmと小規模である。瀬戸美濃稜皿（土－１）・肥前陶器小碗（土－２）が出土している。

３号溝　セクション値で幅76cm深さ70cmを計る。肥前磁器小杯（土－３）が出土している。

４号溝　東側に緩やかに立ち上がり幅148cm深さ68cmを計る。桃の種１点出土。

５号溝　幅44cmと小規模である。在地の火鉢（土－４）・瓦（土－５）が出土している。

【土壙】　東側に１基検出した。

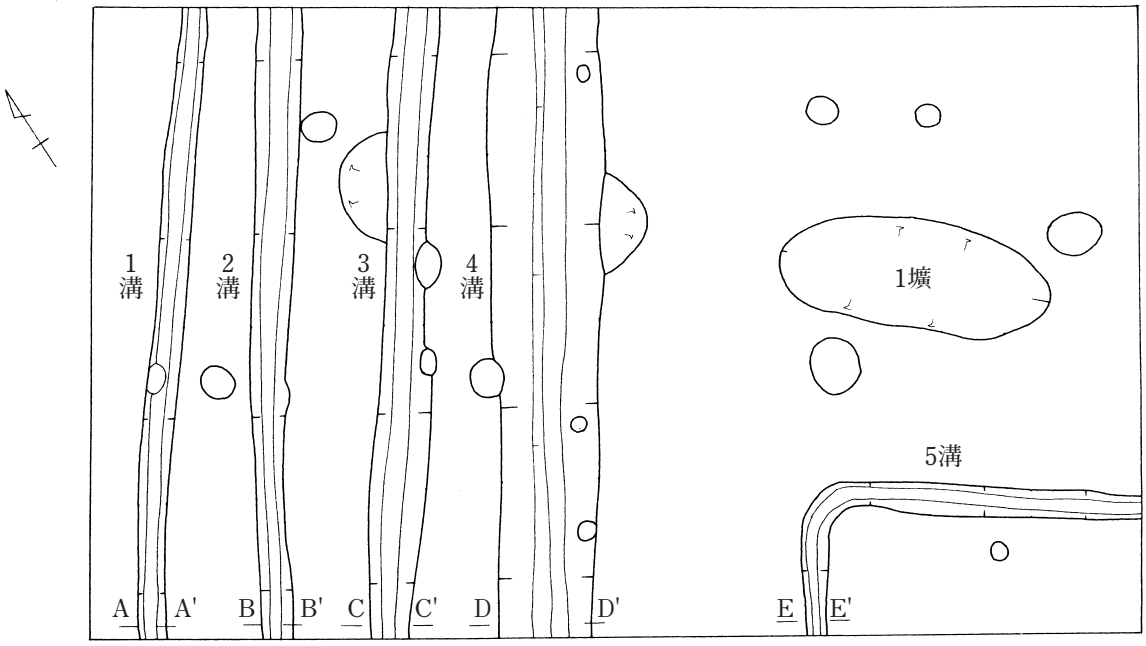
１号土壙　楕円形。覆土は褐色、黒褐色で縄文期の落し穴を思わせるが、底面がわりと浅く平坦である。

規模は367cm×144cmで、深さ63cmである。

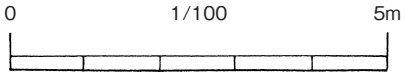
【遺構外出土遺物】

陶磁器では、龍泉窯系青磁碗（土－６・７）・瀬戸美濃天目茶碗（土－10～13）・同折縁皿（土－14～16）・同縁釉皿（土－17）・同丸皿（土－19・20）・志戸呂擂鉢（土－31）・初山皿（土－32）がある。在地産ではかわらけ（土－41～44）・ほうろく（土－45・46）・火鉢（土－47）・鉢（土－48）がある。金属製品では煙管吸口（金－16）・銭貨（金－35～38）がある。他にスラグ290gがある。

旧石器時代の黒曜石製の尖頭器（他－３）、縄文時代ではチャート製の石鏃（他－68）がある。



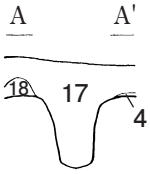
第６図　第４次遺構位置図



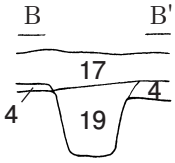
☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	なし	直線	箱薬研	幅☆28	☆36	暗灰褐色/含LR◎･LB◎			
２号溝	なし	直線	箱薬研	幅☆46	☆42	褐色／含 LB◎・LR◎	瀬美稜皿/肥前唐津（小碗＝16c末～16c末～17c前）	16c末～	
３号溝	なし	直線	箱薬研	幅☆76	70	暗褐色/含LB･C	肥前磁器（染付小杯＝18c）	18c～	
４号溝	なし	直線	箱薬研	幅☆148	☆68	褐色／含 LB◎・LR◎	桃の種		
５号溝	なし	L字形	箱薬研	幅☆44	☆45	暗灰褐色	在地（火鉢＝19c･瓦）	19c～	
１号土壙	なし	楕円形	ロート形	367×144	☆63	褐色/含LR			

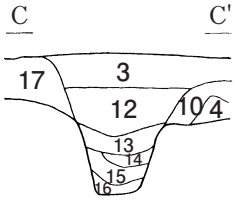
第１表　第４次遺構一覧表



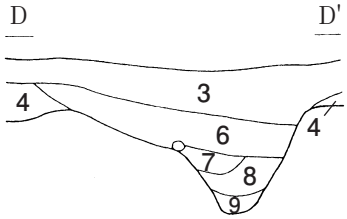
1号溝



2号溝

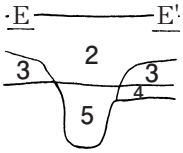


3号溝

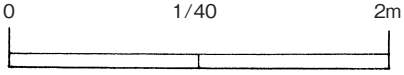


4号溝

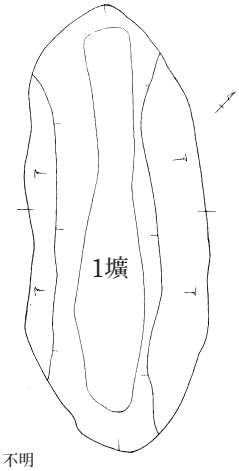
L＝基準杭－40㎝
（基準杭の標高は不明）



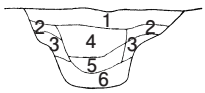
5号溝



○　１～５溝セクション
2　暗灰褐色／LR、CR△
3　暗灰褐色（２層より暗）／LR、CR△
4　褐色／LB、LR
5　暗灰褐色（２層より暗）／締悪
6　褐色／LB、LR◎
7　黒褐色／LR△　軟質
8　黄褐色／LB◎　ベタつく
9　暗灰褐色／LR　粘強
10　暗褐色／LR　締良
12　暗褐色／LB、CR　締良
13　黄褐色／LB、LR
14　黒褐色／粘強
15　黄褐色／13層に類似　LB、LR◎
16　暗灰褐色／粘強　締悪
17　暗灰褐色／３層に類似　LB、LR◎、CR
18　褐色／LB、LR◎
19　不明



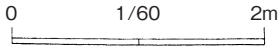
L＝不明



土層説明凡例
色調／含有物

テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有

○　１壙セクション
1　褐色／LR、締良
2　褐色／LR（１層より◎）
3　黄褐色／LR（１層より◎）
4　黒褐色／LR、CR△　締良
5　黒色／LR、CR△　堅緻
6　黒褐色／LB、LR、CR△、SR　堅緻



第７図　第４次遺構

調査風景

第２節　第５次調査

（１）調査の概要

（調査に至る経過）

昭和61年11月13日、開発者長浜広幸氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字道上201－１における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事嶋村英之が担当した。

（調査協力員）

青木のい　梓沢ユキ子　新井泰子　小久保衛
小森谷アサ　小森谷二三子　斉藤はる代　坂巻茂
関口信幸　高橋和子　内藤ふく　中島かづ江
野本友吉　松村金蔵　吉野武一

（文化庁通知）62委保記第２－2490号
平成62年９月４日

（調査期間）　昭和61年12月８日～
昭和62年１月23日

（調査面積）　200㎡

（調査の経過）

建設予定地に20m×10mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。ローム面を確認面として溝・土壙・井戸などの調査を行った。遺構確認面を探るため調査区東端にトレンチを設定しローム層まで掘り下げる。その際北端に溝を検出する。３号溝覆土にはロームの２次堆積を確認する。調査地点は比較的高く降雨等がなかったため、排水の為の側溝は不要であった。井戸の覆土は掘り上げ後、洗浄し遺物を探した。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に南側の東と西端にトレンチ調査を行い、２・３号溝と並行する溝（ローム２次堆積の覆土）を確認する。

基準杭の標高はKB10区に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

東に第13次調査区が隣接し溝の延長が確認された。KB13区の隣接地では溝、やや東方に加曽利Ｅ期の住居跡が確認された。西端には堀が検出され覆土にはローム層がラミナ（葉理）状に２次堆積していた。

（２）遺構と遺物

【溝】　総数５条で、北端に大規模なものが１条がある。北側に断続するが延長線上にある２条を検出し、いずれも覆土にローム層の２次堆積がある。調査区の南方に確認面だけの検出だが、２・３溝に並行して10m南に２条確認された。

１号溝　南側は30cmと浅いが北に拡張したトレンチでは深さ140cmである。城郭部南の堀の南端であろう。中国白磁皿（土－49・50）・染付皿（土－51）・常滑甕（土－52）・瀬戸美濃天目茶碗（土－53～56）・志戸呂丸皿（土－62）・かわらけ（土－64～69）・ほうろく（土－70～74）・在地擂鉢（土－75～78）が出土している。土－68・69はスラグが溶着しており取瓶である。板碑（石－74～76）・スラグ60g・歯出土。石－74は摩耗しており砥石である。

※トレンチNo.１～３の設定箇所は不明。調査メモより東から１・２・３であったと思われる。

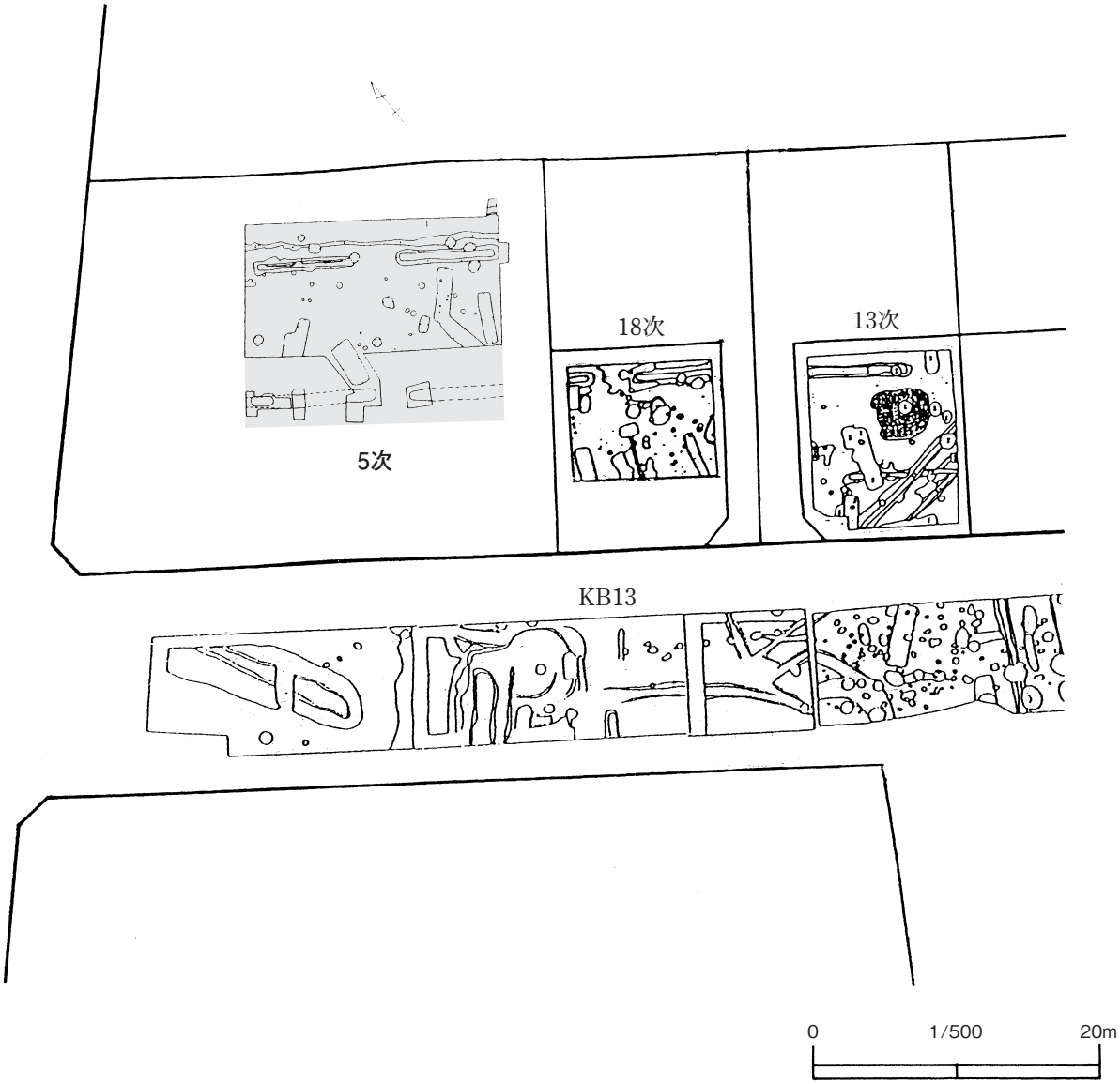
２号溝　幅108cm深さ50cmで、長さ８m。ローム２次堆積層が下層にあり。ほうろく片（土－79）・スラグ20gが出土。

３号溝　幅67cm深さ47cmで、長さ7.5m。瀬戸美濃端反皿（土－80）・同四耳壺（土－81）・かわらけ（土－82・83）・スラグ250gが出土している。

４号溝　幅86cmで検出面での確認のみ。覆土に黄褐色土を含む。13次調査区からの延長と思われる。調査区中央部で断続し５号溝に続く。銭貨（金－39）が出土。

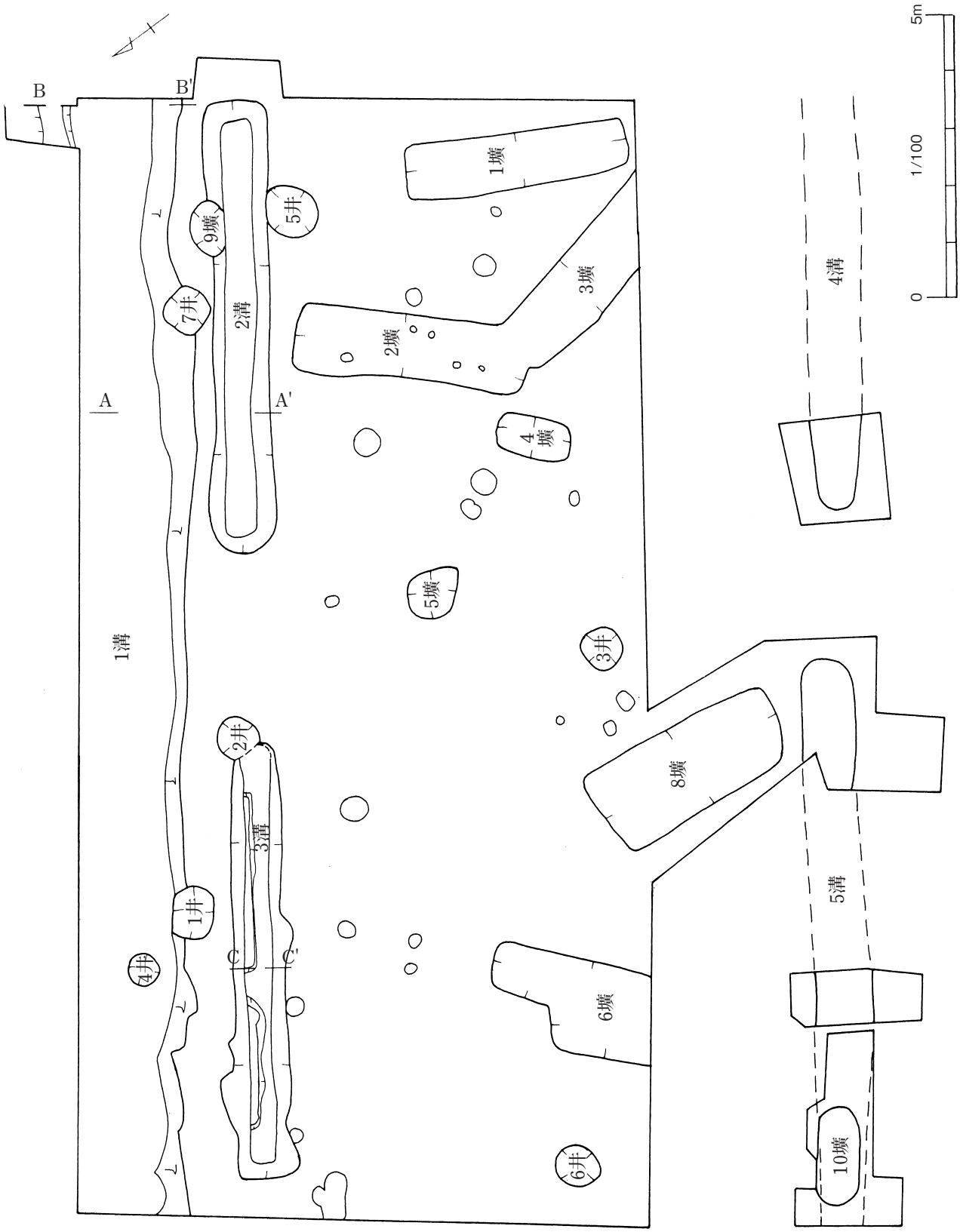
５号溝　幅100cmで検出面での確認のみ。覆土に黄褐色土を含む。

【井戸状遺構】調査区の全体に７基検出した。平面方形のものや底面が平坦なものなど典型例でないも



第８図　第５次周辺の調査

調査前風景



第９図　第５次遺構位置図

のがある。浅いものもあり、井戸でないものを含むか。

１号井戸　平面方形。深さ88cmを計る。底面平坦。龍泉窯系青磁碗（土－88）・常滑甕（土－89・90）・かわらけ（土－91）・弾丸（金－23）・銭貨（金－40）・炭化物が出土している。

２号井戸　龍泉窯系青磁碗（土－92）・瀬戸美濃天目茶碗（土－93）が出土。

３号井戸　平面円形。径80cm、深さ121cmを計る。底面平坦。

４号井戸　平面円形。径69cm、深さ60cmと浅いが１溝内にあり見かけ上である。標高では10.65mで他のものと同様である。釘（金－３）が出土。

６号井戸　平面円形。径88cm、深さ165cmを計る。底面平坦。銭貨（金41～49）が出土。

７号井戸　炭化米が出土している。

【土壙】欠番１基及びab分割で総数10基である。平面長方形・円形・楕円形のものがある。

４号土壙　平面長方形で136cm×68cm深さ26cmを計る。完形のかわらけ（土－96）・ほうろく（土－97）が出土した。

５号土壙　平面楕円形で96cm（残存）×84cmの規模である。覆土はロームの２次堆積・炭化物層が堆積する。特殊な遺構か。

８号土壙　瀬戸美濃総織部皿（土－98）・スラグ40gが出土。

10号土壙　瀬戸美濃端反皿（土－99）・かわらけ（土－100～103）・焼土塊（焼けた壁？）が出土した。

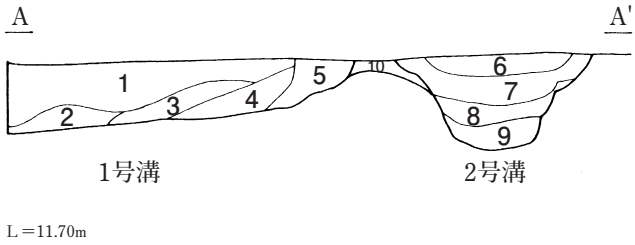
【遺構外出土遺物】

陶磁器類では、龍泉窯系の青磁碗（土－104）・

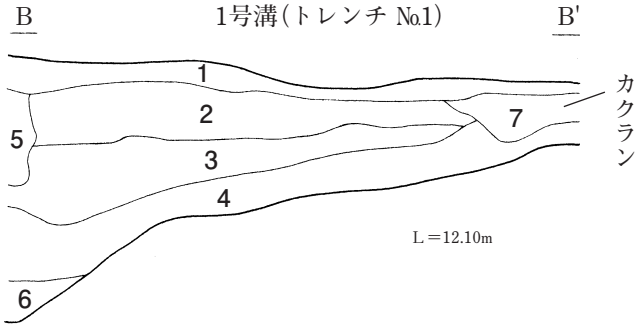
○は当該遺構　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	１・４・７井	直線	ゆるやか	幅☆(140)	☆140	暗灰褐色	中国(白磁皿＝15c後～16c前・染付皿＝16c中～後)/常滑(甕＝1580～1600)/瀬美(天目・丸碗・稜皿・折縁皿)/志戸呂(丸皿・徳利＝16c後～17c前)/肥前磁器(染付皿＝17c前)/在地擂鉢/かわらけ/焙烙/粉挽臼(上臼)/砥石/磨石/板碑/鹵/スラグ60g	16～17c	
２号溝	○→９壙/５井	直線	箱薬研	幅☆108	☆50	暗灰褐色/含LR・T・CR・SR▲	焙烙/火打石/スラグ20g		
３号溝	○→２井	直線	箱薬研	幅☆67	☆47	暗灰褐色/含黄褐色土層	瀬美(端反皿・四耳壺)/在地擂鉢/かわらけ/焙烙/スラグ250g	16c～	
４号溝	なし	直線	不明	幅86	不明	黄褐色・灰褐色	銭貨		
５号溝	10壙	直線	不明	幅100	不明	黄褐色・灰褐色			
１号井戸	１溝→○	方形	直上	84×70	88	暗灰褐色/含C層	龍泉(青磁碗＝13c～14c)/常滑(甕＝1580～1600)/かわらけ/弾丸/銭貨/茶臼(下臼)/磨石/炭化物	16c末～	
２号井戸	３溝→○	円形	ロート形	78	131	暗灰褐色	龍泉(青磁碗＝13c～14c)/瀬美天目	13c～	
３号井戸	なし	円形	ロート形	80	121	暗灰褐色/含C層			
４号井戸	１溝	円形	ほぼ直上	69	60	不明	釘		
５号井戸	２溝	円形	ほぼ直上	96	116	褐色	焙烙/粉挽臼(下臼)		
６号井戸	なし	円形	直上	88	165	暗灰褐色	銭貨		旧７壙
７号井戸	１溝	円形	ほぼ直上	90	95	不明	炭化米／かわらけ		
１号土壙	なし	長方形	直上	397×94	35	暗灰褐色/含LB◎			
２号土壙	３壙	長方形	ほぼ直上	405×108	30	不明			
３号土壙	２壙	長方形	ほぼ直上	(344)×99	☆32	暗灰褐色/含LB◎			
４号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	136×68	26	暗灰褐色/含LB◎	かわらけ/焙烙		
５号土壙	なし	楕円形	ほぼ直上	(96)×84	☆41	暗灰褐色/含LB層・C層			
６号土壙									
6a号土壙	6b壙→○	長方形	ほぼ直上	(188)×157	☆25	暗灰褐色			
6b号土壙	○→6a壙	長方形	ほぼ直上	(197)×93	☆20	暗灰褐色			
７号土壙	欠番								6井と同一
８号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	358×146	☆24	灰褐色/含T◎・LR・CR・SR△	瀬美総織部皿/スラグ40g	17c～	
９号土壙	２溝→○	楕円形	ほぼ直上	100×88	66	暗灰褐色			
10号土壙	５溝	楕円形	ほぼ直上	不明	不明	暗灰褐色か/含C・灰　ローム２次堆積	瀬美端反皿/かわらけ/鉄/炭化栗/焼土塊	16c～	

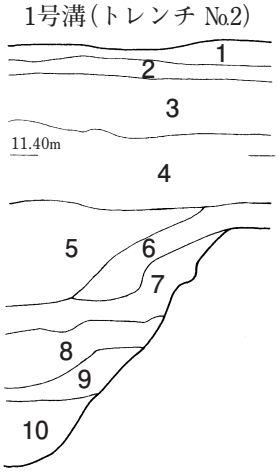
第２表　第５次遺構一覧表



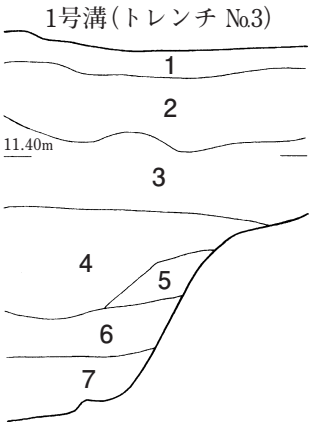
○　１・２溝セクション
1　暗褐色（灰色味）／LB（ハード・ソフト）、LR　締悪
2　暗褐色（白色味）／LB（ハード・ソフト）、LR　締悪
3　暗灰褐色／LR▲、FE　締良
4　暗灰褐色（灰色味）／LR、CR、FE　締良
5　暗灰褐色／LR◎、C、SR▲　締良
6　暗灰褐色／LR、T、C、SR▲
7　暗灰褐色／LB、LR、SR、CR△　締良
8　黄褐色／ハードＬの２次堆積　C、SR、LR▲　締良
9　灰褐色／LR、SR、CR、FE◎　締良
10　記載なし



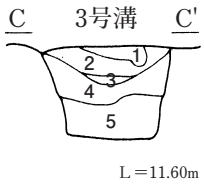
○　１溝セクション（トレンチ№１）
1　耕作土
2　暗灰褐色／LR、T◎、CR、SR、FE　締良
3　暗灰褐色／LR、SR、CR　やや締悪
4　暗灰褐色／LR、LB△、CR、SR△　締良
5　灰褐色／T◎、FE◎、LR、CR、SR　締良
6　暗灰褐色（灰色味を帯びる）／LB、LR　締良
7　攪乱



○　１溝セクション（トレンチ№２）
1　耕作土
2　表土（灰褐色）／LR、CR、T、FE　締良　水田のゆか
3　暗灰褐色／T◎、LR、CR、SR,　締良
4　暗灰褐色／LR、暗褐色Ｒ、CR　やや締悪
5　暗灰褐色／LR 万、暗褐色Ｒ、CR　締良
6　暗灰褐色（暗褐色）／LB◎、LR
7　暗灰褐色／LR◎、茶褐色Ｒ、FE　締良
8　暗灰褐色（灰色味強）／FE、LR（１㎜～１㎝）、CR、BBR　締良
9　灰褐色／FE、LR◎　粘強
10　暗灰色／有機物◎　非常に粘強



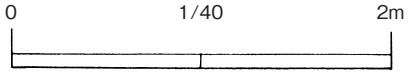
○　１溝セクション（トレンチ№３）
1　表土　耕作土
2　暗灰褐色／LR、CR、SR、T◎　締良
3　暗灰褐色／LR、暗褐色Ｒ、CR　やや締悪
4　暗灰褐色／LR 万、暗褐色Ｒ、CR　締良
5　暗灰褐色（暗褐色）／LB◎、LR
6　暗灰褐色（灰色味強）／LR（１㎜～１㎝）、FE、CR、BBR　締良
7　暗灰色／有機物◎　非常に粘強



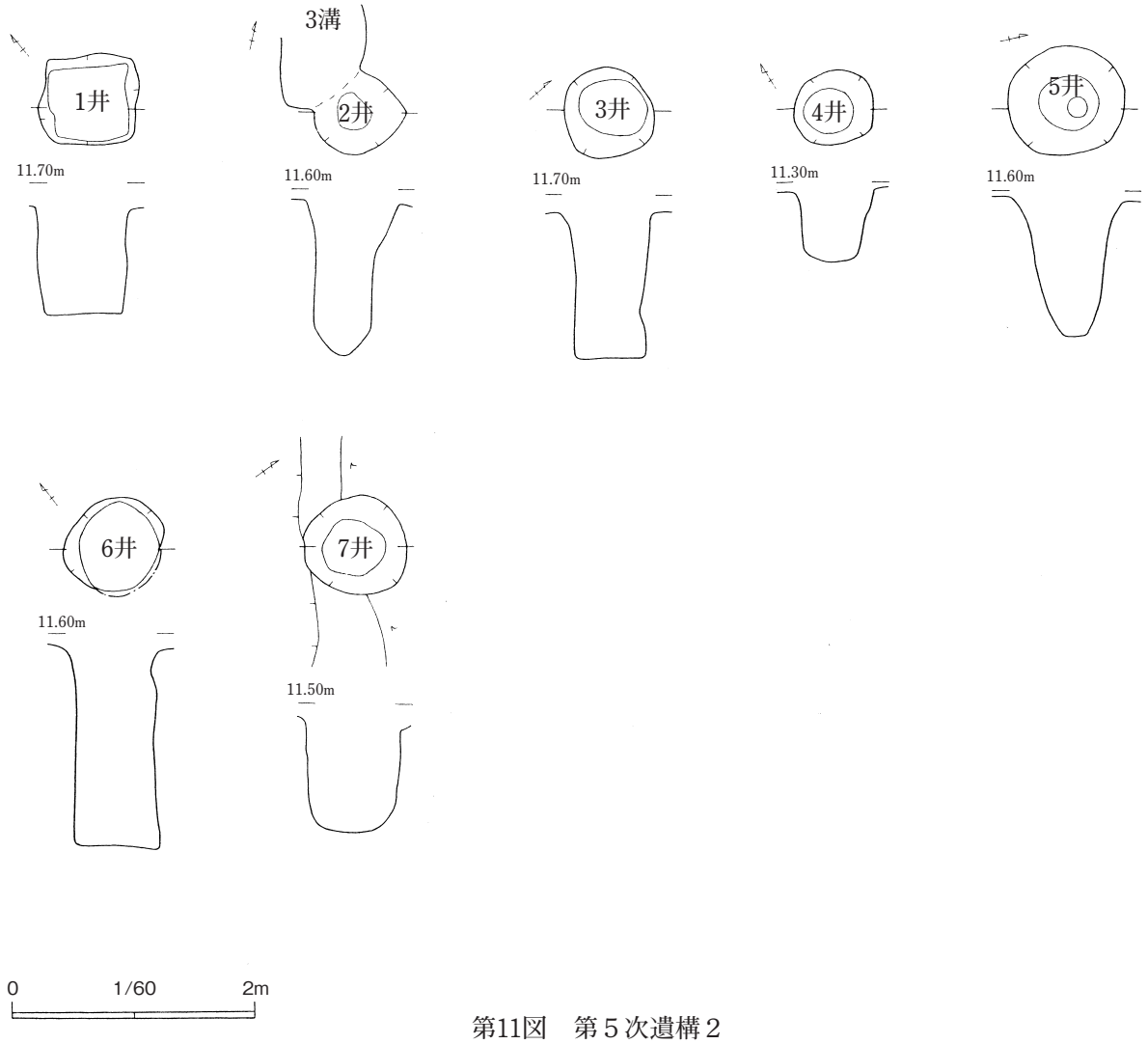
○　３溝セクション
1　黄褐色／LR、褐色Ｒが95％をしめる　締良
2　黄褐色（やや暗）／LR、褐色Ｒ△
3　褐色／LR　２・３層の漸移層
4　暗灰褐色／LR、FE◎
5　暗灰褐色／LR、FE△

土層説明凡例
色調／含有物

テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有



第10図　第５次遺構１



第11図　第５次遺構２

同皿（土－105）、瀬戸美濃産では天目茶碗（土－106～108）・縁釉小皿（土－109・110）・腰折皿（土－111）・丸皿（土－112）・梅瓶（土－116）・水注（土－118）・茶入（土－119）、唐津の丸皿（土－120）などがある。

在地土器ではかわらけ（土－121～136）・ほうろく（土－137～139）・擂鉢（土－140～142）がある。132～136のかわらけにはスラグが付着しており、特に134には金粒及び銀粒が付着している。

金属製品では火打金（金－１・２）・刀子状製品（金－９）・煙管吸口（金－17）・鋺（金－18）・縁金具（金－20）・銭貨（金－50～54）がある。

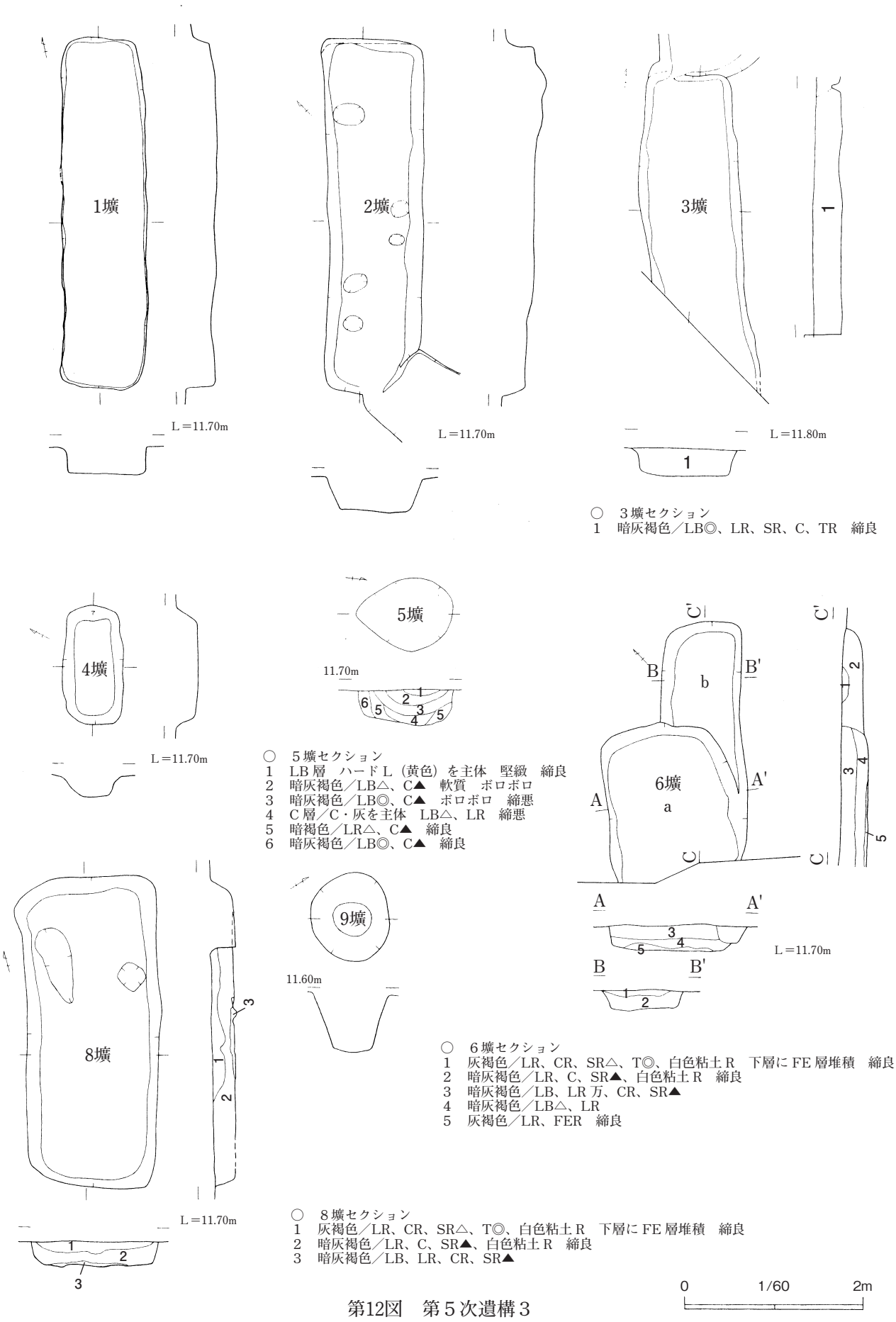
石製品では側面に穿孔が１～２カ所設けられる粉挽臼（石－４・５）、小型の硯（石－24）、砥石（石－30・39）、磨石（44～47）、火打石（石－69～70）、板碑（石－77～79）がある。石－78は全面摩耗。

他にスラグ70g、歯・巻き貝出土。

縄文時代の土器は多時期に亘る。早期条痕文系（他－４～７）・関山系繊維土器（他－８～14）・諸磯c式浮線文土器（他－15）・前期末から中期初頭の金雲母含有土器（他－16）・加曽利Ｅ式後半（他－17～21・23～28）・後期初頭（他－29～32）・加曽利Ｂ式（他－33）・後晩期安行式（他－34～40）、他－41～43は底部で41は関山式のものである。ほかに土製円盤（他－44・45）がある。石器では、石鏃（他－69～71）・磨石（他－72）・敲石（他－74）・スタンプ形石器（他－78）・砥石（他－79・80）、ほかに磨り面を持つ大形の礫がある。

古墳時代では土師器坏（比企型坏・有段口縁坏・模倣坏）や甕片がある。

須恵器は坏身でTK209あたりで７世紀前半頃のものと思われる。


1壙
L＝11.70m
2壙
L＝11.70m
3壙
1
L＝11.80m
1
○　３壙セクション
1　暗灰褐色／LB◎、LR、SR、C、TR　締良
4壙
L＝11.70m
5壙
11.70m
1
2
3
4
5
6
○　５壙セクション
1　LB 層　ハードＬ（黄色）を主体　堅緻　締良
2　暗灰褐色／LB△、C▲　軟質　ボロボロ
3　暗灰褐色／LB◎、C▲　ボロボロ　締悪
4　C 層／C・灰を主体　LB△、LR　締悪
5　暗褐色／LR△、C▲　締良
6　暗灰褐色／LB◎、C▲　締良
C
C'
B
B'
b
6壙
a
A
A'
2
3
4
5
A
A'
3
4
5
L＝11.70m
B
B'
1
2
8壙
1
2
3
L＝11.70m
1
2
3
9壙
11.60m
○　６壙セクション
1　灰褐色／LR、CR、SR△、T◎、白色粘土Ｒ　下層に FE 層堆積　締良
2　暗灰褐色／LR、C、SR▲、白色粘土Ｒ　締良
3　暗灰褐色／LB、LR 万、CR、SR▲
4　暗灰褐色／LB△、LR
5　灰褐色／LR、FER　締良
○　８壙セクション
1　灰褐色／LR、CR、SR△、T◎、白色粘土Ｒ　下層に FE 層堆積　締良
2　暗灰褐色／LR、C、SR▲、白色粘土Ｒ　締良
3　暗灰褐色／LB、LR、CR、SR▲
0
1/60
2m

第12図　第５次遺構３

第３節　第６次調査

（１）調査の概要

（調査に至る経過）

昭和62年３月12日、開発者望月利夫氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字前81－１・４における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事嶋村英之が担当した。

（調査協力員）

五十嵐まさ子　石井たね　小川征子　小森谷アサ
小森谷二三子　来須きく　関口しげ　関口千代
関口のぶ　関口守男　田口島蔵　土屋とよ
中島かづ江

（市町村報告）62騎教指第518号
昭和62年５月18日

（調査期間）　昭和62年５月25日～６月15日

（調査面積）　75㎡

（調査の経過）

建設予定地に10m×7.5mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。地山（ローム層）が南に沈む地点で、黒色土層が良好に遺存し遺構確認面とする。溝・土壙などの調査を行った。湧水のため東側に側溝を設け、水中ポンプにより排水した。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

縄文時代の遺構が良好に遺存することを想定し、黒色土を２m方眼の千鳥格子にローム層まで掘り下げ調査した。その際、縄文土器片・黒曜石剥片が出土した。

基準杭の標高はKB10区に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

第19・20次が西接し、北側に第37次調査区がある。19・20次では黒曜石の剥片・チップが集中し、旧石器時代のものと思われる。37次では井戸状遺構から、鋳型片が大量に出土した。鋳物製作施設があったと思われる。

（２）遺構と遺物

【溝】　調査区南端に東西に走行する１条の溝が確認された。

１号溝　東端で一段低くなる。幅65cm深さ80cm。

【土壙】４基確認された。いずれも長方形である。覆土はいずれも暗灰褐色で単純層である。

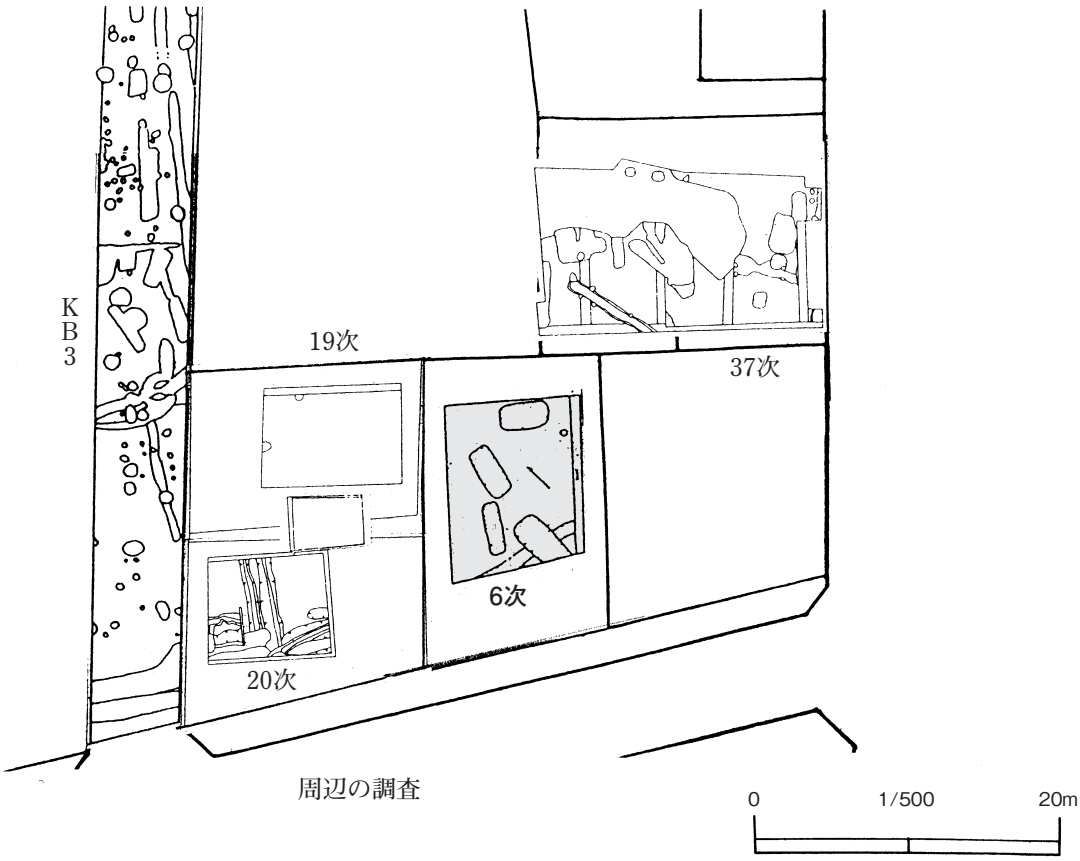
１号土壙　317cm×140cm深さ９cmを計る。

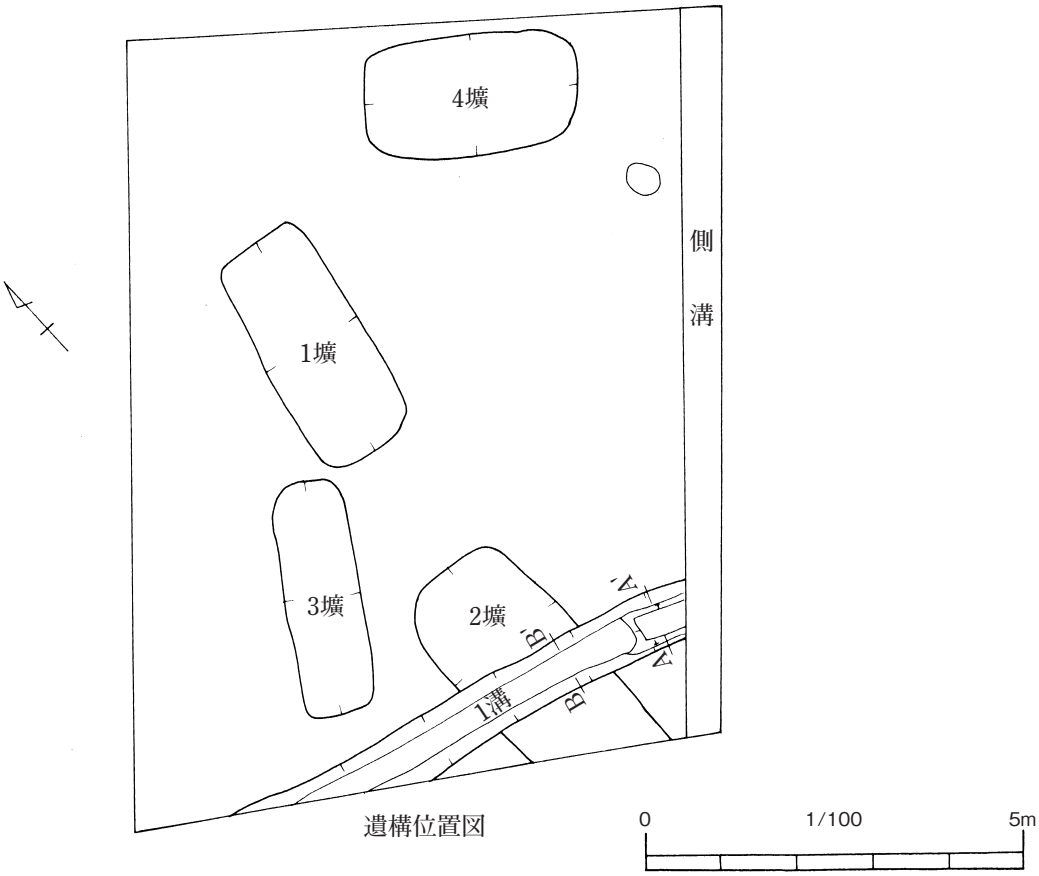
２号土壙　353cm（残存）×170cm深さ４cmで１号土壙とほぼ同一軸である。

３号土壙　308cm×98cmとやや小規模であるが深さ22cmと掘り込みは深い。

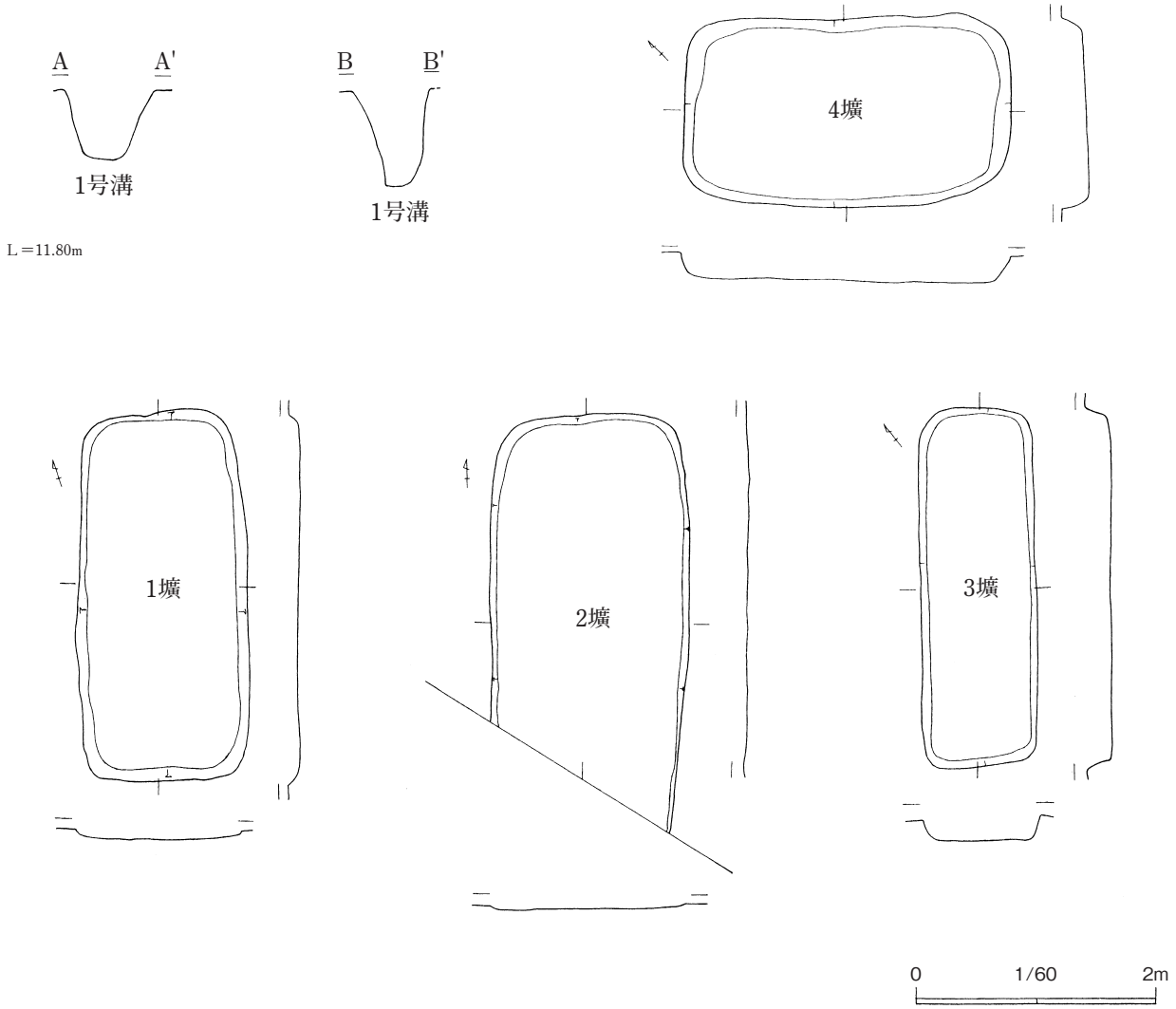
４号土壙　280cm×159cmで深さ26cmである。炭化物出土。

調査風景





第13図　第６次周辺と遺構位置図



第14図　第６次遺構

○は当該遺構　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	２壙→○	ほぼ直線	箱薬研	幅65	80	不明			
１号土壙	なし	長方形	ゆるやか	317×140	9	暗灰褐色/含LR·T·黒色土B·CR·SR			
２号土壙	○→１溝	長方形	ゆるやか	(353)×170	4	暗灰褐色/含LR·T·黒色土R·CR·SR			
３号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	308×98	22	暗灰褐色/含LR·黒色土B·黒色土R·CR·SR			
４号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	280×159	26	暗灰褐色/含LB◎	炭化物		

第３表　第６次遺構一覧表

【遺構外出土遺物】

いずれも細片であるが常滑甕（土－143）、瀬戸美濃擂鉢（土－145）が在城期以前で、瀬戸美濃灯明皿（土－144）肥前磁器鉢（土－147）は19c 前のものである。ほかにスラグ45g がある。

縄文時代では、土器は加曽利Ｅ式（他－46～48）・称名寺式（他－49）・晩期安行式（他－50・51）がある。

第４節　第10次調査

（１）調査の概要

（調査に至る経過）

開発者丑久保美代子氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字前63－１における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

昭和63年10月７日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事嶋村英之が担当した。

（調査協力員）

伊藤ツネ　岡田金之助　佐藤ヨシ　田島汀七　山口保雄　若林クニ子　渡辺サヨ

（市町村報告）63騎教指第1011号
昭和63年10月11日

（調査期間）　昭和63年10月20日～11月４日

（調査面積）　54㎡

（調査の経過）

建築予定地に９m×6.5mの調査区を設定し人力により表土を掘り下げた。湧水のため溝に水中ポンプを設置し排水した。ローム層を確認面として、溝・土壙を慎重に調査を行った。２号溝は重複する遺構を想定しトレンチを設定し、確認しながら調査した。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高はKB10区に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

北と東にKB９区が隣接する。連続する溝や18世紀代の土壙、縄文時代早期撚糸文系期の土器片や集石、近代の製糸工場に関わる遺物が出土している。

（２）遺構と遺物

【溝】　東西方向に３条走行する。

１号溝　北端にあり、幅158cm深さ68cmで、断面形箱薬研である。KB９区21号溝につながる。

漳州窯系染付皿（土－148）・瀬戸美濃菊皿（土－149）・同有耳壺（土－150）・肥前染付碗（土－152）・かわらけ（土－153～155）・弾丸（金－24・25）・板碑・礫が出土している。かわらけは薄い。土－155は取瓶。他に板材が出土。

２号溝　調査区中央をやや屈曲して走行する。幅314cm（残存）深さ52cmである。両側は平坦に近く南側は緩やかに立ち上がる。KB９区20号溝につながる。

瀬戸美濃丸皿（土－156・157）・同蓋（土－158）・志戸呂筒形碗（土－159）・土鍋（土－160）・弾丸（金－26～29）が出土している。

【土壙】南端に２号溝と重複し検出した。

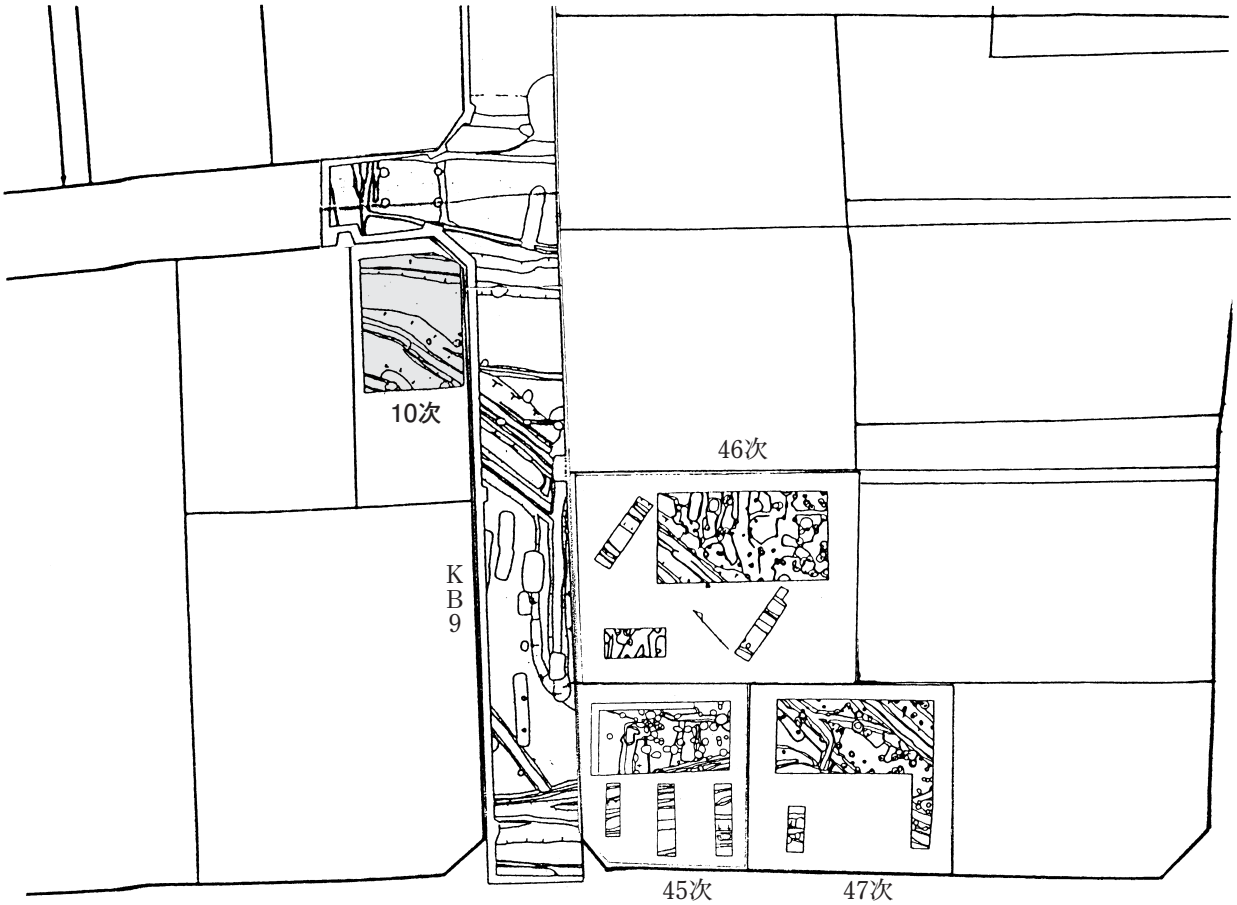
１号土壙　平面隅丸長方形か。57cm×38cm（残存）深さ46cmで覆土中位にロームブロックの２次堆積を含む。

【遺構外出土遺物】

陶磁器では、堺・備前擂鉢（土－163）、肥前青磁皿（土－164）・同白磁皿（土－165）・同染付碗（土－166～171）・同染付皿（土－172）がある。金属製品では、小柄（金－22）がある。

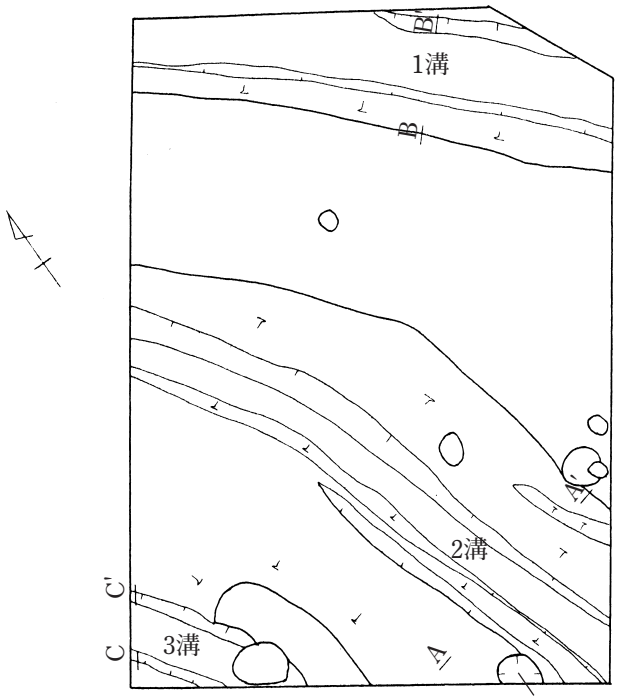
ほかに旧石器時代の硬質頁岩製の尖頭器（他－２）、縄文時代の土器で加曽利Ｅ期（他－52～55）や安行期（他－56）、敲石（他－75・76）がある。

調査風景



周辺の調査

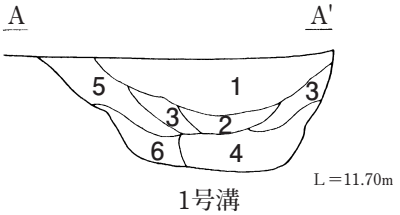
0　1/500　20m



遺構位置図

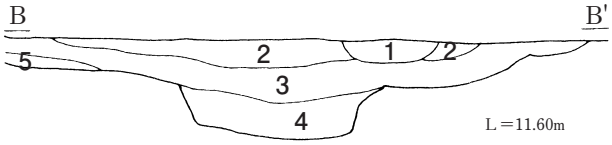
0　1/100　5m

第15図　第10次周辺と遺構位置図



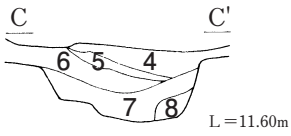
1号溝

○　１溝セクション
1　暗灰褐色／LB△、LR、FE、白色粘土Ｒ、SR、CR△　粘弱　締良
2　暗灰褐色（灰色味強）／LR、C　粘強
3　暗灰褐色（灰色味強）／LR、FE、粘やや強　締良
4　暗灰色／LR、有機物　粘やや強
5　暗灰褐色／LR、FE、　締良
6　暗灰色／LB、LR、有機物　粘強



2号溝

○　２溝セクション
1　暗灰褐色（青色味強）／LR△、FE△、S、CR▲、　締良
2　暗灰褐色／LR、FE、C△　締良
3　暗灰褐色（灰色味強）／LB、LR、FE、SR▲　粘強
4　暗灰褐色（灰色味強）／LB、LR、FE、
5　暗灰褐色／LB　ソフトＬをすいあげ、又植物痕の攪乱層

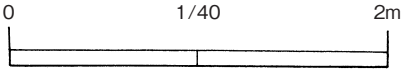


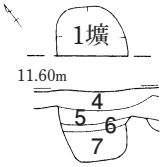
3号溝

○　３溝セクション
4　暗灰褐色／LB、LR、FER△　締良
5　暗灰褐色／LB☆、FER　締良
6　暗灰褐色（やや暗）／LB、LR、FER、締良
7　暗灰褐色（やや暗）／LB、LR、FER　粘強
8　ソフトＬの２次堆積

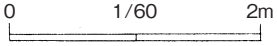
土層説明凡例
色調／含有物

テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	わらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有





○　１壙セクション
4　暗灰褐色（灰色味強）／LR、FE◎、SR▲　締良
5　灰色／LB△、LR、赤色FE　締良
6　LBの２次堆積　灰白色粘土Ｂ　締良
7　暗灰色／LR▲、FE　粘強　締良



第16図　第10次遺構

（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	なし	直線	箱薬研	幅☆158	☆68	暗灰褐色	漳州(染付皿＝16c後～17c前)/瀬美(菊皿＝17c後･有耳壺＝18c)/肥前磁器(青磁仏花器＝17c後･染付碗＝18c前)/かわらけ/弾丸/粉挽臼(上、下臼)/石臼/板碑/凹石/礫/板材	18c～	
２号溝	１壙	やや屈曲する	箱堀	幅☆(314)	☆52	暗灰褐色	瀬美(丸皿･蓋＝18c)/志戸呂筒形碗/在地(土鍋＝15c前)/弾丸	18c～	
３号溝	なし	直線	ほぼ直上	幅☆92	☆33	暗灰褐色			
１号土壙	２溝	隅丸長方形？	ほぼ直上	57×(38)	☆46	灰色/含LB２次堆積			

第４表　第10次遺構一覧表

第５節　第11次調査

（１）調査の概要

（調査に至る経過）

平成元年５月８日、開発者田所金作氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地38街区３－１画地における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事坂本征男が担当した。

（文化庁通知）元委保記第５－5271号
　　平成元年11月19日

（調査期間）　平成元年９月20日～10月９日

（調査面積）　57㎡

（調査の経過）

建設予定地に7.5m×８ｍの調査区を設定し掘り下げた。湧水のため北側に側溝を設け水中ポンプにより排水した。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壙の調査を実施した。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は近隣の大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

西に第29次、北にKB２区、東にKB１区、南に第44次が所在する。29次では南端に溝・他にはピットが、KB２区では長方形土壙や井戸・溝が確認されている。

（２）遺構と遺物

【溝】　総数４条を数える。東端に大規模な２条、西側に浅い溝が走行する。

１号溝　東側に北東から南西方向に走行し、幅267cm深さ107cmで、断面箱薬研である。KB２区２号溝及び第44次６溝につながる。瀬戸美濃平碗（土－178）・志戸呂擂鉢（土－180）、確認面付近で天目茶碗（土－179）・ほうろく（土－182）が出土しており、廃城以前のものである。弾丸（金－30）が出土。

２号溝　１号溝と並行する。幅82cm（残存）深さ55cmで、KB２区21号溝につながる。

３号溝　調査区北端に東西方向に走行する。幅106cm深さ19cmである。土壙の可能性もある。

４号溝　東西に走行し、５壙と６壙をつなぐ位置にある。幅20cm深さ５cmと小規模である。

【井戸状遺構】西端に１基検出した。

１号井戸　直径100cm×85cmで深さ232cmと深い。覆土中位にロームブロックを多量に含む。

【土壙】　総数７基で、西側に分布する。不整形で浅いものが多く掘り込みの深いものを述べる。

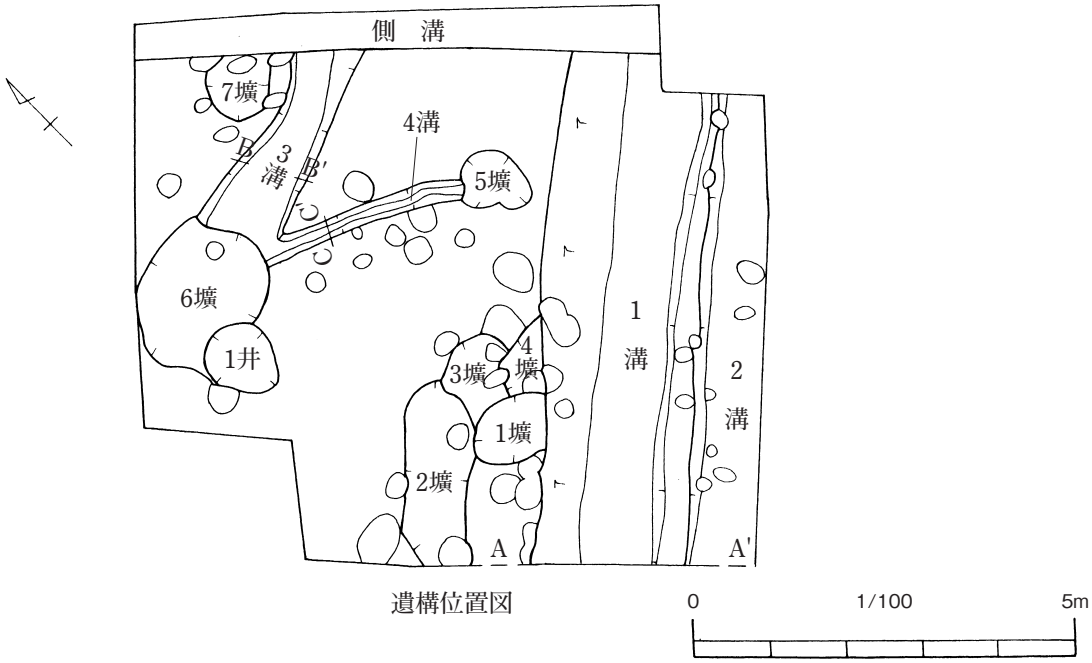
２号土壙　平面長方形で242cm×84cm深さ30cm。

６号土壙　平面楕円形で208cm×160cm深さ33cmである。１号井戸より古い。

７号土壙　平面隅丸長方形か。100cm（残存）×82cmで深さ58cmを計る。断面が薬研状である。銭貨（金－55）が出土。

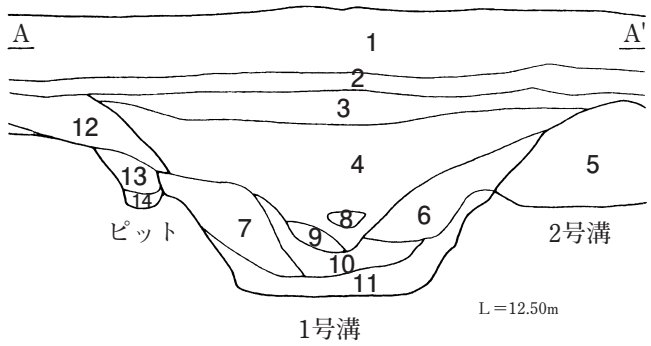
調査風景

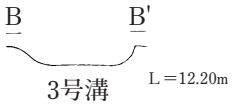
周辺の調査

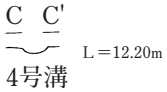


遺構位置図

第17図　第11・12次周辺と第11次遺構位置図







0　1/40　2m

0　1/60　2m

○　１・２溝セクション
1　黒褐色／攪乱された土
2　黒褐色／LR▲、C▲、白色R▲　締良
3　淡赤褐色／粒子状の土質　LR、C、白色R▲、赤色R（土器片か？）　締良
4　黒赤褐色／LB、LR◎、C（２・３層より多）　締良　→１溝
5　黒褐色／LB◎、LR◎、C▲　締良　→２溝
6　黒赤褐色／LB▲、LR、C▲　締やや悪　）１溝
7　黒赤褐色／LB◎、LR、C▲　締やや悪
8　赤色／LB　締良
9　赤色／LB、LR◎（そのもの）　締良　）１溝
10　白褐色／LB▲、LR◎、締やや悪
11　赤褐色／LB、LR◎　締やや悪
12　黒褐色／LR▲、C▲　締良　→２壙
13　黒褐色／LR▲　締良
14　赤褐色／LR◎　締良

土層説明凡例
色調／含有物

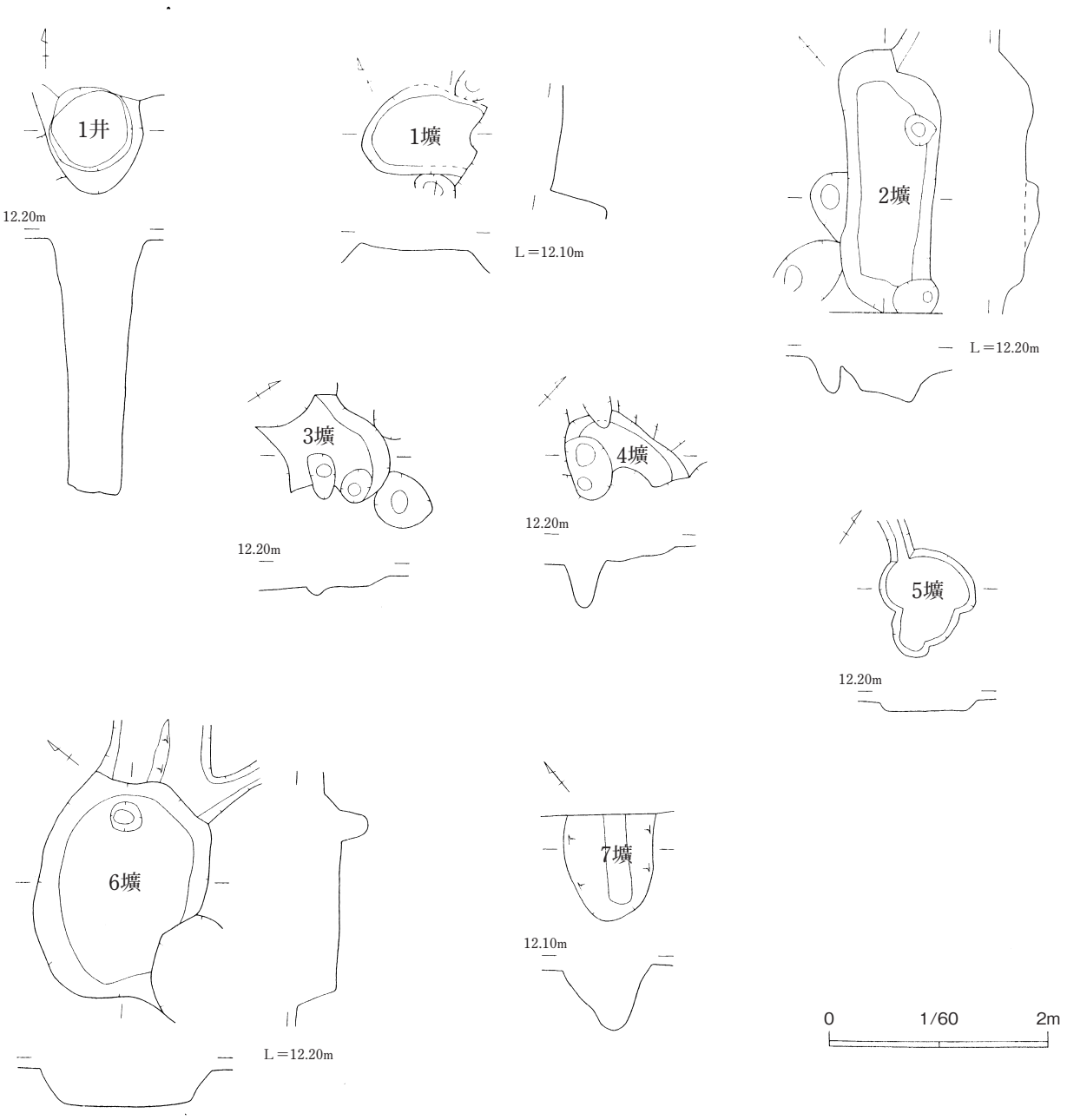
テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有

第18図　第11次遺構１

○は当該遺構　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	２溝→○／１・４壙	直線	箱薬研	幅☆267	☆107	不明	瀬美(平碗･天目)/志戸呂(擂鉢＝16c後)/在地(片口鉢＝14c後)/かわらけ/焙烙/弾丸/板碑	16c後～	
２号溝	○→１溝	直線	ゆるやか	幅☆(82)	☆55	不明			
３号溝	４溝、６壙	直線	ほぼ直上	幅106	19	不明			土壙？
４号溝	３溝、６壙	直線	ほぼ直上	幅20	5	不明			
１号井戸	６壙→○	楕円形	ロート形	100×85	232	LB◎			
１号土壙	１溝、３･４壙	楕円形	ゆるやか	(94)×65	6	不明			
２号土壙	３壙	長方形	ゆるやか	242×84	30	不明			
３号土壙	２壙･４壙	円形？	直上	105×(100)	15	不明			
４号土壙	１溝、３壙	楕円形？	ゆるやか	(98)×90	13	不明			
５号土壙	４溝	不整円形	ほぼ直上	100×90	11	不明			
６号土壙	○→1井/3･4溝	楕円形	ほぼ直上	208×160	33	不明			
７号土壙	なし	隅丸長方形？	ほぼ直上	(100)×82	58	不明	銭貨		

第５表　第11次遺構一覧表



第19図　第11次遺構２

第６節　第12次調査

（１）調査の概要

（調査に至る経過）

平成元年５月８日、開発者五十嵐國廣氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地35街区５画地における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事坂本征男が担当した。

（調査協力員）

石井たね　新井富子　関口のぶ　五十嵐喜一郎

伊藤ツネ　五十嵐米太郎

（文化庁通知）元委保記第５－5929号

平成元年５月21日

（調査期間）　平成元年10月26日～11月29日

（調査面積）　76㎡

（調査の経過）

建設予定地に11.5m×6.5m の調査区を設定し掘り下げた。その際東側にトレンチを入れ調査し、さらに掘り下げ側溝としポンプにより排水した。ローム面を遺構確認面とし溝・土壙・ピットの調査を実施した。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は近隣の大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

西に第７次・21次、北に第30次、東にKB１・５区、南にKB２区６－32号線区が所在する。

（２）遺構と遺物

【溝】　３条確認され、調査区のほぼ全域にある。

１号溝　南東から北西方向に走行し幅236cm（残存）深さ104cm を計る。

２号溝　１号溝と並行し幅130cm 深さ40cm を計る。龍泉窯系青磁碗（土－185）・瀬戸美濃丸皿（土－186）が出土する。

３号溝　２号溝と並行し幅290cm（残存）深さ112cm を計る。瀬戸美濃卸皿（土－187）・在地片口鉢（土－188）が出土する。14世紀頃のもの。

【土壙】　７まで命名したが ab 分割により総数８基で調査区中央から北に分布する。

１号土壙　炭化物を含む。同安窯系青磁碗（土－189）が出土する。

２号土壙　焼土塊・炭化物・スラグ115g 出土。

３号土壙　西側に位置し平面不整円形80cm×62cm 深さ61cm と深い、断面はほぼ直上する。

４号土壙　平面楕円形で95cm×68cm 深さ54cm、断面はほぼ直上する。

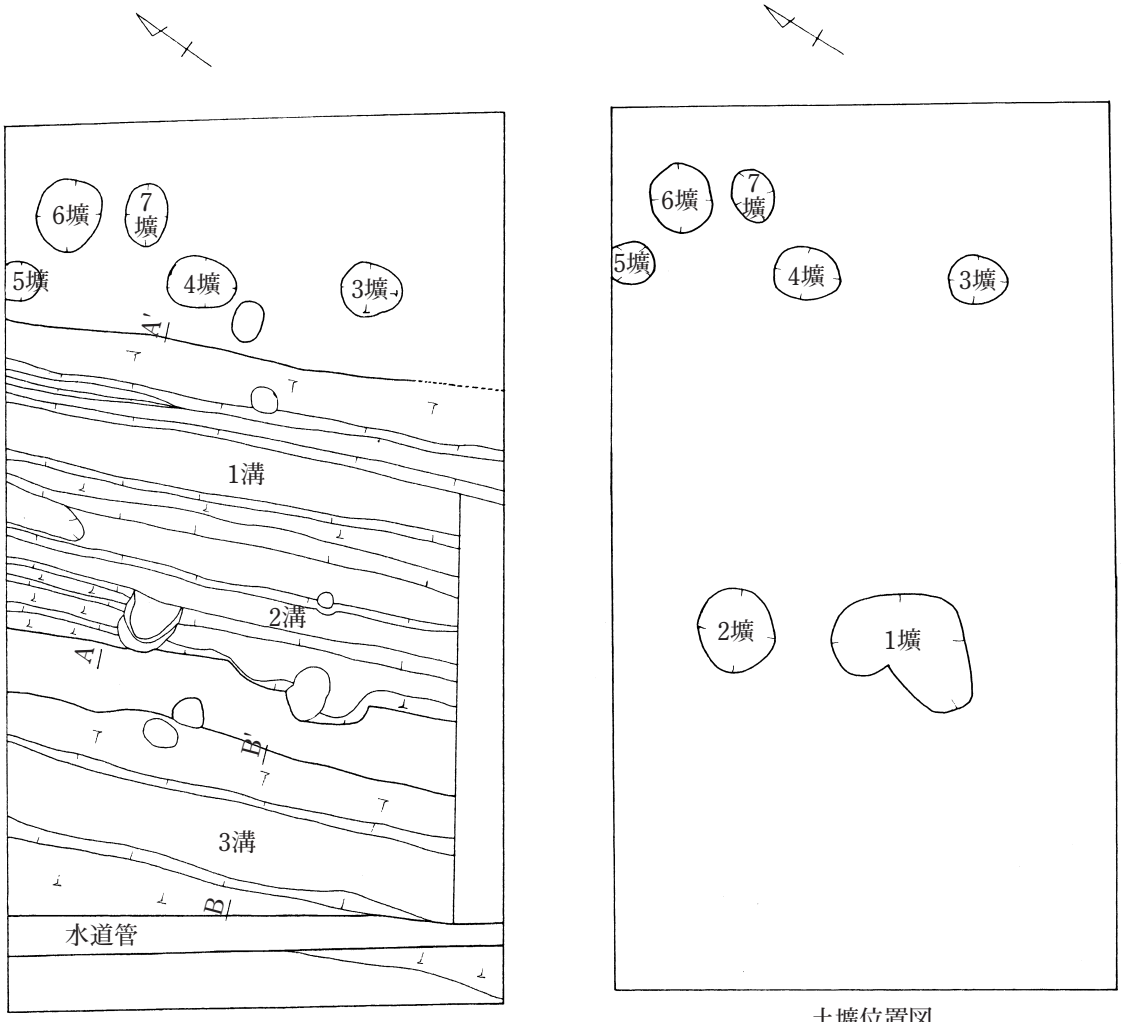
５号土壙　平面円形で57cm×60cm（残存）、深さ63cm と深い。

【遺構外出土遺物】

龍泉窯系青磁碗（土－190）漳州窯系白磁皿（土－191）が出土している。

縄文時代では中～後期の土器（他－57・58）があり、旧石器から縄文時代の所産と思われる凝灰岩製の石核（他－67）がある。

調査風景



遺構位置図　　土壙位置図

※周辺の調査は第17図参照

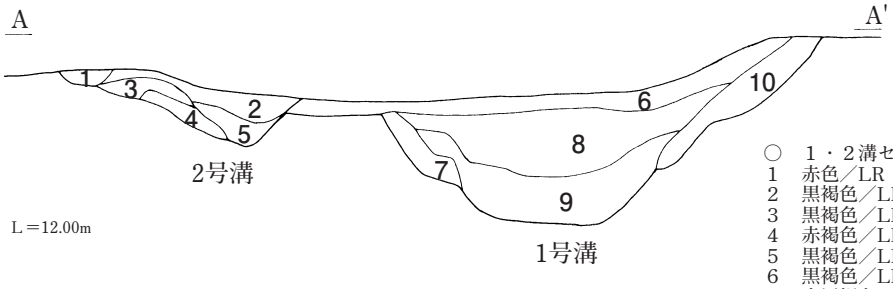
0　1/100　5m

第20図　第12次遺構位置図

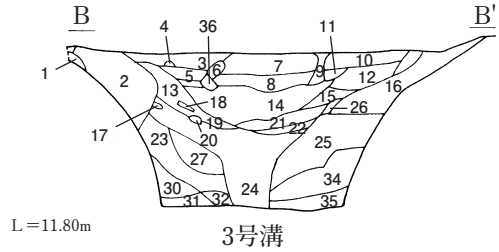
○は当該遺構　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	○→2溝	直線	箱薬研	幅☆(236)	☆104	灰褐色/含T?			私武7次3溝
2号溝	1溝→○→1・2壙	直線	薬研	幅☆130	☆40	暗灰褐色/含T?	龍泉(青磁碗＝13c)/瀬美丸皿	13c～	
3号溝	なし	直線	箱薬研	幅☆(290)	☆112	暗灰褐色/含T?	瀬美卸皿/在地(片口鉢＝14c後)	14c～	私武7次1溝
1号土壙	2溝→○	―	―	―	―	黒褐色/含C◎	同安(青磁碗＝12c中～13c)/板材	12c中～	
1a号土壙	1b壙	円形	ゆるやか	105×(72)	4				
1b号土壙	1a壙	楕円形	ゆるやか	157×110	12				
2号土壙	2溝→○	不整円形	不明	115×220	不明	不明	焼土塊/炭化物/スラグ115g		
3号土壙	なし	不整円形	ほぼ直上	80×62	61	不明			
4号土壙	なし	楕円形	ほぼ直上	95×68	54	不明			
5号土壙	なし	円形	ほぼ直上	57×(60)	63	不明			
6号土壙	なし	円形	ほぼ直上	93×82	17	不明			
7号土壙	なし	楕円形	ほぼ直上	74×56	15	不明			

第6表　第12次遺構一覧表



○　１・２溝セクション
1　赤色／LR　締悪
2　黒褐色／LR▲、赤色 R▲　締良
3　黒褐色／LR▲（２層より多）　締良
4　赤褐色／LR◎　締良
5　黒褐色／LB▲、LR▲　締良
6　黒褐色／LR、白色 R▲、CR▲　締良
7　赤黒褐色／LR◎　締やや悪
8　白褐色／LR▲、CR▲、乳白色 B◎　締良
9　白褐色／LR▲　締やや悪
10　黒褐色／LR▲、CR▲、白色 R▲　締やや悪

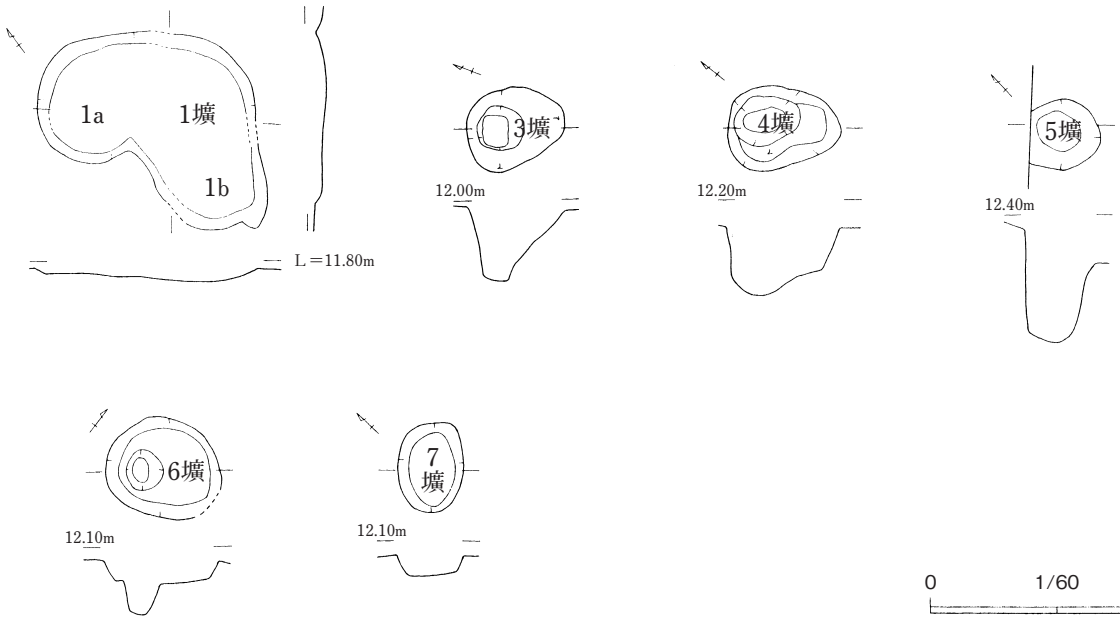


○　３溝セクション
1　黄褐色／LR◎　締良
2　暗灰褐色／LB、LR、黒色 R、白色 R▲（全体が黒色味を帯びる）　締良
3　暗灰褐色／LB▲、LR、白色 R▲、赤色 R▲（全体が淡赤色味を帯びる）　締良
4　暗灰褐色／LR▲　締悪
5　暗灰褐色／LR▲　締良
6　暗灰褐色／根　締良
7　暗灰褐色／LR▲、FE◎、白色 R▲、赤色 R▲　締良
8　灰褐色／FE◎　締良
9　暗灰褐色／LR▲　根　締良
10　暗灰褐色／LR、赤色 R▲　締良
11　暗灰褐色／LR▲　締良
12　暗灰褐色／LR▲　やや粘　締良
13　灰褐色／LR▲　締やや悪
14　黄色／LR の２次堆積　締悪
15　黄褐色／LR◎、FE◎　締良
16　暗灰褐色／LB▲、LR▲（やや粘）　締良
17　黄色／LR◎　やや粘　締悪
18　灰褐色／FE▲　締悪
19　灰褐色／LB、LR▲、FE△　締悪
20　黄褐色／LR　締悪
21　灰褐色／LR▲（粘有）、C▲　締悪
22　白色／LR▲　締悪
23　暗灰褐色／LR▲、FE◎　締やや悪
24　暗灰褐色／LR▲、FE△（黒色味を帯びる）　締やや悪
25　暗灰褐色／LR◎　FE◎　締やや悪
26　白色／LR▲　締やや悪
27　暗灰褐色／LR◎　締やや悪
30　黄褐色／LR▲、FE◎　締やや悪
31　褐色／LR▲（黒色味を帯びる）　締やや悪
32　暗灰褐色／LR▲、FE▲　締やや悪
34　暗灰褐色／LB▲、LR、FE▲　締やや悪
35　暗灰褐色／LR▲、FE▲　締やや悪
36　暗灰褐色／根　締良

0　1/40　2m

土層説明凡例
色調／含有物

テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有



第21図　第12次遺構

第７節　第46次調査

（１）調査の概要

（調査に至る経過）

平成６年６月12日、開発者本間弥太郎氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地18街区11画地における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任島村範久が担当した。

（調査協力員）

梓沢ユキ子　五十嵐喜一郎　小川征子　土屋トヨ

（文化庁通知）６委保記第５－7516号
平成６年12月２日

（調査期間）　平成６年12月１日～
平成７年３月14日

（調査面積）　87.3㎡

（調査の経過）

隣接する第47次と並行して調査を実施した。まず庭予定地に、隣接するKB９区の成果から、溝の延長上にトレンチを２カ所（１・３T）設定しそれぞれ２条の溝を確認し、南西隅の様子を探るためトレンチ（２T）調査を行なった。その後、建設予定地に11m×６ｍの調査区を設定し重機により掘り下げた。ローム面を遺構確認面としたが、暗灰褐色土が広がるためグリットを設定し掘り下げた。溝・井戸・土壙の調査を実施した。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

井戸の覆土は掘り上げ後、洗浄し遺物を探した。基準杭の標高は近隣の大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

西にKB９区、南に第45・47次が所在する。当調査区の１・２号溝はKB９区・第10次・第47次につながる。

（２）遺構と遺物

【溝】　大規模な２条は調査区の南西、宅地中央を北西から南東へ斜めに走行する。ほかに小規模なものが２Tで２条確認された。

１号溝　幅297cm深さ66cmを計る。１T・３Tで確認されつながるようだが、複数の溝が重複するようでそれぞれ平面形が異なる。瀬戸美濃天目茶碗（土－196）・かわらけ（土－197～202）・在地の擂鉢（土－203～206）が出土しており16世紀代のものである。瓦（土－207）は破片だが13世紀代。銭貨寛永通宝（金－56）・小柄の刀身（金－10）が出土。

２号溝　幅48cm（残存）深さ60cmを計る。１号溝同様３カ所で確認され１つの溝として調査された。平面形からはそれぞれをつなげるにはやや無理があるがレベル・断面を見るとほぼ一致する。

６号溝　瀬戸美濃稜皿（土－209）が出土した。

【井戸状遺構】　東側に１基検出された。

１号井戸　直径80cm深さ118cmを計る。瀬戸美濃稜皿（土－210）・銭貨（金－57）が出土。

【土壙】　調査区の溝を除いたほぼ全面に分布する。38まで命名したが３基欠番のため、総数35基である。平面長方形のものが多いが掘り込みは深くない。

２号土壙　志野丸皿（土－211）・かわらけ（土－212）が出土した。

４号土壙　第２トレンチにあり、平面楕円形？69cm（残存）×50cm（残存）深さ16cmと浅い。骨・銭貨（金－58・59）・柄頭（金－19）・志戸呂の擂鉢（土－213）が出土している。墓壙。

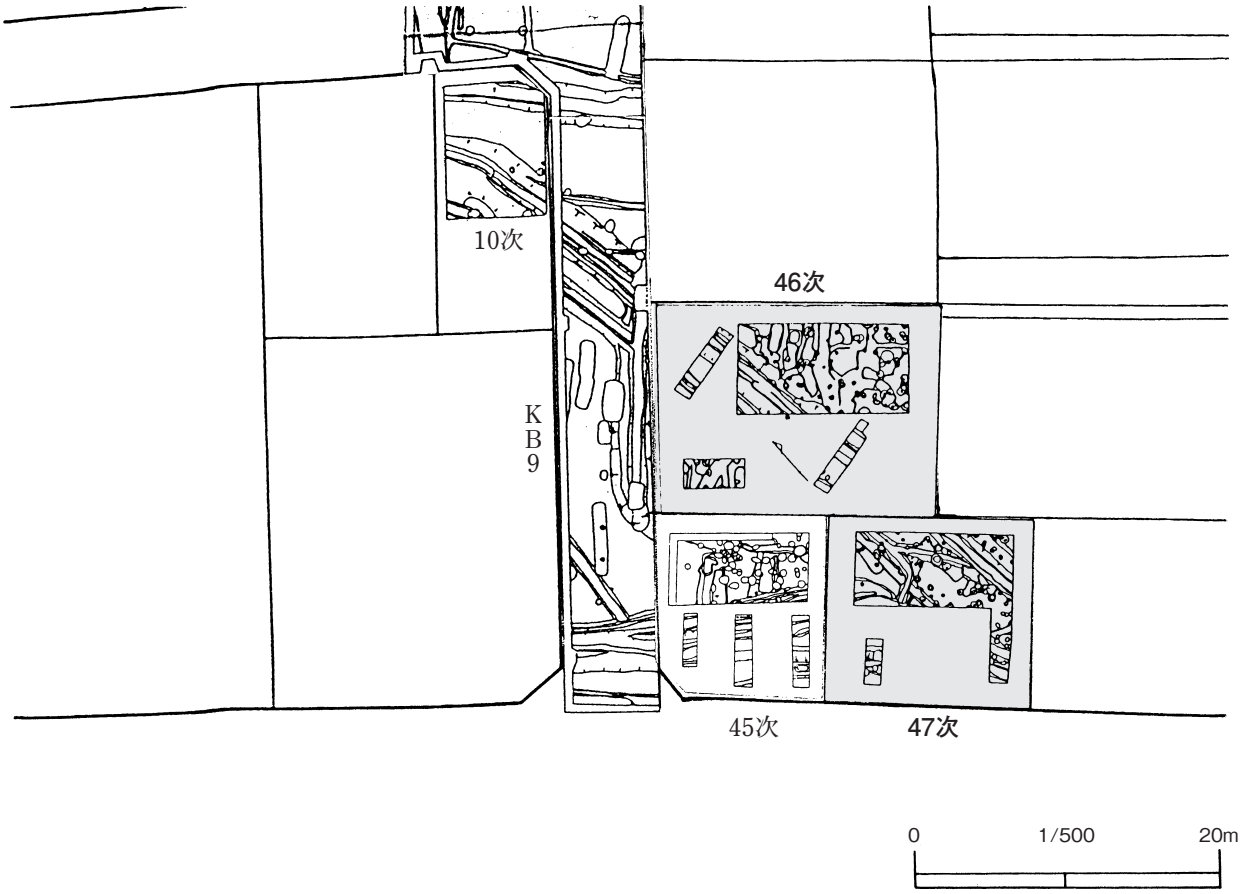
５号土壙　鳥形土製品（土－214）・煙管の雁首（金－15）が出土している。

【建物】

１号建物跡　ほぼ全面に広がり２間３間の建物とも思われるが、北西部のピット２基が確認できなかった。

【遺構外出土遺物】

陶磁器類では中国染付皿（土－217）・瀬戸美濃



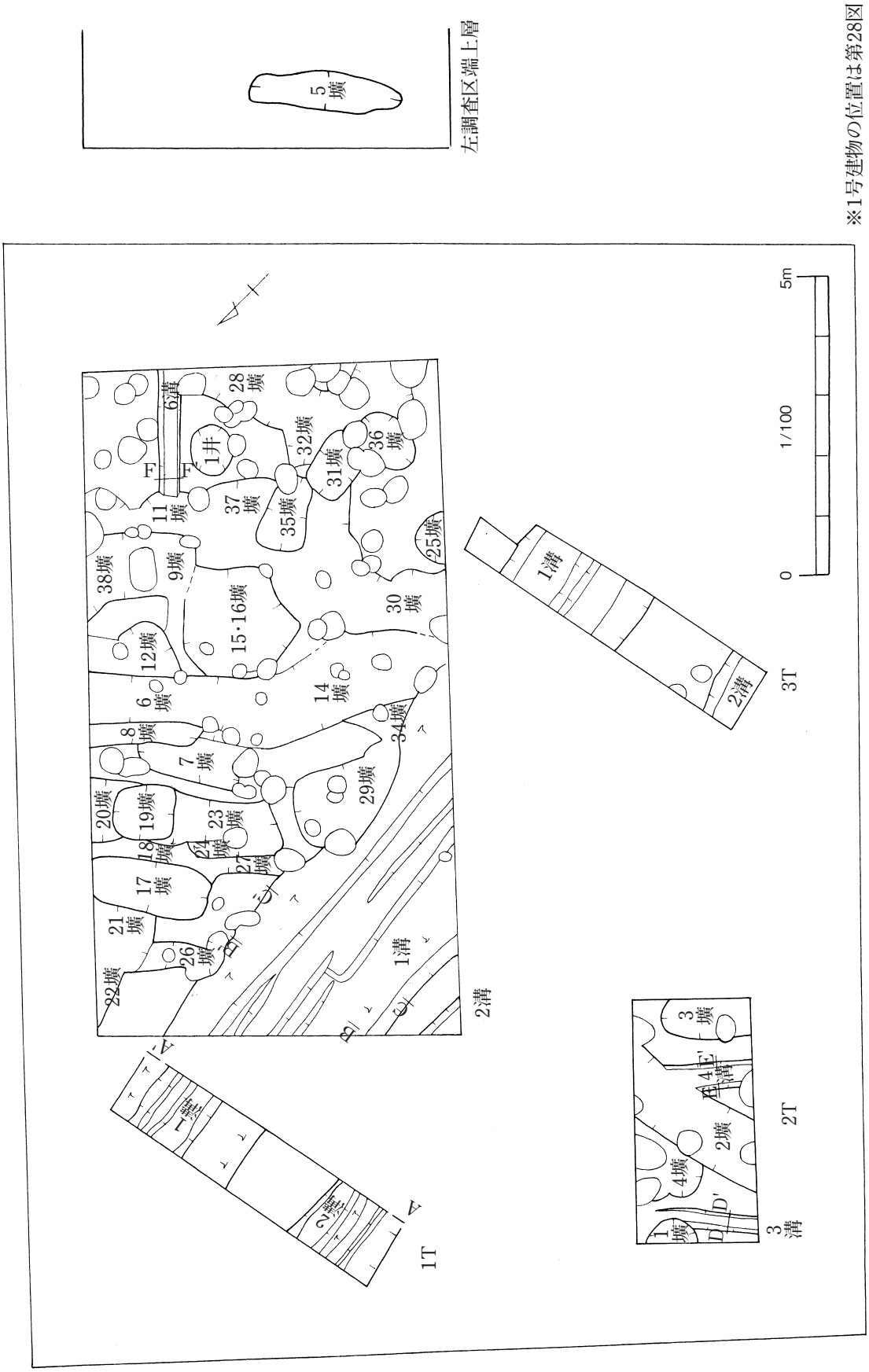
第22図　第46・47次周辺の調査

天目茶碗（土－218～220）・織部丸碗（土－221）・瀬戸美濃稜皿（土－222～226）・同鉄絵皿（土－229）・志野丸皿（土－230・231）・唐津向付（土－233）・志戸呂茶入（土－234）・信楽壺（土－235）がある。

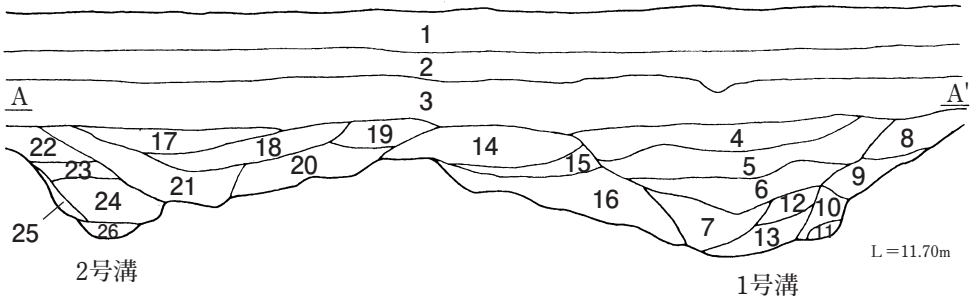
金属製品では釘（金－４）・銭貨（金－60）がある。

スラグ100g、石製品は碁石（石－22）がある。

他に縄文時代の土器で関山期（他－59）・加曽利Ｅ期（他－60）、古墳時代と思われる須恵器片が出土した。

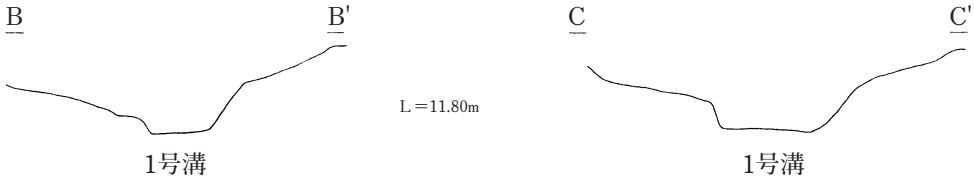


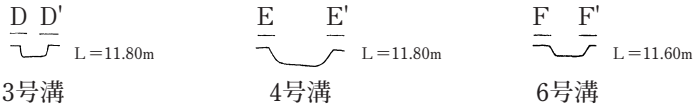
第23図　第46次遺構位置図

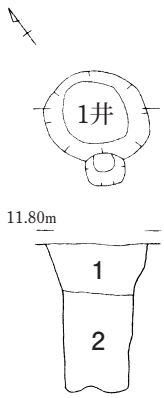


○　１・２溝（東壁）セクション
1　耕作土
2　暗灰褐色／LR、FE◎、C△、S、T◎　締良
3　暗灰褐色（上層より暗）／LR、S、T、C▲　締良
4　暗灰褐色／LR、FE△、C▲　締良
5　暗灰褐色（さらに暗）／LR▲、FE◎、S　締良
6　暗灰褐色（上層より灰色味強）／LR△、FE◎　締良
7　暗灰褐色／LR◎、FE　軟度低　粘有
8　暗灰褐色／FE△、灰色粘土 R▲　締良
9　暗灰褐色／LB△、FE◎　締良
10　暗灰褐色／LB△、LR、FE△　締良
11　暗灰褐色／LB◎、締良
12　暗灰褐色／LR△、FE☆　締良
13　暗灰褐色／LB◎　軟度低
14　暗灰褐色／LR△、FE◎万、C▲　締良
15　暗灰褐色（灰色味強）／FE◎　締良
16　暗灰褐色／LR▲、FE◎　締良
（１溝）

17　暗灰褐色／LR、FE△、C▲　締良
18　暗灰褐色（上層よりやや明）／LR▲、FE◎　締良
19　暗灰褐色／LR▲、FE△　締良
20　暗灰褐色（上層より暗）／LR、FE△　締良
21　暗灰褐色／LB、LR△、FE◎　締良
22　暗灰褐色／LR、FE△、C▲　締良
23　暗灰褐色／LR、FE▲、BB△、締良
24　暗灰褐色（色調暗）／LR△、FE◎
25　暗灰褐色／LB、LR△　締良
26　暗灰褐色／LR△、L 粘土◎　軟度低
（２溝）







土層説明凡例
色調／含有物

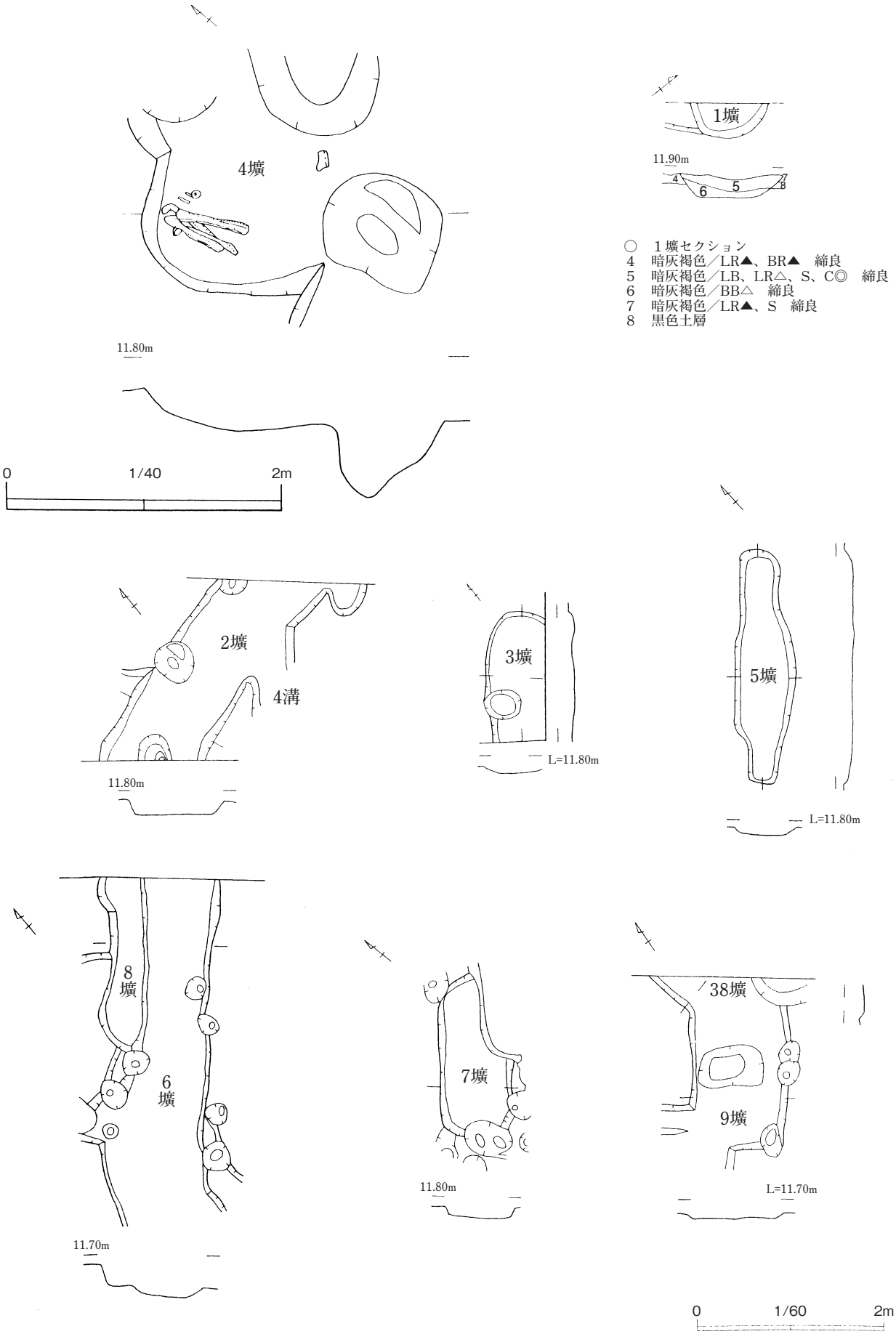
テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有

○　１井戸セクション
1　暗灰褐色／LB△万、LR△万　締良
2　暗灰褐色（灰色味強）／LB△、FE◎　粘有　締良

0　1/60　2m

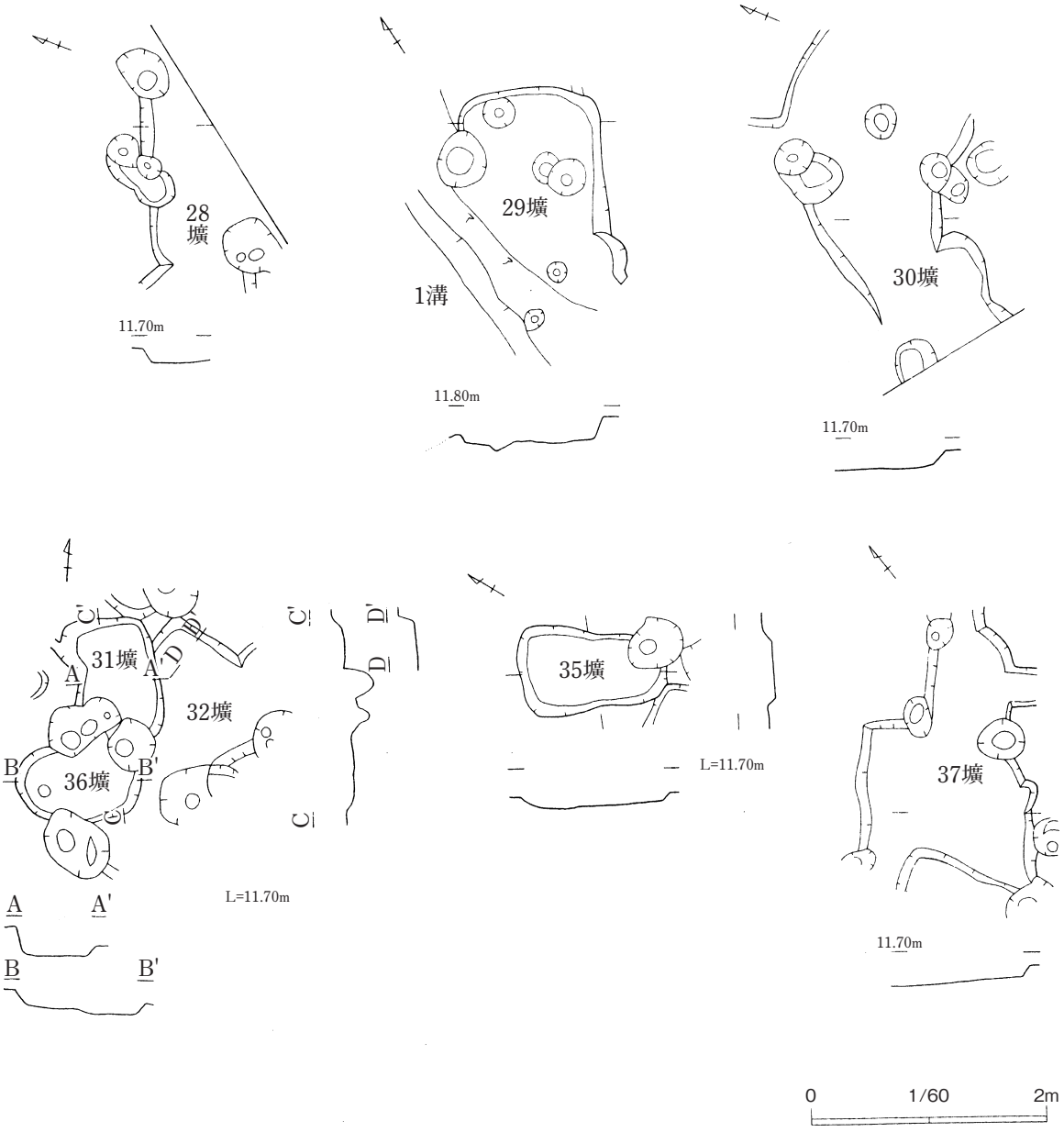
0　1/40　2m

第24図　第46次遺構１

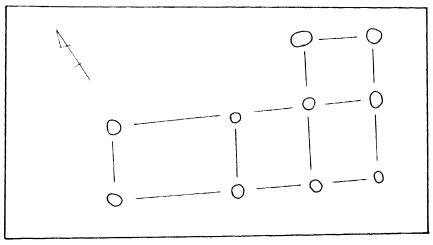


第25図　第46次遺構２

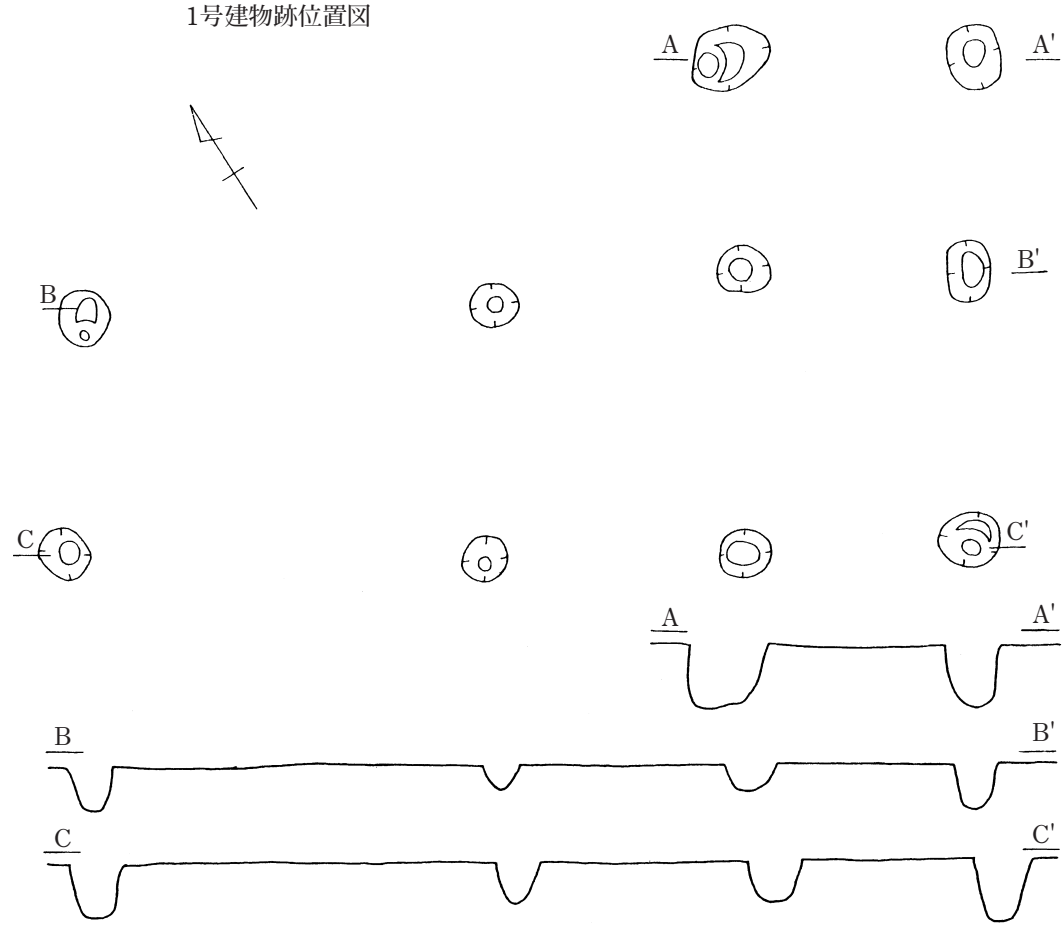
第26図　第46次遺構３



第27図　第46次遺構４

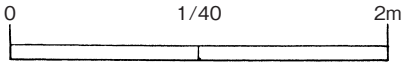


1号建物跡位置図



1号建物跡

第28図　第46次遺構５



調査前風景

○は当該遺構　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	26・27・29・34壙	直線	箱薬研	幅297	66	暗灰褐色	瀬美天目/在地(擂鉢・瓦＝13c)/かわらけ/小柄(刀身)/銭貨/粉挽臼(上臼)		４つの溝の重複
２号溝	なし	直線	ゆるやか	幅(48)	☆60	暗灰褐色			
３号溝	○→１壙	直線	ほぼ直上	幅24	10	不明	かわらけ		２T
４号溝	２壙	直線	ほぼ直上	幅54	14	暗灰褐色/含S◎・C◎			２T
５号溝	欠番								
６号溝	11・28壙	直線	ほぼ直上	幅34	8	不明	瀬美稜皿		
１T１号溝	なし	直線	ゆるやか	幅☆(312)	☆76	暗灰褐色			
１T２号溝	なし	直線	ゆるやか	幅☆242	☆60	暗灰褐色			
３T１号溝	なし	直線	ゆるやか	幅☆300	☆86	暗灰褐色	砥石		
３T２号溝	なし	直線	ゆるやか	幅☆(76)	☆76	暗灰褐色			
１号井戸	なし	円形	ロート形	80	☆118	暗灰褐色	瀬美稜皿/銭貨	16c～	
１号土壙	３溝→○	円形？	ほぼ直上	86×(39)	☆26	暗灰褐色/含SR◎・CR◎			２T
２号土壙	４溝	長方形	ほぼ直上	(295)×106	15	暗灰褐色/含LR△	瀬美志野丸皿/かわらけ	16c末～	２T
３号土壙	なし	隅丸長方形	ゆるやか	(152)×(67)	5	不明			２T
４号土壙	○→２壙	楕円形？	ゆるやか	(69)×(50)	16	暗灰褐色/含C◎	志戸呂擂鉢/骨/銭貨/柄頭	16c～	２T 墓壙
５号土壙	１溝→○	長方形	ゆるやか	262×68	8	不明	在地鳥形土製品/かわらけ/煙管(雁首)		
６号土壙	8壙→○→12壙/14壙	長方形	ほぼ直上	(340)×90	32	不明			
７号土壙	○→８壙/６・14壙	長方形	ほぼ直上	180×80	12	不明			
８号土壙	７壙→○→６壙	隅丸長方形	ほぼ直上	(192)×(55)	22	不明			
９号土壙	○→10壙/15・16・38壙	長方形	ゆるやか	(160)×111	8	不明			
10号土壙	欠番								
11号土壙	６溝→○/37壙	楕円形？	ほぼ直上	(68)×(92)	10	不明			
12号土壙	６壙→○/６溝	隅丸長方形？	ほぼ直上	(113)×(77)	☆18	不明			
13号土壙	欠番								
14号土壙	○→６・34壙/30壙	長方形？	ほぼ直上	(265)×107	25	不明			
15号土壙	○→16壙	不明	不明	(50)×？	18	不明			
16号土壙	15壙→○	不明	ほぼ直上	(140)×？	26	不明			
17号土壙	○→18壙/21壙	長方形	直上	(205)×84	28	不明			
18号土壙	17・19壙→○→20壙	長方形	ほぼ直上	(214)×(26)	☆18	不明			
19号土壙	○→18壙/23壙	長方形	ほぼ直上	112×84	36	不明			
20号土壙	18壙→○	長方形	ほぼ直上	(170)×100	26	不明			
21号土壙	17・22壙	長方形？	ほぼ直上	(110)×(85)	24	不明			
22号土壙	21壙	長方形？	ほぼ直上	(122)×(50)	24	不明			
23号土壙	24壙	長方形	ほぼ直上	(128)×68	☆20	不明			
24号土壙	27壙	長方形	ほぼ直上	160×(30)	☆18	不明			
25号土壙	なし	円形？	ほぼ直上	90×(48)	☆16	暗灰褐色	かわらけ		
26号土壙	21壙	長方形？	ゆるやか	(120)×40	8	不明			
27号土壙	24壙	長方形？	ほぼ直上	(114)×(34)	☆15	不明			
28号土壙	６溝、32壙	長方形？	ほぼ直上	(146)×(100)	11	不明			
29号土壙	１溝	長方形	ほぼ直上	(132)×126	22	不明			
30号土壙	なし	不整形	ほぼ直上	(90)×98	17	不明			
31号土壙	32・36壙	長方形	ほぼ直上	(109)×74	25	不明			
32号土壙	31壙	長方形	ほぼ直上	223×(76)	15	不明			
33号土壙	欠番								９壙と同一
34号土壙	１溝、14壙	不明	ほぼ直上	(132)×(70)	☆13	不明			
35号土壙	37壙	長方形	ゆるやか	130×80	16	不明			
36号土壙	31壙	長方形	ゆるやか	110×70	20	不明			
37号土壙	11・35壙	長方形？	ほぼ直上	150×124	16	不明			
38号土壙	９壙	長方形？	ゆるやか	(120)×(65)	5	不明			
１号建物跡		長方形		２間×３間					

第７表　第46次遺構一覧表

第８節　第47次調査

（１）調査の概要

（調査に至る経過）

開発者江頭邦和・順子氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字仮換地18街区11画地における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任島村範久が担当した。

（調査協力員）

大熊文　小森谷アサ　関口のぶ　渡辺サヨ

（文化庁通知）６委保記第５－7519号
平成６年12月２日

（調査期間）　平成６年12月１日～３月14日

（調査面積）　59.5㎡

（調査の経過）

隣接する第46次と並行して調査を実施した。調査区東側及び庭予定地西側にトレンチを設定し（それぞれ１Ｔ・２Ｔとした）、溝及び井戸を調査した。建設予定地に10.5m×５ｍの調査区を設定し重機により掘り下げた。遺構が不明瞭なため３～９トレンチを設定し調査した。ローム面を遺構確認面とし溝・土壙の調査を実施した。調査区東側１・９号溝で馬？の骨が数頭分出土し慎重に精査した。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は近隣の大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

西に第45次、北に第46次、さらに西にKB９区が所在する。45次では溝や土壙・ピットが確認され、南側トレンチで確認された幅220cmの溝が本調査区２Ｔの溝に延伸する。46次調査では調査区に対し斜行する溝が本調査区の溝とつながる。他に建物跡が１棟所在する。

（２）遺構と遺物

【溝】調査区で10条、１Ｔで３条・２Ｔで２条命名したが、欠番・同一溝が３条あり総数12条を数える。主に南北に斜行する溝と東西に走行する溝がある。

１号溝　東端にあり幅94cm（残存）深さ60cmを計る。９号溝と並行する。かわらけ（土－249～252）・在地甕（土－254）が出土した。

４号溝　瀬戸美濃擂鉢（土－255）が出土した。

５号溝　西側で屈曲する。幅62cm深さ37cmで４・８号溝より古い。瀬戸美濃天目茶碗（土－256）が出土。

６号溝　瀬戸美濃天目茶碗（土－257）・同丸碗（土－258・259）・同稜皿（土－260）・同擂鉢（土－263）・志戸呂丸碗（土－264）・かわらけ（土－265～278／穿孔・内面黒色）・ほうろく（土－279～285）・素焼擂鉢（土－286・287）が出土した。かわらけは265・271がほぼ完形である。ほかに鉛の弾丸（金－31）、磨石（石－48・49）、スラグ30g、馬？の歯が出土した。16世紀中から後。

７号溝　西端に位置し８号溝と深さが異なるがつながるようである。幅68cm深さ28cmである。

８号溝　幅68cm深さ12cmである。

７・８号溝は46次１Ｔ２号溝・３Ｔ２号溝・調査区２号溝とつながる。いずれも60～76cmと深い

９号溝　馬？の骨が４体分出土した。

【井戸状遺構】１基あり２Ｔにある。

１号井戸　直径70cm深さ110cmを計る。中国染付皿（土－290）・かわらけ（土－291～310）が出土した。291は完形。桃の種３点出土。

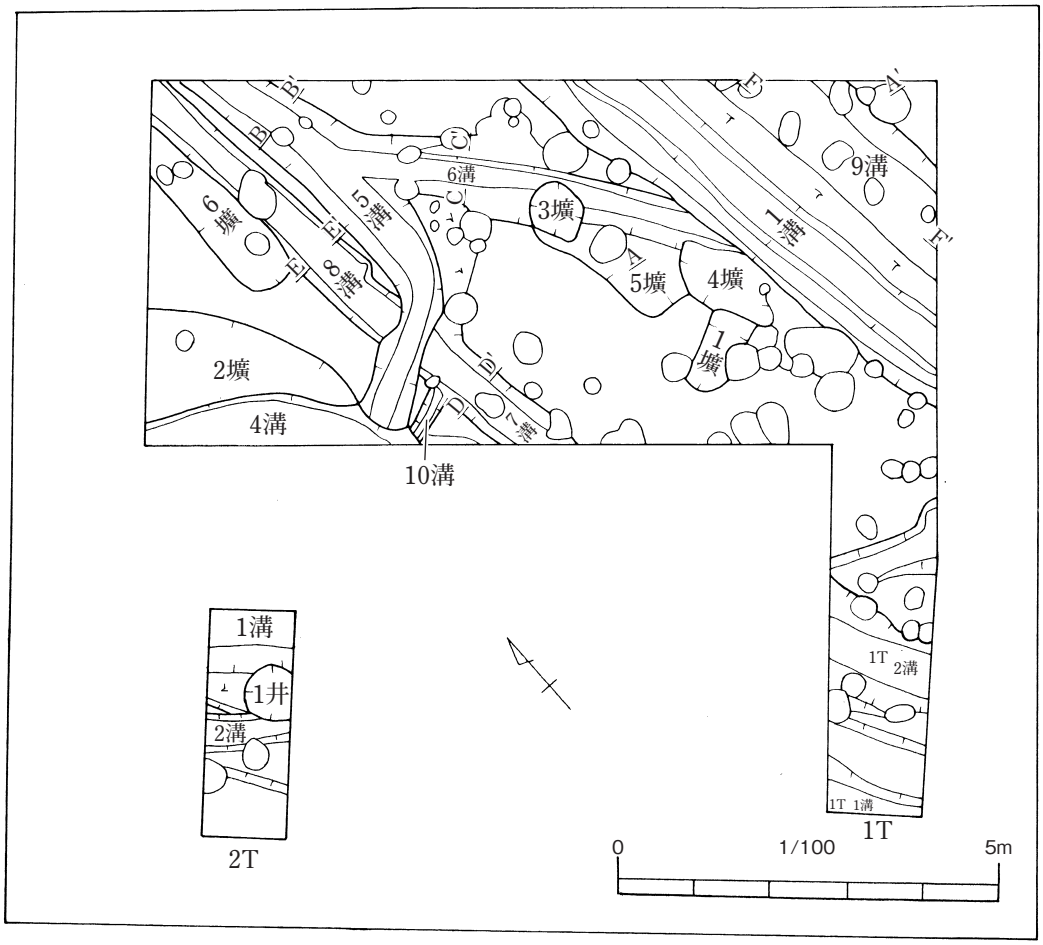
【土壙】６基が散漫に分布する。ほとんどが浅く長方形である。

３号土壙　中央にあり平面円形、直径70cm深さ66cmを計る。

【遺構外出土遺物】

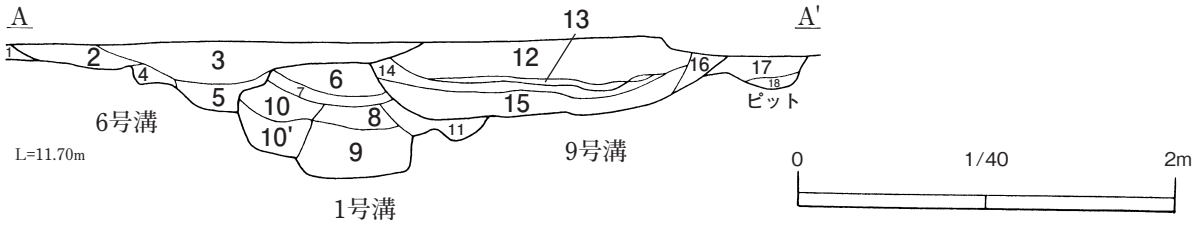
遺存良好な遺物が出土した。陶磁器類では龍泉窯系青磁碗（土－313）・中国白磁皿（土－314）・同染付皿（土－315・316）・瀬戸美濃天目茶碗（土－

周辺の調査は第22図参照



第29図　第47次遺構位置図

完掘西側（南から）



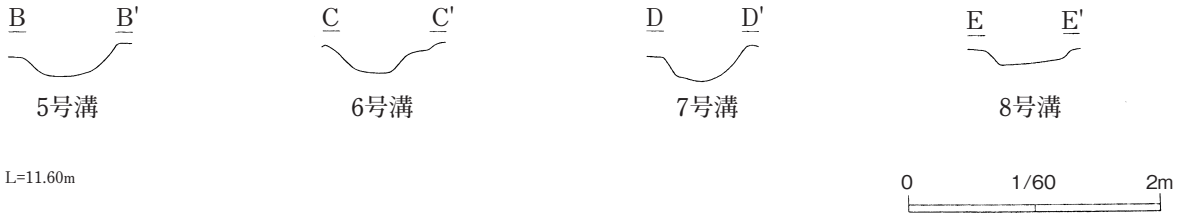
○　１・６・９溝セクション

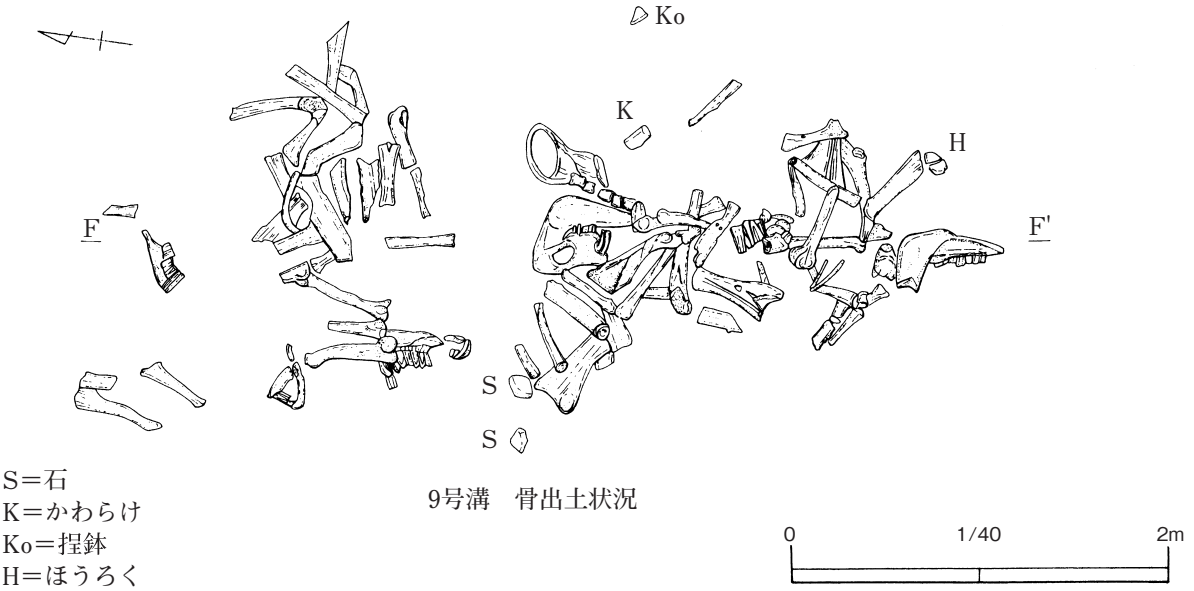
1　黒褐色／LR△　締良
2　暗灰褐色（灰色味強）／LR△、FE◎、T▲、締良
3　暗灰褐色（灰色味強）／LR△、FE◎、C△、T▲　締良
4　暗灰褐色（灰色味強）／LR△、FE△　締良
5　暗灰褐色（灰色味強）／LR◎、FE△、C△　締良
6　暗灰褐色／FE△、C▲　締良
7　暗灰褐色／灰色がかり軟度低　FE▲
8　暗灰褐色／LR▲、FE△　締良
9　暗灰褐色／LB、LR△、FE△　軟質
10　暗灰褐色（８層より明）／LR△、FE△　締良
10'　暗灰褐色／LB、LR◎　軟度低
11　暗灰褐色（色調暗）／LR△　軟質
12　暗灰褐色／LR、FE△、S、C▲　締良
13　黄褐色／FE△　軟質　粘有
14　暗灰褐色（灰色味強）／LR▲、FE△　軟質
15　暗灰褐色／LR◎、FE△　軟質
16　暗灰褐色／LR△、FE▲　締良
17　暗灰褐色／LB◎、LR、FE◎　締良
18　LB 層　ソフト L を主体　軟質

6溝
9溝
ピット

土層説明凡例

色調／含有物	
テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有

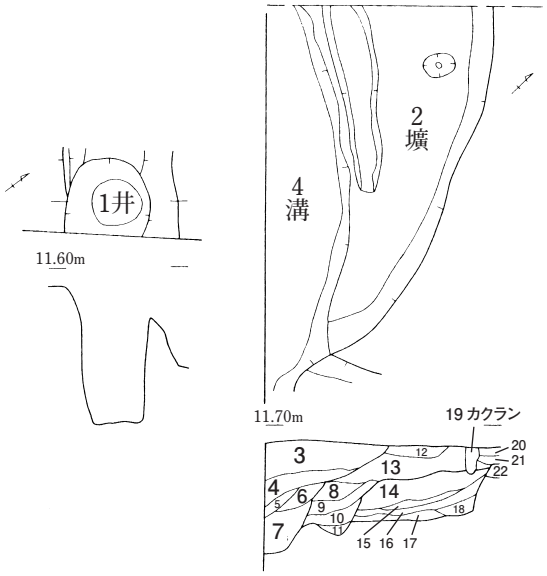




S＝石
K＝かわらけ
Ko＝捏鉢
H＝ほうろく

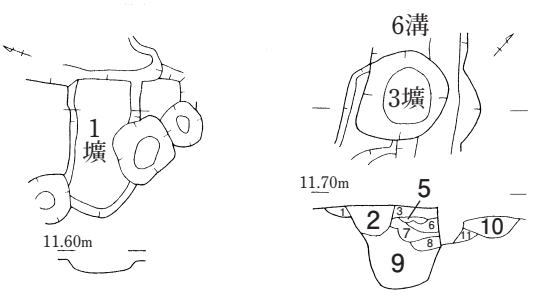
9号溝　骨出土状況

第30図　第47次遺構１



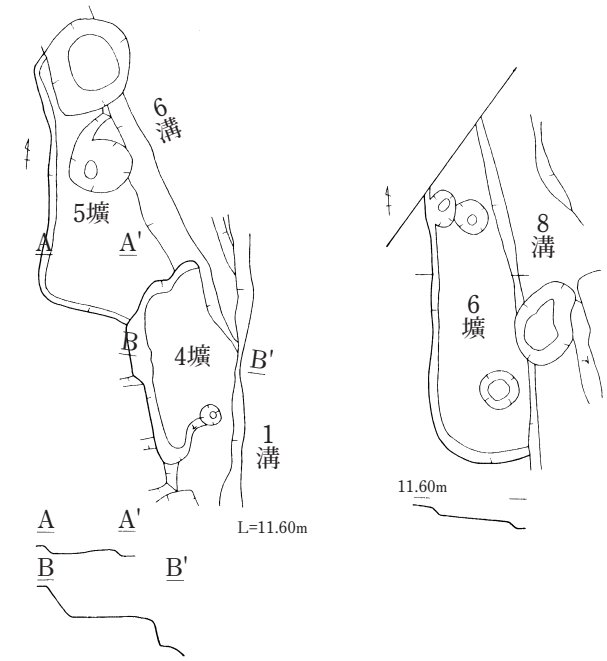
○　２壙・４溝セクション

3	暗灰褐色／LR△、C▲、T　締良	
4	暗灰褐色／LR△万、FE 万、C▲　締良	４溝
5	暗灰褐色／LR◎、FE△　締良	
6	暗灰褐色／LR△万、FE◎万　締良	
7	暗灰褐色（灰色味強）／LR△、FE◎　締良	
8	暗灰褐色／LR▲、灰色粘土 B◎　締良	溝
9	灰色粘土／　LR△、FE◎　軟度低	
10	暗灰褐色（灰色味強暗）／FE△、灰色粘土 B△　軟度低	
11	暗灰褐色／LB、LR◎　締良	
12	暗灰褐色／LR◎、S、C△、T▲　締良	
13	暗灰褐色／LR▲、FE△、C、T▲　締良	
14	灰色粘土／灰色粘土を主体とし暗灰褐色 B△、FE△　締良	土壙
15	灰色粘土（上層より明）／暗灰褐色 B△、FE△　締良	
16	暗灰褐色／灰色粘土◎　軟質	
17	暗灰褐色／LB、LR◎　締良	
18	暗灰褐色（色調暗）／BBrB◎、LB、LR△　締良	
19	攪乱	
20	暗灰褐色／LR△、C▲　締良	
21	暗灰褐色／LR▲、C◎　堅緻　締良	
22	暗灰褐色／LR△、締良	



○　３壙セクション

1	暗灰褐色／LR◎　軟度低	
2	暗灰褐色／灰色土、LR△、FE△、T　締良	→ピット
3	暗灰褐色（暗）／LR△、FE◎　締良	
5	灰層／　灰を主体　C△	
6	暗灰褐色（やや明）／LR△、FE◎　締良	６溝
7	暗灰褐色（暗）／LR△、FE△、C▲　締良	
8	暗灰褐色（暗）LB、LR△　締良	
9	暗灰褐色／LB 万、LR◎万　ボロボロ　締悪	→２壙
10	暗灰褐色／LB△、FE△　締良	
11	黄褐色／LB を主体　暗灰褐色 B△　堅緻　締良	



0　1/60　2m

第31図　第47次遺構２

317～319）・同丸碗（土－320）・志野丸皿（土－326）・志戸呂筒形碗（土－329）・初山小杯（土－330）がある。

在地ではかわらけ（土－331～345）・ほうろく（土－346～348）・火鉢（土－349・350）がある。

金属製品では鉄の弾丸（金－11～13）・鉄鏃？（金－14）がある。

石製品は磨石（51～56）・加工石で凹みを有する板石（石－93）がある。

ほかにスラグ170g、・馬？の骨が出土。

縄文時代の加曽利Ｅ期（他－61・62）の土器片がある。石器では敲石（他－77）がある。

調査前風景

○は当該遺構　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	○→９溝	直線	ほぼ直上	幅☆94	☆60	暗灰褐色	瀬美(天目・丸碗＝16c 中～17c 初)/在地(甕＝14c)/かわらけ/焙烙/粉挽臼(上臼)	16c 中～	
２号溝	欠番								
３号溝	欠番								
４号溝	５溝、２壙→○	弧状	ほぼ直上	幅☆(102)	90	暗灰褐色/含LR△・T▲・C▲	瀬美擂鉢/在地(甕＝19c)		
５号溝	○→4・8溝/7溝	屈曲する	ゆるやか	幅62	37	暗灰褐色	瀬美天目		
６号溝	８・９溝、３壙→○	直線	ゆるやか	幅94	26	暗灰褐色/含LR△・T▲・FE◎	瀬美(天目・丸碗＝16c 中～17c 初・稜皿・丸皿・擂鉢)/志戸呂丸碗/在地擂鉢/かわらけ/焙烙/板材/弾丸/硯/磨石/板碑/敲石/歯(馬？)/スラグ30g	16c 中～	
７号溝	５溝	直線	ほぼ直上	幅68	28	不明	焙烙		
８号溝	5溝→○→6溝/6壙	直線	ゆるやか	幅68	12	暗灰褐色			
９号溝	１溝→○→６溝	直線	ゆるやか	幅☆(192)	☆40	暗灰褐色	在地(甕＝14c)/磨石/骨(馬？)/焙烙	14c～	
10号溝	４・７溝	直線	ほぼ直上	幅23	16	暗灰褐色			
1T1号溝	なし	直線	ほぼ直上	幅(124)	☆96	暗灰褐色			
1T2号溝	なし	直線	箱薬研	幅104	☆57	暗灰褐色			
1T3号溝	－	－	－	－	－	－			１溝と同一
2T1号溝	○→１井	直線	ほぼ直上	幅140	☆110	暗灰褐色			
2T2号溝	○→１井	直線	ほぼ直上	幅50	15	暗灰褐色？	かわらけ		
１号井戸	２T(１・２)溝→○	円形	ほぼ直上	70	110	不明	中国(染付皿＝16c 中～後)/かわらけ/銭貨/桃の種	16c 中～	
１号土壙	４壙	長方形	ゆるやか	(116)×58	11	不明			
２号土壙	○→４溝	楕円形？	ほぼ直上	(280)×(167)	☆60	灰色粘土層			
３号土壙	○→６溝	円形	ほぼ直上	70	☆66	暗灰褐色			
４号土壙	１溝、1・5壙	不整形	ほぼ直上	166×(90)	22	黄褐色土層			
５号土壙	６溝、3・4壙	長方形	ゆるやか	(203)×(75)	6	不明			
６号土壙	８溝	長方形	ほぼ直上	(275)×(80)	11	不明			

第８表　第47次遺構一覧表

第９節　第53次調査

（１）調査の概要

（調査に至る経過）

平成10年７月31日、開発者遠藤秀夫氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋639－９における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成10年９月８日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任坂本征男が担当した。

（市町村報告）10騎教社発第1012号
　　平成10年10月12日
（調査期間）　平成10年10月７日～11月６日
（調査面積）　35.2㎡
（調査の経過）

庭予定地に幅２ｍの調査区をＬ字形に設定しローム面まで掘り下げた。溝確認のため中央部を拡張した。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸の調査を実施した。湧水のため西側に側溝を設け水中ポンプにより排水した。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

東にKB８区、西に第54次がある。KB８区では溝・井戸・土壙が多数確認されている。隣接する調査区で井戸は10基、溝は第53次１・２溝につながるものがある。第54次でも溝が確認されている。

（２）遺構と遺物

【溝】４条検出し全て東西方向に走行する。

１号溝　幅233cm 深さ114cm（残存）で、KB８区の６号溝につながる。瀬戸美濃平碗（土－351）・土鍋（土－353）・銭貨（金－63・64）が出土した。

２号溝　幅212cm（残存）深さ74cm で、KB８区の13号溝につながる。かわらけ（土－354～356）が出土したが、356は取瓶である。

３号溝　幅79cm 深さ52cm（共に残存）である。在地の甕（土－357）が出土。

【井戸状遺構】１基あり西南端に寄る。

１号井戸　直径84cm 深さ100cm（残存）を計る。

【土壙】　３号まで振ったが２基欠番で、側溝壁面で確認された。

３号土壙　深さ49cm（残存）。下層で骨が出土し、墓壙の可能性あり。

【遺構外出土遺物】

陶磁器類では常滑の甕（土－359～363）・瀬戸美濃折縁皿（土－364）・同縁釉小皿（土－366・367）・志野丸皿（土－368）・瀬戸美濃鉄絵鉢（土－369）・丹波擂鉢（土－371）がある。

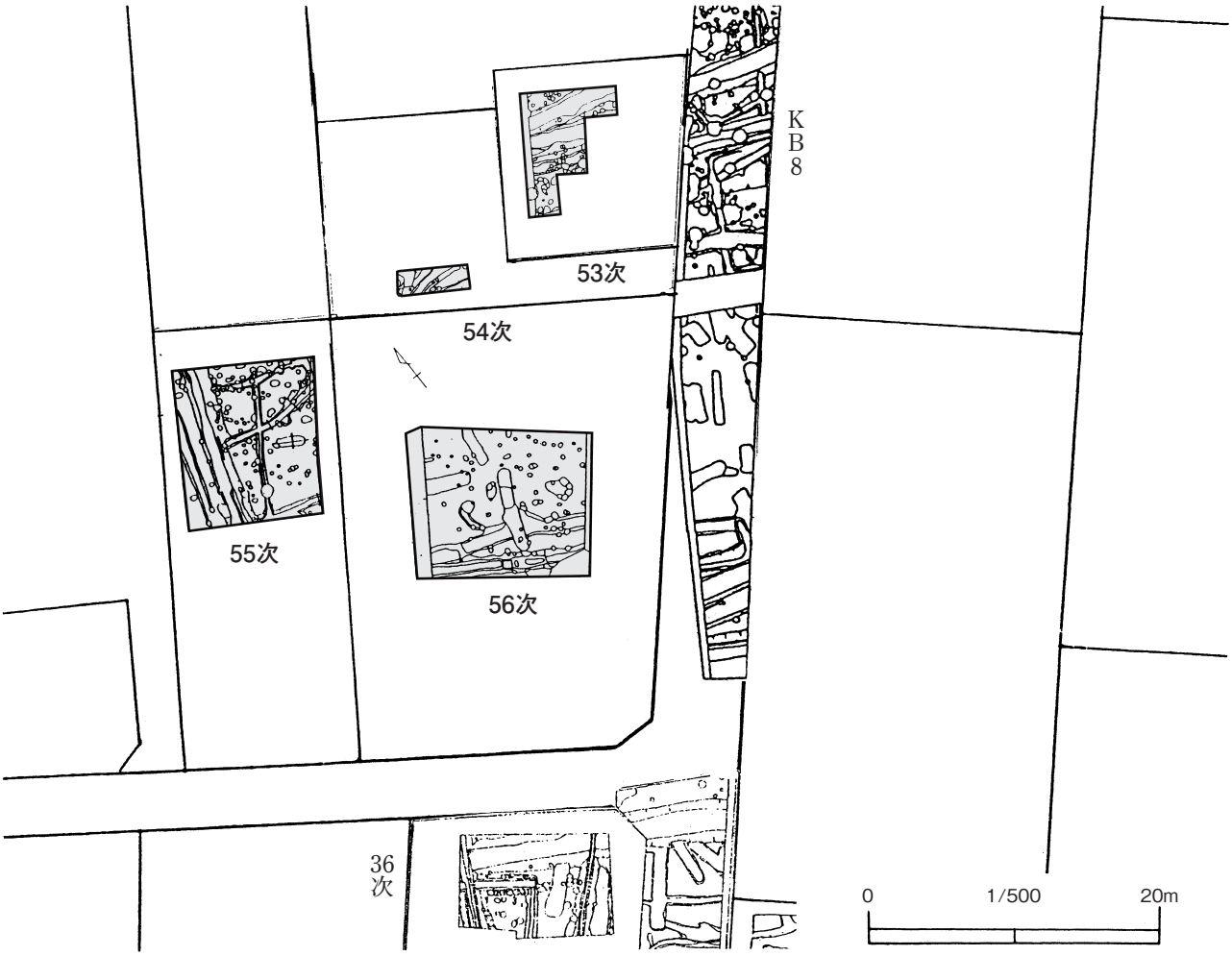
在地ではかわらけ（土－374～398）・ほうろく（土－399）・土鍋（土－400）がある。かわらけは鋳物に使用したもので緑青が付着するスラグやスス付着のものが多数ある（土－384～398）。

金属製品では銭貨（金－61・62）がある。

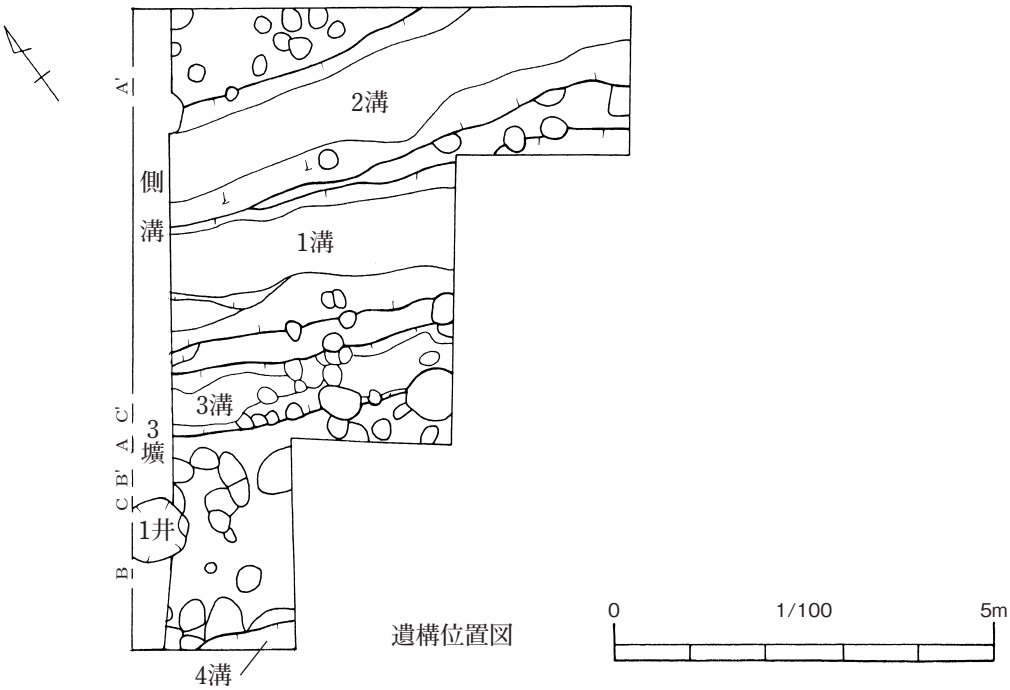
石製品では石臼（石－18・19）・硯（石－28）・砥石（石－32～34）・磨石（石－57～61）がある。

縄文時代のものでは、後期（他－63・64）の土器がある。

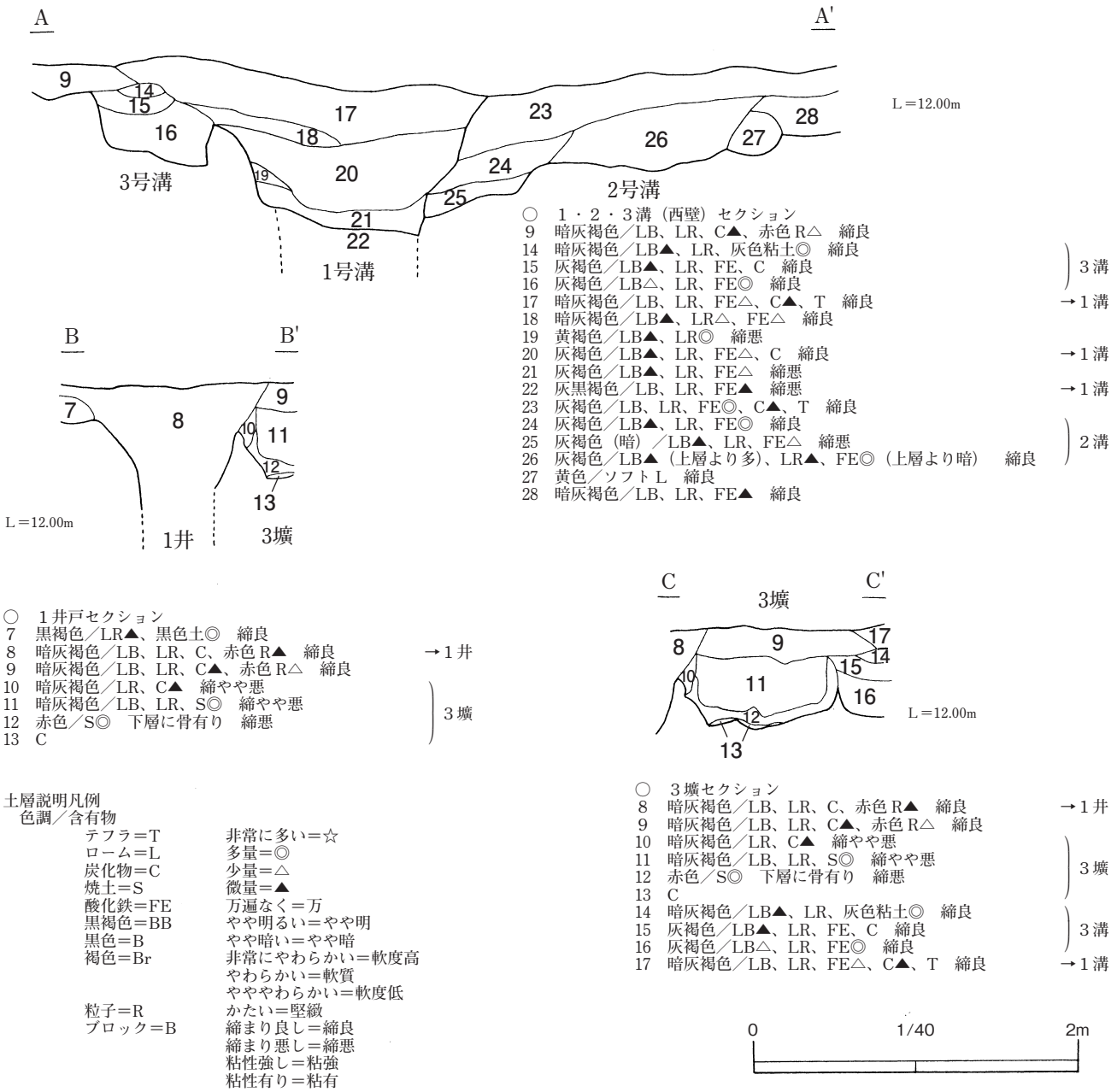
調査風景



周辺の調査



第32図　第53～56次周辺と第53次遺構位置図



○　１・２・３溝（西壁）セクション
9　暗灰褐色／LB、LR、C▲、赤色R△　締良
14　暗灰褐色／LB▲、LR、灰色粘土◎　締良
15　灰褐色／LB▲、LR、FE、C　締良　　３溝
16　灰褐色／LB△、LR、FE◎　締良
17　暗灰褐色／LB、LR、FE△、C▲、T　締良　　→１溝
18　暗灰褐色／LB▲、LR△、FE△　締良
19　黄褐色／LB▲、LR◎　締悪
20　灰褐色／LB▲、LR、FE△、C　締良　　→１溝
21　灰褐色／LB▲、LR、FE△　締悪
22　灰黒褐色／LB、LR、FE▲　締悪　　→１溝
23　灰褐色／LB、LR、FE◎、C▲、T　締良
24　灰褐色／LB▲、LR、FE◎　締良
25　灰褐色（暗）／LB▲、LR、FE△　締悪　　２溝
26　灰褐色／LB▲（上層より多）、LR▲、FE◎（上層より暗）　締良
27　黄色／ソフトL　締良
28　暗灰褐色／LB、LR、FE▲　締良

○　１井戸セクション
7　黒褐色／LR▲、黒色土◎　締良
8　暗灰褐色／LB、LR、C、赤色R▲　締良　　→１井
9　暗灰褐色／LB、LR、C▲、赤色R△　締良
10　暗灰褐色／LR、C▲　締やや悪
11　暗灰褐色／LB、LR、S◎　締やや悪　　３壙
12　赤色／S◎　下層に骨有り　締悪
13　C

○　３壙セクション
8　暗灰褐色／LB、LR、C、赤色R▲　締良　　→１井
9　暗灰褐色／LB、LR、C▲、赤色R△　締良
10　暗灰褐色／LR、C▲　締やや悪
11　暗灰褐色／LB、LR、S◎　締やや悪　　３壙
12　赤色／S◎　下層に骨有り　締悪
13　C
14　暗灰褐色／LB▲、LR、灰色粘土◎　締良
15　灰褐色／LB▲、LR、FE、C　締良　　３溝
16　灰褐色／LB△、LR、FE◎　締良
17　暗灰褐色／LB、LR、FE△、C▲、T　締良　　→１溝

土層説明凡例
色調／含有物

テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有

第33図　第53次遺構

○は当該遺構　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	なし	直線	箱薬研	幅☆233	☆(114)	暗灰褐色/含LB▲･LR▲･C▲･T	瀬美(平 碗＝15c中～後)/在地土鍋/かわらけ/銭貨/磨石	15中～	KB8 6溝
２号溝	なし	直線	ほぼ直上	幅☆(212)	☆74	灰褐色	かわらけ/板碑		KB8 13溝
３号溝	なし	直線	ほぼ直上	幅☆(79)	☆(52)	暗灰褐色	在地(甕＝14c)	14c～	
４号溝	なし	不明	不明	幅(37)	47	不明			
１号井戸	３壙→○	円形	ロート形	84	☆(100)	暗灰褐色/含LB▲･LR▲･C▲			
１号土壙	欠番								
２号土壙	欠番								
３号土壙	○→１井	不明	ほぼ直上	80	☆(49)	暗灰褐色/含LB･LR･S◎	骨		墓壙

第９表　第53次遺構一覧表

第10節　第54次調査

（1）調査の概要

（調査に至る経過）

平成10年９月11日、開発者善裕二氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋639－10における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成10年11月４日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任坂本征男が担当した。

（調査協力員）

梓沢ユキ子　新井富子　五十嵐米太郎　関口のぶ
土屋トヨ　若林美知子　渡辺サヨ

（市町村報告）10騎教社発第1110号
平成10年12月１日

（調査期間）　平成10年11月９日～11月13日

（調査面積）　8.33㎡

（調査の経過）

庭予定地に1.7m×５ｍの調査区を設定し掘り下げた。ローム面を遺構確認面とし溝の調査を実施した。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

西に第55次、南に第56次、東にKB８区がある。第55次では溝・井戸・土壙が確認され井戸から墨書荷札が出土した。第56次でも溝・井戸・土壙を検出し南端に位置する溝は深い。

（2）遺構と遺物

【溝】２条で東西方向に走行する。

１号溝　幅110cm 深さ54cm である。

２号溝　幅54cm（残存）深さ10cm である。

【遺構外出土遺物】

土器類ではかわらけ（土－404～409）で、407は３／４以上残る。

ほうろく（土－410・411）・（土－412・413）は土鍋か。火鉢（土－414）がある。

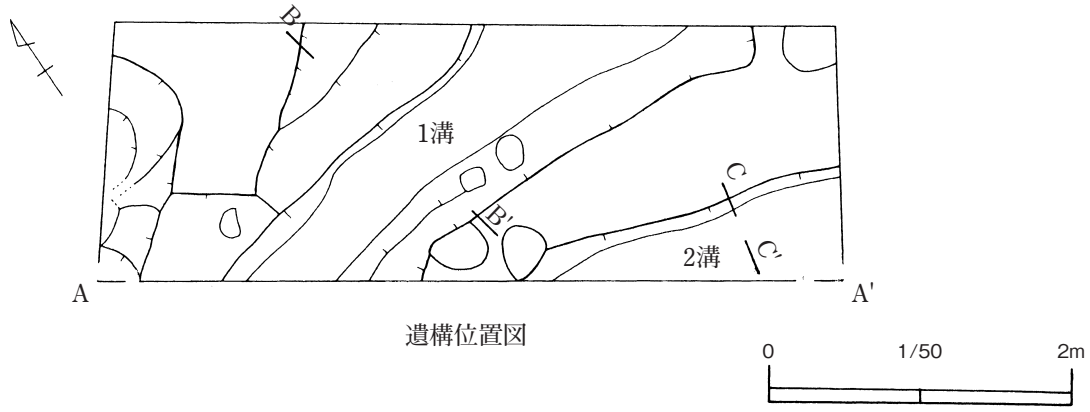
（　）は残存値

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	なし	直線	ほぼ直上	幅110	54	暗灰褐色			
２号溝	なし	直線	ほぼ直上	幅(54)	10	暗灰褐色			

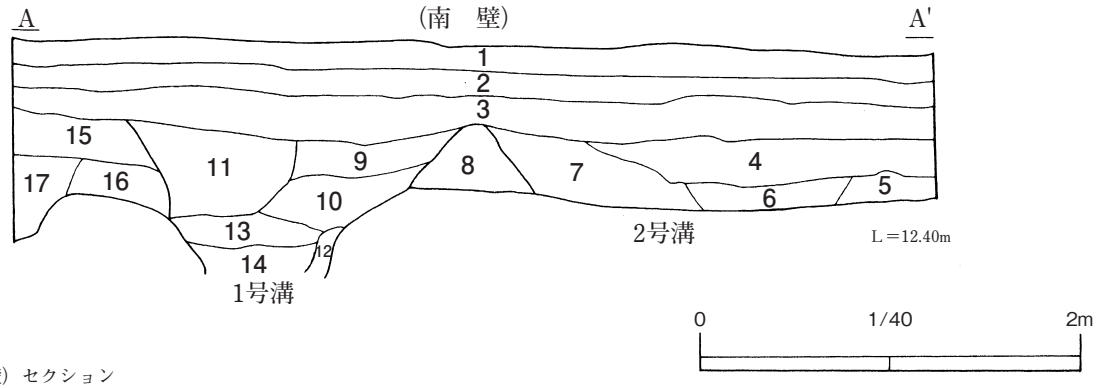
第10表　第54次遺構一覧表

調査風景

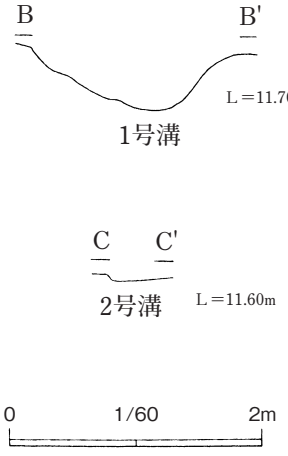
周辺の調査は第32図参照



遺構位置図



○　1・2溝（南壁）セクション
1　表土
2　暗灰褐色／LB、LR、C▲、T◎　締良
3　暗灰褐色／LB、LR、C▲　締良
4　暗灰褐色（上層よりやや灰色味強）／LB、LR、FE▲、C　締良
5　暗灰褐色／LB、LR▲（上層より多）、C▲　やや粘　締良　　2溝
6　暗灰褐色（上層よりやや灰色味強暗）／LB、LR、C▲　やや粘　締良
7　暗灰褐色（上層よりやや灰色味強）／LB▲、LR　やや粘　締良
8　暗灰褐色／LB▲（下層に多）、LR　締良
9　暗灰褐色／LB、LR、C▲（上層より少）　締良　　→1溝
10　暗灰褐色／LB▲（上層より少やや暗）、LR、締良
11　暗灰褐色（10・16層より明）／LB▲（上層より少）、LR　締良
12　黄褐色／LB◎、LR　締良
13　暗灰褐色／LB▲、LR◎　締良　　1溝
14　暗褐色／LB▲、LR　締良
15　暗灰褐色／9層と同じ
16　暗灰褐色（上層より暗、10層よりやや明）／LB▲、LR　締良
17　暗灰褐色（上層より暗、16層よりやや暗）／LB▲、LR　締良



土層説明凡例
色調／含有物

テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有

第34図　第54次遺構位置図と遺構

第11節　第55次調査

（１）調査の概要

（調査に至る経過）

平成13年10月19日、開発者小林誠氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋639－３における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任嶋村英之が担当した。

（調査協力員）

新井富子　五十嵐喜一郎　五十嵐米太郎　栗原政子
佐藤ヨシ　関口のぶ　福島利夫

（市町村報告）13騎教社発第1126号
平成13年11月26日

（調査期間）　平成13年12月３日～
平成14年１月29日

（調査面積）　105㎡

（調査の経過）

建設予定地に11m×9.5mの調査区を設定し重機によりローム層まで掘り下げた。湧水のため東側に側溝を設け水中ポンプにより排水した。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壙の調査を実施した。溝内にピットが多い。掘り上げた１号井戸の覆土を洗浄した際荷札が確認された。最後に縄文の調査をした。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

西方に第23次、東南に第56次、東に第53・54次がある。

（２）遺構と遺物

【溝】総数６条の溝が東西・南北方向に走行する。特に４号溝は大規模で西側に南北方向に走行する。

４号溝　幅308cm深さ82cmを計る。覆土に大量のロームブロック（７～９層）を含む。龍泉窯系青磁碗（土－415）・中国白磁皿（土－416）・常滑甕（土－417～419）・同片口鉢（土－420・421）・手づくねかわらけ（土－422）・在地擂鉢（土－423）・同片口鉢（土－424・425）・渥美？片口鉢（土－426）、砥石（石－35・37）・磨石（石－62）が出土する。

６号溝　幅90cm（残存）深さ50cnを計る。

【井戸状遺構】１基あり南に寄る。

１号井戸　直径89cm深さ160cmを計る。覆土上層にローム粒子を大量に含む。瀬戸美濃志野皿・荷札（木－４）・漆椀（木－２）・栓（木－１）・箸？（木－３）・鉄製鋺（金－８）・磨石（石－63・64）が出土した。

荷札は掘り上げた覆土を洗浄して検出したもので出土状態は確認できなかった。

【土壙】２基で中央東にある。

１号土壙　平面隅丸長方形で194×66cmを計る。

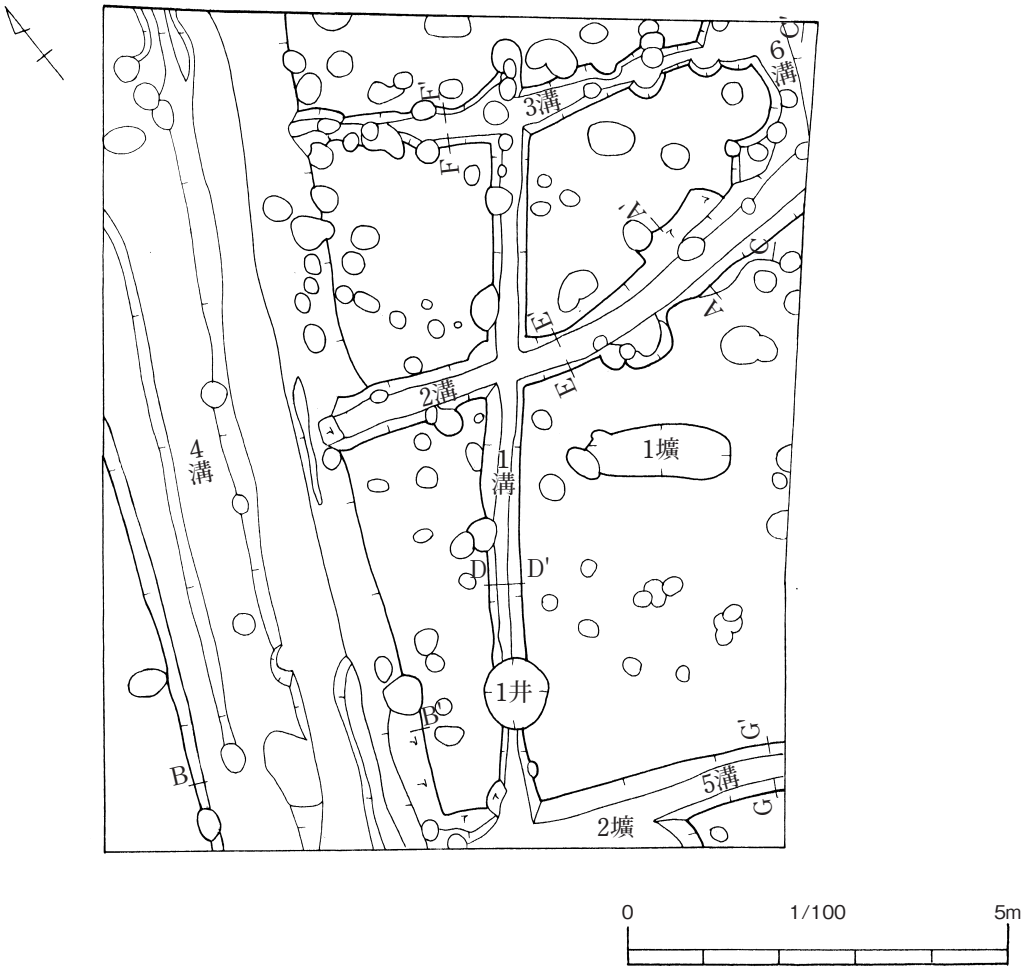
【遺構外出土遺物】

陶磁器類では龍泉窯系青磁碗（土－429）・中国白磁皿（土－430）・常滑甕（土－431）・瀬戸美濃卸皿（土－432）・同縁釉小皿（土－433）同丸皿（土－436）・志戸呂大皿（土－438）がある。石製品では砥石（石－36・38・40）・火打石（石－73）がある。

ほかにスラグ140gがある。

縄文時代では、土器は中～後期のもの（他－65）と安行３a式の深鉢（他－66）、石器は磨石（他－73）や磨り面のある礫＝砥石（他－81）がある。

周辺の調査は第32図参照

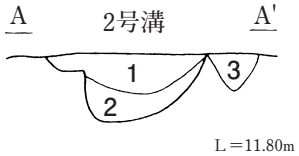


第35図　第55次遺構位置図

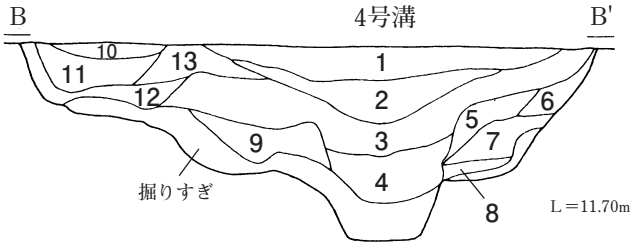
○は当該遺構　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	1井→○／2・3・5溝	直線	ほぼ直上	幅34	19	暗灰褐色/含LR◎			
2号溝	○→4・6溝	弧状	ほぼ直上	幅50	18	暗灰褐色			
3号溝	2・4溝	直線	ゆるやか	幅49	8	不明			
4号溝	2溝→○／3溝	直線	箱薬研	幅☆308	☆82	暗灰褐色/含LB 2次堆積	龍泉(青磁碗＝13c)/中国(白磁皿＝13c～14c)/常滑(甕・片口鉢＝13c)/在地(片口鉢＝13c後・擂鉢)/かわらけ/渥美？片口鉢/砥石/石臼/磨石/五輪塔	13c～	
5号溝	1溝	直線	ほぼ直上	幅60	22	不明			
6号溝	2溝→○	直線	ゆるやか	幅(90)	☆50	暗灰褐色			
1号井戸	○→1溝	円形	ほぼ直上	89	160	暗灰褐色/含LR 2次堆積	瀬美志野皿/漆椀/荷札/栓/箸？/木片/竹/ひょうたん/茸/鉄製鋺/磨石	16末～	
1号土壙	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	194×66	6	不明			
2号土壙	5溝	不明	不明	不明	39	不明	焙烙		

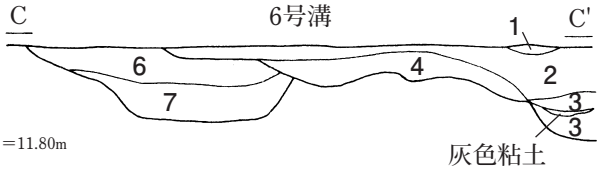
第11表　第55次遺構一覧表



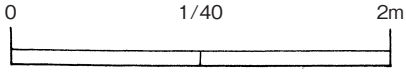
○　２溝セクション
1　暗灰褐色／LB、LR、BBR◎
2　暗灰褐色（灰色味）／LB、FER、BBR
3　暗灰褐色／LR、BBR

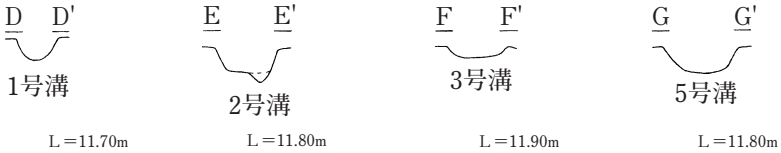


○　４溝（南壁）セクション
1　暗灰褐色／LR△、FER、SR△、CR△
2　暗灰褐色／FER△、白色R◎
3　暗灰褐色／LR△、FER◎
4　暗灰褐色／LB（ハード）、FER
5　暗灰褐色／LB、LR◎、FER
6　暗灰褐色／LB◎、LR◎、FER◎
7　LB（ハード・ソフト）の２次堆積
8　暗灰褐色／LB◎
9　暗灰褐色／LB（ハード）◎
10　暗灰褐色／LR
11　暗灰褐色／LR、白色粘土B◎
12　暗灰褐色／FER、白色粘土R△
13　暗灰褐色／SR△、CR△



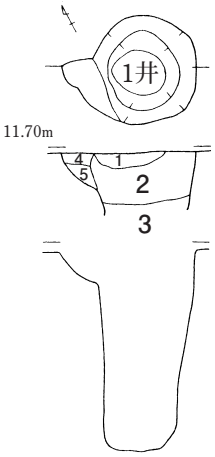
○　２・６溝セクション
1　暗灰褐色／FER◎
2　暗灰褐色／LR、FER
3　暗灰褐色（灰色味強）／LB、FER　｝６溝
4　暗灰褐色／LR△、FER
6　暗灰褐色／LR、FER、CR△
7　暗灰褐色／LB、LR、FER、BBR



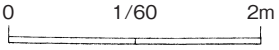


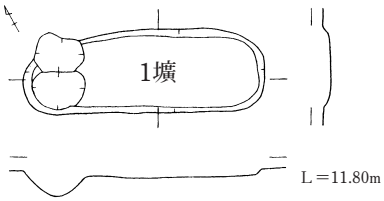
土層説明凡例

色調／含有物	
テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有



○　１井戸セクション
1　暗灰褐色（黄色味強）／LR◎　→１溝
2　暗灰褐色／LB、LR、C、CR△、灰色B
3　暗灰褐色（灰色味強）／LB（ブラックバンド）、CR△　粘強
4　暗灰褐色／LB
5　暗灰褐色（やや暗）／LR△





第36図　第55次遺構

調査風景

調査前風景

第12節　第56次調査

（1）調査の概要

（調査に至る経過）

平成16年３月９日、開発者斉藤順一氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋639－５における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成16年３月26日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任坂本征男が担当した。

（調査協力員）

新井富子　小川征子　斉藤昌三　関口のぶ

舘野紀正　渡辺サヨ

（市町村報告）16騎教社発第31号

平成16年４月８日

（調査期間）　平成16年４月15日～５月31日

（調査面積）　120.9㎡

（調査の経過）

建設予定地に13m×10mの調査区を設定し掘り下げた。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壙の調査を実施した。湧水のため東側に側溝を設け水中ポンプにより排水した。最後に縄文の調査をした。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

西に第55次、南に第36次・KB８区、北に第53・54次がある。第55次では溝・井戸等が確認され井戸から荷札が出土した。第36次では東西・南北方向に走行する大規模な溝が検出された。KB８区の隣接区では溝が集中する。第53・54次では溝が東西に走行する。

（2）遺構と遺物

【溝】２条の溝が南側で検出された。並走するがやや軸を異にする。

１号溝　幅106cm深さ20cmを計る。KB８区３号溝と同規模でつながると思われる。

２号溝　幅115cm深さ70cmを計る。中央部では溝底面のレベルが他と異なる。中央部西では20cmほど浅いテラスがあり、中央部東では60cmほど深い部分がある。KB８区２a溝とつながる。

漆椀・瀬戸美濃志野丸皿（土－447）・唐津筒形碗（土－448）・かわらけ（土－449～454）452は完形、ほうろく（土－455）・火鉢（土－456）、溝底面で板材が出土した。他に紡錘車（金－６）・碁石（石－23）、桃の種１点・炭化物が出土した。

【井戸状遺構】１基あり中央よりやや西に寄る。

１号井戸　直径84cm深さ126cmを計る。粉挽臼・炭化物が出土した。

【土壙】５基あり散漫に分布する。

１号土壙　長軸東西方向で他の土壙方位と軸が異なる。平面長方形310cm(残存)×92cm、深さ19cmを計る。

２号土壙　長軸南北方向で北端に位置する。平面長方形で284cm(残存)×74cm・深さ11cmを計る。

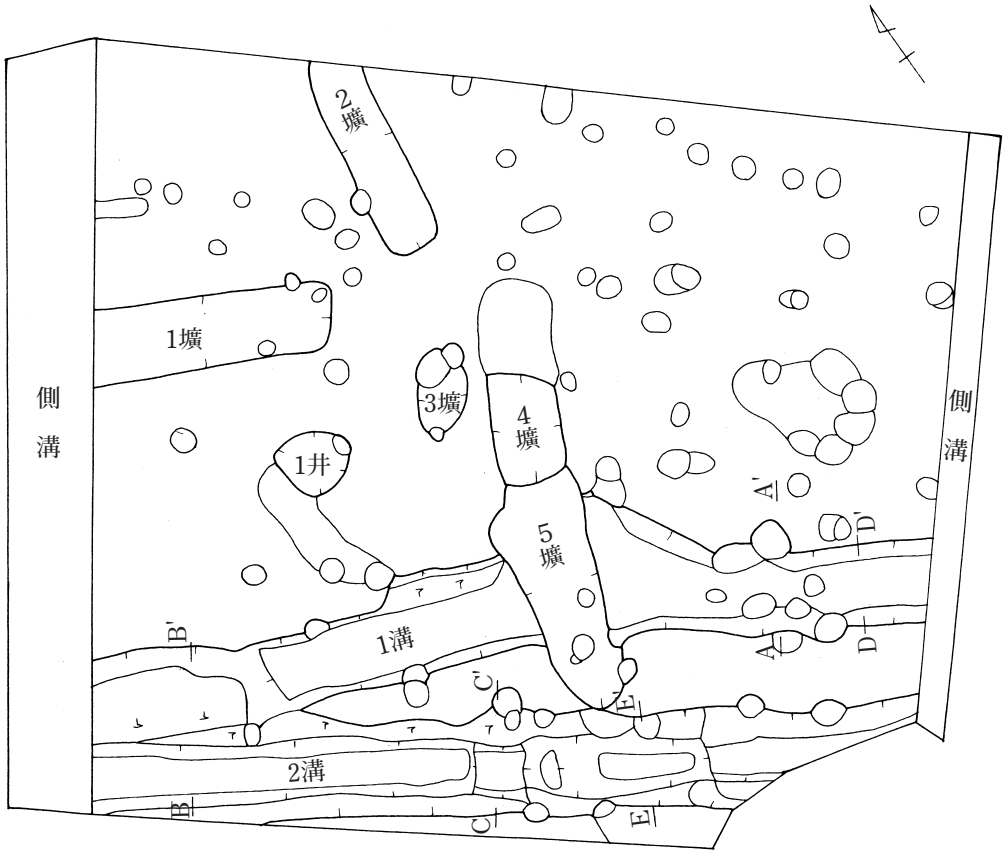
【遺構外出土遺物】

陶磁器類は志野丸皿（土－457）・志戸呂大皿（土－458）があり、在地ではかわらけ（土－459～462）がある。

金属製品では弾丸（金－32）・銭貨片がある。石製品は板碑の台石（石－90）がある。

調査風景

周辺の調査は第32図参照



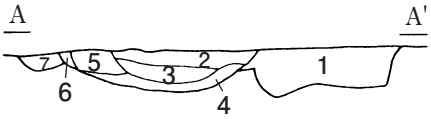
0　1/100　5m

第37図　第56次遺構位置図

○は当該遺構　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

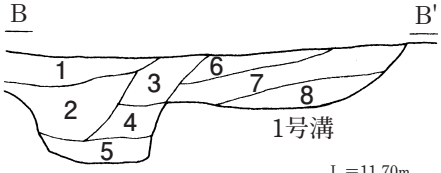
遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	○→2溝／5壙	直線	ゆるやか	幅106	20	暗灰褐色/含T・FE◎	肥前唐津(皿＝16c末～17c初)/かわらけ	16末～	
2号溝	1溝→○	直線	箱薬研	幅115	70	暗灰褐色	瀬美志野丸皿/肥前唐津(皿＝16c末～17c初・筒形碗＝16c末～17c初)/在地火鉢/かわらけ/焙烙/粉挽臼/漆椀(皮膜のみ)/板材/紡錘車/碁石/磨石/桃の種/炭化物	16末～	
1号井戸	なし	円形	ほぼ直上	84	126	暗灰褐色	粉挽臼/炭化物		
1号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	(310)×92	19	暗灰褐色/LB△・LR			
2号土壙	なし	長方形	ゆるやか	(284)×74	11	不明			
3号土壙	なし	楕円形	ほぼ直上	(86)×68	13	暗灰褐色/含T▲			
4号土壙	○→5壙	長方形	ゆるやか	(148)×90	☆22	暗灰褐色			
5号土壙	4壙→○	不整楕円形	ゆるやか	(324)×90	☆11	暗灰褐色			

第12表　第56次遺構一覧表



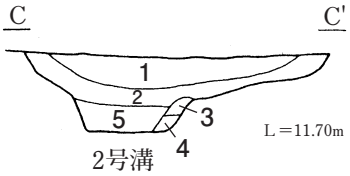
1号溝　L＝11.70m

○　１溝セクション
1　暗灰褐色／LB、LR、黒色土◎　締良
2　暗灰褐色（灰色味強）／FE◎、C▲、T　締良
3　暗灰褐色／LR◎、FE△　締良
4　暗灰褐色（上層より暗）／LB、LR、黒色土△　締良
5　暗灰褐色／LB、LR、FE△、C△　締良
6　暗灰褐色／LR△、黒色土　締やや悪
7　暗灰褐色／LR△、黒色土◎　締やや悪



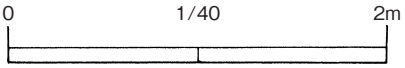
1号溝
2号溝　L＝11.70m

○　１・２溝セクション
1　暗灰褐色／LB、LR△、C▲　締良
2　暗灰褐色（上層より暗）／LB▲、LR△（上層より少）　締良
3　暗灰褐色／LB▲、LR　締良
4　暗灰褐色（上層より暗）／LB、LR、FE▲　締やや悪
5　暗褐色／LB▲、LR、FE　締悪
6　暗灰褐色／LB▲、LR◎　締良
7　暗灰褐色（灰色味強）／LB、LR、FE▲　締良
8　暗灰褐色／LB、LR△、黒色土▲　締良



2号溝　L＝11.70m

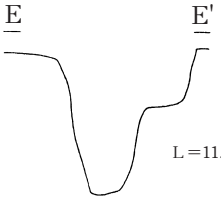
○　２溝セクション
1　暗灰褐色／LB△、LR、C、T▲　締良
2　暗灰褐色／LB▲、LR、FE△　炭強　締良
3　暗灰褐色／LB◎、LR　締やや悪
4　灰褐色／LB▲、LR　締良
5　灰褐色／LB、LR、FE▲　締やや悪



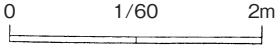
土層説明凡例
色調／含有物

テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BB	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有

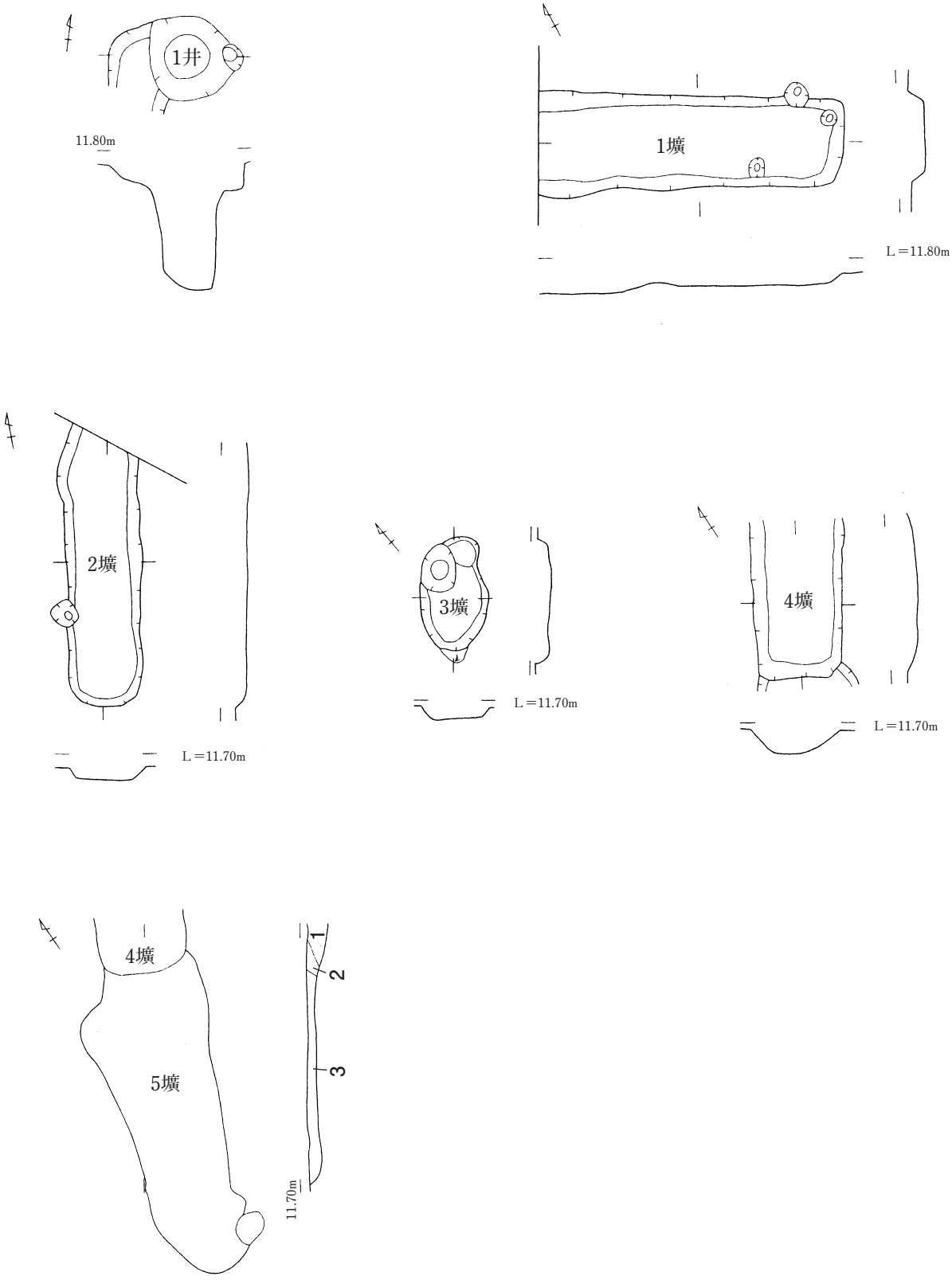
1号溝　L＝11.70m



L＝11.70m
2号溝



第38図　第56次遺構１



○　４・５壙セクション
1　暗灰褐色／LB、LR◎、黒色土△　締良
2　暗灰褐色／LB、LR、C、黒色土▲　締良
3　暗灰褐色（２層より灰色味強）／LB▲、LR　締良

0　1/60　2m

第39図　第56次遺構２

第Ⅲ章　出土した遺物

第１節　土器類

騎西城跡で出土している土器類は大略以下の通りに分類できる。

胎質では磁器・陶器・土器、生産地では国外産である輸入品、国内産に大別できる。また、器種は多様である。

これらの要素により時代等を加味し、掲載順は、輸入品では青磁・白磁・陶器・染付・朝鮮陶磁・その他、国産品では渥美・常滑・瀬戸美濃・肥前系陶器・志戸呂・初山・備前・丹波信楽・京都信楽・ほか・産地不明・肥前系磁器・瀬戸美濃系磁器・在地産土器とする。その他で鞴の羽口や土製品を扱う。

以上、分類・年代等はいずれも暫定的なものでいずれ整理をしたい。さて、今回の調査で報告する土器類は主に以下の通りで細片は省略している。

【輸入陶磁】

〈青磁〉　同安窯系　碗が12次１壙（189）で出土した。

龍泉窯系　皿が５次（105）で、碗が４次（６・７）、５次１井（88）・２井（92）・遺構外（104）、12次２溝（185）・遺構外（190）、47次（313）、55次４溝（415）・遺構外（429）で出土した。

〈白磁〉　漳州窯系　皿が12次（191）で出土した。

〈染付〉　漳州窯系　皿が10次１溝（148）で出土した。

【国産】

〈渥美〉55次出土の片口鉢（426）が渥美産か？

〈常滑〉片口鉢が55次４溝（420・421）で、甕が５次１溝（52）・６次（143）・53次（359～363）・55次４溝（417～419）で出土した。

〈瀬戸美濃〉

古瀬戸・大窯・登窯期

古瀬戸期では４・５・55次で比較的多く出土した。大窯期のものは４期を通して５・46・47次で多く出土した。登窯期初めのものはそう多くないが４・５・46・47・53・56次で出土した。出土量が多いため、調査時ごとに記載する。

４次　遺構外で古瀬戸中期の折縁深皿（14）折縁小皿（15・16）、大窯期全般から登窯４までのものが２溝で稜皿（１）・遺構外で天目茶碗・稜皿・丸皿がある。

５次　古瀬戸後期の天目茶碗（53）が１溝で・３溝で古瀬戸中期の四耳壺（81）、遺構外で古瀬戸中期の梅瓶（116）・古瀬戸後期の香炉（115）・縁釉小皿（109・110）・腰折皿（111）がある。大窯期全般から登窯期初めまでのものは、１溝で天目茶碗（54～56）・折縁皿（60）・稜皿（58・59）・丸碗（57）、３溝で端反皿（80）、２井で天目茶碗（93）、８壙で総織部皿（98）、10壙で端反皿（99）、遺構外で水注・茶入・丸皿・擂鉢がある。

６次　遺構外で大窯期の擂鉢（145）がある。

10次　２溝で大窯期後半の丸皿（156・157）がある。

11次　１溝で古瀬戸後期平碗（178）・大窯期後半の天目茶碗（179）がある。

12次　２溝で大窯期後半の丸皿（186）、３溝で古瀬戸後期卸皿（187）、遺構外で天目茶碗（192）がある。

46次　大窯前半から登窯初めのものがあり、１溝で天目茶碗（196）、６溝・１井で稜皿（209・210）、２壙で志野丸皿（211）、遺構外で端反皿？・稜皿・丸皿・織部丸碗・天目茶碗などがある。

47次　大窯前半から登窯初めのものがあり、４溝で擂鉢（255）、５溝で天目茶碗（256）、６溝で天目茶碗（257）・丸碗（258・259）・丸皿（261・262）、遺構外で天目茶碗・丸皿・内禿皿・志野小坏（312）・志野丸皿（326）・徳利がある。

53次　古瀬戸後期の平碗（351）が１溝で、遺構外で古瀬戸後期の折縁深皿（364）がある。大窯から登窯は縁釉小皿・丸皿・鉄絵鉢・志野丸皿がある。

55次　遺構外で古瀬戸中期の卸皿（432）・古瀬戸後期の縁釉小皿（433）・平碗（428）がある。大窯期初めと終りのものでは端反皿・丸皿・折縁皿がある。

56次　登窯期初めのものがあり、２溝で志野丸皿（447）がある。

〈肥前系陶器〉　唐津　丸皿が５次（120）で、皿

が56次（445）で、大皿が６次（146）で、筒形碗が56次２溝（448）で、小碗が４次２溝（２）で、向付が46次（233）で、出土した。

〈志戸呂〉　丸皿が５次１溝（62）で、大皿が55次（438）・56次（458）で、丸碗が47次６溝（264）で、筒形碗が10次２溝（159）・47次（329）で、茶入が46次（234）で、擂鉢が４次（31）・11次１溝（180）・46次４壙（213）で、徳利が５次１溝（61）で出土した。

〈初山〉　小杯が47次（330）で、中皿が４次（32）で出土した。

〈丹波信楽〉　丹波の擂鉢が53次（371）で出土した。

〈肥前系磁器〉　４次と10次で多く出土している。色絵皿が10次（173）、青磁皿が10次（164）で、染付皿が４次（40）・５次１溝（63）・46次（237）・10次（172）で、染付碗が４次（34～38）、10次１溝（152）・遺構外（166～171）、53次（373）で、色絵婦人像？が46次（238・239）、で出土した。

〈瀬戸美濃系磁器〉12次の上層で出土したが今回は図化しなかった。

〈在地産土器〉

○かわらけ　ほぼ全ての調査区から出土したが特に５・47・53次で多い。

底部外面に磨痕を有するものが46次（197）で出土している。完形のものが５次４壙（96）・遺構外（122・130）、47次６溝（265・271）・１井（291・293）、56次２溝（452）で出土した。122は底面と側面に穿孔している。スラグが付着しているものは、５次１溝（68・69）・遺構外（132～136）で、10次１溝（155）で、53次２溝（356）・遺構外（384～390・392～398）で出土した。特に134は５次一括出土であるが、スラグとともに金粒・銀粒が付着している。手づくねのものが53次１溝（352）・２溝（354・355）で出土した。

○ほうろく　５・46・47・55・56次で出土しているが５・47次で多い。

○火鉢　４次５溝（４）・遺構外（47）で、47次（349・350）・54次（414）・56次（456）で出土した。

○擂鉢　５次１溝（75～78）・３溝（86）・遺構外（140～142）、46次１溝（203～206）・遺構外（247・248）で、47次６溝（286・287）で、53次（358・401）・55次（444）で出土している。

○土鍋　53次１溝（353）・遺構外（400）で出土した。

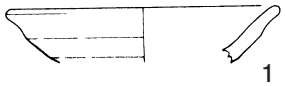
○甕　47次１溝他（254）・53次３溝（357）で出土した。いずれも14世紀代。

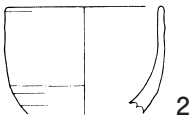
○片口鉢　11次１溝（183）・55次４溝（424・425）で出土した。

【その他】

鞴の羽口が５次（469）・46次（470）で、鳥形土製品が46次５壙（214）で出土した。

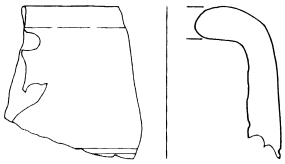
2溝

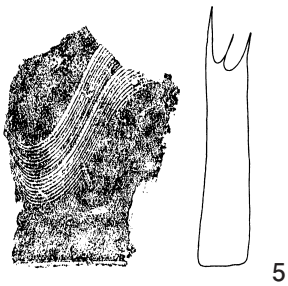




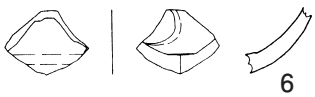
3溝

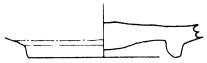
5溝

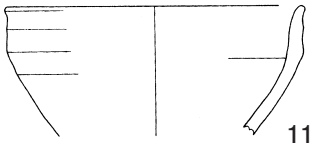


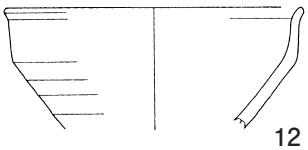


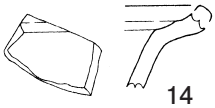
遺構外

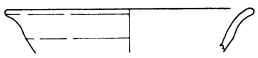


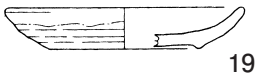


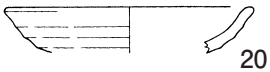


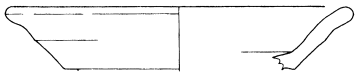


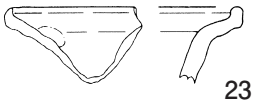


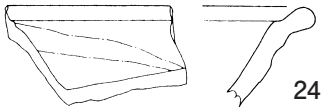








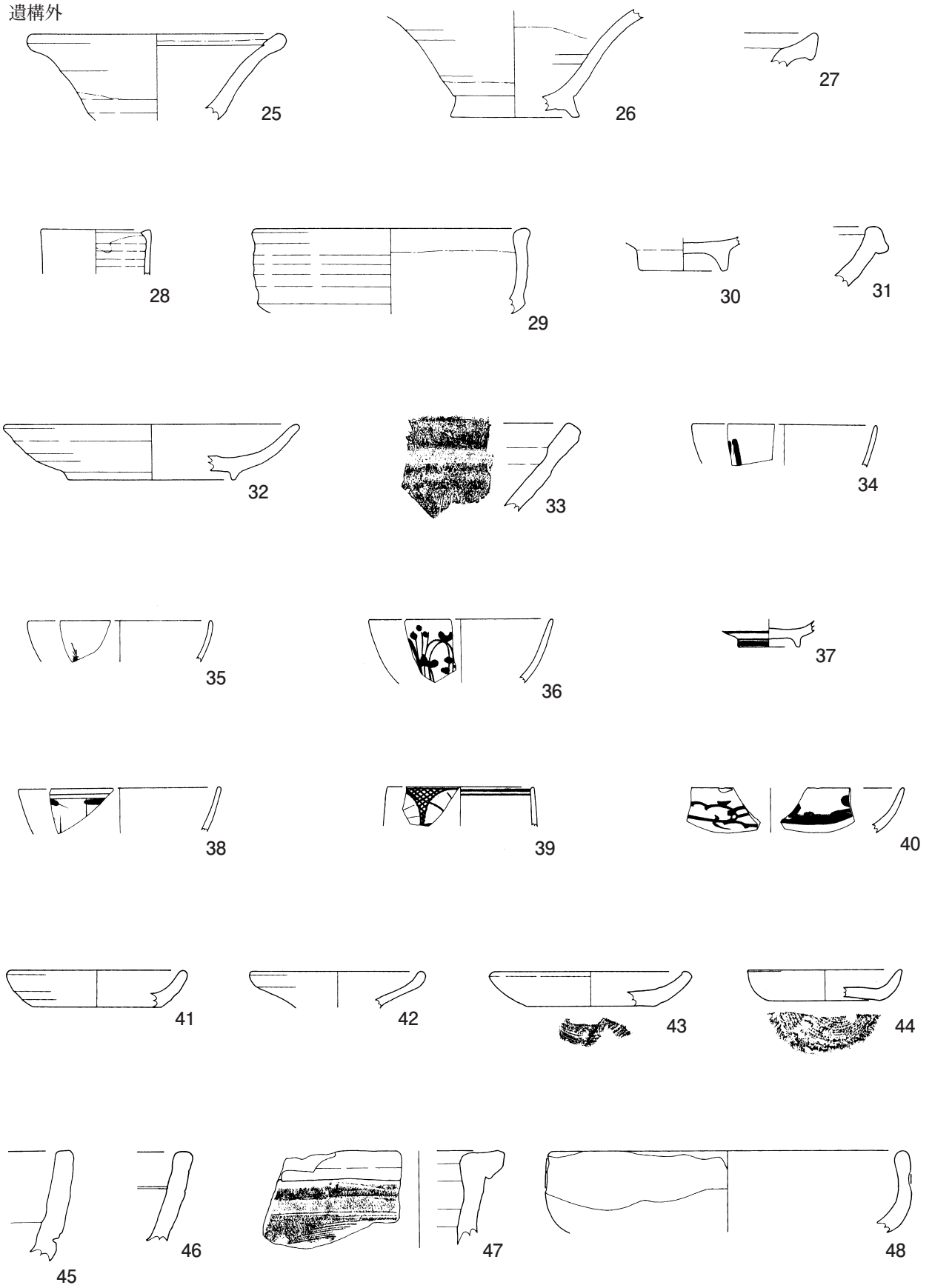




0　1/3　10cm

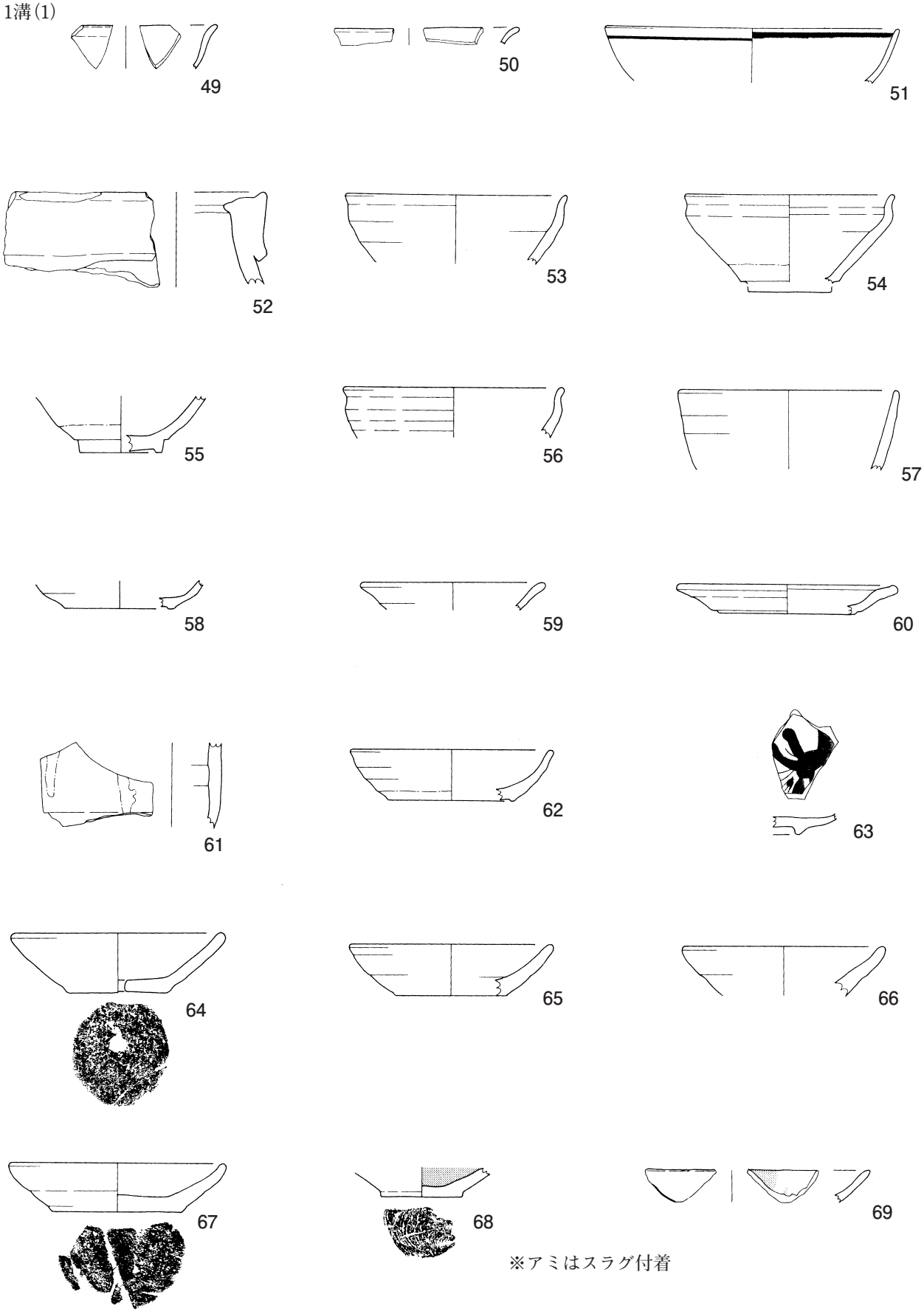
第40図　土器類１（第４次１）

遺構外



第41図　土器類２（第４次２）

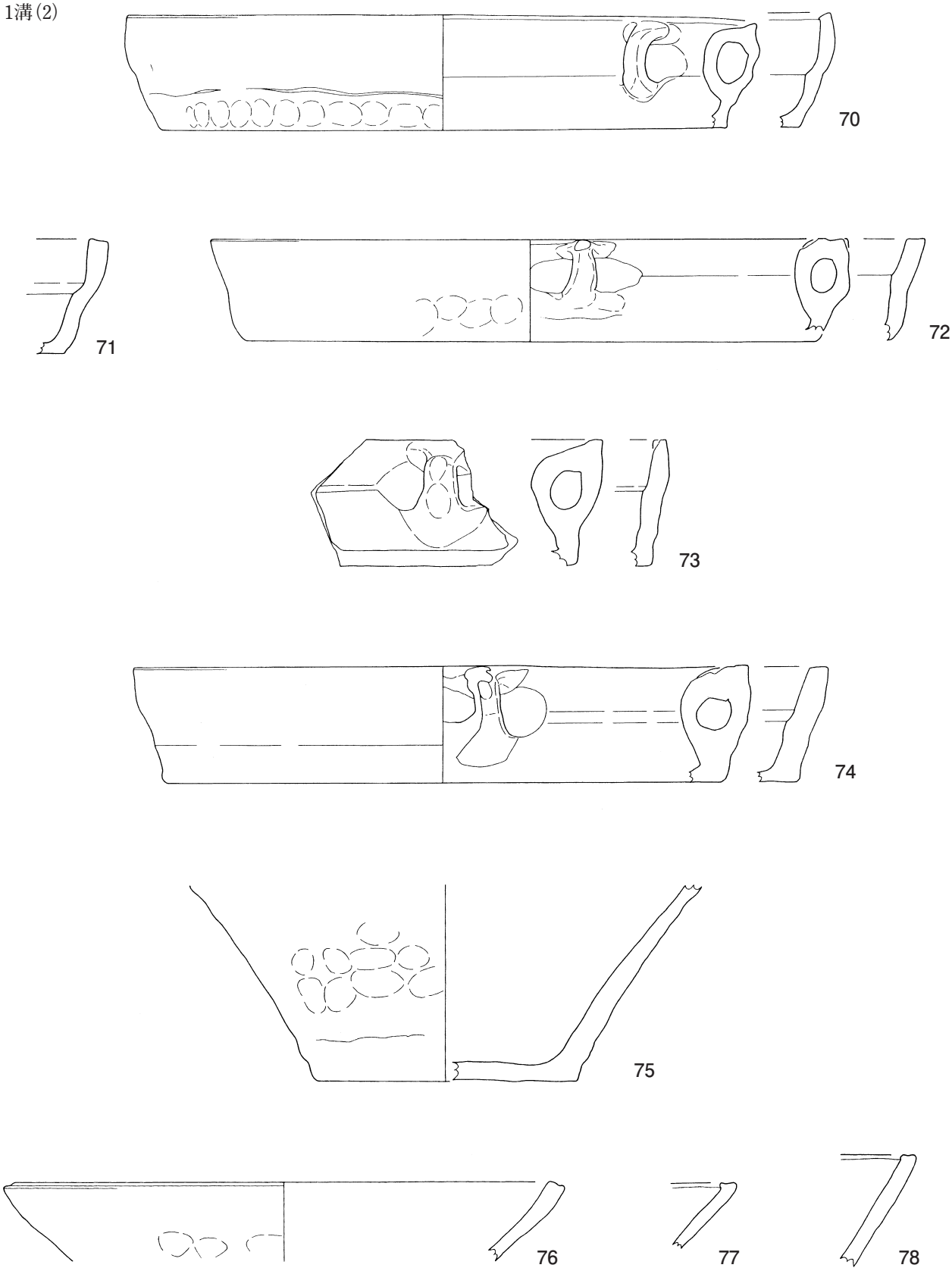
1溝(1)



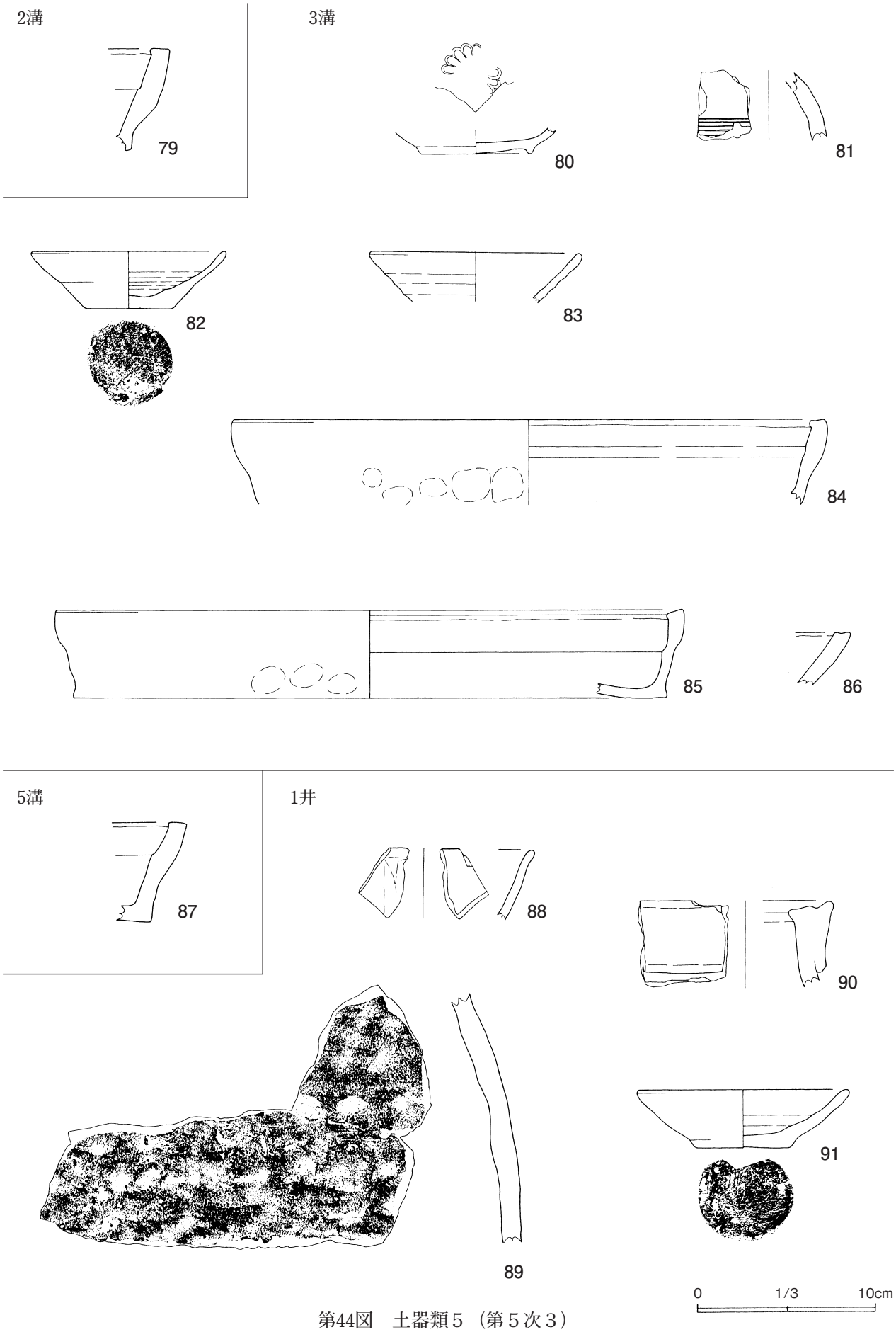
※アミはスラグ付着

第42図　土器類３（第５次１）

1溝(2)



第43図　土器類４（第５次２）



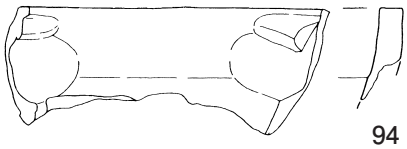
第44図　土器類５（第５次３）

2井

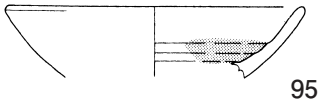
92

93

5井

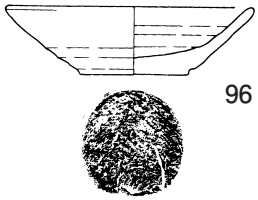

94

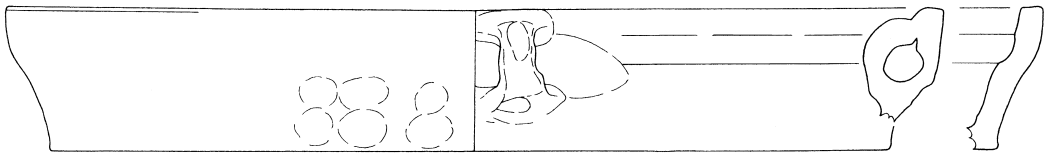
7井


95

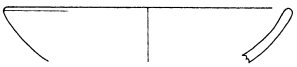
※アミは墨？付着

4壙

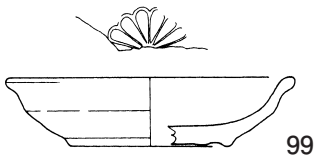

96

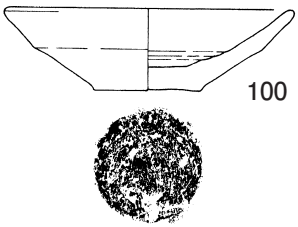

97

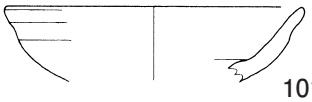
8壙

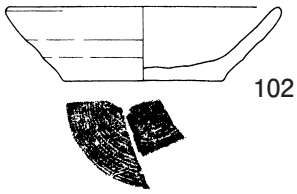

98

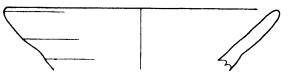
10壙


99


100


101

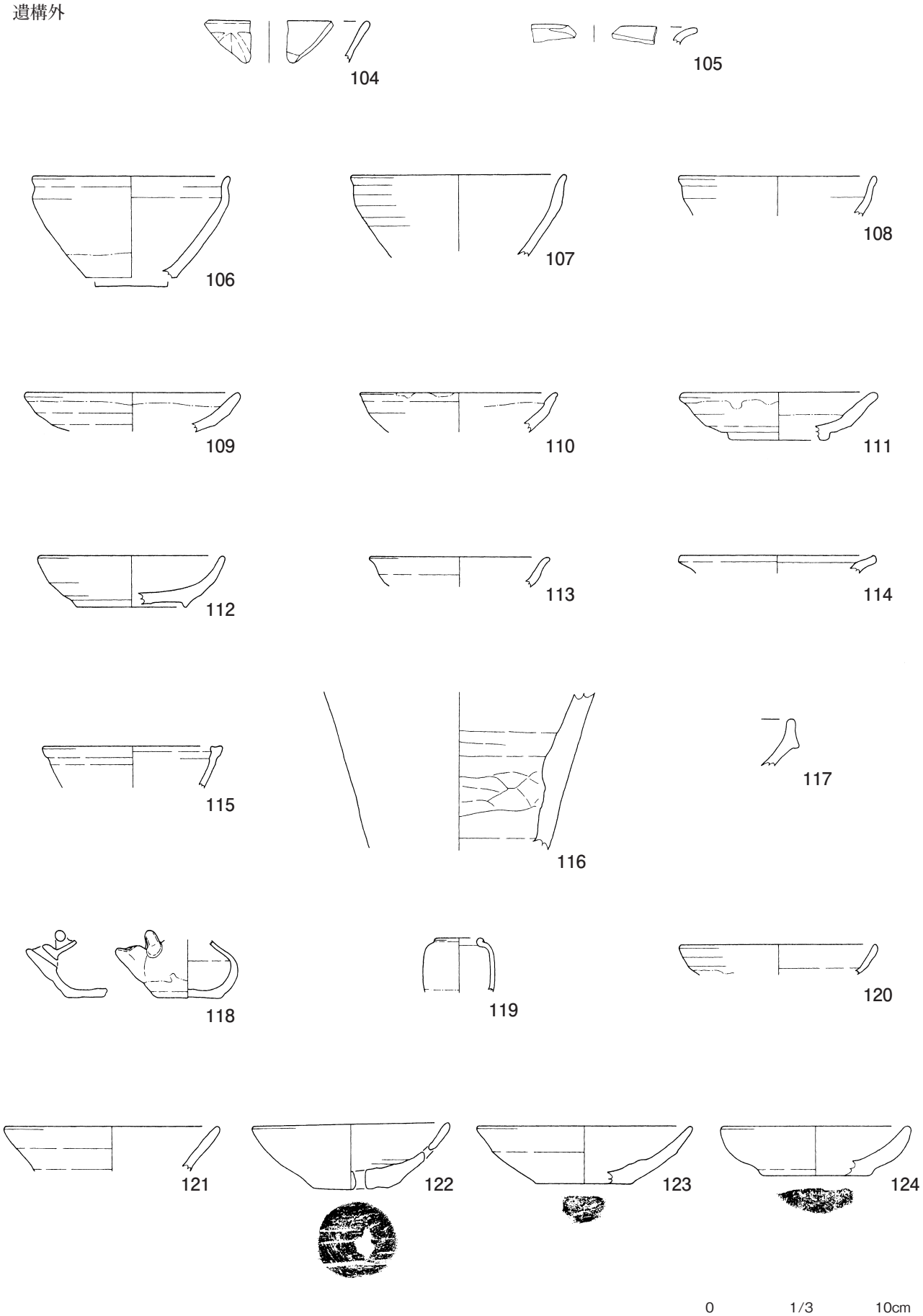

102


103

0　1/3　10cm

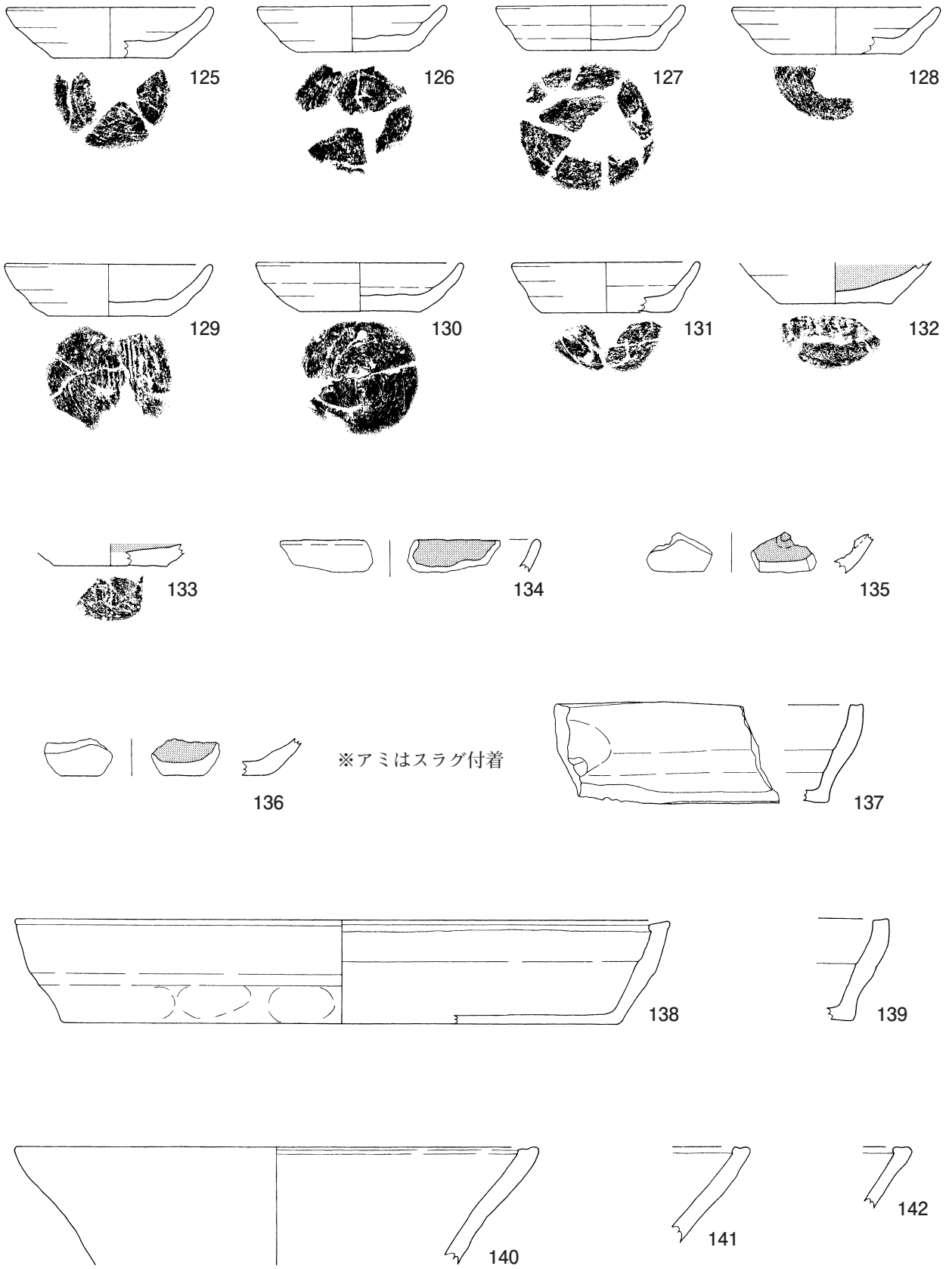
第45図　土器類６（第５次４）

遺構外



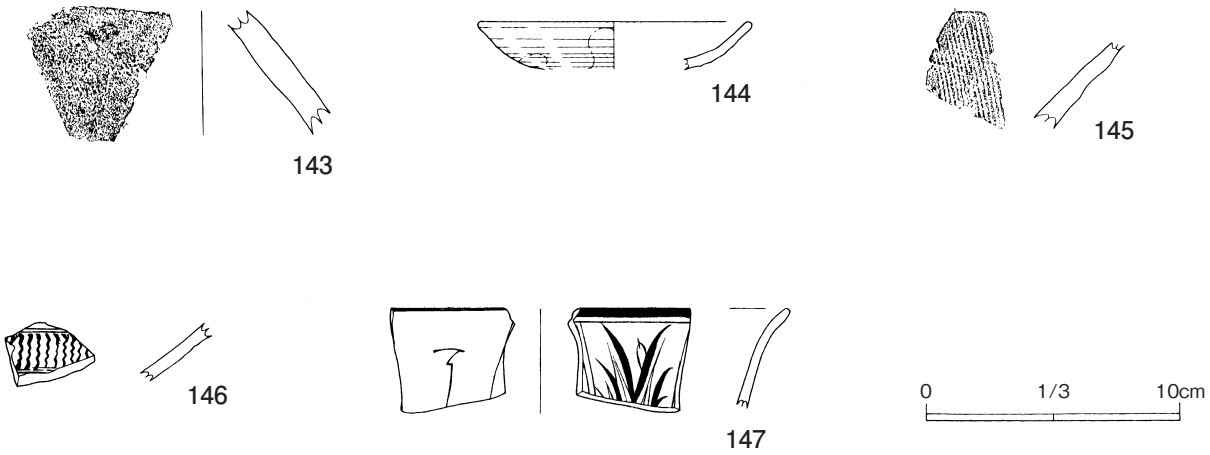
第46図　土器類７（第５次５）

遺構外



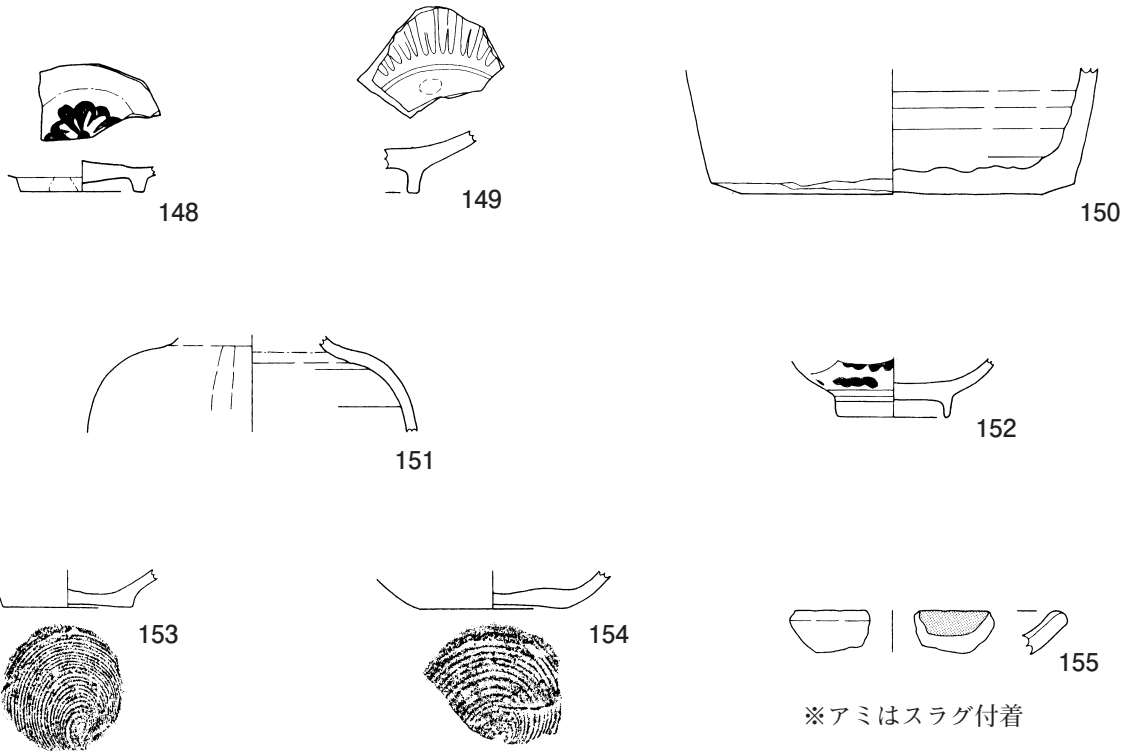
第47図　土器類８（第５次６）

遺構外

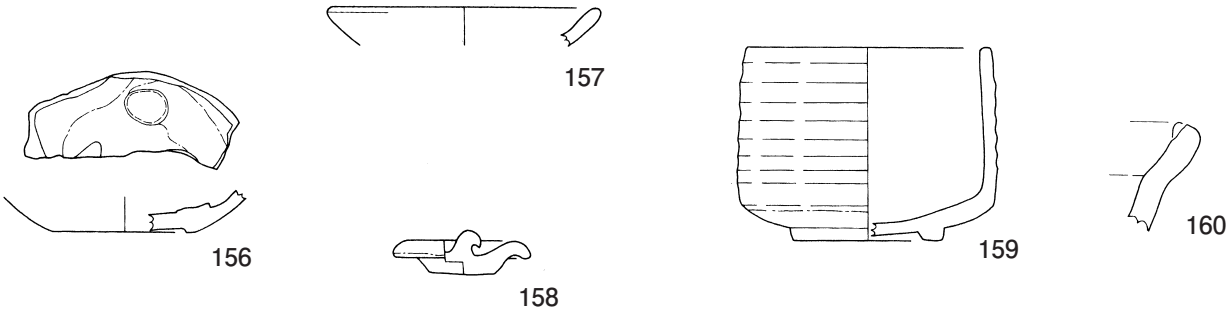


第48図　土器類９（第６次）

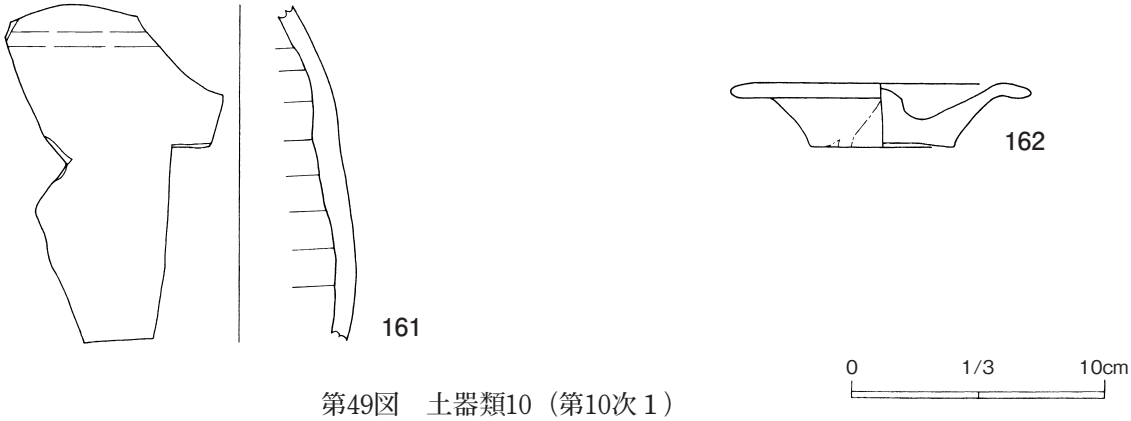
1溝



2溝

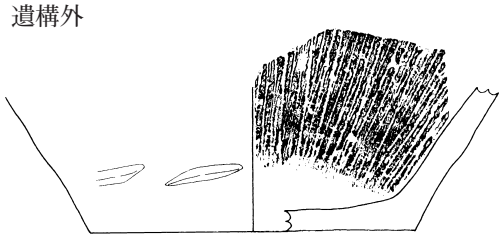


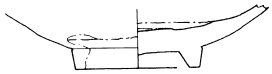
遺構外

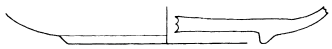


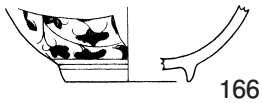
第49図　土器類10（第10次１）

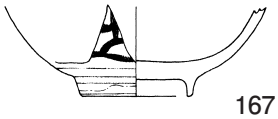
遺構外

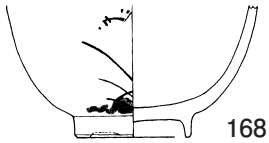

163

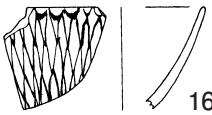

164

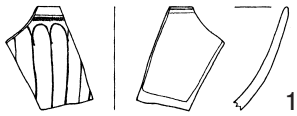

165


166


167

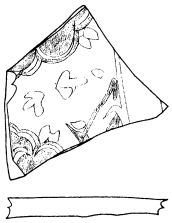

168

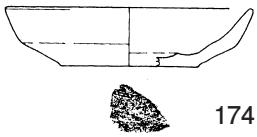

169

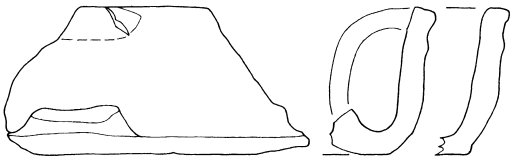

170

171

172


173


174


175

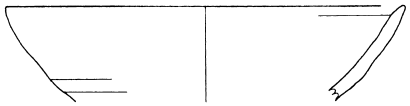
176

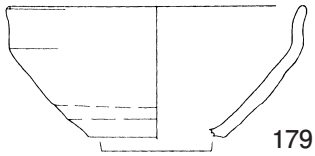
177

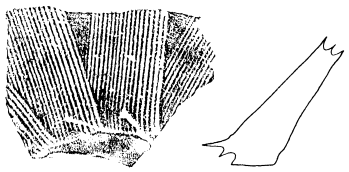
0　1/3　10cm

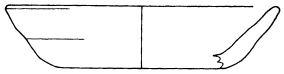
第50図　土器類11（第10次２）

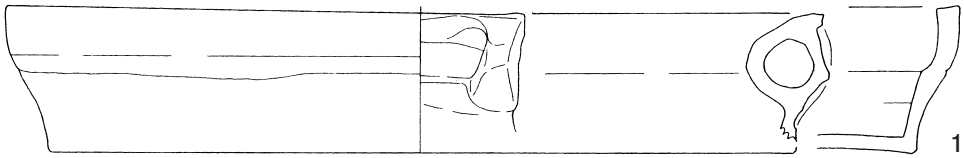
1溝

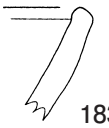

178


179

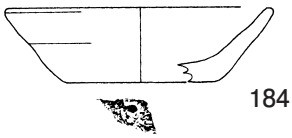

180


181


182


183

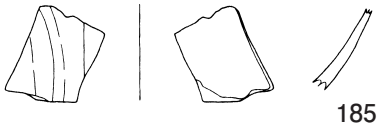
遺構外

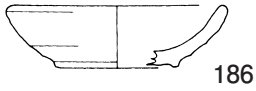

184

0　1/3　10cm

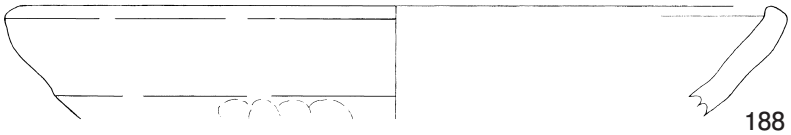
第51図　土器類12（第11次）

2溝

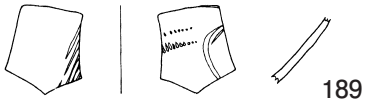




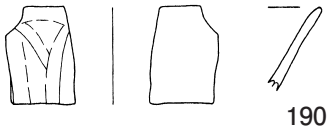
3溝

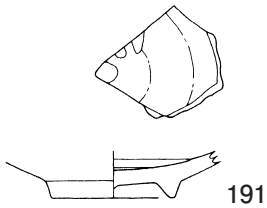


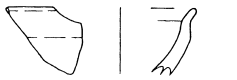
1壙

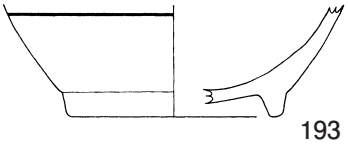


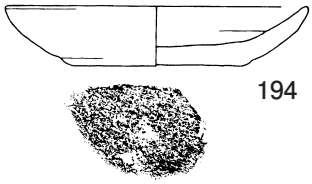
遺構外

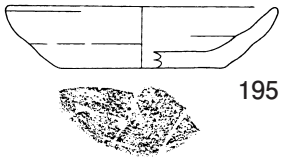








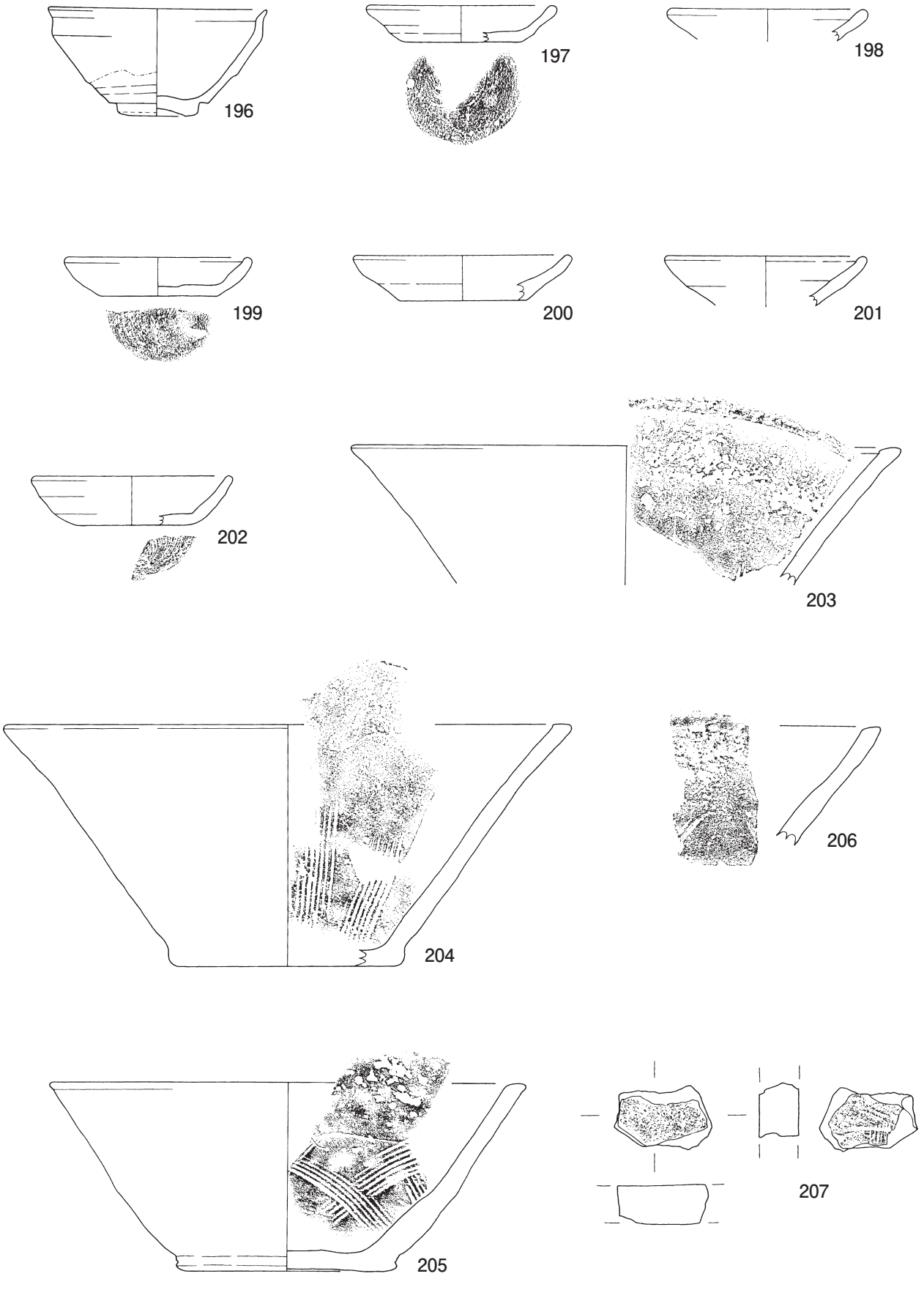




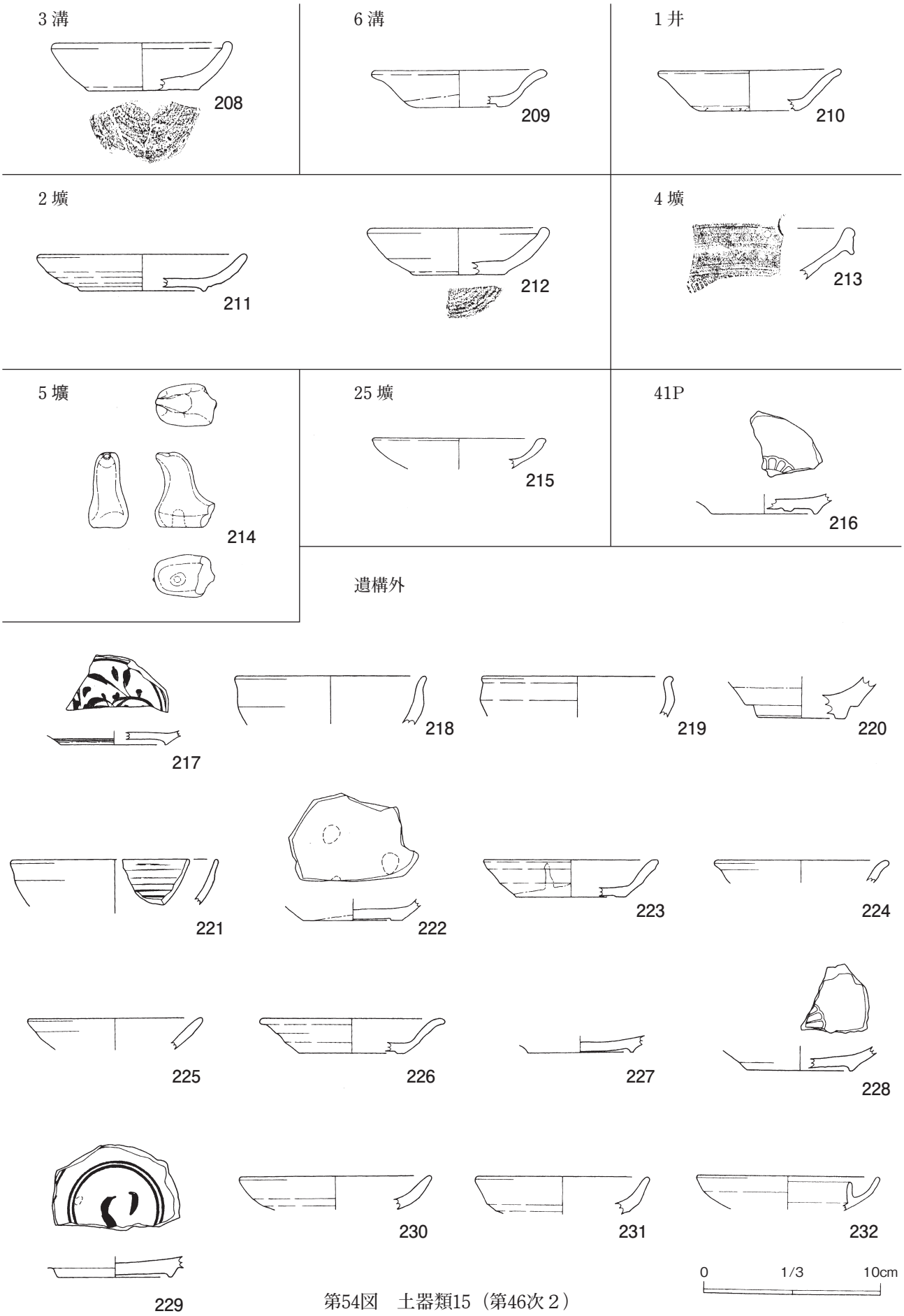
0　1/3　10cm

第52図　土器類13（第12次）

1溝

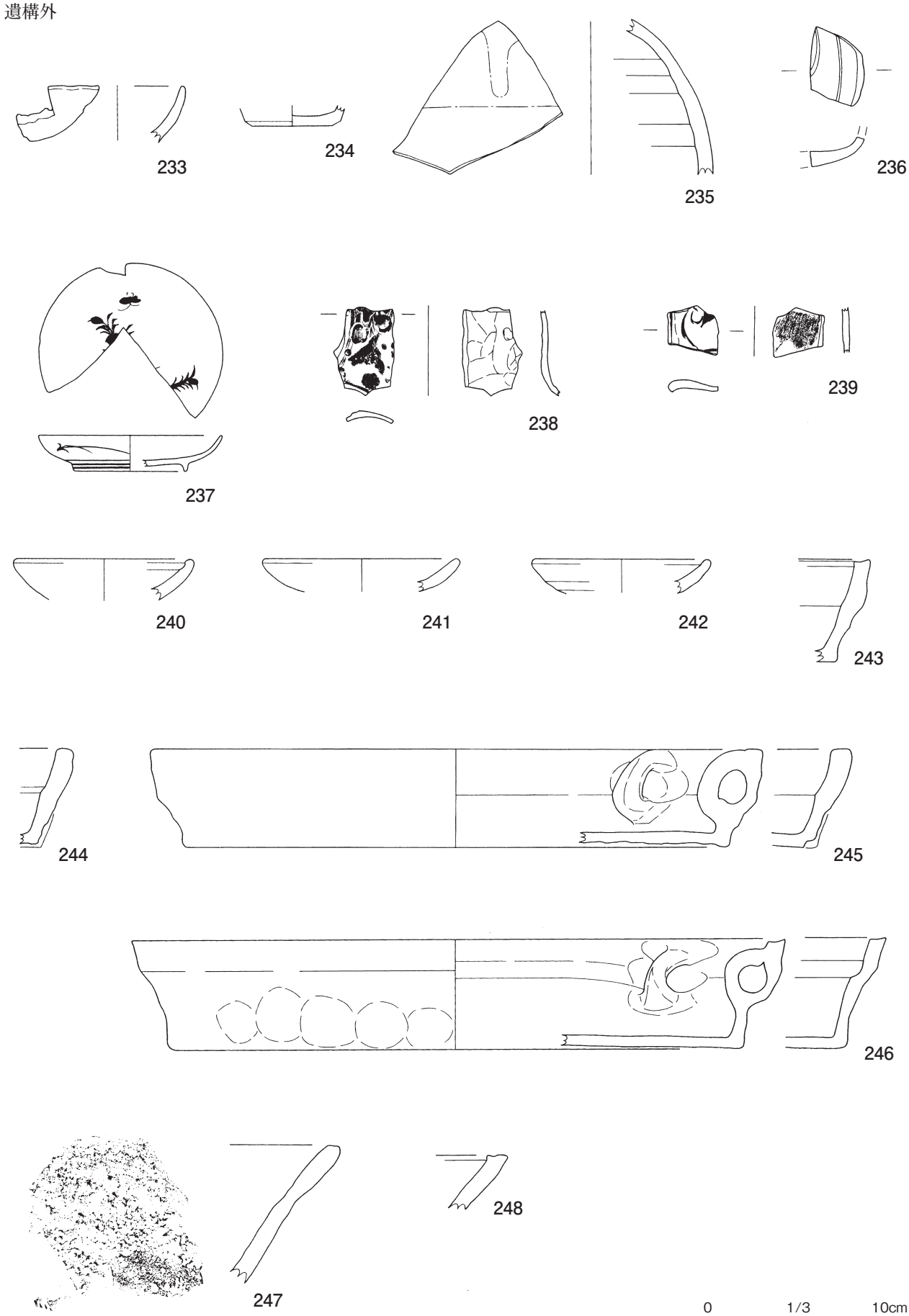


第53図　土器類14（第46次１）



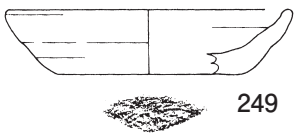
第54図　土器類15（第46次２）

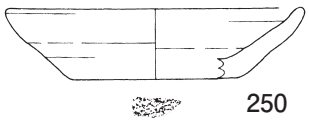
遺構外

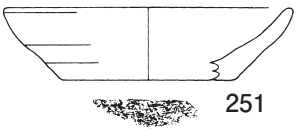


第55図　土器類16（第46次３）

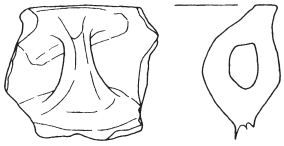
1溝

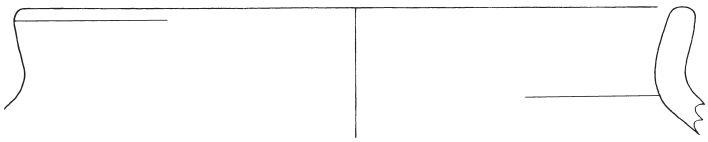

249


250

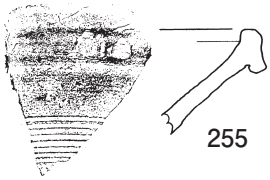

251

252

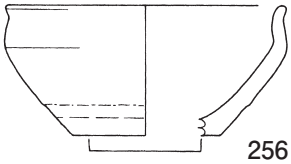

253


254

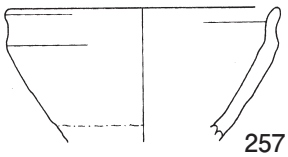
4溝

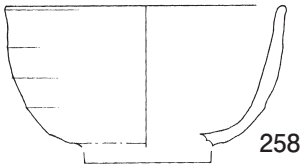

255

5溝

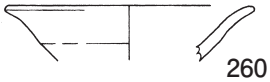

256

6溝（1）

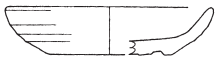

257

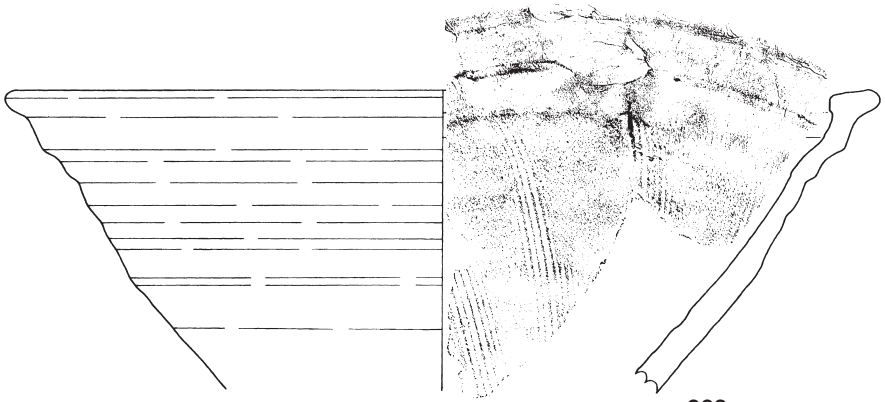

258

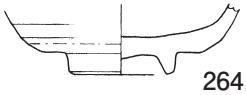
259


260

261


262

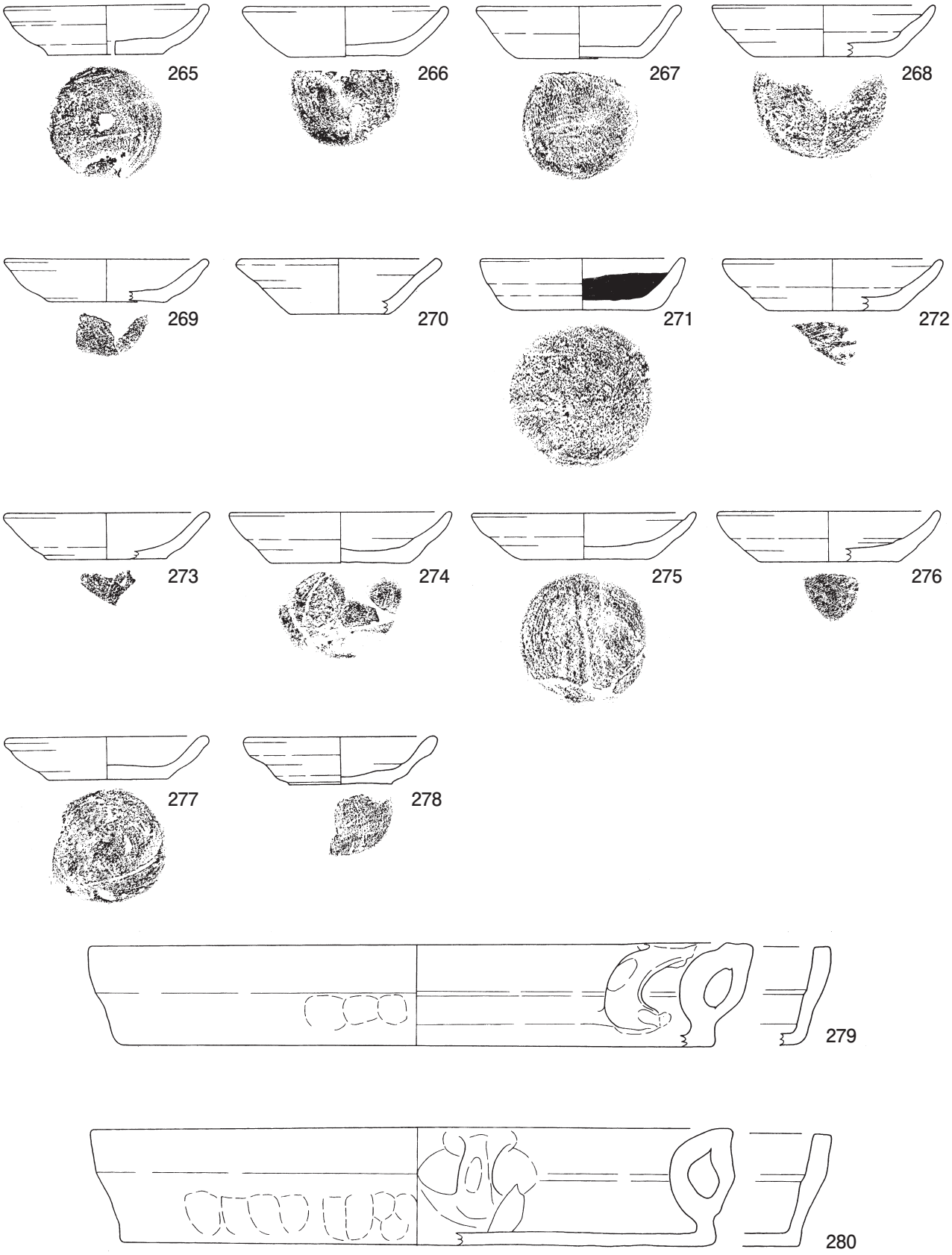

263


264

0　1/3　10cm

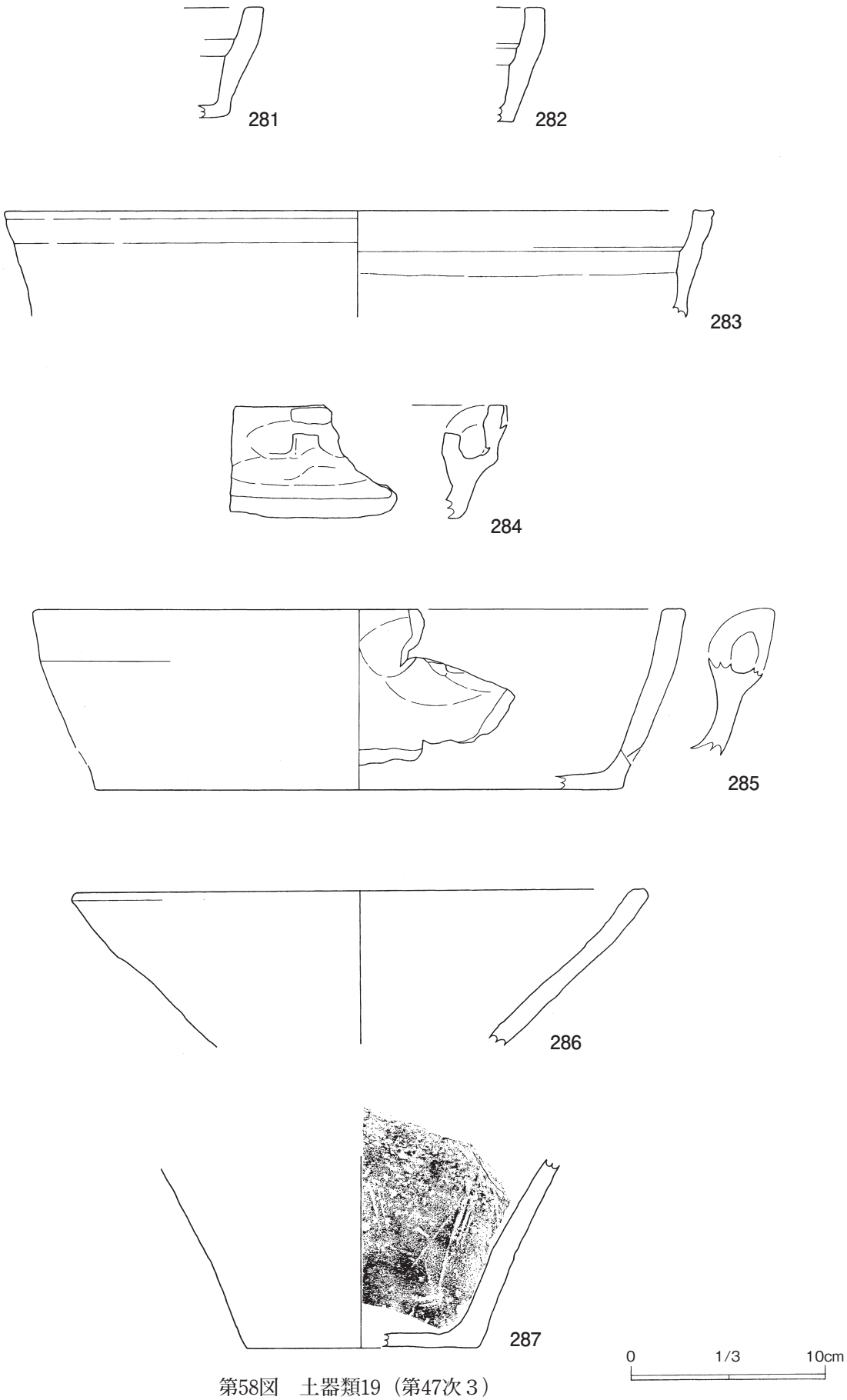
第56図　土器類17（第47次１）

6 溝（2）



第57図　土器類18（第47次２）

6 溝（3）

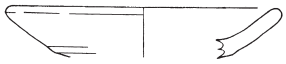


第58図　土器類19（第47次３）

7 溝

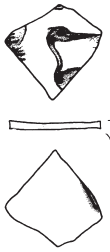
288

2T2 溝

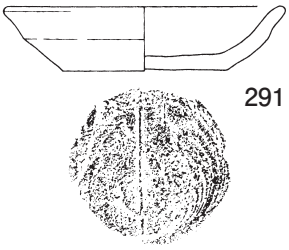


289

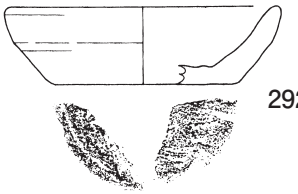
1 井



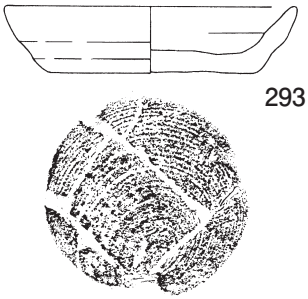
290



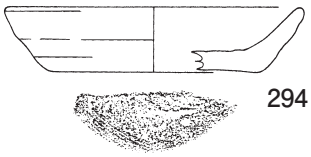
291



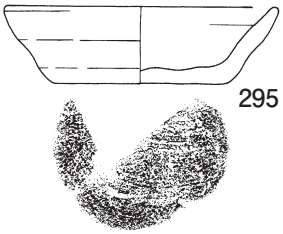
292



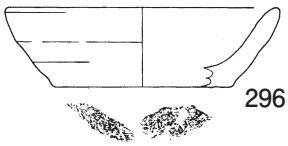
293



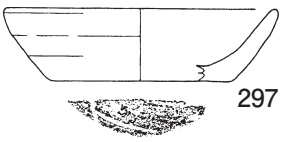
294



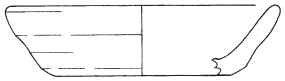
295



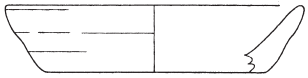
296



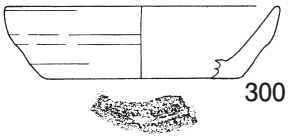
297



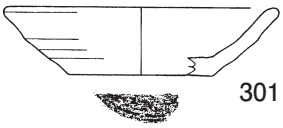
298



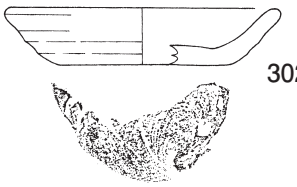
299



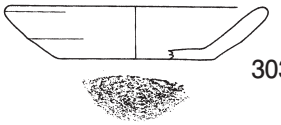
300



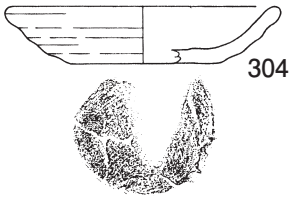
301



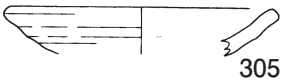
302



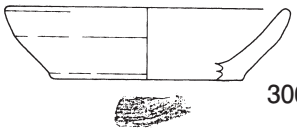
303



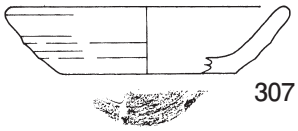
304



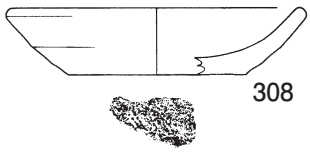
305



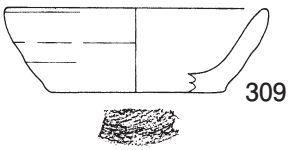
306



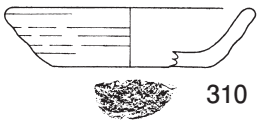
307



308

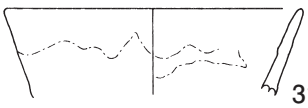


309



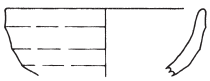
310

5P



311

9P

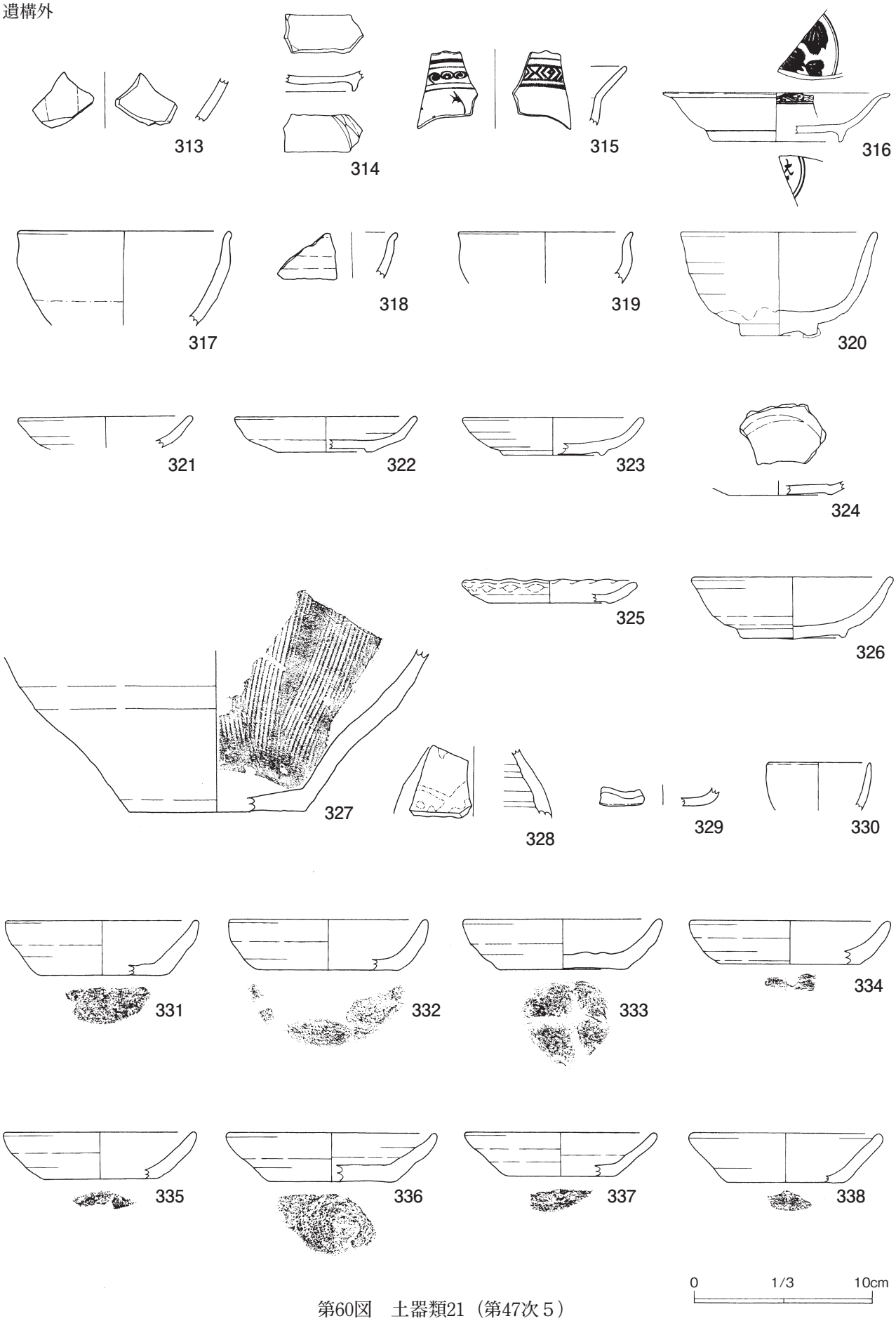


312

0　1/3　10cm

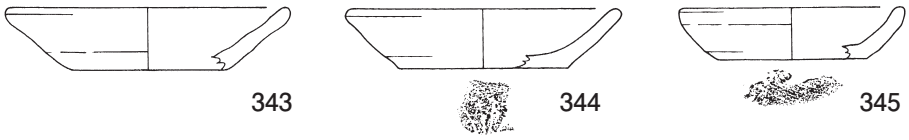
第59図　土器類20（第47次４）

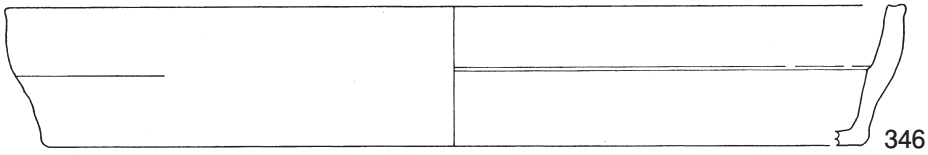
遺構外

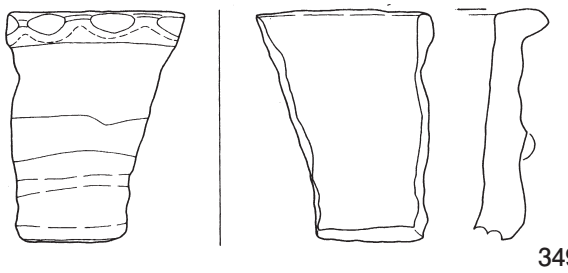


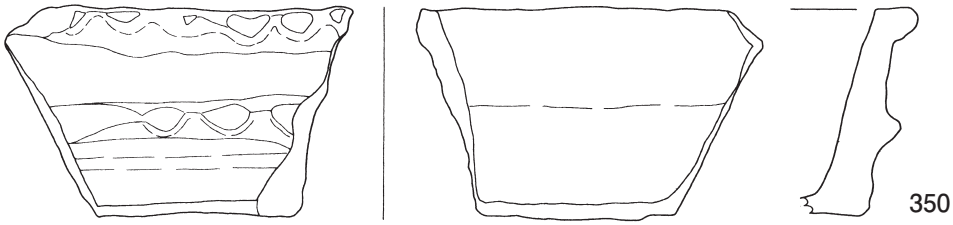
第60図　土器類21（第47次５）

遺構外









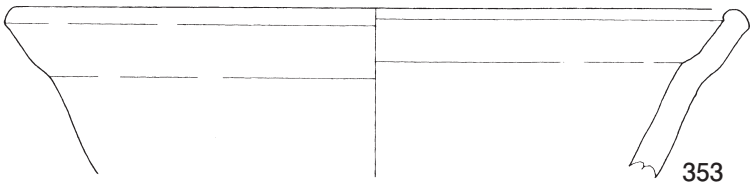
0　1/3　10cm

第61図　土器類22（第47次６）

1 溝

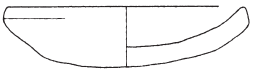
351

352

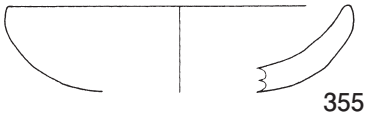


353

2 溝



354

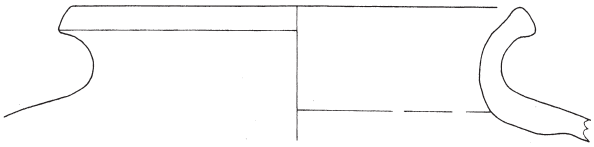


355

356

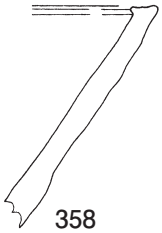
※アミはスラグ付着

3 溝



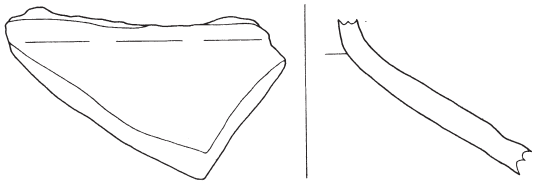
357

1P

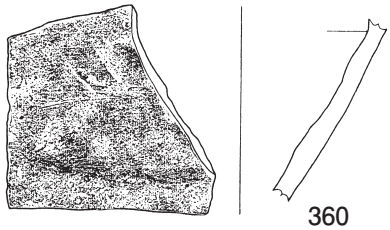


358

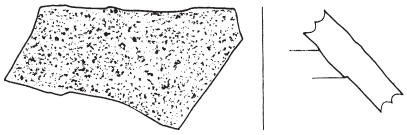
遺構外



359

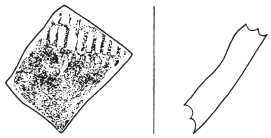


360



361

362

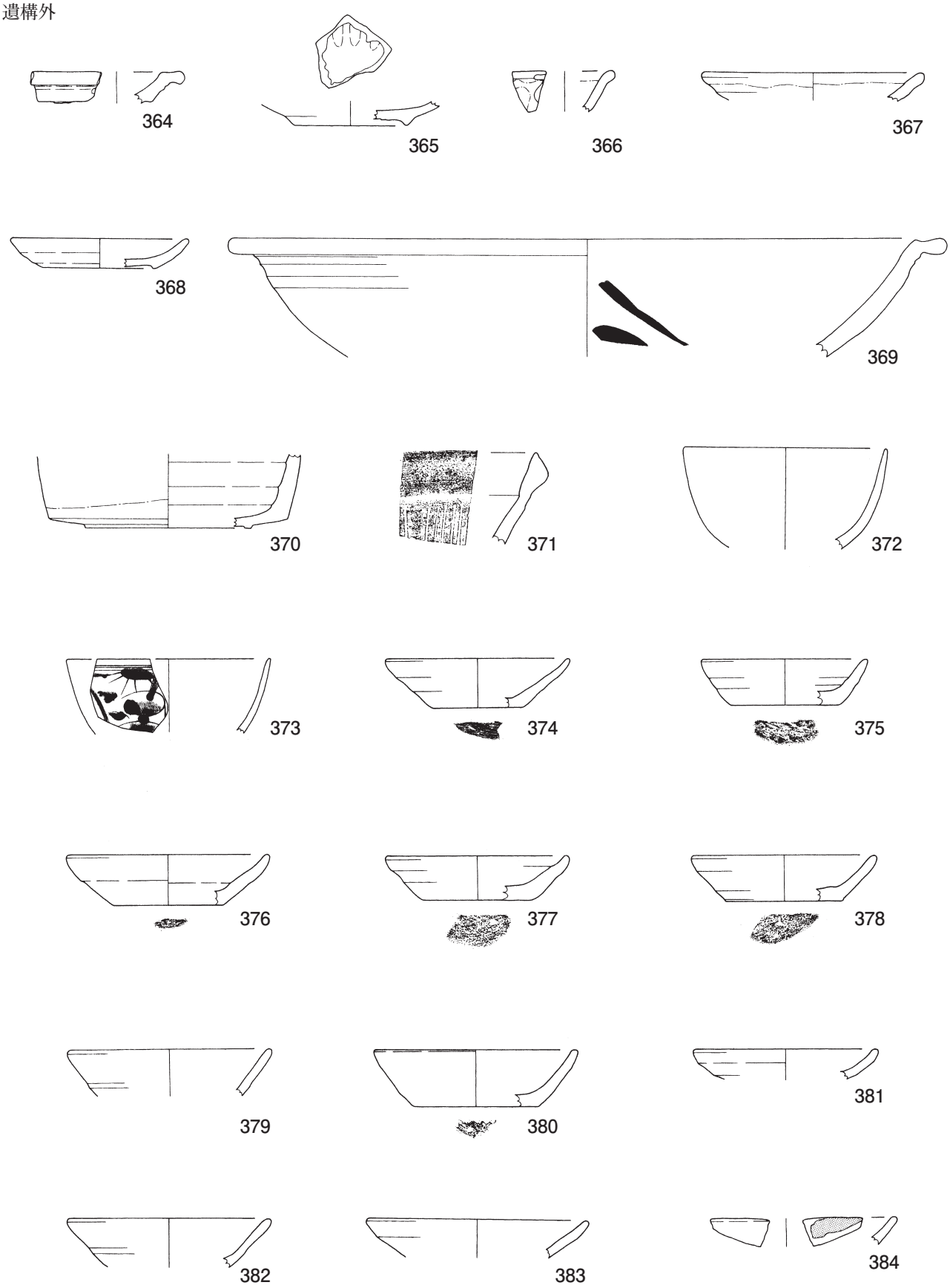


363

0　1/3　10cm

第62図　土器類23（第53次１）

遺構外

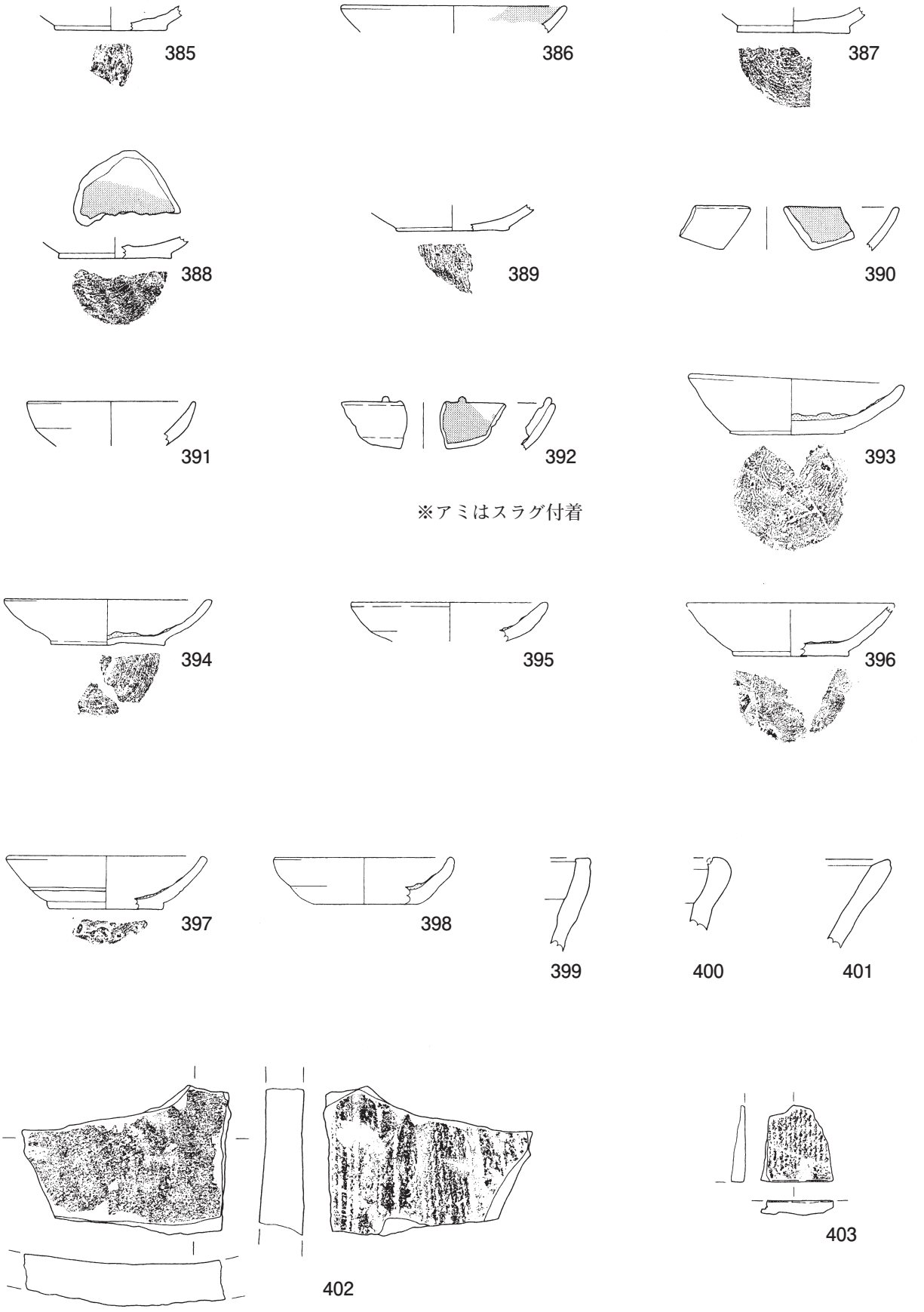


※アミはスラグ付着

0　1/3　10cm

第63図　土器類24（第53次２）

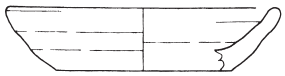
遺構外



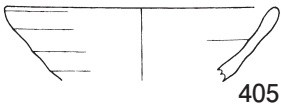
※アミはスラグ付着

第64図　土器類25（第53次３）

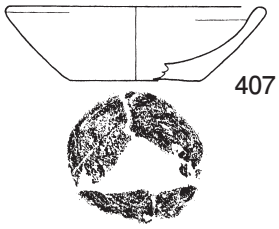
1P

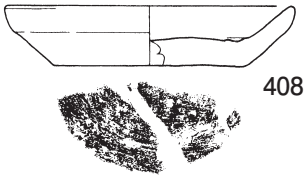

404

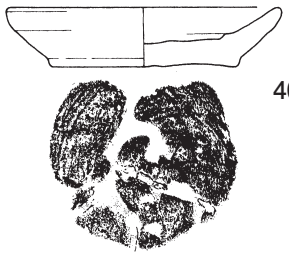
遺構外

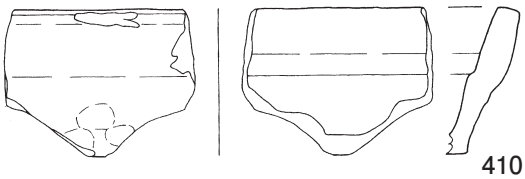

405

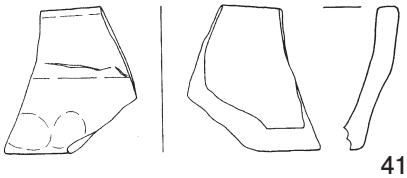
406

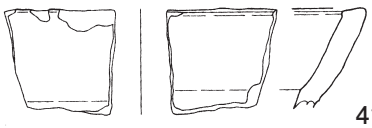

407


408

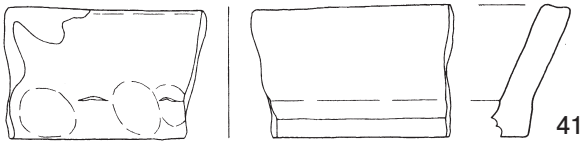

409


410


411


412

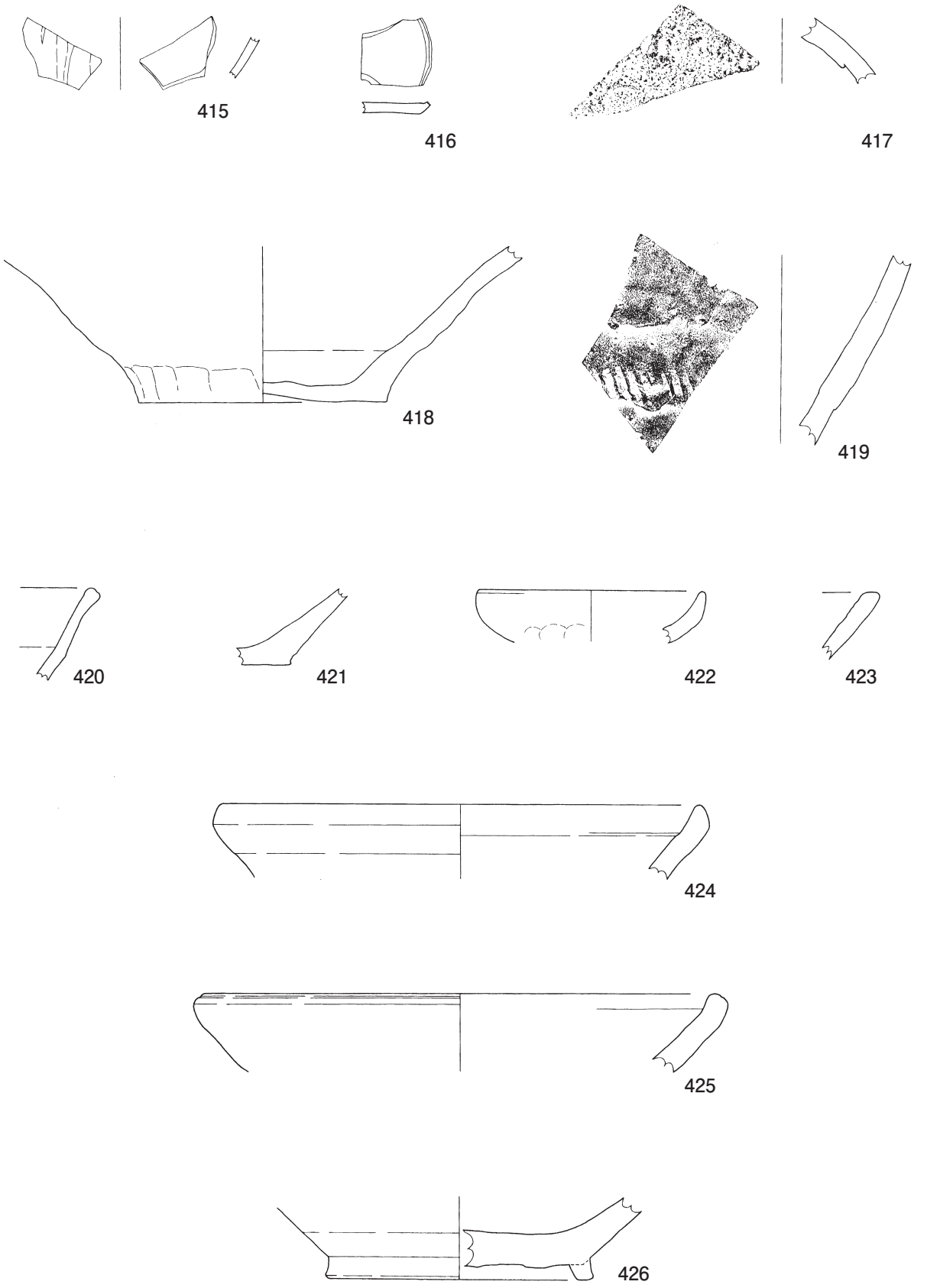
413


414

0　1/3　10cm

第65図　土器類26（第54次）

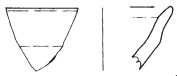
4 溝



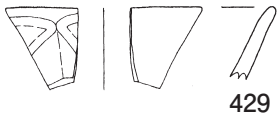
第66図　土器類27（第55次１）

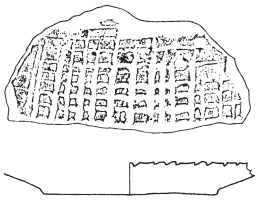
2壙

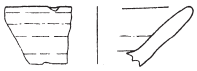
11P

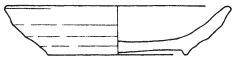


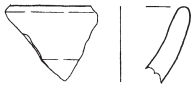
遺構外

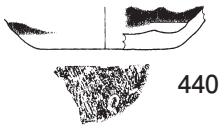


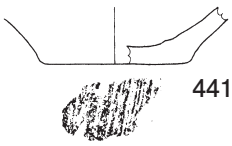


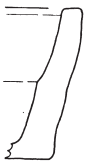


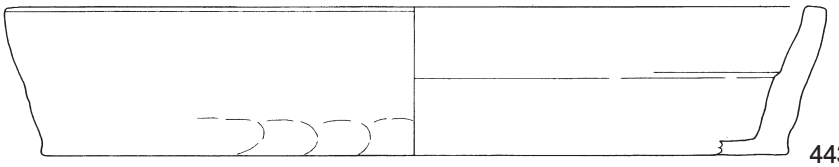


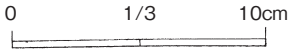








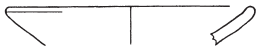




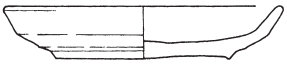
第67図　土器類28（第55次２）

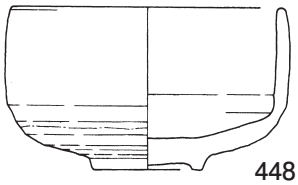
1･2溝

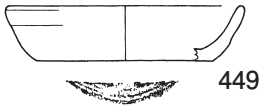
445


446

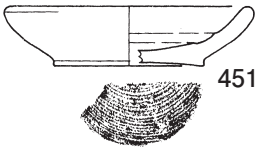
2溝

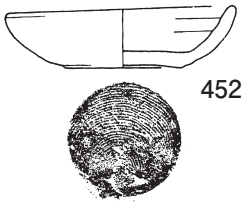

447

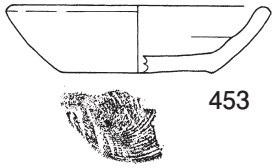

448

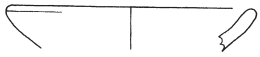

449

450

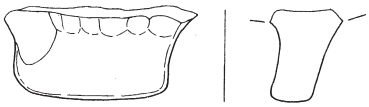

451


452

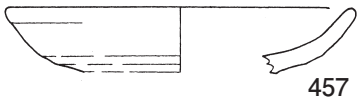

453

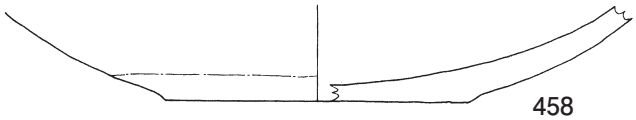

454

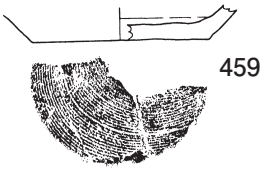
455

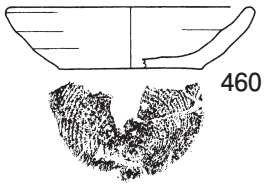

456

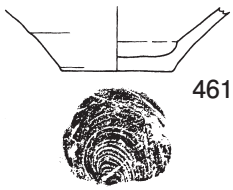
遺構外

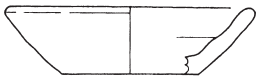

457


458


459

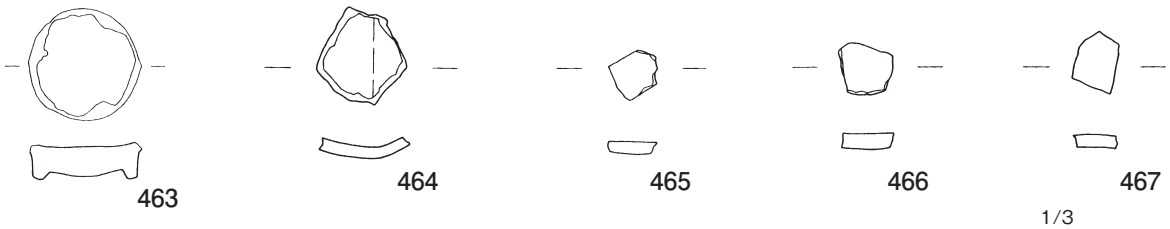

460

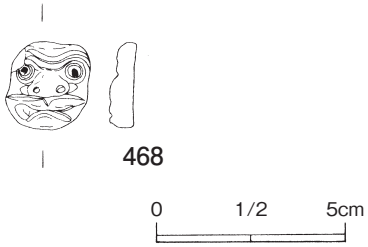

461

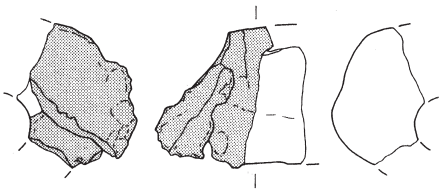

462

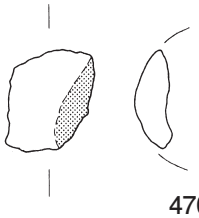
0　1/3　10cm

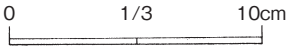
第68図　土器類29（第56次）











第69図　土器類30（土製品）

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
1	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第４次	２溝	＊11.0	－	－	大３		皿04	内外鉄釉	1/2以下
2	陶器・碗/小碗	肥前(唐津)	第４次	２溝、No.613	＊6.4	－	－		16c末～17c前	碗01	内外灰釉　腰部露胎	1/2以下
3	磁器・小杯/染付小杯	肥前	第４次	３溝	＊7.0	－	－		18c	伊07	草花文	1/2以下
4	土器・火鉢	在地	第４次	５溝	－	－	－		19c	火鉢01		1/2以下
5	土器・瓦	在地	第４次	５溝	－	－	厚さ2.1			瓦01	黒色付着物	1/2以下
6	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第４次	No.483	－	－	－	Ⅰ－２	13c～14c	青01	内外暗緑色の釉/片切彫りの花文	1/2以下
7	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第４次	No.608	－	－	－	Ⅰ－５	13c～14c	青02	内外暗緑色の釉/片切彫りの蓮弁	1/2以下
8	陶器・碗	漳州窯系中国？	第４次	１Ｐ	－	＊6.2	－			碗02	内外白色釉・高台周辺露胎/胎土陶質で黄白色	1/2以下
9	焼締陶器・片口鉢	常滑	第４次	No.527	－	－	－	５・６a		鉢03	内面自然釉	1/2以下
10	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第４次	No.389	＊11.0	－	－	登３		天01	内外鉄釉	1/2以下
11	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第４次	No.308・311	＊12.0	－	－	大３？		天02	内外鉄釉	1/2以下
12	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第４次	No.394、覆土	＊10.0	－	－	大２		天03	内外鉄釉	1/2以下
13	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第４次	No.676	＊10.0	－	－	大		天04	内外鉄釉	1/2以下
14	陶器・皿/折縁深皿	瀬戸美濃	第４次	No.572	－	－	－	古中Ⅱ		皿01	内外灰釉	1/2以下
15	陶器・皿/折縁小皿	瀬戸美濃	第４次	No.335	＊12.0	－	－	古中Ⅲ・Ⅳ(古)		皿02	口縁内外灰釉	1/2以下
16	陶器・皿/折縁小皿	瀬戸美濃	第４次	No.640	＊12.0	－	－	古中Ⅲ・Ⅳ(古)		皿03	口縁内外灰釉	1/2以下
17	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第４次	No.675	＊10.0	－	－	古後？		皿09	口縁内外鉄釉	1/2以下
18	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第４次	No.416	＊10.0	－	－	大２		皿05	内外鉄釉	1/2以下
19	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第４次	No.370	＊9.6	＊6.0	1.7	大４		皿06	内面・口縁外面灰釉	1/2以下
20	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第４次	No.297	＊10.0	－	－	登３		皿07	内外灰釉	1/2以下
21	陶器・皿/輪禿皿ヵ反皿	瀬戸美濃	第４次	No.492	＊14.0	－	－	登３～４		皿11	内外灰釉	1/2以下
22	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	第４次	No.336	＊13.0	－	－		17c	皿10	内外灰釉	1/2以下
23	陶器・鉢	瀬戸美濃	第４次	No.392	＊9.6	＊6.0	1.7	大４		鉢07	内外灰釉(黄瀬戸釉ヵ)・内面緑釉流し	1/2以下
24	陶器・鉢	瀬戸美濃	第４次	No.648	－	－	－	登		鉢09	内外灰釉・内面緑釉流し掛け	1/2以下
25	陶器・鉢/煙硝擂	瀬戸美濃	第４次	No.434	＊14.0	－	－	登３・４	17c後	鉢01	口縁内面・外面鉄釉　腰部露胎	1/2以下
26	陶器・鉢/煙硝擂	瀬戸美濃	第４次	No.486・557・691	－	＊7.0	－		17c末～18c初	鉢08	体部内面・外面鉄釉	1/2以下
27	陶器・擂鉢	瀬戸美濃	第４次	No.583	－	－	－		17c後	鉢02	内外鉄釉	1/2以下
28	陶器・香炉	瀬戸美濃	第４次	No.177	＊6.0	－	－		18～19c	香01	外面灰釉	1/2以下
29	陶器・香炉	瀬戸美濃	第４次	No.636	＊15.0	－	－	登４		香02	口縁内面・外面鉄釉　腰部露胎	1/2以下
30	陶器・碗/京焼風陶器碗	肥前	第４次	No.323	－	＊5.0	－		17c	碗03	内外透明釉/高台端部砂付着	1/2以下
31	陶器・擂鉢	志戸呂	第４次	No.444	－	－	－	大４前相当		鉢04	内外錆釉	1/2以下
32	陶器・皿/中皿	初山	第４次	No.687	＊16.0	＊9.0	3.0	大３後相当		皿08	内外鉄釉	1/2以下
33	焼締陶器・擂鉢	丹波	第４次	No.657	－	－	－		17c後	鉢05	外面鉄釉？/櫛目４本	1/2以下
34	磁器・碗/染付碗	肥前	第４次	No.168	＊10.0	－	－		18c前	伊01	文様	1/2以下
35	磁器・碗/染付碗	肥前	第４次	No.170	＊10.0	－	－		18c前	伊02	草花文	1/2以下
36	磁器・碗/染付碗	肥前	第４次	No.397	＊10.0	－	－		18c前	伊03	草花文	1/2以下
37	磁器・碗/染付碗	肥前	第４次	No.489	－	3.4	－			伊08	高台端部釉剥ぎ・砂付着	1/2以下
38	磁器・碗/染付碗	肥前	第４次	No.584	＊11.0	－	－		17c後	伊04	文様	1/2以下
39	磁器・碗/染付筒形碗	肥前	第４次	No.320	＊8.0	－	－		18c末～19c初	伊05	菊花文	1/2以下
40	磁器・皿/染付皿	肥前	第４次	No.307	－	－	－		18c前	伊06	草花文・唐草文	1/2以下
41	土器・かわらけ	在地	第４次	No.433	＊9.8	＊7.0	2.0			K01		1/2以下
42	土器・かわらけ	在地	第４次	No.578	＊9.5	－	－	騎西城Ⅳ期		K02		1/2以下
43	土器・かわらけ	在地	第４次	No.615	＊11.0	＊7.0	1.9		18c～19c	K03		1/2以下
44	土器・かわらけ	在地	第４次	No.638	＊8.4	＊6.0	1.7		18c～19c	K04		1/2以下
45	土器・ほうろく	在地	第４次	No.507	－	－	－			H01		1/2以下
46	土器・ほうろく	在地	第４次	No.693	－	－	－			H02	外面スス付着	1/2以下
47	土器・火鉢	在地	第４次	No.305	－	－	－			火鉢02		1/2以下
48	土器・鉢	在地	第４次	No.677	＊20.0	－	－			鉢06		1/2以下
49	磁器・皿/白磁皿	中国	第５次	１溝	－	－	－	Ｃ－１	15c後～16c前	白01	内外白色の釉	1/2以下

第13表　土器類一覧表１

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
50	磁器・皿/白磁皿	中国	第５次	１溝	－	－	－	C－１	15c後～16c前	白02	内外白色の釉	1/2以下
51	磁器・皿/染付皿	中国	第５次	１溝No.175	＊16.0	－	－	E	16c中～後	染01		1/2以下
52	焼締陶器・甕	常滑	第５次	１溝No.192	－	－	－	12型式	1580～1600	袋04		1/2以下
53	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第５次	１溝No.29	＊12.0	－	－	古後Ⅳ(新)		天01	内外鉄釉	1/2以下
54	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第５次	１溝No.131	＊11.4	－	－	大２		天02	内外鉄釉・腰部錆釉	1/2以下
55	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第５次	１溝No.133	－	＊4.5	－	大１		天03	内外鉄釉・腰部錆釉/内面擦痕	1/2以下
56	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第５次	１溝(No.146、一括)	＊12.0	－	－	大４		天04	内外鉄釉	1/2以下
57	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	第５次	１溝No.126	＊12.0	－	－	大３・４		碗01	内外灰釉	1/2以下
58	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第５次	１溝No.109	－	＊6.0	－	大３		皿01	内外鉄釉	1/2以下
59	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第５次	１溝	＊10.0	－	－	大３		皿02	内外鉄釉	1/2以下
60	陶器・皿/折縁皿	瀬戸美濃	第５次	１溝	＊12.0	＊7.5	1.6	大４		皿03	内外灰釉	1/2以下
61	陶器・徳利	志戸呂	第５次	１溝(１T)	－	－	－		16c後～17c前	袋01	外面一部鉄釉	1/2以下
62	陶器・皿/丸皿	志戸呂	第５次	１溝	＊11.0	＊6.8	2.8	大３相当		皿04	内外鉄釉	1/2以下
63	磁器・皿/染付皿	肥前	第５次	１溝No.11	－	－	－		17c前	伊01	草花文	1/2以下
64	土器・かわらけ	在地	第５次	１溝(No.100・199・287、一括)	11.6	5.5	3.3	騎西城Ⅰ・Ⅱ期		K01	底面穿孔(焼成後)	1/2以上
65	土器・かわらけ	在地	第５次	１溝No.195	＊11.0	＊6.0	2.8	騎西城Ⅱ期		K02		1/2以下
66	土器・かわらけ	在地	第５次	１溝No.256	＊11.0	－	－	騎西城Ⅱ期		K03		1/2以下
67	土器・かわらけ	在地	第５次	１溝No.161	＊11.8	7.0	2.7	騎西城Ⅱ期		K07		1/2以下
68	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第５次	１溝No.７	－	4.4	－			鋳01	スラグ付着	1/2以下
69	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第５次	１溝	－	－	－	騎西城Ⅰ期		鋳02	スラグ付着	1/2以下
70	土器・ほうろく	在地	第５次	１溝(No.110・112～115)	＊34.0	＊30.0	5.5～6.1			H01	内外スス付着	1/2以下
71	土器・ほうろく	在地	第５次	１溝No.121	－	－	6.0			H02		1/2以下
72	土器・ほうろく	在地	第５次	１溝(No.135・196)	＊34.0	＊30.2	5.4			H03	外面スス付着	1/2以下
73	土器・ほうろく	在地	第５次	１溝No.155	－	－	6.7			H04		1/2以下
74	土器・ほうろく	在地	第５次	１溝No.182	＊33.0	＊30.0	6.1			H05		1/2以下
75	土器・擂鉢	在地	第５次	１溝２T、11壙	－	＊14.0	－			鉢02	櫛目４本/外面スス付着	1/2以下
76	土器・擂鉢	在地	第５次	１溝(No.102、一括)	＊30.0	－	－			鉢03		1/2以下
77	土器・擂鉢	在地	第５次	１溝No.98	－	－	－			鉢04		1/2以下
78	土器・擂鉢	在地	第５次	１溝２T	－	－	－			鉢05		1/2以下
79	土器・ほうろく	在地	第５次	２溝No.296	－	－	5.7			H07	外面スス付着	1/2以下
80	陶器・皿/端反皿又は丸皿	瀬戸美濃	第５次	３溝No.279	－	＊6.4	－	大１・２		皿05	内外灰釉/印花文/高台内輪トチン	1/2以下
81	陶器・壺/四耳壺	瀬戸美濃	第５次	３溝	－	－	－	古中		袋02	外面灰釉	1/2以下
82	土器・かわらけ	在地	第５次	３溝No.222	11.0	5.0	3.3	騎西城Ⅰ期		K04	底部内面指頭ナデ	3/4以上
83	土器・かわらけ	在地	第５次	３溝No.278	＊12.0	－	－	騎西城Ⅰ期ヵ		K05		1/2以下
84	土器・ほうろく	在地	第５次	３溝No.264	＊34.0	－	－			H08	外面スス付着	1/2以下
85	土器・ほうろく	在地	第５次	３溝(No.265・281・283・284)	＊36.0	＊34.0	5.0			H09		1/2以下
86	土器・擂鉢	在地	第５次	３溝No.230	－	－	－			鉢06		1/2以下
87	土器・ほうろく	在地	第５次	５溝	－	－	5.6			H10	外面スス付着	1/2以下
88	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第５次	１井No.210	－	－	－	Ⅰ－５	13c～14c	青01	内外黄緑色の釉/片切彫りの蓮弁	1/2以下
89	焼締陶器・甕	常滑	第５次	１井(No.209・212・262、一括)	－	－	－			袋06	外面自然釉	1/2以下
90	焼締陶器・甕	常滑	第５次	１井No.220	－	－	－	12型式	1580～1600	袋05		1/2以下
91	土器・かわらけ	在地	第５次	１井No.216	12.0	5.4	3.3	騎西城Ⅰ期		K06	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/底部外面スス付着	1/2以上
92	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第５次	２井	－	－	－	Ⅰ－５	13c～14c	青02	内外淡緑色の釉/片切彫りの蓮弁	1/2以下
93	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第５次	２井	＊11.0	－	－	大３		天05	内外鉄釉	1/2以下
94	土器・ほうろく	在地	第５次	５井No.261	－	－	－			H11		1/2以下

第14表　土器類一覧表２

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
95	土器・かわらけ	在地	第５次	７井	＊12.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K08	底部内面墨？付着	1/2以下
96	土器・かわらけ	在地	第５次	４壙No.３	10.0	4.4	2.8	騎西城Ⅰ期		K09	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	完形
97	土器・ほうろく	在地	第５次	4壙No.16、2溝No.238	38.0	＊34.0	5.7			H06	外面スス付着	1/2以下
98	陶器・皿/総織部皿	瀬戸美濃	第５次	８壙	＊11.6	－	－	登１		皿06	内外織部釉	1/2以下
99	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	第５次	10壙	＊11.6	＊6.5	2.8	大１		皿07	内外灰釉/印花文/高台内輪トチン	1/2以下
100	土器・かわらけ	在地	第５次	10壙	＊11.6	4.4	3.2	騎西城Ⅰ期		K10	底部内面指頭ナデ	3/4以上
101	土器・かわらけ	在地	第５次	10壙	＊12.0	－	－	騎西城Ⅰ期ヵ		K11		1/2以下
102	土器・かわらけ	在地	第５次	10壙	＊11.0	＊6.4	3.0	騎西城Ⅰ期		K12		1/2以下
103	土器・かわらけ	在地	第５次	10壙	＊11.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K13		1/2以下
104	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第５次	一括	－	－	－	Ⅰ－５	13c～14c	青03	内外淡緑色の釉/片切彫りの蓮弁	1/2以下
105	磁器・皿/青磁皿	龍泉窯系中国	第５次	一括	－	－	－			青04	内外淡緑色の釉	1/2以下
106	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第５次	一括	＊11.0	－	－	大３		天06	内外鉄釉　腰部錆釉	1/2以下
107	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第５次	一括	＊12.0	－	－	大３		天07	内外鉄釉	1/2以下
108	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第５次	一括	＊11.0	－	－	大３		天08	内外鉄釉	1/2以下
109	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第５次	一括	＊12.0	－	－	古後Ⅳ(古)		皿08	口縁内外灰釉	1/2以下
110	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第５次	一括	＊11.0	－	－	古後Ⅳ(新)		皿09	口縁内面灰釉	1/2以下
111	陶器・皿/腰折皿	瀬戸美濃	第５次	一括	＊11.0	＊5.6	2.7	古後Ⅳ(新)		皿10	口縁内外灰釉	1/2以下
112	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第５次	３Ｔ	＊10.4	＊6.0	2.9	大２		皿11	内外灰釉/高台内輪トチン	1/2以下
113	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	第５次	一括	＊10.0	－	－	大１		皿12	内外灰釉	1/2以下
114	陶器・皿/折縁皿	瀬戸美濃	第５次	一括	＊11.0	－	－	大４		皿13	内外灰釉	1/2以下
115	陶器・香炉	瀬戸美濃	第５次	一括	＊10.0	－	－	古後Ⅳ(古)		香01	内外灰釉	1/2以下
116	陶器・梅瓶	瀬戸美濃	第５次	一括	－	－	－	古中		袋03	外面灰釉	1/2以下
117	陶器・擂鉢	瀬戸美濃	第５次	一括	－	－	－	大３前		鉢01	内外錆釉	1/2以下
118	陶器・水注	瀬戸美濃	第５次	一括	－	＊3.5	－	大１～４		他01	内外鉄釉・底部周辺錆釉	1/2以下
119	陶器・茶入	瀬戸美濃	第５次	一括	＊2.8	－	－	大１～４		他02	内外鉄釉・腰部錆釉	1/2以下
120	陶器・皿/丸皿	肥前(唐津)	第５次	一括	＊11.0	－	－		16c末～17c初	皿14	内外灰釉	1/2以下
121	土器・かわらけ	在地	第５次	一括	＊12.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K14		1/2以下
122	土器・かわらけ	在地	第５次	No.300	11.0	4.3	3.3～4.0	騎西城Ⅰ期		K15	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/底面・側面穿孔	略完形
123	土器・かわらけ	在地	第５次	一括	＊12.0	＊5.4	3.3	騎西城Ⅰ期		K16	底部内面指頭ナデ	1/2以下
124	土器・かわらけ	在地	第５次	一括	＊10.6	＊6.0	2.8	騎西城Ⅰ期		K24		1/2以下
125	土器・かわらけ	在地	第５次	一括	＊11.0	＊6.2	2.7	騎西城Ⅱ期		K17	底部内面指頭ナデ	1/2以下
126	土器・かわらけ	在地	第５次	一括	10.0	6.0	2.4	騎西城Ⅱ期		K18	底部内面指頭ナデ	1/2以上
127	土器・かわらけ	在地	第５次	一括	10.0	7.0	2.4	騎西城Ⅱ期		K19	体部と底部(内面)境にナデ	1/2以上
128	土器・かわらけ	在地	第５次	一括	＊11.0	＊7.0	2.5	騎西城Ⅱ期		K20		1/2以下
129	土器・かわらけ	在地	第５次	一括	＊11.0	6.5	2.8	騎西城Ⅱ期		K21	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以上
130	土器・かわらけ	在地	第５次	一括	＊11.0	6.5	2.6	騎西城Ⅱ期		K22	底部内面指頭ナデ/体部と底部(内面)境にナデ	3/4以上
131	土器・かわらけ	在地	第５次	一括	＊10.0	＊7.0	2.7	騎西城Ⅱ期		K23		1/2以下
132	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第５次	一括	－	＊6.0	－	騎西城Ⅰ期		鋳03	スラグ付着	1/2以下
133	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第５次	一括	－	＊6.0	－			鋳05	スラグ付着	1/2以下
134	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第５次	一括	－	－	－			鋳04	スラグ付着/金粒・銀粒付着	1/2以下
135	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第５次	一括	－	－	－			鋳06	スラグ付着/緑青付着	1/2以下

第15表　土器類一覧表３

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
136	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第５次	一括	－	－	－			鋳07	底部外面板ナデ/スラグ付着	1/2以下
137	土器・ほうろく	在地	第５次	№75、№75－1～7	＊35.0	＊30.0	5.5			H12	外面スス付着	1/2以下
138	土器・ほうろく	在地	第５次	一括	－	－	5.4			H13		1/2以下
139	土器・ほうろく	在地	第５次	一括	－	－	5.2			H14	外面スス付着	1/2以下
140	土器・擂鉢	在地	第５次	一括	－	－	－			鉢07		1/2以下
141	土器・擂鉢	在地	第５次	一括	－	－	－			鉢08		1/2以下
142	土器・擂鉢	在地	第５次	一括	＊28.0	－	－			鉢09	内面スス付着	1/2以下
143	焼締陶器・甕	常滑	第６次	一括	－	－	－		不明	袋01		1/2以下
144	陶器・皿/灯明皿	瀬戸美濃	第６次	一括	＊11.0	－	－		18c 後	皿01	内面・口縁外面鉄釉	1/2以下
145	陶器・擂鉢	瀬戸美濃	第６次	一括	－	－	－	大２～４		鉢01	内外錆釉/櫛目14本	1/2以下
146	陶器・皿/大皿	肥前(唐津)	第６次	一括	－	－	－		17c～	鉢02	内面白土で象嵌よろけ縞	1/2以下
147	磁器・鉢/型打鉢	肥前	第６次	一括	－	－	－		19c 前	伊01	草文/型打成形	1/2以下
148	磁器・皿/染付皿	漳州窯系中国	第10次	１溝№36	－	＊5.0	－		16c 後～17c 前	染01	底部内面ドーナツ状に釉ハギ/草花文/底部内面釉剥/高台端部磨痕	1/2以下
149	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	第10次	１溝№16	－	－	－		17c 後	皿01	内外アメ色の釉/底部内面団子トチ/型打成形	1/2以下
150	陶器・壺/有耳壺	瀬戸美濃	第10次	１溝№６	－	12.0	－		18c	袋01	内面錆釉・外面鉄釉/底部外面焼き台痕	1/2以下
151	磁器・青磁仏花器	肥前	第10次	１溝№３	－	－	－		17c 後	伊02	外面淡緑色の釉	1/2以下
152	磁器・碗/染付碗	肥前	第10次	１溝№２	－	4.5	－		18c 前	伊05	草文	1/2以下
153	土器・かわらけ	在地	第10次	１溝№１	－	5.2	－			K01		1/2以上
154	土器・かわらけ	在地	第10次	１溝№12	－	＊6.0	－			K02	底部内面中央凹	1/2以下
155	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第10次	１溝	－	－	－			鋳01	スラグ付着	1/2以下
156	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第10次	２溝№40	－	＊5.8	－	大３		皿02	内外鉄釉後灰釉流し掛け/底部内面団子トチ/高台内輪トチン	1/2以下
157	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第10次	２溝№55	＊11.0	－	－	大３		皿03	内外灰釉	1/2以下
158	陶器・蓋	瀬戸美濃	第10次	２溝№47	5.6	2.7	1.8		18c	他01	外面鉄釉後灰釉	完形
159	陶器・碗/筒形碗	志戸呂	第10次	２溝№49	＊9.8	＊6.0	7.7	大４相当		碗01	内外鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
160	土器・土鍋	在地	第10次	２溝№58	－	－	－		15c 前	D01		1/2以下
161	陶器・壺/有耳壺	瀬戸美濃	第10次	一括	－	－	－		18c～19c	袋02	外面鉄釉	1/2以下
162	陶器・蓋	瀬戸美濃	第10次	一括	12.0	5.8	2.6		18c～	他02	外面鉄釉	1/2以上
163	焼締陶器・擂鉢	堺・備前	第10次	一括	－	＊13.0	－		18c～	鉢01	櫛目７本単位	1/2以下
164	磁器・皿/青磁皿	肥前	第10次	一括	－	5.0	－		18c 後	伊01	内外淡緑色の釉/蛇の目釉ハギ	1/2以下
165	磁器・皿/白磁皿	肥前	第10次	一括	－	8.0	－		17c 後～18c	伊03		1/2以下
166	磁器・碗/染付碗	肥前	第10次	一括	－	＊5.0	－		17c 末～18c 前	伊04	唐草文	1/2以下
167	磁器・碗/染付碗	肥前	第10次	一括	－	4.5	－		18c 前	伊06	草花文/高台端部砂？付着	1/2以下
168	磁器・碗/染付碗	肥前	第10次	一括	－	4.5	－		18c 前	伊07	草文	1/2以下
169	磁器・碗/染付碗	肥前	第10次	一括	－	－	－		18c 前	伊08	網目文	1/2以下
170	磁器・碗/染付碗	肥前	第10次	一括	－	－	－		18c 前	伊09	菊花文	1/2以下
171	磁器・碗/染付碗	肥前	第10次	一括	－	－	－		18c 前	伊10	花文	1/2以下
172	磁器・皿/染付皿	肥前	第10次	一括	－	－	－		18c 前	伊11	鳥	1/2以下
173	磁器・皿/色絵皿	肥前	第10次	一括	－	－	－		17c 後～18c	伊12	花文(赤・緑色)	1/2以下
174	土器・かわらけ	在地	第10次	一括	＊10.0	＊5.5	2.4			K03		1/2以下
175	土器・ほうろく	在地	第10次	一括	－	－	－			H01		1/2以下
176	土器・ほうろく	在地	第10次	一括	－	－	－			H02	内外スス付着	1/2以下
177	土器・ほうろく	在地	第10次	一括	－	－	－			H03		1/2以下
178	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	第11次	１溝№28	＊16.0	－	－	古後Ⅰ		碗01	内外灰釉	1/2以下
179	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第11次	１溝№25	＊12.0	－	－	大４後		町天70	内外鉄釉・腰部露胎	1/2以下
180	陶器・擂鉢	志戸呂	第11次	１溝№29	－	＊11.0	－		16c 後	鉢01	内外錆釉/櫛目19本	1/2以下
181	土器・かわらけ	在地	第11次	1溝№1、一括	＊11.0	＊6.8	2.5			K02		1/2以下

第16表　土器類一覧表４

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
182	土器・ほうろく	在地	第11次	1溝(No.5・6・8～19・23、一括)、一括	33.6	30.0	5.6～6.0			H01	外面スス付着	1/2以上
183	土器・片口鉢	在地	第11次	1溝No.7	－	－	－		14c後	鉢02		1/2以下
184	土器・かわらけ	在地	第11次	一括	＊10.8	＊6.0	3.0			K01		1/2以下
185	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第12次	2溝No.17上層	－	－	－	Ⅰ－5	13c	青02	内外暗緑色の釉/片切彫りの蓮弁	1/2以下
186	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第12次	2溝	＊8.8	＊5.0	3.0	大3		皿02	内外灰釉	1/2以下
187	陶器・皿/卸皿	瀬戸美濃	第12次	3溝	＊16.0	－	－	古後Ⅱ		皿01	口縁内外灰釉	1/2以下
188	土器・片口鉢	在地	第12次	3溝No.19	＊30.0	－	－		14c後	町鉢287		1/2以下
189	磁器・碗/青磁碗	同安窯系中国	第12次	1壙No.1	－	－	－	Ⅰ－1	12c中～13c	青03	内外淡黄緑色の釉/片切彫りの文様	1/2以下
190	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第12次	No.13	－	－	－	Ⅰ－5	13c	青01	内外淡黄緑色の釉/片切彫りの蓮弁	1/2以下
191	磁器・皿/白磁皿	漳州窯系中国	第12次	一括	－	＊5.0	－		16c末～17c	白01	内外灰白色の釉/ドーナツ状に釉ハギ	1/2以下
192	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第12次	一括	－	－	－	大3		天01	内外鉄釉	1/2以下
193	磁器・瓶/染付瓶	肥前	第12次	一括	－	＊8.6	－		17c後ヵ	伊01		1/2以下
194	土器・かわらけ	在地	第12次	No.14？	＊12.2	＊7.0	2.4			K01		1/2以下
195	土器・かわらけ	在地	第12次	E　1T	＊11.0	＊6.5	2.5			K02		1/2以下
196	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第46次	1溝No.1、1溝	12.0	4.3	5.9	大3前		天04	内外鉄釉・腰部錆釉	1/2以上
197	土器・かわらけ	在地	第46次	1溝No.3、5壙、5壙No.1、一括	10.4	6.4	2.0	騎西城Ⅲ期		K02	底部外面磨痕	3/4以上
198	土器・かわらけ	在地	第46次	1溝No.9	＊11.0	－	－			K10		1/2以下
199	土器・かわらけ	在地	第46次	1溝No.25	＊10.2	＊6.4	2.1			K03		1/2以下
200	土器・かわらけ	在地	第46次	1溝No.26、一括	＊12.0	＊6.8	2.5	騎西城Ⅱ期		K11		1/2以下
201	土器・かわらけ	在地	第46次	1溝No.27	＊11.0	－	－	騎西城Ⅰ期ヵ		K06		1/2以下
202	土器・かわらけ	在地	第46次	1溝	＊11.0	＊6.0	2.7			K12		1/2以下
203	土器・擂鉢	在地	第46次	1溝No.2	＊30.0	－	－			鉢01	櫛目有	1/2以下
204	土器・擂鉢	在地	第46次	1溝No.11、1T　No.10、一括	＊31.0	＊13.0	13.0			鉢06	櫛目7本/外面スス付着	1/2以下
205	土器・擂鉢	在地	第46次	1溝(No.23・29～31、一括)、一括	＊26.0	＊12.0	10.3			鉢02	櫛目7本/口唇磨痕	1/2以下
206	土器・擂鉢	在地	第46次	1溝	－	－	－			鉢04		1/2以下
207	土器・瓦	在地	第46次	1溝3T	－	－	－		13c	瓦01		1/2以下
208	土器・かわらけ	在地	第46次	3溝2T、2壙2T、2T	＊10.4	6.4	2.7	騎西城Ⅰ期		K01		1/2以下
209	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第46次	6溝	＊10.0	＊5.0	2.1	大3		皿15	内外鉄釉・腰部露胎	1/2以下
210	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第46次	1井	＊10.5	＊5.5	2.3	大3		皿14	内外鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
211	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第46次	2壙2T	＊12.0	＊7.2	2.1	大4後		皿07	内外長石釉・高台内露胎	1/2以下
212	土器・かわらけ	在地	第46次	2壙2T	＊10.4	＊6.4	2.7	騎西城Ⅰ期ヵ		K04		1/2以下
213	陶器・擂鉢	志戸呂	第46次	4壙2T	－	－	－	大4相当		鉢07	内外錆釉/櫛目有/注口部	1/2以下
214	土器・鳥形土製品	在地	第46次	5壙No.2	－	－	－			町他37		略完形
215	土器・かわらけ	在地	第46次	25壙	＊10.0	－	－			K08		1/2以下
216	陶器・皿/端反又は丸皿	瀬戸美濃	第46次	41P	－	＊6.0	－	大1・2		皿04	内外灰釉/印花文/高台内輪トチン	1/2以下
217	磁器・皿/染付皿	中国	第46次	一括	－	＊6.0	－		15c末～16c	染01	内外灰白色の釉/草花文	1/2以下
218	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第46次	一括	＊11.0	－	－	登1		天01	内外灰釉ヵ	1/2以下
219	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第46次	一括	＊11.0	－	－		18c前	天02	内外鉄釉	1/2以下
220	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第46次	一括	－	＊5.0	－	登1		天03	内面鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
221	陶器・碗/織部丸碗	瀬戸美濃	第46次	一括	＊12.0	－	－	登1		碗01	内外長石釉/鉄で文様	1/2以下
222	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第46次	1T　No.5	－	5.6	－	大2・3		皿01	内面鉄釉・高台露胎/底部内面団子トチ	1/2以下

第17表　土器類一覧表5

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
223	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第46次	一括	＊10.0	＊6.2	2.1	大３		Ⅲ11	内外鉄釉・高台露胎	1/2以下
224	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第46次	一括	＊10.0	－	－	大３		Ⅲ12	内外鉄釉	1/2以下
225	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第46次	一括	＊10.0	－	－	大３		Ⅲ13	内外鉄釉	1/2以下
226	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第46次	一括	＊10.6	＊6.0	2.0	大２		Ⅲ02	内外鉄釉・高台露胎/底部内面団子トチ	1/2以下
227	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第46次	一括	－	＊6.0	－	大２・３		Ⅲ03	内外灰釉・高台内錆釉/高台内輪トチン	1/2以下
228	陶器・皿/端反又は丸皿	瀬戸美濃	第46次	３Ｔ　１・２層	－	＊6.0	－	大１・２		Ⅲ05	内外灰釉/印花文/高台内輪トチン	1/2以下
229	陶器・皿/鉄絵皿	瀬戸美濃	第46次	３Ｔ　１・２層	－	＊6.6	－	登１		Ⅲ06	内外長石釉・高台内露胎/鉄で文様/底部内面・高台内円錘ピン	1/2以下
230	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第46次	１Ｔ　１・２層	＊11.0	－	－	大４後		Ⅲ08	内外厚い長石釉	1/2以下
231	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第46次	３Ｔ　１・２層	＊10.0	－	－	登１		Ⅲ09	内外長石釉	1/2以下
232	陶器・皿/灯明皿(受皿)	瀬戸美濃	第46次	一括	＊10.5	－	－		18c 前	Ⅲ10	内外鉄釉/外面重ね焼き痕	1/2以下
233	陶器・向付	肥前(唐津)	第46次	３Ｔ　１・２層	－	－	－		16c 末～17c 前	他01		1/2以下
234	陶器・茶入	志戸呂	第46次	１Ｔ　１・２層	－	4.5	－		16c 後～17c 前	他02	内外錆釉	1/2以下
235	陶器・壺	信楽	第46次	一括	－	－	－		17c 後～18c	袋01	外面鉄釉・灰釉	1/2以下
236	磁器・青磁鉢	肥前	第46次	３Ｔ　１・２層	－	－	－		17c 後	伊04	内外暗緑色の釉/草文？を線刻	1/2以下
237	磁器・皿/染付皿	肥前	第46次	3T、3T　1・2層	10.2	6.2	2.0		17c 後	伊03	草花文・虫文	1/2以上
238	磁器・色絵婦人像ヵ	肥前	第46次	一括	－	－	－		17c～	伊01	上絵付(黒・黄・赤・緑・青色)/型打成形	1/2以下
239	磁器・色絵婦人像ヵ	肥前	第46次	３Ｔ　１・２層	－	－	－		17c～	伊02	上絵付(黒・赤・緑色)/型打成形	1/2以下
240	土器・かわらけ	在地	第46次	２Ｔ	＊10.0	－	－			K05		1/2以下
241	土器・かわらけ	在地	第46次	一括	＊11.0	－	－	騎西城Ⅲ期		K07		1/2以下
242	土器・かわらけ	在地	第46次	一括	＊10.0	－	－			K09		1/2以下
243	土器・ほうろく	在地	第46次	１Ｔ　No.２	－	－	5.7			H04	内面スス付着	1/2以下
244	土器・ほうろく	在地	第46次	1T(No.4・6・19)	－	－	－			H03		1/2以下
245	土器・ほうろく	在地	第46次	１Ｔ(No.15・20、サブトレ)	＊34.0	＊30.0	5.5		16c	H02		1/2以下
246	土器・ほうろく	在地	第46次	１Ｔ(No.24～27、一括)	＊36.0	＊32.0	6.1		16c	H01	外面スス付着	1/2以下
247	土器・擂鉢	在地	第46次	１Ｔ　No.12	－	－	－			鉢03	内面スス付着	1/2以下
248	土器・擂鉢	在地	第46次	１Ｔサブトレ	－	－	－			鉢05		1/2以下
249	土器・かわらけ	在地	第47次	1溝No.6、2T	＊11.5	＊7.5	2.6			K05		1/2以下
250	土器・かわらけ	在地	第47次	１溝	＊12.0	＊6.6	2.8			K11		1/2以下
251	土器・かわらけ	在地	第47次	１溝、６溝	＊11.6	＊7.0	2.9			K12		1/2以下
252	土器・かわらけ	在地	第47次	１溝、一括	＊12.0	＊7.5	2.6			K14		1/2以下
253	土器・ほうろく	在地	第47次	１溝	－	－	－			H07		1/2以下
254	土器・甕	在地	第47次	１溝、４溝１Ｔ、９溝、１ＴNo.３、18P	＊27.2	－	－		14c	袋02		1/2以下
255	陶器・擂鉢	瀬戸美濃	第47次	４溝	－	－	－	大４後		鉢01	内外錆釉/櫛目８本	1/2以下
256	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第47次	５溝、27P、一括	＊11.2	－	－	大４後		天04	内外鉄釉・腰部露胎	1/2以下
257	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第47次	６溝No.４	＊11.0	－	－	大２		天03	内外鉄釉・腰部錆釉	1/2以下
258	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	第47次	６溝、１溝、１Ｐ、11Ｐ、22P	＊11.3	－	－	大４前	16c 中～17c 初	町碗35	内外灰釉	1/2以下
259	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	第47次	６溝、36P、一括	＊11.0	－	－	大４前		碗02	内外灰釉	1/2以下
260	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第47次	６溝	＊10.0	－	－	大２		Ⅲ09	内外鉄釉	1/2以下
261	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第47次	６溝No.47	＊10.	－	－	大３		Ⅲ02	内外灰釉	1/2以下
262	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第47次	６溝No.60、イ集２、一括	＊9.4	＊4.8	1.9	大２		Ⅲ06	内外灰釉/高台内輪トチン	1/2以下
263	陶器・擂鉢	瀬戸美濃	第47次	６溝(No.６・44・66、一括)、一括	＊35.0	－	－	大４前		鉢03	内外錆釉/櫛目９本	1/2以下

第18表　土器類一覧表６

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
264	陶器・碗/丸碗	志戸呂	第47次	６溝No.５、一括	－	＊4.2	－	大４相当		碗01	内外灰釉・高台周辺露胎/筒茶碗	1/2以下
265	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝No.10	＊11.0	6.2	2.6			K02	底部内面指頭ナデ/底面穿孔	完形
266	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝No.20、５Ｐ	＊11.0	6.0	2.7			K26	底部外面ナデ痕	1/2以下
267	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝No.43	＊11.0	6.6	2.8			K28	底部内面指頭ナデ/底部外面ナデ？	1/2以上
268	土器・かわらけ	在地	第47次	6溝No.45、一括	＊12.0	7.2	2.8			K18	底部内面指頭ナデ/体部と底部(内面)境にナデ	1/2以上
269	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝No.48、一括	＊11.0	＊6.2	2.3			K48		1/2以下
270	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝No.53、No.16、一括	＊11.0	＊6.4	3.0			K47		1/2以下
271	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝No.65	＊11.0	7.2	2.8			K03	底部内面墨？付着	略完形
272	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝No.68	＊11.8	＊7.0	2.8			K07		1/2以下
273	土器・かわらけ	在地	第47次	6溝(No.82、一括)	＊11.0	＊6.3	2.5			K49		1/2以下
274	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝、一括	＊12.0	＊7.4	2.7			K13		1/2以下
275	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝、一括	12.0	7.0	2.5			K17	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	3/4以上
276	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝、イ集２	＊12.0	＊7.4	2.7			K10		1/2以下
277	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝	＊11.0	6.4	2.3			K25	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以上
278	土器・かわらけ	在地	第47次	６溝	＊10.4	＊5.6	2.6			K45		1/2以下
279	土器・ほうろく	在地	第47次	６溝(No.７・８)、一括	＊35.7	＊32	5.3～5.6			H03		1/2以下
280	土器・ほうろく	在地	第47次	6溝(No.9・21・28～30・32・55・81・83、一括)、イ集1、一括	＊34.5	＊32.0	6.0～6.4			H04	外面スス付着	1/2以上
281	土器・ほうろく	在地	第47次	6溝(No.34・38)	－	－	5.8			H09		1/2以下
282	土器・ほうろく	在地	第47次	６溝No.42、９溝No.10	－	－	6.0			H05		1/2以下
283	土器・ほうろく	在地	第47次	6溝No.72、一括	＊37.0	－	－			H01		1/2以下
284	土器・ほうろく	在地	第47次	6溝No.80、一括	－	－	5.9			H10		1/2以下
285	土器・ほうろく	在地	第47次	6溝(No.85、一括)、25P、32P、イ集1、イ集2	＊34.0	＊27.5	9.4			H08	内面スス付着/金雲母含む	1/2以下
286	土器・擂鉢	在地	第47次	６溝No.２	＊30.0	－	－			鉢05	内面剥落	1/2以下
287	土器・擂鉢	在地	第47次	６溝	－	＊12.0	－			鉢04	内外スス付着	1/2以下
288	土器・ほうろく	在地	第47次	７溝、一括	－	－	6.5			H11		1/2以下
289	土器・かわらけ	在地	第47次	２Ｔ２溝No.８	＊11.0	－	－			K53		1/2以下
290	磁器・皿/染付皿	中国	第47次	１井２Ｔ	－	－	－	E	16c 中～後葉	染01	内外透明釉/鳥文	1/2以下
291	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	11.3	6.6	2.6	騎西城Ⅱ期		K01	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	完形
292	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	＊11.0	＊7.2	3.1	騎西城Ⅱ期		K15		1/2以下
293	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	11.8	8.2	2.7	騎西城Ⅱ期		K04		略完形
294	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	＊12.0	＊8.3	2.6	騎西城Ⅱ期		K16		1/2以下
295	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	11.0	7.0	3.1	騎西城Ⅱ期		K19		1/2以上
296	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	＊11.0	＊7.2	3.2	騎西城Ⅱ期		K20		1/2以下
297	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	＊11.0	＊7.2	2.9	騎西城Ⅱ期		K21		1/2以下
298	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	＊11.0	＊7.0	2.8	騎西城Ⅱ期		K22		1/2以下
299	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	＊12.0	＊8.8	2.7	騎西城Ⅱ期		K23		1/2以下
300	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	＊11.0	＊7.8	2.9	騎西城Ⅱ期		K24		1/2以下
301	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	＊11.0	＊5.8	2.7	騎西城Ⅱ期		K27		1/2以下
302	土器・かわらけ	在地	第47次	１井２Ｔ	＊11.0	＊6.8	2.3	騎西城Ⅱ期		K29		1/2以下

第19表　土器類一覧表７

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
303	土器・かわらけ	在地	第47次	1井2T	＊10.6	＊6.2	2.1	騎西城Ⅱ期		K31		1/2以下
304	土器・かわらけ	在地	第47次	1井2T	＊11.0	6.0	2.3	騎西城Ⅱ期		K36		1/2以下
305	土器・かわらけ	在地	第47次	1井2T	＊11.0	－	－	騎西城Ⅱ期		K37		1/2以下
306	土器・かわらけ	在地	第47次	1井2T	＊11.4	＊7.6	2.9	騎西城Ⅱ期		K38		1/2以下
307	土器・かわらけ	在地	第47次	1井2T	11.4	＊7.0	2.7	騎西城Ⅱ期		K39		1/2以下
308	土器・かわらけ	在地	第47次	1井2T	＊12.0	＊7.0	2.7	騎西城Ⅱ期		K43		1/2以下
309	土器・かわらけ	在地	第47次	1井2T	＊10.6	＊7.0	3.4	騎西城Ⅱ期		K44		1/2以下
310	土器・かわらけ	在地	第47次	1井2T	＊10.0	＊6.2	2.4	騎西城Ⅱ期		K51		1/2以下
311	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	第47次	5P、19P、イ集2、一括	＊12.0	－	－		17c後	碗03	口縁内外灰釉・鉄釉	1/2以下
312	陶器・志野小坏	瀬戸美濃	第47次	9P	＊8.0	－	－	登1		他02	内外長石釉	1/2以下
313	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第47次	一括	－	－	－	Ⅰ－5	13c～	青01	内外淡青緑色の釉/蓮弁	1/2以下
314	磁器・皿/白磁皿	中国	第47次	一括	－	－	－	C－1	15c～16c	白01	内外白色の釉	1/2以下
315	磁器・皿/染付皿	中国	第47次	一括	－	－	－	F	16c末～17c	染02	草花文	1/2以下
316	磁器・皿/染付皿	中国	第47次	1T No.9	＊12.8	＊7.4	2.8	B－2		町染78		1/2以下
317	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第47次	1T No.7、No.25	＊12.0	－	－	登1		天05	内外鉄釉・腰部露胎	1/2以下
318	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第47次	1T　1・2層	－	－	－	大1		天02	内外鉄釉	1/2以下
319	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第47次	一括	＊10.0	－	－	登1		天01	内外鉄釉	1/2以下
320	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	第47次	一括	＊11.4	4.5	6.0	大4前	16c中～17c初	町碗34	内外灰釉/高台内輪トチン？	1/2以上
321	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第47次	1T　1・2層	＊10.0	－	－	大3		皿04	内外灰釉	1/2以下
322	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第47次	一括	＊10.4	＊5.5	2.0	大3		皿01	内外鉄釉/底部内面団子トチ/高台内輪トチン	1/2以下
323	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第47次	イ集1、一括	＊10.4	＊5.8	2.1	大3		皿05	内外灰釉/高台内輪トチン	1/2以下
324	陶器・皿/内禿皿	瀬戸美濃	第47次	2T　1・2層	－	＊6.0	－	大3		皿03	内外灰釉	1/2以下
325	陶器・皿/内禿皿(ヒダ皿)	瀬戸美濃	第47次	No.23	＊10.0	＊7.0	1.4	大4		皿08	内外鉄釉	1/2以下
326	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第47次	1T No.36、1T 1・2層、No.15	11.5	6.0	3.5	登1		皿07	内外長石釉/底部内面・高台内円錘ピン	1/2以上
327	陶器・擂鉢	瀬戸美濃	第47次	イ集1、私武45	－	＊10.0	－	大4～登		鉢02	内外錆釉/櫛目11本	1/2以下
328	陶器・徳利	瀬戸美濃	第47次	一括	－	－	－	登1・2		袋01	内外柿釉・外面鉄釉流し掛け	1/2以下
329	陶器・碗/筒形碗	志戸呂	第47次	一括	－	－	－	大4相当		碗04	内外鉄釉	1/2以下
330	陶器・小坏	初山	第47次	一括	＊6.0	－	－	大3後相当		他01	内面黒褐色の釉/胎土に黒色粒子	1/2以下
331	土器・かわらけ	在地	第47次	No.19	＊11.0	＊7.2	3.1			K06		1/2以下
332	土器・かわらけ	在地	第47次	No.21	11.4	8.0	2.9			K32		1/2以下
333	土器・かわらけ	在地	第47次	No.21	11.4	7.2	2.9			K33		1/2以上
334	土器・かわらけ	在地	第47次	No.21	＊11.6	＊8.0	2.5			K34		1/2以下
335	土器・かわらけ	在地	第47次	No.21	＊11.0	＊6.0	2.7			K35		1/2以下
336	土器・かわらけ	在地	第47次	イ集2	＊12.0	＊7.0	2.8			K08		1/2以下
337	土器・かわらけ	在地	第47次	1T No.2	＊11.0	＊6.0	2.5			K40		1/2以下
338	土器・かわらけ	在地	第47次	1T No.27	＊11.0	＊6.6	2.8			K54		1/2以下
339	土器・かわらけ	在地	第47次	一括	＊11.6	＊7.0	3.0			K09		1/2以下
340	土器・かわらけ	在地	第47次	一括	－	－	－			K30	側面穿孔	1/2以下
341	土器・かわらけ	在地	第47次	一括	－	＊6.2	－			K41	底面穿孔	1/2以下
342	土器・かわらけ	在地	第47次	一括	＊11.4	＊7.0	2.7			K42		1/2以下
343	土器・かわらけ	在地	第47次	一括	＊11.4	＊6.2	2.5			K46		1/2以下
344	土器・かわらけ	在地	第47次	一括	＊11.0	＊6.8	2.4			K50		1/2以下
345	土器・かわらけ	在地	第47次	一括	＊9.0	＊6.0	2.1			K52		1/2以下
346	土器・ほうろく	在地	第47次	No.12・17、1T No.40・41	＊36.0	＊33	5.6			H02		1/2以下
347	土器・ほうろく	在地	第47次	1T No.10	－	－	－			H12		1/2以下
348	土器・ほうろく	在地	第47次	イ集1	－	－	－			H06		1/2以下
349	土器・火鉢	在地	第47次	No.18、1T No.31	－	－	－			火鉢02	丸火鉢	1/2以下
350	土器・火鉢	在地	第47次	イ集2	－	－	8.3			火鉢01	丸火鉢	1/2以下
351	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	第53次	1溝	＊17.0	－	－	古後Ⅳ(古)	15c中～後	町平15	内外灰釉・腰部露胎	1/2以下

第20表　土器類一覧表8

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
352	土器・かわらけ	在地	第53次	１溝	＊8.5	－	－			町 K305	手づくね	1/2以下
353	土器・土鍋	在地	第53次	１溝	＊30.0	－	－			町 D41		1/2以下
354	土器・かわらけ	在地	第53次	2溝(下層・最下層)	9.8	－	2.5			町 K306	手づくね	完形
355	土器・かわらけ	在地	第53次	２溝	＊14.0	－	－			町 K307	手づくね	1/2以下
356	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	２溝	－	－	－	騎西城Ⅱ期		K11	スラグ付着	1/2以下
357	土器・甕	在地	第53次	３溝	＊19.0	－	－		14c	袋01		1/2以下
358	土器・擂鉢	在地	第53次	１Ｐ	－	－	－			鉢03	外面スス付着	1/2以下
359	焼締陶器・甕	常滑	第53次	一括	－	－	－			袋02	外面自然釉	1/2以下
360	焼締陶器・甕	常滑	第53次	一括	－	－	－			袋03		1/2以下
361	焼締陶器・甕	常滑	第53次	一括	－	－	－			袋04	外面自然釉	1/2以下
362	焼締陶器・甕	常滑	第53次	一括	－	－	－			袋05	外面自然釉	1/2以下
363	焼締陶器・甕	常滑	第53次	一括	－	－	－			袋06	外面自然釉	1/2以下
364	陶器・皿/折縁深皿	瀬戸美濃	第53次	一括	－	－	－	古後Ⅳ(古)		皿01	内外灰釉	1/2以下
365	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第53次	一括	－	＊6.0	－	大２		皿02	内外灰釉/高台内輪トチン	1/2以下
366	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第53次	一括	－	－	－	大１		皿03	口縁内外灰釉	1/2以下
367	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第53次	一括	＊12.0	－	－	登１		皿04	口縁内外灰釉/内外スス付着	1/2以下
368	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第53次	一括	＊9.6	＊6.0	1.6	登１		皿05	内外長石釉/高台内円錐ピン	1/2以下
369	陶器・鉢/鉄絵鉢	瀬戸美濃	第53次	一括	＊39.0	－	－	登１		鉢01	内外長石釉/鉄で文様	1/2以下
370	陶器・香炉	瀬戸美濃	第53次	一括	－	＊9.0	－		18c	香01	内面錆釉・外面鉄釉・底部露胎	1/2以下
371	陶器・擂鉢	丹波	第53次	一括	－	－	－		17c 後	鉢02	内外錆釉/櫛目６本	1/2以下
372	磁器・碗/青磁碗	波佐見	第53次	一括	＊11.0	－	－		17c 前	碗01	内外淡青白釉	1/2以下
373	磁器・碗/染付碗	肥前	第53次	一括	＊11.0	－	－		18c	伊01	草文	1/2以下
374	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊10.0	＊4.8	2.7			K01	被熱	1/2以下
375	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊9.0	＊5.8	2.5	騎西城Ⅱ期		K02		1/2以下
376	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊11.0	＊6.0	2.7	騎西城Ⅱ期		K03		1/2以下
377	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊10.0	＊6.0	2.4	騎西城Ⅱ期		K04		1/2以下
378	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊10.0	＊6.2	2.5	騎西城Ⅲ期		K05		1/2以下
379	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊11.0	－	－			K06		1/2以下
380	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊11.0	＊6.8	3.1			K07		1/2以下
381	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊10.0	－	－			K08		1/2以下
382	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊11.0	－	－			K09		1/2以下
383	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊12.0	－	－			K10	黒化	1/2以下
384	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	－	－	－			K12	スラグ付着	1/2以下
385	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	－	＊6.0	－			K13	スラグ付着	1/2以下
386	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	＊12.0	－	－			K14	白色スラグ付着	1/2以下
387	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	－	＊6.0	－			K15	被熱	1/2以下
388	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	－	＊6.0	－			K16	スラグ付着/金粒付着？(銅？)	1/2以下
389	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	－	＊6.0	－			K17	スラグ付着/金粒付着	1/2以下
390	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	－	－	－			K18	スラグ付着	1/2以下
391	土器・かわらけ	在地	第53次	一括	＊9.0	－	－			K19	スス付着	1/2以下
392	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	－	－	－			K20	スラグ付着(銅)	1/2以下
393	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	＊11.4	＊6.0	2.6			町鋳53	スラグ付着(銅)	1/2以下
394	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	＊11.4	＊6.0	2.4			町鋳54	スラグ付着	1/2以下
395	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	＊10.4	－	－			町鋳55	スラグ付着(銅)	1/2以下
396	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	－	＊6.0	－			町鋳56	スラグ付着(銅)	1/2以下
397	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	＊10.5	＊6.0	2.8			町鋳57	スラグ付着	1/2以下
398	土器・かわらけ(取瓶)	在地	第53次	一括	＊9.5	＊5.4	2.4			町鋳58	スラグ付着	1/2以下

第21表　土器類一覧表９

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図№	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
399	土器・ほうろく	在地	第53次	一括	－	－	－			H01		1/2以下
400	土器・土鍋	在地	第53次	一括	－	－	－		15c 前	D01		1/2以下
401	土器・擂鉢	在地	第53次	一括	－	－	－			鉢04		1/2以下
402	土器・平瓦	在地	第53次	16層	－	－	厚さ 2.2		13c 前～中	瓦01		1/2以下
403	土器・平瓦	在地	第53次	一括	－	－	－		13c 前～中	瓦02		1/2以下
404	土器・かわらけ	在地	第54次	1P	＊11.0	＊7.0	2.5	騎西城Ⅱ期		K05	油煙？付着	1/2以下
405	土器・かわらけ	在地	第54次	一括	＊11.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K01		1/2以下
406	土器・かわらけ	在地	第54次	一括	－	＊5.0	－	騎西城Ⅰ期		K02	底部内面指頭ナデ	1/2以下
407	土器・かわらけ	在地	第54次	一括	＊10.4	5.4	3.0	騎西城Ⅱ期		K03		3/4以上
408	土器・かわらけ	在地	第54次	一括	＊11.5	＊7.5	2.4	騎西城Ⅱ期		K04		1/2以下
409	土器・かわらけ	在地	第54次	一括	＊11.0	＊7.6	2.4	騎西城Ⅲ期		K06		1/2以上
410	土器・ほうろく	在地	第54次	一括	－	－	5.9			H01		1/2以下
411	土器・ほうろく	在地	第54次	一括	－	－	5.7			H02	外面スス付着	1/2以下
412	土器・土鍋？	在地	第54次	一括	－	－	－			D01		1/2以下
413	土器・土鍋？	在地	第54次	一括	－	－	－			D02	外面スス付着	1/2以下
414	土器・火鉢	在地	第54次	一括	－	－	5.3			火鉢01		1/2以下
415	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第55次	4溝№27	－	－	－	Ⅰ－5	13c	青01	内外暗緑色の釉/片切彫りの蓮弁	1/2以下
416	磁器・皿/白磁皿	中国	第55次	4溝№9	－	－	－	Ⅸ	13c～14c	白01	白色の釉/口禿皿	1/2以下
417	焼締陶器・甕	常滑	第55次	4溝№1	－	－	－			袋02	外面自然釉	1/2以下
418	焼締陶器・甕	常滑	第55次	4溝№7	－	＊13.0	－			袋01	内面自然釉	1/2以下
419	焼締陶器・甕	常滑	第55次	4溝№19	－	－	－			袋03	内面自然釉	1/2以下
420	焼締陶器・片口鉢	常滑	第55次	4溝№2	－	－	－	5・6a	13c	鉢01	内面自然釉	1/2以下
421	焼締陶器・片口鉢	常滑	第55次	4溝№8	－	－	－			鉢02	内面自然釉	1/2以下
422	土器・かわらけ	在地	第55次	4溝№18	＊12.0	－	－			K01	手づくね	1/2以下
423	土器・擂鉢	在地	第55次	4溝№4	－	－	－			鉢04		1/2以下
424	土器・片口鉢	在地	第55次	4溝№6	＊26.0	－	－		13c 後	鉢06		1/2以下
425	土器・片口鉢	在地	第55次	4溝№21	＊28.0	－	－		13c 後	鉢07		1/2以下
426	焼締陶器・片口鉢	渥美ヵ	第55次	4溝№29	－	＊14.0	－			鉢08		1/2以下
427	土器・ほうろく	在地	第55次	2壙	－	－	5.5			H01	外面スス付着	1/2以下
428	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	第55次	11P	－	－	－	古後Ⅲ		碗01	内外灰釉	1/2以下
429	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第55次	一括	－	－	－		13c～14c	青02	内外緑灰色の釉/片切彫りの蓮弁	1/2以下
430	磁器・皿/白磁皿	中国	第55次	№5	－	＊7.4	－	C－1	15c 中～16c	白02	内外白色の釉	1/2以下
431	焼締陶器・甕	常滑	第55次	一括	－	－	－	6a	1250～1275	袋04	内面自然釉	1/2以下
432	陶器・皿/卸皿	瀬戸美濃	第55次	一括	－	＊7.0	－	古中		皿01	内外灰釉	1/2以下
433	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第55次	№11	－	－	－	古後		皿02	口縁内外灰釉	1/2以下
434	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	第55次	一括	－	－	－	大1		皿03	内外灰釉	1/2以下
435	陶器・皿/折縁皿	瀬戸美濃	第55次	№1	＊11.0	－	－	大4前		皿04	内外灰釉	1/2以下
436	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第55次	№26	9.0	7.6	2.0	大4		皿05	内外灰釉	1/2以上
437	陶器・徳利	瀬戸美濃	第55次	一括	－	－	－			袋05	内外鉄釉	1/2以下
438	陶器・鉢/大皿	志戸呂	第55次	一括	－	－	－	大3相当		鉢03	内外鉄釉	1/2以下
439	土器・かわらけ	在地	第55次	№8	＊11.0	－	－	騎西城Ⅱ期		K02		1/2以下
440	土器・かわらけ	在地	第55次	№18	－	＊5.5	－			K03	体部と底部(内面)境にナデ/内外スス厚付着	1/2以下
441	土器・かわらけ	在地	第55次	一括	－	＊6.0	－			K04	底部内面指頭ナデ	1/2以下
442	土器・ほうろく	在地	第55次	№19	－	－	6.1			H02		1/2以下
443	土器・ほうろく	在地	第55次	一括	＊33.0	＊30.0	6.0			H03	外面スス付着	1/2以下
444	土器・擂鉢	在地	第55次	№16	－	－	－			鉢05		1/2以下
445	陶器・皿	肥前(唐津)	第56次	1・2溝	－	－	－		16c 末～17c 初	皿03	内外灰釉	1/2以下
446	土器・かわらけ	在地	第56次	1・2溝	＊10.0	－	－	騎西城Ⅲ期		K01		1/2以下
447	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第56次	2溝№35	＊11.2	7.0	2.1	登1		皿01	内外長石釉/底部内外円錐ピン	1/2以上
448	陶器・碗/筒形碗	肥前(唐津)	第56次	2溝(№7・37・38・46・47)、一括	11.0	4.5	6.5		16c 末～17c 初	碗01	内外灰色釉・腰部以下露胎	1/2以下
449	土器・かわらけ	在地	第56次	2溝№4	＊9.6	＊7.0	2.2	不明		K02		1/2以下
450	土器・かわらけ	在地	第56次	2溝(№11・一括)	＊9.6	5.5	1.9	騎西城Ⅲ期		K03		1/2以上
451	土器・かわらけ	在地	第56次	2溝№21	＊10.0	＊6.0	2.4	騎西城Ⅲ期		K04		1/2以下
452	土器・かわらけ	在地	第56次	2溝№41、一括	9.2	4.5	2.1～2.5	騎西城Ⅲ期		K05		完形
453	土器・かわらけ	在地	第56次	2溝№45、№40P	＊10.5	＊6.0	2.7	騎西城Ⅲ期		K06	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以下

第22表　土器類一覧表10

＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式等	年代	遺物ID	備考	残存率
454	土器・かわらけ	在地	第56次	２溝	＊10.0	－	－	騎西城Ⅲ期		K07		1/2以下
455	土器・ほうろく	在地	第56次	２溝No.43最下層	－	－	5.8			H01	外面スス付着	1/2以下
456	土器・火鉢	在地	第56次	２溝	－	－	－			火鉢01		1/2以下
457	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第56次	一括	＊14.0	－	－	登２		皿02	内外長石釉	1/2以下
458	陶器・鉢/大皿	志戸呂	第56次	No.９	－	＊12.0	－	大３後～４相当		鉢01	内外錆釉	1/2以下
459	土器・かわらけ	在地	第56次	No.16P、一括	－	＊7.0	－	不明		K08		1/2以下
460	土器・かわらけ	在地	第56次	No.23P、35P、一括	＊10.0	＊5.8	2.5	騎西城Ⅲ期		K09		1/2以下
461	土器・かわらけ	在地	第56次	No.25	－	4.4	－	騎西城Ⅰ期		K10	底部内面指頭ナデ/体部と底部(内面)境にナデ	1/2以下
462	土器・かわらけ	在地	第56次	一括	＊10.0	＊5.5	2.7	騎西城Ⅲ期		K11		1/2以下
463	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	第４次	No.539	4.5	－	1.3	登１・２		他01	長石釉	1/2以下
464	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	第46次	一括	3.6	－	0.5			他06	鉄釉	1/2以下
465	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	第46次	26P	2.0	－	0.6	大４		他04	長石釉	1/2以下
466	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	第46次	一括	1.9	－	0.5	登１		他03	鉄釉	1/2以下
467	陶器・土製円盤	志戸呂	第46次	一括	2.1	－	0.5	大４相当		他05	灰釉	1/2以下
468	土製・泥面子	在地	第４次	No.520	2.3	2.0	0.6					完形
469	土器・ふいごの羽口	在地	第５次	２T	残存5.8	残存5.5	－			鋳08		1/2以下
470	土器・ふいごの羽口	在地	第46次	3T　1・2層	残存3.9	残存3.1	－			素他01	鉱物付着(ガラス状)	1/2以下

第23表　土器類一覧表11

第２節　木製品類

１　概要

本報告の調査では生活用具、経済流通、他に加工材などの遺物が出土しているが図化できるものが少なかった。調査次は第10次、12次、55次である。

【図化木製品】

ここではまず図化できたものについて取り上げる。全て第55次調査の１号井戸出土の遺物である。

〇生活に関するもの

「**貯蔵**」では１は樽等の栓と考えられる。片側先端を削り、丸く成形している。反対側は平坦面を作り出し楕円形。平坦面には貫通孔あり、釘の痕か？。面取りを施している。

「**食膳**」では２は漆椀。内面を赤色・外面を黒色に漆を塗っている。高台裏に赤色で施文しているが、文様の意匠は不明である。低い高台からやや外反気味に立ち上がる浅めの椀である。全体に漆膜が薄い様に感じられる。

３は箸か？小破片のため詳細不明。

〇経済流通に関するもの

「**流通**」では４の荷札が出土している。樹種はヒノキで柾目取りの板を使用している。形態は短冊状で下端は細く尖らせる。上部両端に切り込みあり。両面に墨書がある。片面には「安兵衛様　勘久郎（又は勘三郎）」と書かれている。宛先が安兵衛、差出人が勘久郎（又は勘三郎）である。片面には「あわび弐連　江戸より」と書かれている。品名があわび、数量は２連、差し出し元が江戸である。２連という序数はあわびを干して細く短くしたものをひもで編み１連としたものが２つあるということである。

【未図化木製品】

他に遺物の状態が悪く図化できなかった木製品も存在する。それらについては以下の通りである。

第10次調査では、１号溝から板目取りの板材が出土している。遺物の状態悪く詳細不明であり、１点のみ計測した。

第12次調査では、１号土壙から板材が出土している。片面が炭化しており板目取りである。他に一括で取り上げた板材があるがいずれも片面炭化もしくは両面炭化している。

第55次では全て１号井戸から出土している。

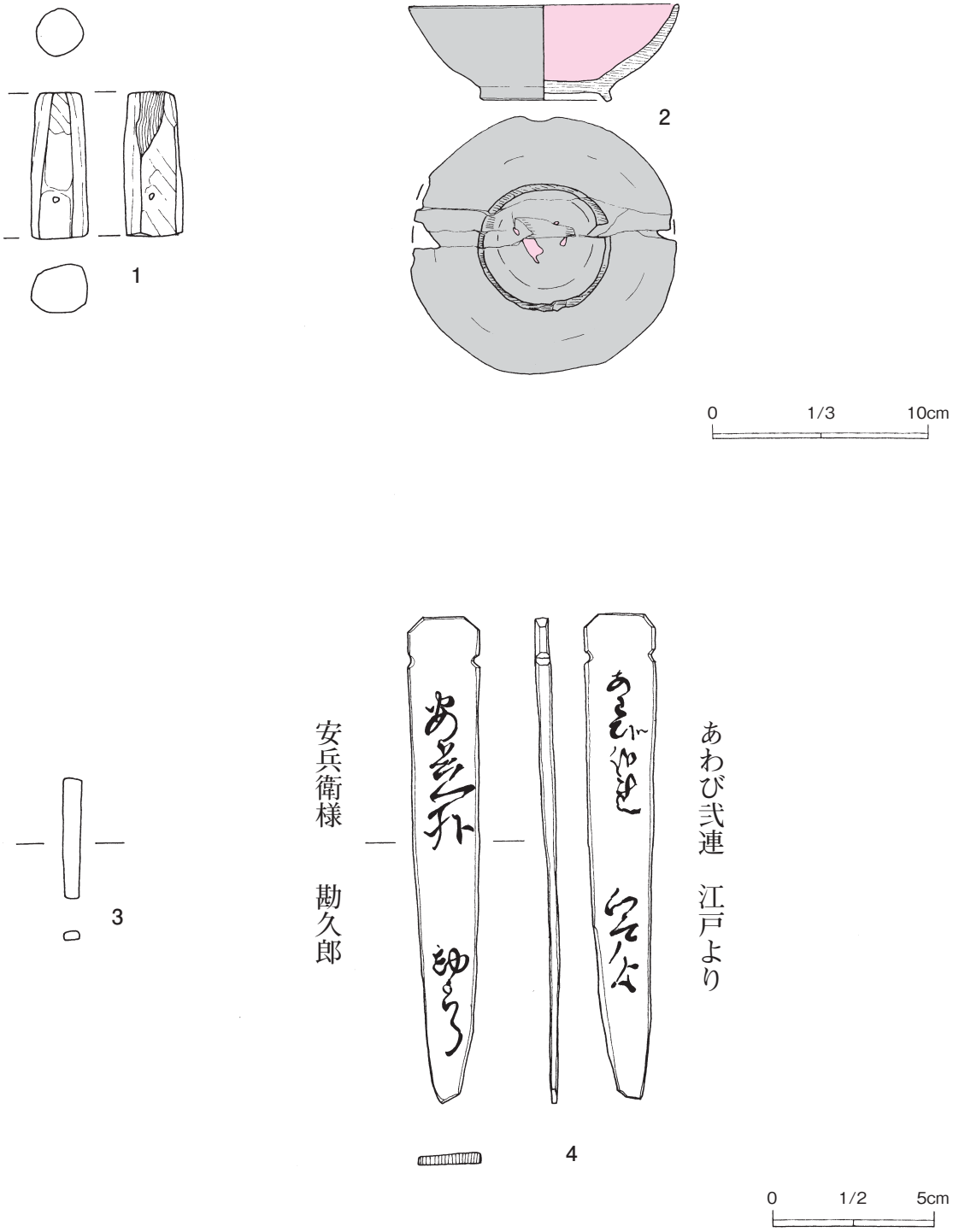
多数の木片が存在するが目立った加工痕は観察出来なかった。他に竹、ひょうたんの破片、茸などがある。なお、竹は先端を斜めに切断、反対側は破断して様子が不明であるが、節は抜かれていない。茸の種類は不明である。

以上、図化できなかった木製品についても、計測した法量や特徴等のデーターは第24表に掲載した。

（　）は残存値　　法量の単位は cm

調査名	図No.	遺物名	出土地点	法量	特徴	備考	遺物 ID
第10次	―	板材	第10次　1号溝　No37	長さ(24.6)/幅(1.6)/厚さ　0.5	板目取り	含水率高く詳細不明	661－0704－0010－0001
第12次	―	板材	第12次　1号土壙	長さ(12.3)/幅(5.4)/厚さ1.2	板目取り	片面炭化	61－0704－0012－0001
第12次	―	板材	第12次　一括取上	長さ(5.5)/径6.8/厚さ1.1		両面炭化	61－0704－0012－0002
第12次	―	板材	第12次　一括取上	長さ(10.7)/幅(5.7)/厚さ1.7		両面炭化。良好な資料を1点計測	61－0704－0012－0003
第55次	1	栓か	第55次　1号井戸	長さ6.7/幅2.6/厚さ2.2	穿孔有り。整形痕あり		661－0704－0055－0004
第55次	2	漆椀	第55次　1号井戸	口径12.4/器高4.4/高台径6.0	内面赤色外面黒色漆塗。高台裏に赤色で施文の痕跡あり		661－0704－0055－0001
第55次	3	箸か	第55次　1号井戸	長さ(3.7)/幅0.7/厚さ0.3		小破片の為詳細不明	661－0704－0055－0005
第55次	4	荷札	第55次　1号井戸	長さ15.2/幅2.2/厚さ0.3	両面に墨書あり		661－0704－0055－0002
第55次	―	木片	第55次　1号井戸	長さ(13.4)/幅(5.3)/厚さ1.5	目立った加工痕確認出来ず	多数の破片から良好な物1点のみ計測	661－0704－0055－0008
第55次	―	竹	第55次　1号井戸	長さ(18.0)/径1.8/穿孔径1.1	先端を斜めに切断		661－0704－0055－0003
第55次	―	ひょうたん	第55次　1号井戸	長さ(4.2)/幅(2.7)/厚さ0.35		小破片の為詳細不明	661－0705－0003－0004
第55次	―	茸	第55次　1号井戸	長さ9.9/幅5.7/厚さ2.25	種類不明		661－0704－0055－0007

第24表　木製品一覧表



第70図　木製品１

2　自然科学的分析　－木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

（1）試料

試料は第55次出土の木製品２点、漆椀（第71図１）及び荷札（同２）である。

（2）方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切断を作成し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察、同定する。

（3）結果

樹種同定の結果を第25表に示す。No１の漆椀は広葉樹１種類（ケヤキ）、No２の荷札は針葉樹１種類（ヒノキ）に分類された。

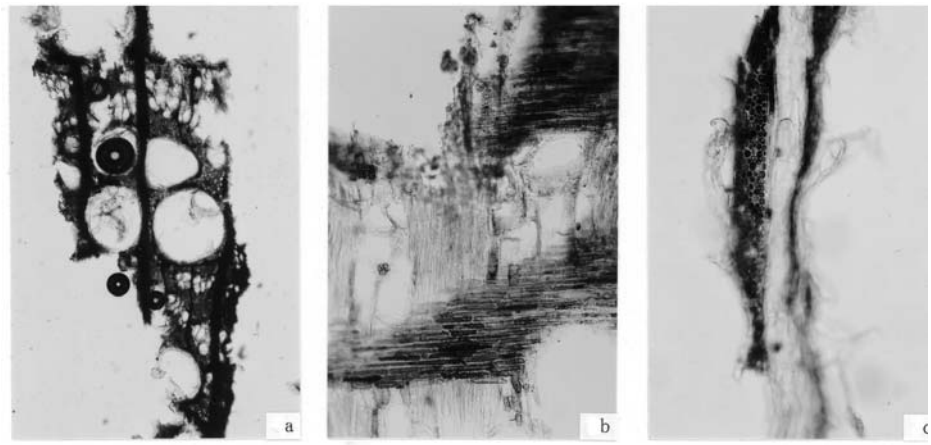
No１のケヤキについての主な解剖学的特徴を以下に記す。

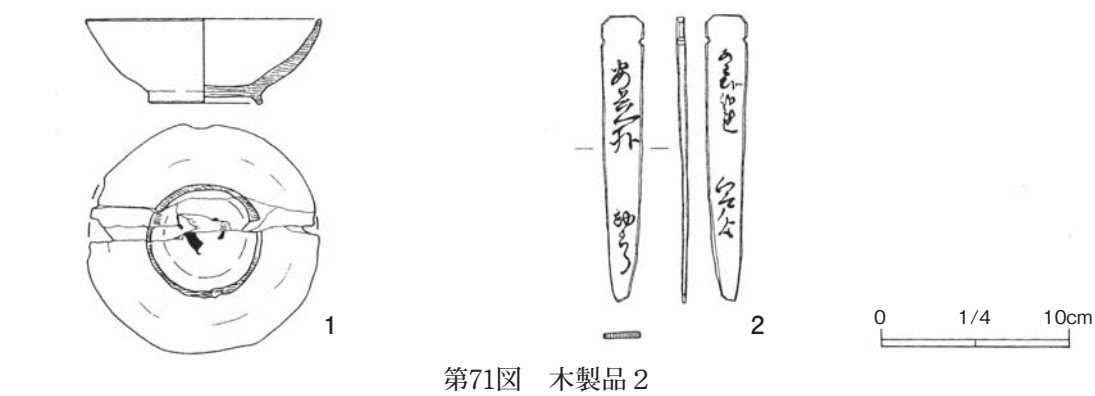
ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）ニレ科ケヤキ属環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外に急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の文様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、１～10細胞幅、１～60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

騎西城武家屋敷跡出土の木製品樹種同定結果

試料 No	図No.	遺物名	樹種	遺物 ID
1	第71図１	漆椀	ケヤキ	661－0704－0055－0001
2	第71図２	荷札	ヒノキ？	661－0704－0055－0002

第25表　木製品樹種同定結果





第71図　木製品２

第３節　金属製品

金属製品は鉄製品と銅・鉛製品がある。それぞれ用途別に記述するが、銭貨は別に扱う。出土地点は溝出土が多いが流れ込みである。

（１）鉄製品

○生活に関するもの

灯りの火打金（１・２）は山形に分類され、１はつまみ部が丸い。２は両端を欠損している。

住の釘（３・４）は断面角形のものを選んだ。３は上端を潰した後折り曲げ頭部を形成している。４はＬ字に折り曲げている。

生業の紡錘車（６）は軸部が欠損し円盤部が残る。

○信仰に関するもの

鋺（７・８）はいずれも口縁部の破片である。弔いに使用したものとしておく。

○いくさに関するもの

刀子（９）は先端および茎部が欠損している。小柄の刀身部（10）は茎と身の２つに分断している。

弾丸（11～13）は直径1.2～1.8mmで重量７g前後である。12は2.8gと軽く弾丸ではないかもしれない。

鉄鏃の鏃身（14）と思われるものは三角形で扁平である。

（２）銅・鉛製品

○生活に関するもの

嗜好・遊びの煙管（15～17）は雁首と吸口があり雁首（15）は火皿のみである。吸口は沈線により格子目を施すもの（16）と無文のもの（17）がある。

○信仰に関するのもの

鋺（18）であろうか。口縁部である。

○いくさに関するもの

柄頭（19）は薄い板で製作されている。

縁金具（20）は捻れている。甲冑に使用されたものか。

小柄の柄（21）は両端欠損している。

弾丸（23～32）は10次で多量に出土し、30以外すべて鉛である。23・25・26・29・30は中央に鋳型合わせ目の稜が、26・29・31には湯口が残り整形が粗雑である。24・28には平坦部分が巡りバリ取りの成形痕か。25は平坦部分が多面を成す。32は腐食が進行。

○ほか

33は細長い板状の金具で両端に取付の穿孔を設ける。表面には魚々子模様が見られる。

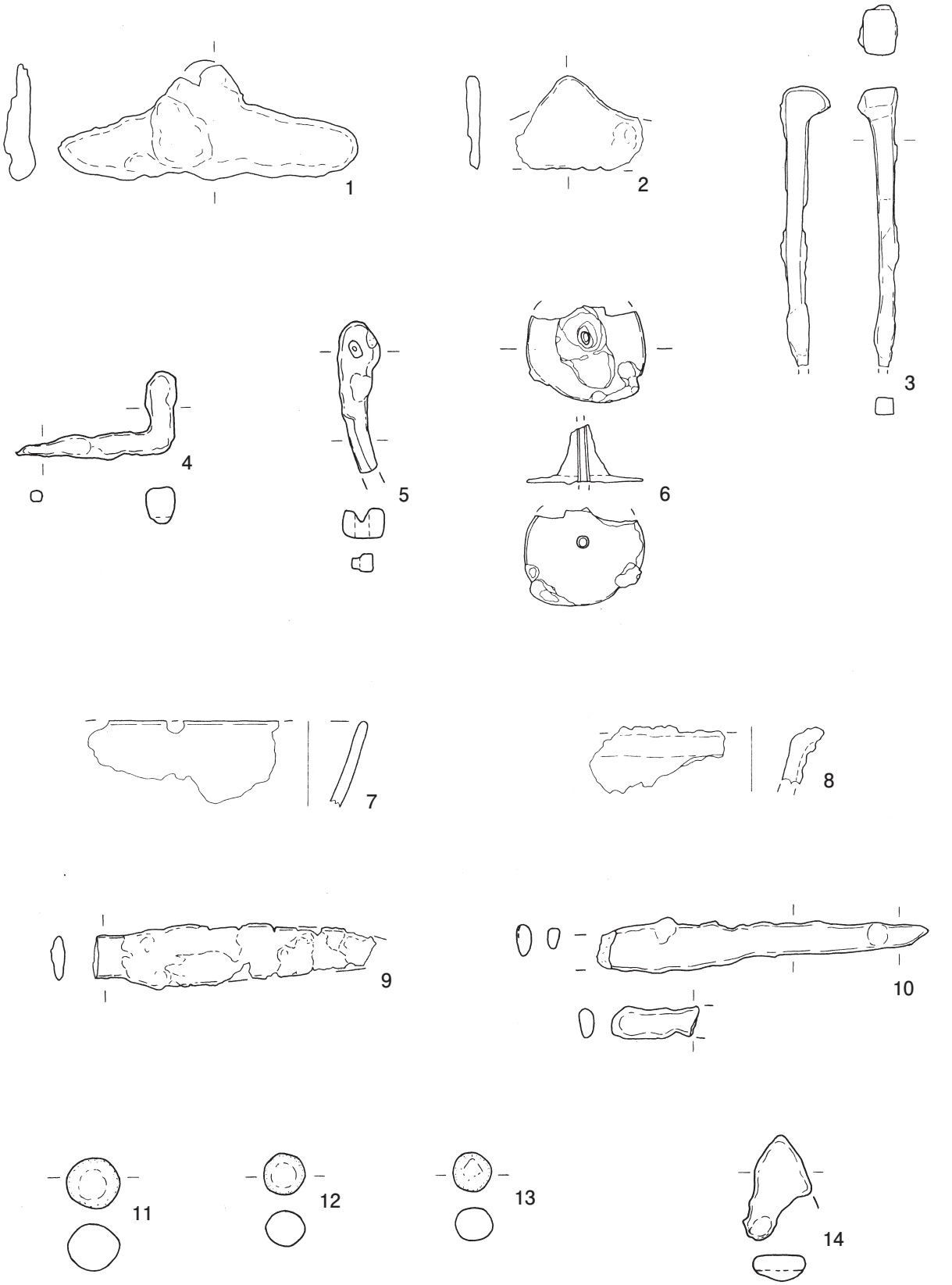
34は全周欠損している。裏面に固定用と思われる凸部を有する。

（３）銭貨

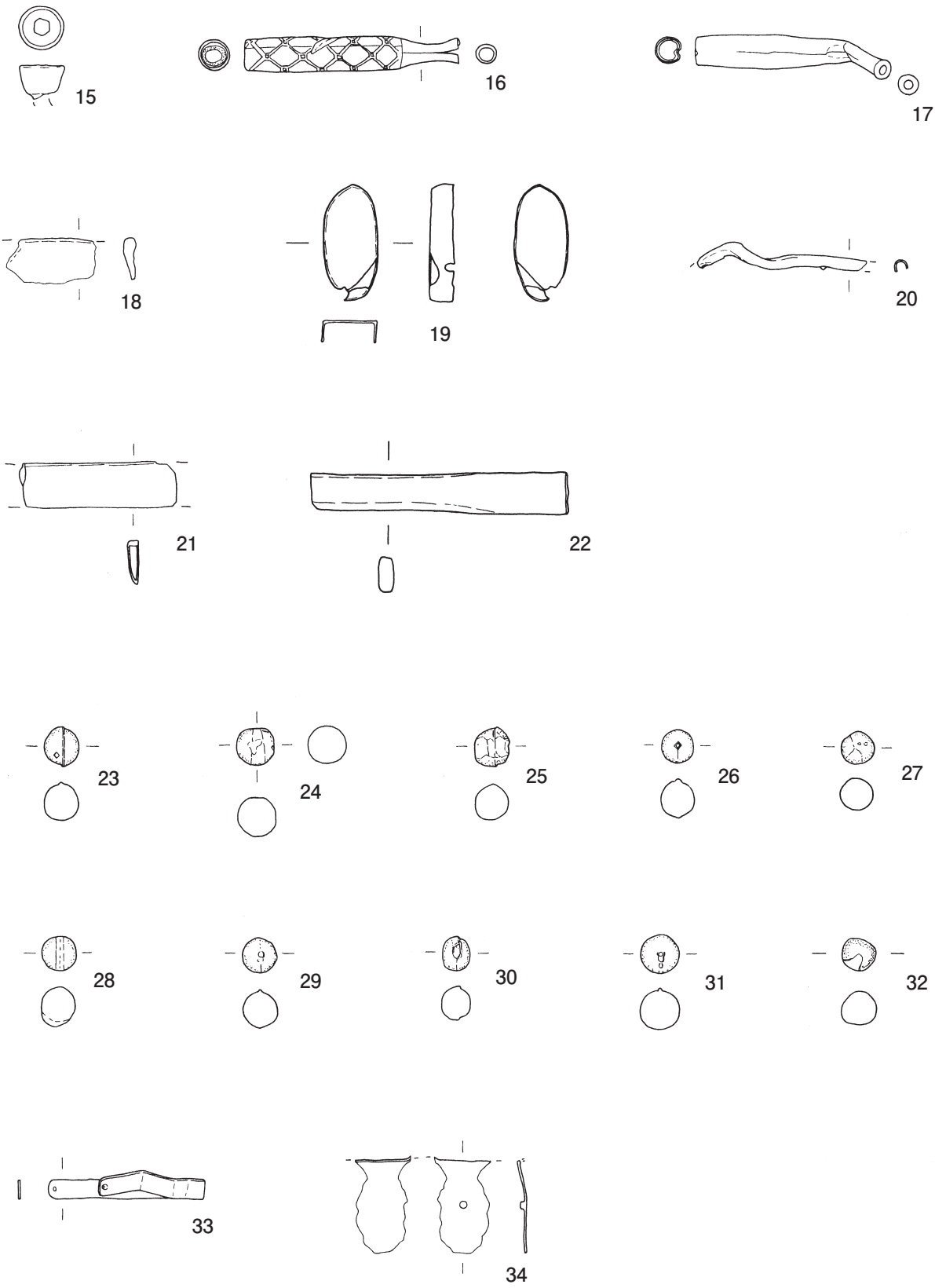
総数30枚が確認されている。うち近世の寛永通宝が２点、他は中世以前の渡来銭である。

寛永通宝は古であり、４次（38）で出土している。

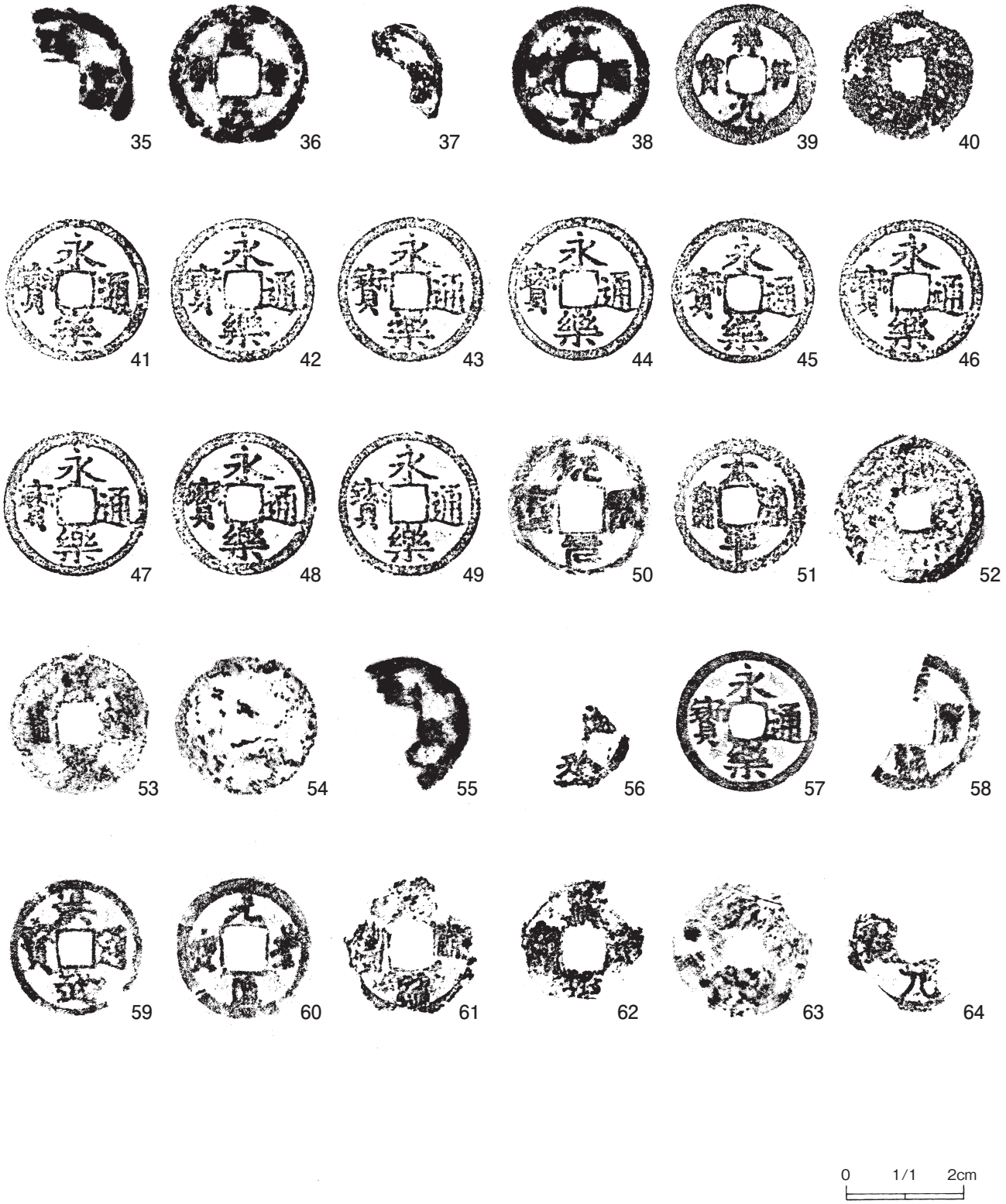
41～49は５次６井（旧７壙）出土で９枚全て永楽通宝である。



第72図　金属製品１（鉄）



第73図　金属製品２（銅・鉛）



第74図　金属製品３（銭貨）

（　）は残存値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	材質	調査区	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物 ID	遺物 ID２	備考
1	火打金	鉄	第５次	一括	10.1	3.9	0.2	0005－0002		
2	火打金	鉄	第５次	一括	(4.3)	3.1	0.4	0005－0005		
3	釘(角)	鉄	第５次	４井	9.5	1.5	0.6	0005－0001		
4	釘(角)	鉄	第46次	一括	5.4	1.0	－	0046－0003		
5	壺金？	鉄	第47次	１Ｔ　１・２層	4.8	0.8	－	0047－0005		
6	紡錘車	鉄	第56次	２溝No.20	4.2	－	2.0	0056－0001		
7	鋺状製品	鉄	第55次	１井No.１	6.4	(3.2)	0.4	0055－0001		
8	鋺？	鉄	第55次	一括	(4.5)	(2.4)	0.4	0055－0003		
9	刀子状製品	鉄	第５次	一括	(9.6)	2.1	0.4	0005－0004		
10	小柄(刀身)	鉄	第46次	１溝	(11.2)	2.1	0.8	0046－0002		
11	弾丸	鉄	第47次	19P	1.8	－	－	0047－0004		6.9g
12	弾丸？	鉄	第47次	１Ｔ　No.43	1.3	－	－	0047－0007		2.8g
13	弾丸	鉄	第47次	一括	1.2	－	－	0047－0008		7.1g
14	鉄鏃？	鉄	第47次	一括	(3.5)	(2.2)	0.4	0047－0009		
15	煙管(雁首)	銅	第46次	５壙No.３	－	1.5	－	0046－0002		
16	煙管(吸口)	銅	第４次	No.26	7.2	1.1	－	0004－0001		
17	煙管(吸口)	銅	第５次	一括	6.6	0.9	－	0005－0006		
18	鋺？	銅	第５次	１Ｔ	(3.0)	(1.5)	0.4	0005－0005		
19	柄頭	銅	第46次	４壙２Ｔ	3.9	1.8	0.8	0046－0001	町金159	発錆
20	縁金具	銅	第５次	１Ｔ	(5.8)	－	－	0005－0004		
21	小柄(柄)	銅	第53次	一括	(5.4)	1.5	0.4	0053－0002		
22	小柄(柄)	銅	第10次	一括	8.6	1.3	0.55	0010－0007	町金154	
23	弾丸	鉛	第５次	１井No.215	1.2	－	－	0005－0001		9.8g
24	弾丸	鉛	第10次	１溝No.17	1.25	－	－	0010－0001		11.7g
25	弾丸	鉛	第10次	１溝No.19	1.3	－	－	0010－0002		10.0g
26	弾丸	鉛	第10次	２溝No.44	1.15	－	－	0010－0003		7.9g　良品
27	弾丸	鉛	第10次	２溝No.45	1.1	－	－	0010－0004		6.8g　表面発錆
28	弾丸	鉛	第10次	２溝No.46	1.2	－	－	0010－0005		7.8g
29	弾丸	鉛	第10次	２溝No.60	1.15	－	－	0010－0006		7.9g
30	弾丸	銅	第11次	１溝No.３	1.1	－	－	0011－0001		5.1g
31	弾丸	鉛？	第47次	６溝	1.3	－	－	0047－0001		12.6g
32	弾丸	鉛	第56次	一括	1.2	－	－	0056－0001		6.1g
33	金具	銅	第５次	No.82	5.3	0.7	0.1	0005－0002		
34	飾り金具	銅	第５次	No.32	3.2	1.6	－	0005－0003		

No.	調査区	出土地点	銭種(銭貨名は番号順)
35	第４次	No.46	皇宋通宝
36	第４次	No.203	元豊通宝
37	第４次	No.249	不明
38	第４次	No.255	寛永通宝(古)
39	第５次	４溝	祥符元宝
40	第５次	１井	不明
41～49	第５次	６井No.90	永楽通宝９
50	第５次	No.93	天聖元宝
51～54	第５次	一括	太平通宝、不明３
55	第11次	７壙	不明
56	第46次	１溝	寛永通宝
57	第46次	１井	永楽通宝
58･59	第46次	４壙２Ｔ	元豊通宝、洪武通宝
60	第46次	一括	元豊通宝
61･62	第53次	一括	皇宋通宝、不明
63･64	第53次	１溝	不明２

第26表　金属製品一覧表

第４節　石製品類

ここでは、成形したものを使用した石製品と使用による損耗形態を呈す石器を石製品として、墓標・供養塔である板碑・五輪等を石造物として扱う。

いずれの遺物も遺構出土があるが流れ込みであろう。

（１）石製品

石臼（１～21）は、搗臼（19）と粉挽臼、茶臼（２・７・８・12）に大別される。いずれも破片で全形は窺えない。４は側面に２箇所、６は１箇所穿孔されている。５と同様回転棒を挿入した穴にしては貫通しており違和感を覚える。

22・23は、扁平で丸く径1.7cm前後の黒色の石で、碁石としておく。

硯は24～28で、24は幅1.9cmの小さなものである。

砥石は直方体を基本形とするもの（29～36）が主で、損耗により変形するものがある。泥岩質のものがほとんどである。37～39の砥石は板状の石に顕著な磨り痕が残るものである。40は立体的で穿孔や溝状の研ぎ痕がある。

磨石（41～66）は礫の原形が残る物が多く使用により形成された面が不規則に存在する。デイサイトが多数を占める。名称が縄文時代のものを連想させるが砥石と区別するために分割しておく。

砥石・磨石共に金属を砥いだことによる線条痕が残るものが見られ、鎌や武器類などの刃物を対象としたものであろう。58・59・63～65には敲打痕が残る。

67は方形の穿孔が認められる。

68～73は石英で擦痕・潰れが認められるもので火打石として扱った。判別は困難であるが火打金の出土例から当然存在するものとして想定しておくべきものである

（２）石造物

【板碑】　板碑は17点を数えるが、破片のみである。

○年号　年号がわかるものは無く、75の　□月27日、79の３月20？が月日がわかる。

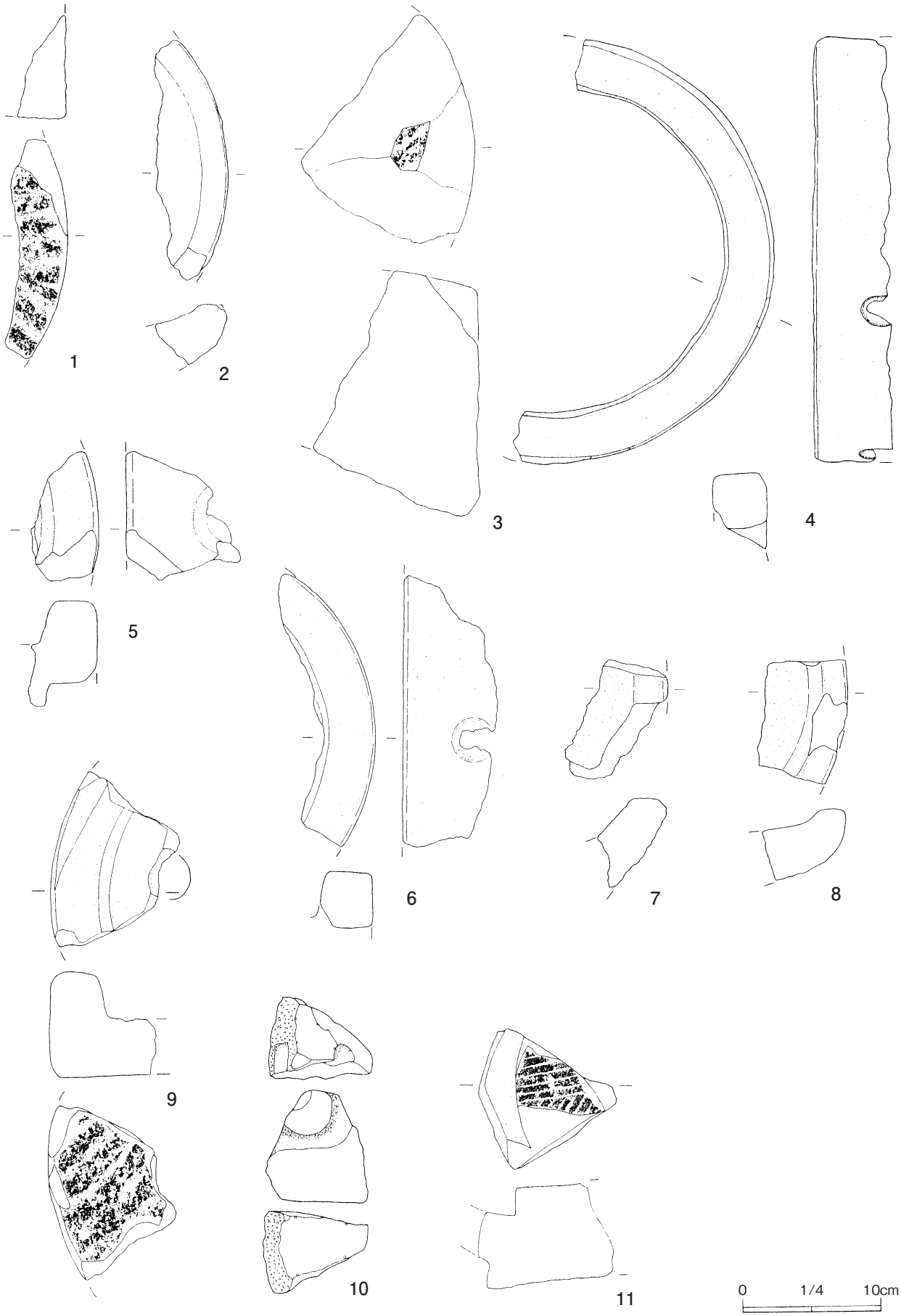
○種子・銘文　種子はわかるものは全てキリークで76・78・79・81・87・89である。銘文は80は光明真言で86には□教禅尼とある。

○使用痕　２次使用としては表面に摩耗痕が認められるものがあり（74・78・86・88）、砥石として使用されたものであろう。

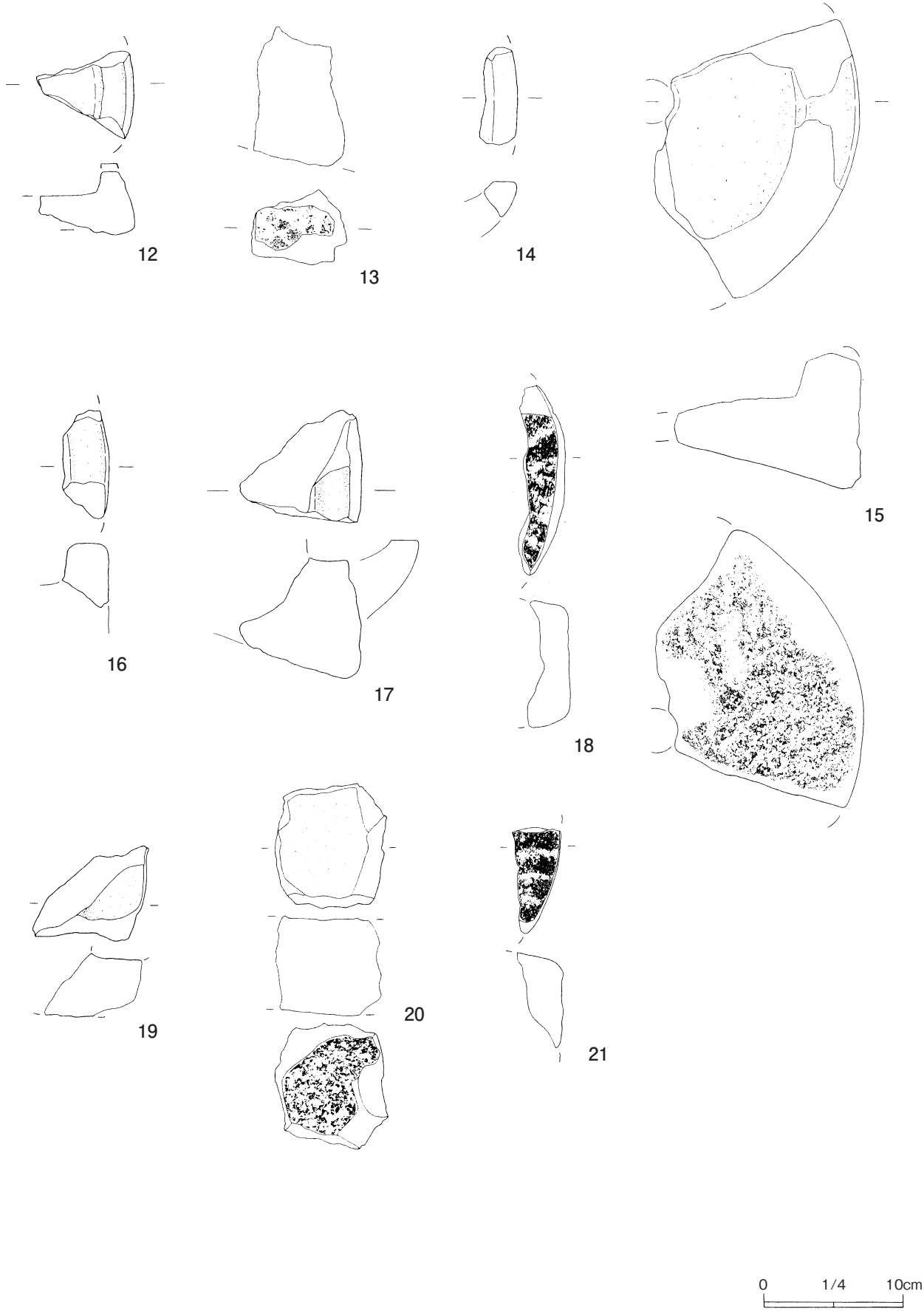
○付着物　廃棄以降であろうか、煤・炭化物が付着するものが多数あり（74・76・78・79・85）、なんらかの焼却や戦乱時の燃焼に伴うものであろう。第５次のものが多い

【五輪塔】　五輪塔は２点を数える。いずれも地輪（91・92）の破片で92には摩耗痕がある。砥石として使用されたものであろう。

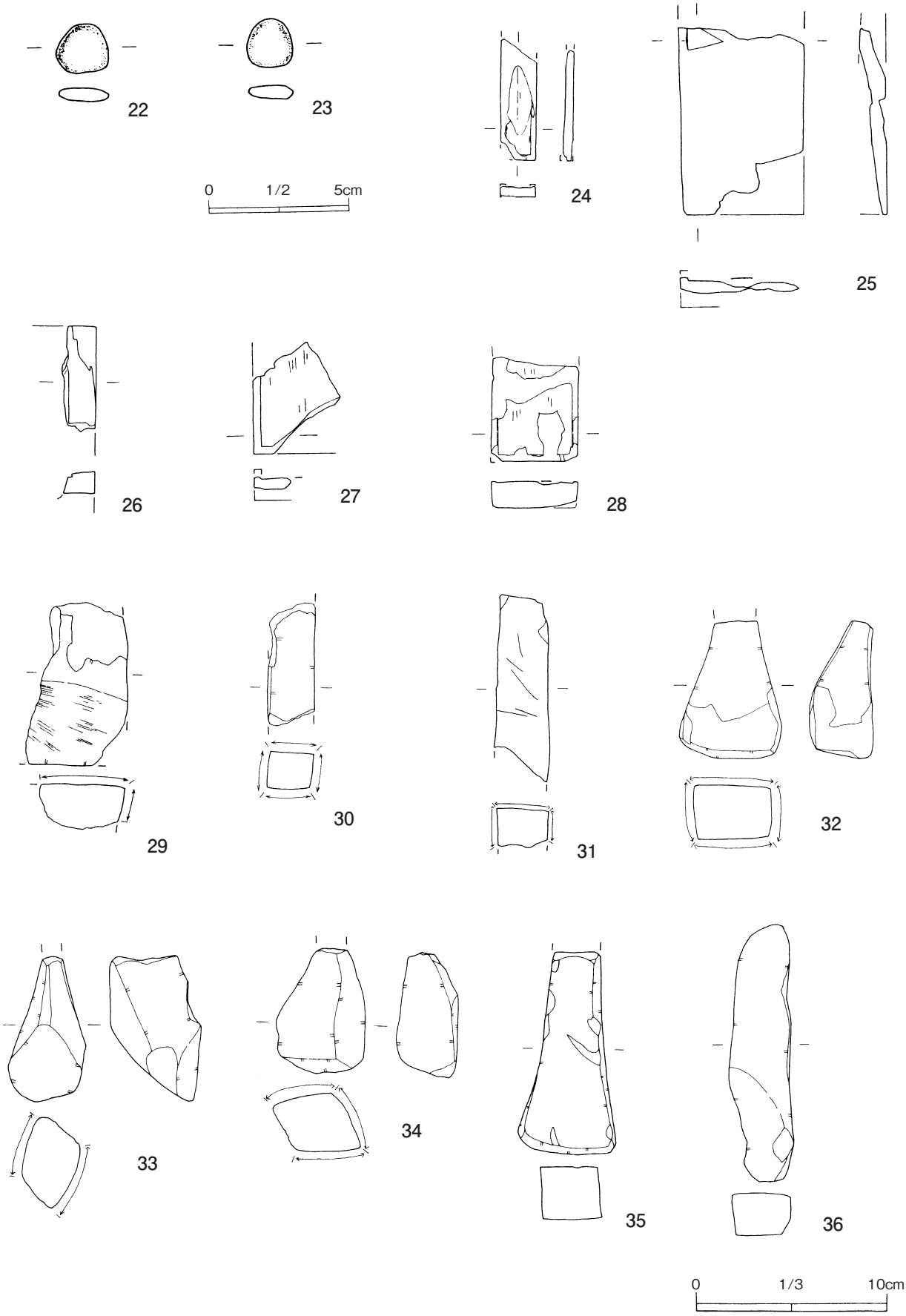
【ほか】　93は長方形を呈する板状石の中央に円形の凹みを有する。用途は不明である。



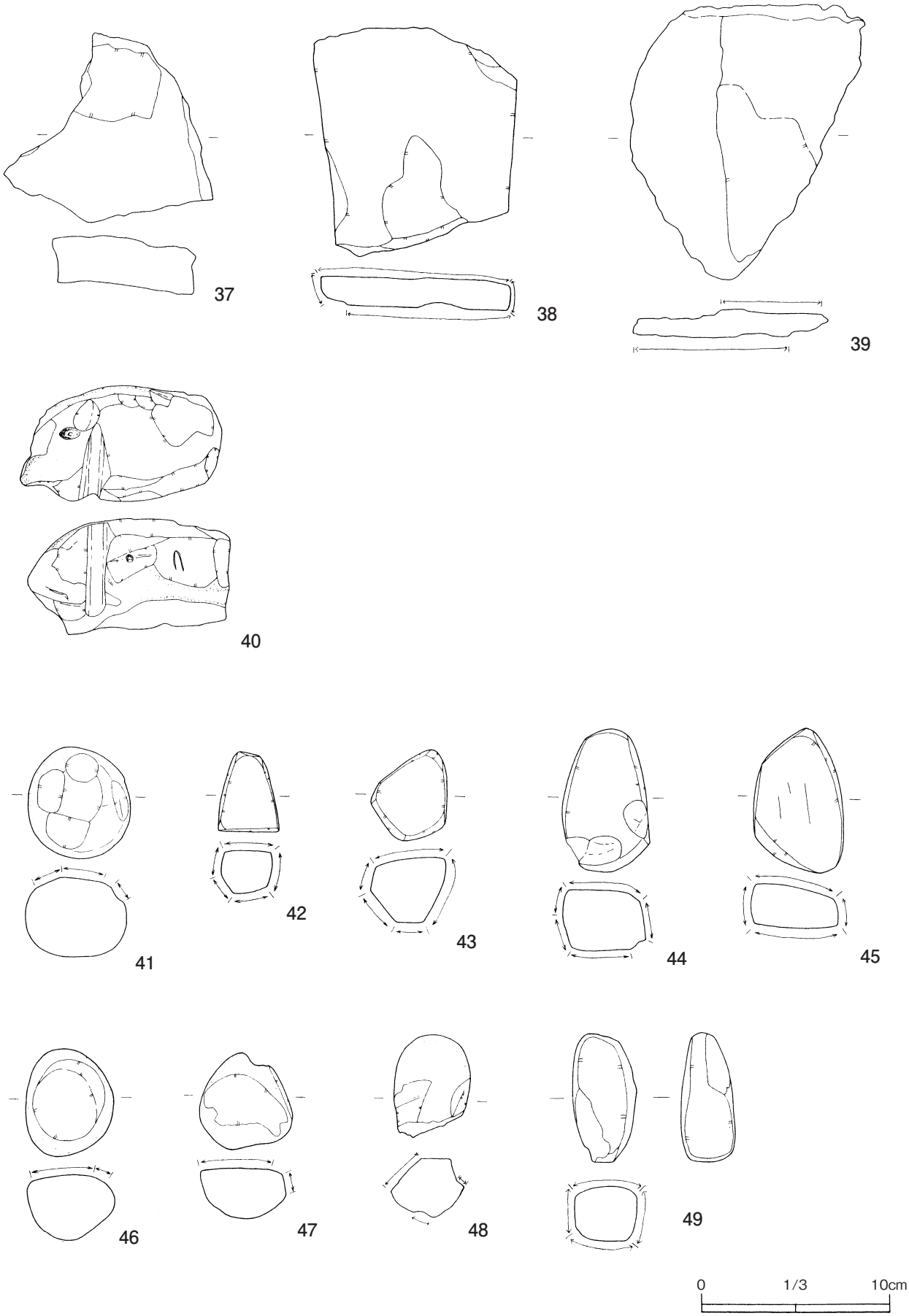
第75図　石製品類１（石臼１）



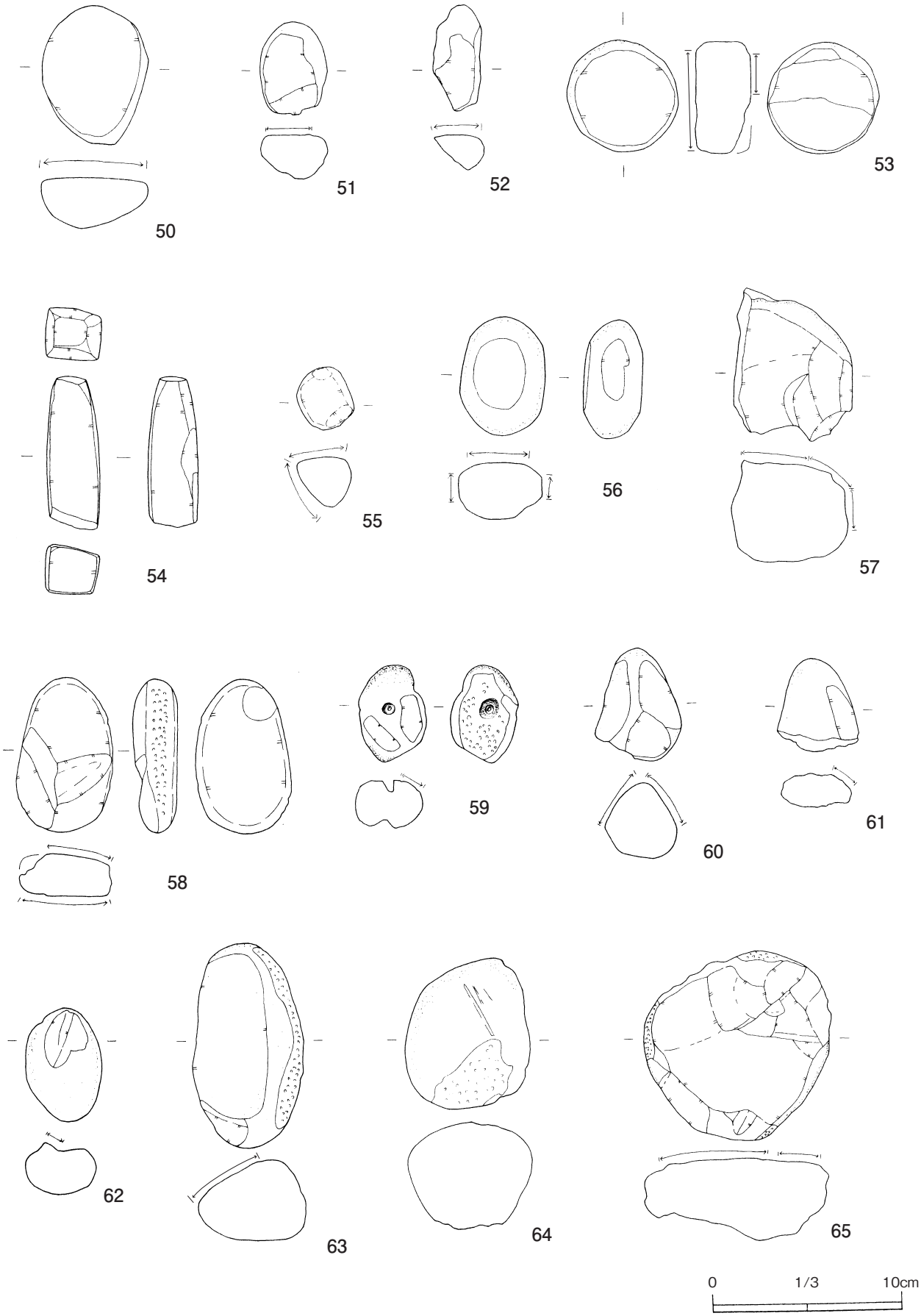
第76図　石製品類２（石臼２）



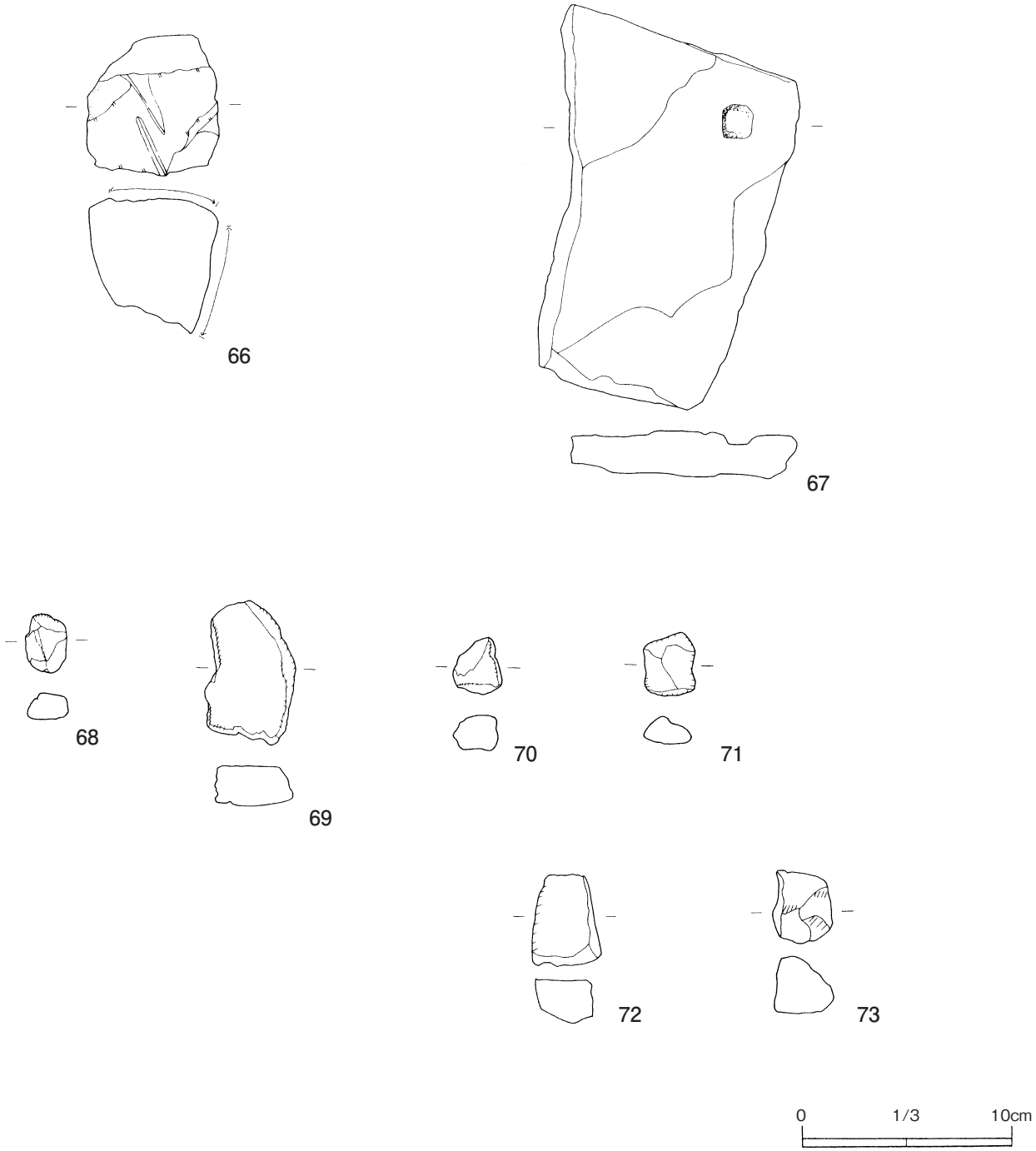
第77図　石製品類３（碁石・硯・砥石）



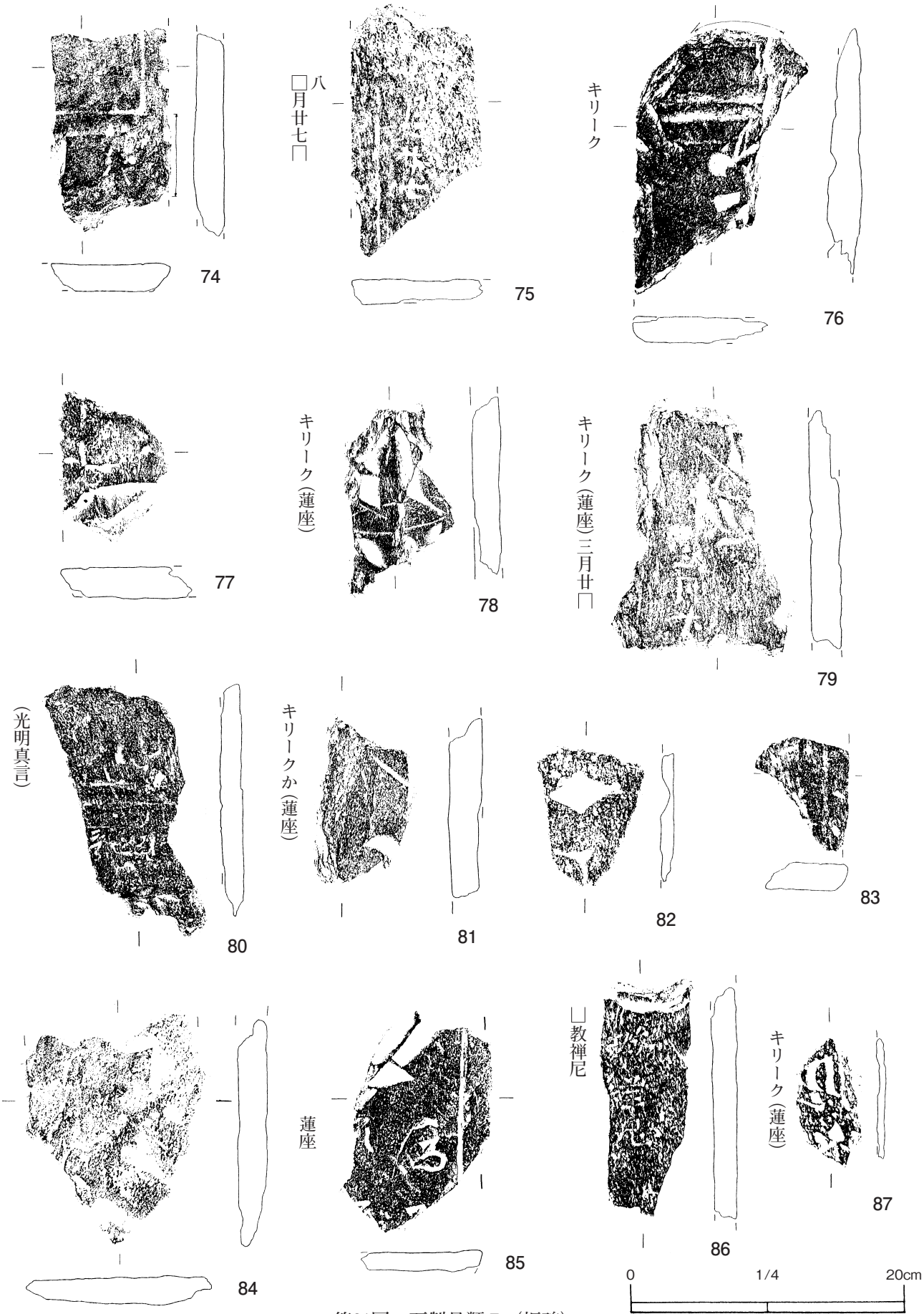
第78図　石製品類４（砥石・磨石）



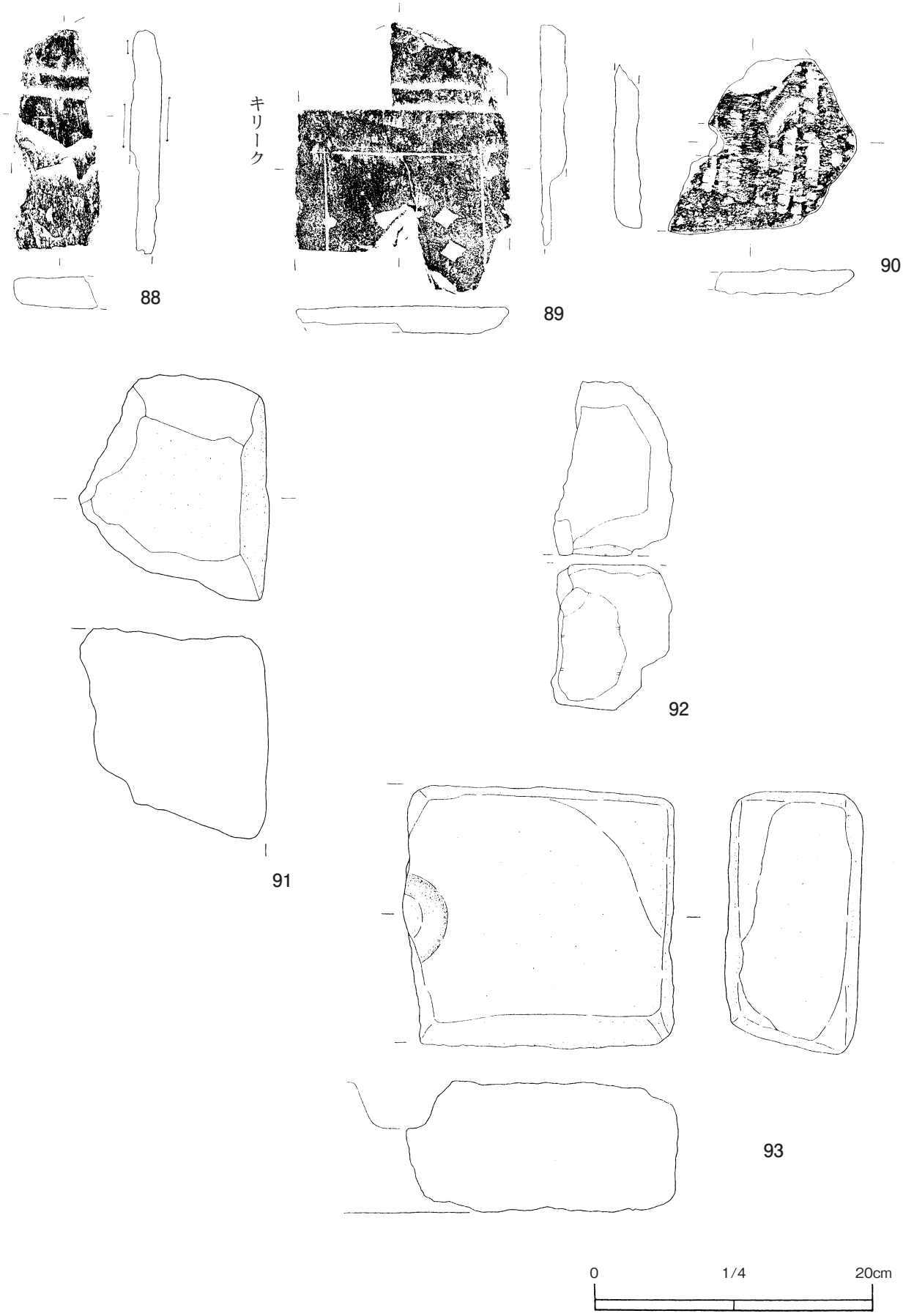
第79図　石製品類５（磨石）



第80図　石製品類６（磨石・火打石）



第81図　石製品類７（板碑）



第82図　石製品類８（板碑・五輪塔等）

（　）は残存値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	調査区	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID１	遺物ID２	備考
1	粉挽臼(上臼)	安山岩	第５次	１溝		(3.7)	(7.5)		石01	
2	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	第５次	１井No.286		(5.2)	(4.5)		石06	
3	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第５次	５井		(12.6)	(17.0)		石05	
4	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第５次	No.60・297・298		(3.8)	(6.0)		石02	
5	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第５次	一括		(5.0)	(8.3)		石03	
6	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第５次	一括		(4.5)	(6.9)		石04	
7	茶臼(下臼)	不明	第５次	No.250		(5.0)	(6.5)		石07	
8	茶臼(下臼)	不明	第５次	一括		(6.1)	(3.6)		石08	
9	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第10次	１溝No.29		(12.8)	7.8		石01	
10	石臼か	不明	第10次	１溝No.14		(7.5)	(8.2)	0010－0001		
11	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第10次	１溝No.15		(10.3)	(7.8)		石02	
12	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	第46次	１Ｔ No.３		(6.3)	(4.5)		石01	
13	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第46次	１溝No.14		(5.4)	(10.0)		石02	
14	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第47次	１溝		(7.0)	(2.5)		石13	
15	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第47次	12P		(20.2)	(9.8)		石12	
16	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第47次	１Ｔ No.48		(7.8)	(4.6)		石07	
17	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第47次	No.１		(8.7)	(8.6)		石08	
18	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第53次	３層		(13.7)	(9.2)	0053－0001		
19	搗臼	角閃石安山岩	第53次	一括		(8.2)	(4.6)	0053－0002		
20	石臼か	不明	第55次	４溝８層		(9.0)	(8.1)	0055－0001		
21	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第56次	２溝下層		(7.6)	(7.0)	0056－0001		
22	碁石	不明	第46次	43P	1.7	1.9	0.5	0046－0001		
23	碁石	不明	第56次	２溝	1.7	1.6	0.4	0056－0002		
24	硯	不明	第５次	一括	(6.6)	1.9	(0.6)		石09	
25	硯	不明	第47次	６溝No.39、一括	(10.1)	6.6	(1.4)		石01	
26	硯	不明	第47次	６溝	(5.7)	(1.9)	(1.2)		石03	
27	硯	不明	第47次	一括	(6.0)	(4.7)	(0.7)		石02	
28	硯	不明	第53次	一括	(5.6)	4.7	1.4		石01	
29	砥石	不明	第５次	１溝No.167	(8.8)	(4.8)	(2.5)		石10	
30	砥石	泥岩	第５次	一括	(6.5)	2.5	2.0		石11	
31	砥石	泥岩	第46次	３Ｔ１溝	(10.1)	3.0	(2.2)	0046－0001		
32	砥石	不明	第53次	一括	(7.5)	(5.5)	3.4		石03	
33	砥石	泥岩	第53次	一括	(7.9)	(4.2)	5.0		石04	
34	砥石	泥岩	第53次	一括	(6.7)	3.5	3.3		石05	
35	砥石	泥岩	第55次	４溝No.12	(11.0)	5.3	2.8	0055－0006		
36	砥石	泥岩	第55次	一括	13.9	3.3	2.3	0055－0008		
37	砥石	泥岩	第55次	４溝No.５	10.4	11.5	2.6	0055－0003		
38	砥石	片岩	第55次	No.３	12.6	11.0	1.6	0055－0007		
39	砥石	緑泥石片岩	第５次	No.42	15	12.8	1.5	0005－0001		
40	砥石	緑泥石片岩	第55次	一括	6.3	11.2		0055－0005		
41	磨石	デイサイト	第５次	１溝１Ｔ	6.2	5.7	4.4		石13	
42	磨石	デイサイト	第５次	１溝２Ｔ	4.4	2.8	2.4		石12	
43	磨石	デイサイト	第５次	１井No.214	4.7	4.4	3.5		石16	
44	磨石	デイサイト	第５次	一括	7.9	4.8	3.4		石14	
45	磨石	デイサイト	第５次	一括	7.8	4.8	2.3		石15	
46	磨石	デイサイト	第５次	一括	5.9	4.8	3.6		石17	
47	磨石	デイサイト	第５次	一括	4.8	5.1	2.8		石18	
48	磨石	デイサイト	第47次	６溝No.46	5.7	4.0	3.2	0047－0001		
49	磨石	デイサイト	第47次	６溝No.61	7.0	3.5	3.0		石15	
50	磨石	デイサイト	第47次	９溝No.11	7.6	5.8	2.8		石04	
51	磨石	デイサイト	第47次	１Ｔ１・２層	5.0	3.6	2.4	0047－0002		
52	磨石	デイサイト	第47次	２Ｔ１・２層	5.8	2.6	1.9		石10	
53	磨石	角閃石安山岩	第47次	イ集１	6.1	6.1	3.0		石05	
54	磨石	角閃石安山岩	第47次	イ集２	8.3	2.9	2.7		石06	
55	磨石	角閃石安山岩	第47次	一括	3.4	3.0	2.7		石09	
56	磨石	角閃石安山岩	第47次	一括	6.4	4.6	3.0		石11	
57	磨石	角閃石安山岩	第53次	１溝	8.2	6.5	5.5	0053－0001		
58	磨石	角閃石安山岩	第53次	一括	8.5	5	2.3		石02	
59	磨石	角閃石安山岩	第53次	一括	5.3	3.5	2.5	0053－0003		
60	磨石	角閃石安山岩	第53次	一括	6.2	4.7	4.1	0053－0002		
61	磨石	角閃石安山岩	第53次	一括	5.0	4.4	1.8	0053－0004		
62	磨石	角閃石安山岩	第55次	４溝No.20	6.2	4.1	2.8	0055－0004		
63	磨石	角閃石安山岩	第55次	１井	11.1	6.0	4.3	0055－0001		
64	磨石	角閃石安山岩	第55次	１井	8.2	6.8	5.8	0055－0002		
65	磨石	角閃石安山岩	第56次	２溝下層	10.4	10.0	4.5	0056－0001		
66	磨石	角閃石安山岩	第56次	１壙No.１	6.8	6.3	6.5	0056－0002		
67	凹石	緑泥石片岩	第10次	１溝No.35	19.6	12.5	2.1	0010－0001		
68	火打石	石英	第５次	２溝	2.7	1.9	1.3		石20	
69	火打石	石英	第５次	１Ｔ	6.6	3.8	2.0		石19	
70	火打石	石英	第５次	一括	2.4	2.3	1.6		石21	
71	火打石	石英	第５次	一括	2.9	2.4	1.3		石22	
72	火打石	石英	第47次	１Ｔ１・２層	4.4	3.2	2.0	0047－0003		
73	火打石	石英	第55次	一括	3.5	2.9	2.7	0055－0009		

第27表　石製品一覧表１

法量の単位はcm

図 No.	遺物名	調査区	出土地点	縦×横×厚	遺物 ID 1	遺物 ID 2	備考
74	板碑	第５次	１溝№127	15×９×２	0005－0001		一部磨耗　砥石として使用　全面黒化
75	板碑	第５次	１溝№194	19×10×２	0005－0002		
76	板碑	第５次	１溝３Ｔ	18×13×３	0005－0003		上部つぶれ（使用痕？）　表面黒化スス付着
77	板碑	第５次	№48	13×９×２	0005－0004		
78	板碑	第５次	一括	14×９×２	0005－0006		全面磨耗　全面うすく黒化
79	板碑	第５次	一括	18×13×２	0005－0005		裏面スス付着
80	板碑	第10次	１溝№７	20×10×２	0010－0001		
81	板碑	第10次	１溝№９	14×８×３	0010－0002		
82	板碑	第11次	１溝№27	10×９×１	0011－0001		
83	板碑	第12次	一括	９×７×２	0012－0001		
84	板碑	第47次	６溝№13	17×14×２		石14	
85	板碑	第47次	６溝№37	17×10×２	0047－0001		表面砥石として使用？　スス付着
86	板碑	第47次	１Ｔ№20	18×８×２	0047－0002		右断面、砥石として使用
87	板碑	第47次	一括	10×５×１	0047－0003		
88	板碑	第53次	２溝	17×６×２	0053－0001		表裏磨耗
89	板碑	第55次	一括	19×15×２	0055－0001		
90	板碑	第56次	一括	14×12×２	0056－0001		左端穿孔あり
91	五輪塔（地輪）	第47次	１Ｔ	16×14×15		石17	デイサイト
92	五輪塔（地輪）	第55次	４溝№22	13×９	0055－0002		
93	加工石	第47次	１Ｔ№44	19×20×10		石16	

第28表　石製品一覧表２

第５節　他時期の遺物

○旧石器時代

硬質頁岩製のものが２点、10次（１・２）で出土している。１は連続して剥離された剥片で、打点・バルブ・バルバースカーが残る。ほぼ剥離したままのものであるが、打面外縁に連続する剥離が見られる。２は片面剥離の尖頭器で背面に大きく素材面を残す。素材は大きく湾曲する。背面には側縁に加工痕がある。先端及び基部を欠損している。衝撃痕が観察され、使用による欠損と思われる。３は黒曜石製で４次で出土した。木葉形のもので基部のみ残存する。調整加工は中央まで施されさらに縁辺部に沿って細かな調整も行われている。

○縄文時代

『土器』

４～７は早期条痕文系、８～14・41は関山系、15は諸磯Ｃ式、16は金雲母を含み堅緻で前期末から中期初頭、66は晩期３ａ式の深鉢で玉抱き三叉文が施され、騎西地域内では珍しい。ほか中期から後期の土器がある。

『石器』

石核（67）　頭部に僅かな自然面を止める凝灰岩製である。その自然面からはおよそ角礫素材かと窺われ、表皮面剥離後の二次剥離では頭部面を用いて素材石材の長軸方向へ、すなわち縦長剥片の剥離作業が認められる。但し、頻繁な作業ではなく、その後は横長剥片の剥離作業に転換し、90度の打面転移を繰り返しながら、横長剥片を剥離している。剥離面からは幅100mm前後の大型横長板状剥片を主体に剥離しており、県内北東部や東部地域にあっても稀有な資料にあたろう。最大長115mm、最大幅53mm、頭部最大長54mm、同最大幅52mm、重量380gを測る。

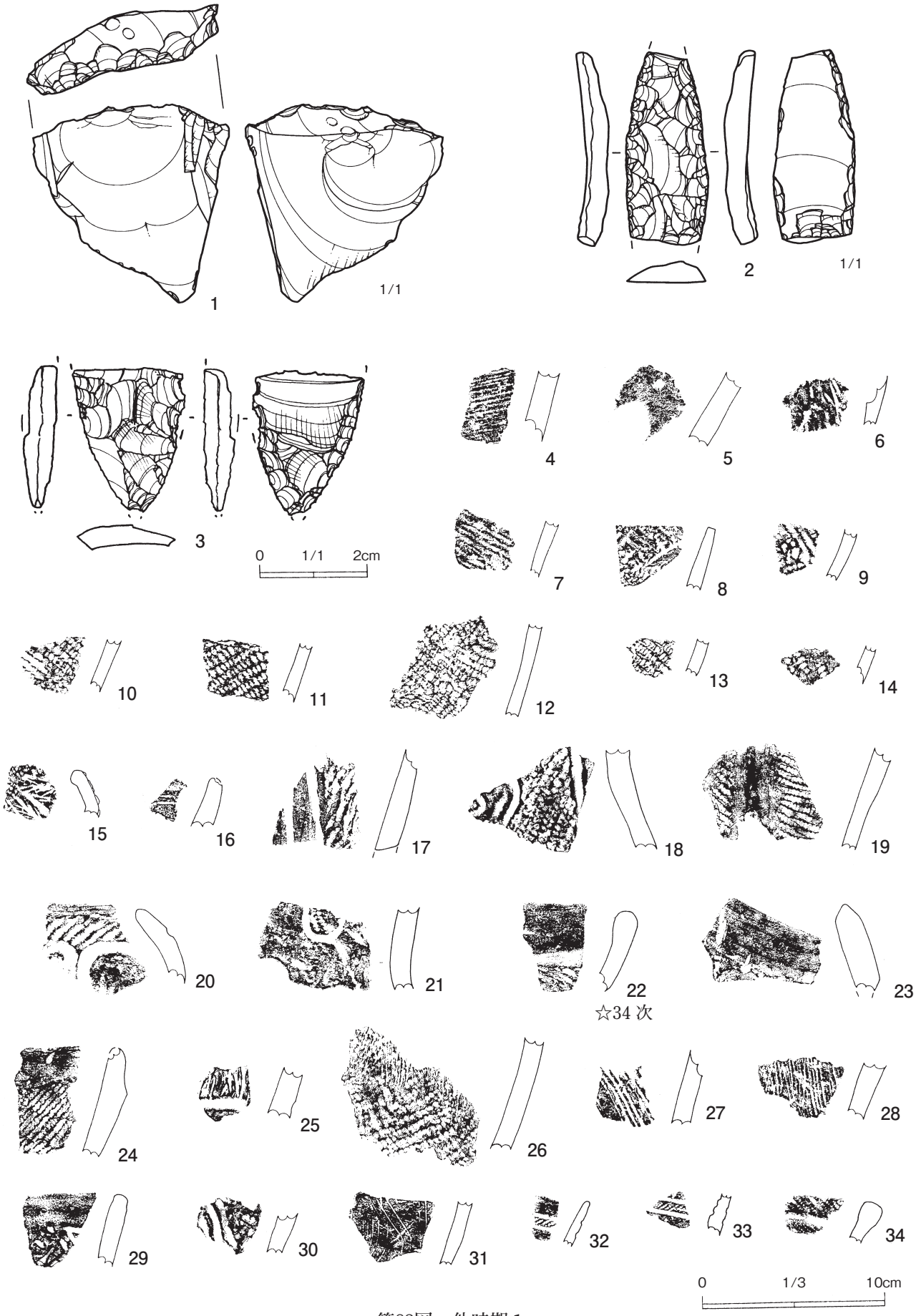
石鏃（68～71）　68は先端が欠損している。69は全般に剥離が大きく裏面は周縁に調整痕が認められるのみである。70は先端及び左脚を欠損する。71は先端両脚を欠損しており、小型で薄い。68・71は基部が内湾、69・70はほぼ直線的である。70は幅が狭い。

磨石・敲石・凹石（72～77）　74は棒状礫で周縁に敲打痕が残る。77は下面に敲打による平坦面がある。

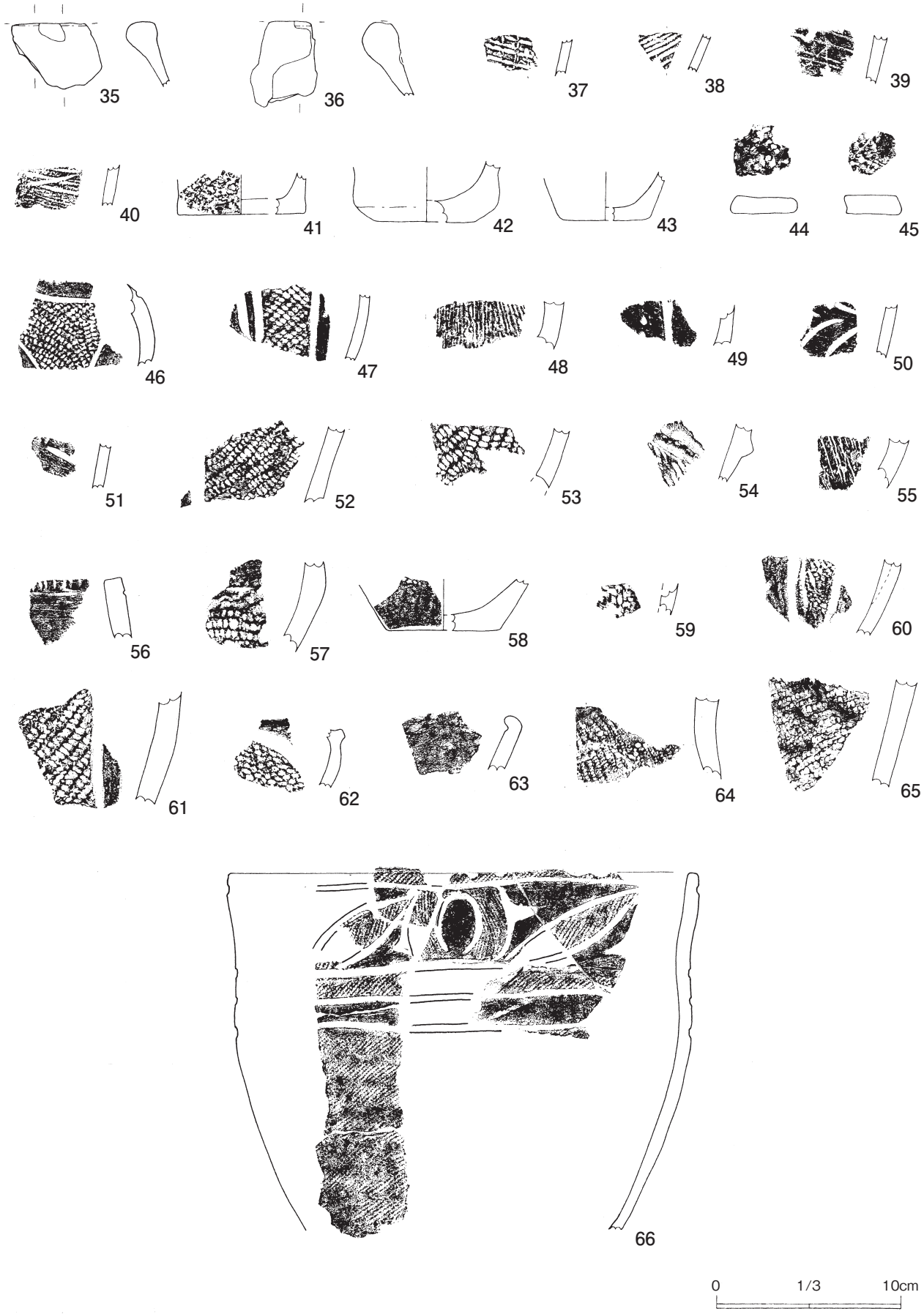
スタンプ形石器（78）　下部を破断したのみで礫形態を残す。使用痕は観察できず下面一部に剥離がある。

砥石（79～81）　側縁部で両面使用されている。80・81は大形の礫で破断している。上面に広範囲に磨面が確認される。置き砥石として使用されたか。中世所産の可能性を残す。

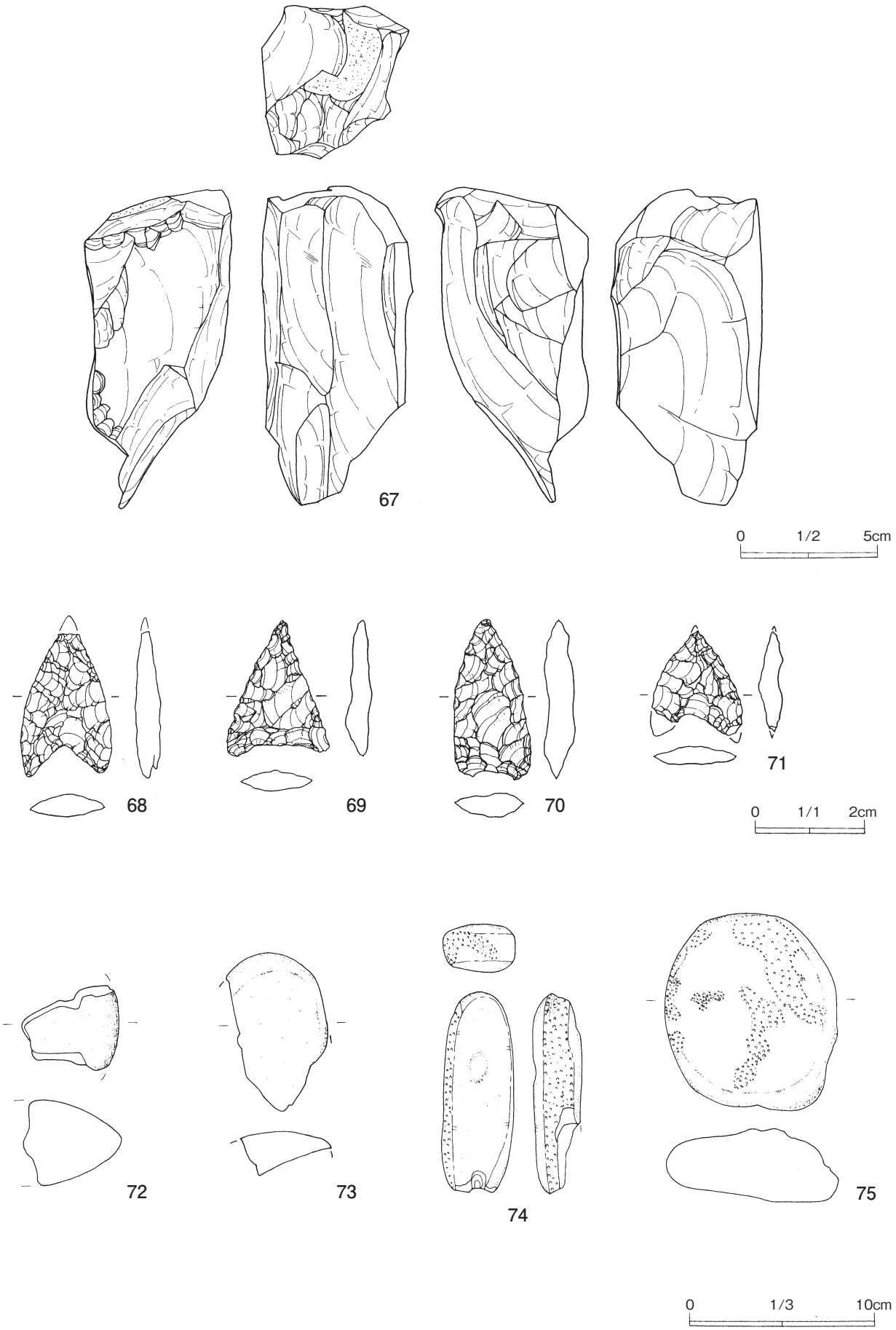
※No. 67石核の説明及び実測図作成指導は中野達也氏による。


1
1/1
2
1/1
3
0 1/1 2cm
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
☆34 次
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
0 1/3 10cm

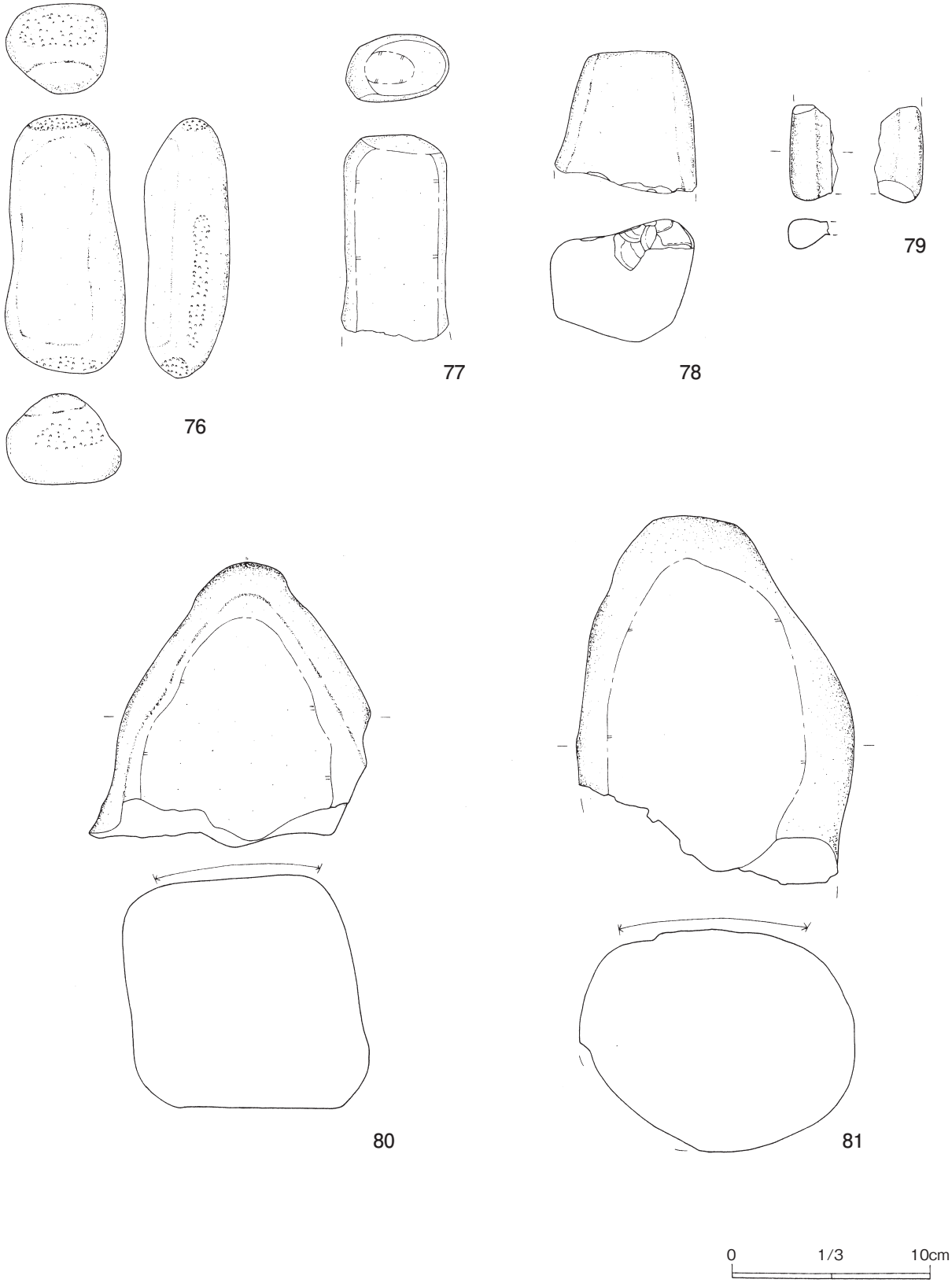
第83図　他時期１


35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
0
1/3
10cm

第84図　他時期２



第85図　他時期３



第86図　他時期４

（　）は残存値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	調査区	出土地点	長さ	幅	厚さ	型式等	遺物 ID	備考
1	剥片	石(硬質頁岩)	第10次	２溝No.63	(3.7)	(3.6)	(0.9)		0010－0002	10.7g
2	尖頭器	石(硬質頁岩)	第10次	１溝	(3.6)	(1.5)	(0.5)		0010－0001	3.2g
3	尖頭器	石(黒曜石)	第４次	No.642	(2.7)	(2.0)	(0.5)		0004－0001	2.6g
4～7	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	条痕文系		
8～14	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	関山系		
15	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	諸磯Ｃ		
16	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	前期末～中期初		
17～21	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	加曽利Ｅ		
22	縄文土器	土器		★34次出土遺物★	―	―	―	加曽利Ｅ		
23～28	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	加曽利Ｅ		
29～32	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	後期初頭		
33	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	加曽利Ｂ		
34～40	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	後晩期安行		
41	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	関山		
42・43	縄文土器	土器	第５次	―	―	―	―	―		
44・45	縄文土器	土器(土製円盤)	第５次	―	―	―	―	―		
46～48	縄文土器	土器	第６次	―	―	―	―	加曽利Ｅ		
49	縄文土器	土器	第６次	―	―	―	―	称名寺		
50・51	縄文土器	土器	第６次	―	―	―	―	晩期安行		
52～55	縄文土器	土器	第10次	―	―	―	―	加曽利Ｅ		
56	縄文土器	土器	第10次	―	―	―	―	安行		
57・58	縄文土器	土器	第12次	―	―	―	―	中～後期		
59	縄文土器	土器	第46次	―	―	―	―	関山		
60	縄文土器	土器	第46次	―	―	―	―	加曽利Ｅ		
61・62	縄文土器	土器	第47次	―	―	―	―	加曽利Ｅ		
63・64	縄文土器	土器	第53次	―	―	―	―	後期		
65	縄文土器	土器	第55次	―	―	―	―	中～後期		
66	縄文土器	土器	第55次	―	―	―	―	安行３a		
67	石核	石(凝灰岩)	第12次	一括	(11.5)	(5.3)	―		0012－0001	375g
68	石鏃	石(チャート)	第４次	No.469	2.5	1.7	0.5		0004－0001	1.5g
69	石鏃	石(チャート)	第５次	一括	2.5	1.8	0.5		0005－0002	1.4g
70	石鏃	石(細粒砂岩)	第５次	１溝No.204	2.9	1.4	0.6		0005－0003	2.1g
71	石鏃	石(チャート)	第５次	一括	2.0	1.7	0.4		0005－0001	0.9g
72	磨石	石(角閃石安山岩)	第５次	３Ｔ	(4.6)	(5.4)	4.7		0005－0004	105g
73	磨石	石	第55次	４溝No.３	(8.7)	(5.5)	(2.8)		0055－0001	106g
74	敲石	石(緑泥石片岩？)	第５次	一括	(11.3)	4.0	2.7		0005－0005	180g
75	敲石	石	第10次	１溝No.23	10.8	10	4.0		0010－0001	600g
76	敲石	石(ﾌｫﾙﾝﾌｪﾙｽ)	第10次	一括	13.2	6.0	4.4		0010－0002	545g
77	敲石	石(砂岩)	第47次	６溝No.84	(10.6)	5.4	3.4		0047－0001	280g
78	スタンプ形石器	石(砂岩)	第５次	No.299	(8.3)	7.2	6.2		0005－0006	365g
79	砥石	石(砂岩)	第５次	１溝No.173	(4.9)	(2.5)	1.5		0005－0007	17.9g
80	砥石	石	第５次	１溝No.８	(14.5)	14.3	17.8		0005－0008	3500g
81	砥石	石	第55次	４溝No.23	(18.6)	14.2	11.3		0055－0002	3500g

第29表　他時期一覧表

第６節　科学調査

騎西城武家屋敷跡出土の金粒子付着かわらけについて

山梨県立博物館　　沓名　貴彦

はじめに

近年、筆者らの調査により山梨県を中心に金が付着した遺物が、数多く確認されている[1)]。その事例は、黒川金山や湯之奥金山の金山遺跡、勝沼氏館跡や武田氏館跡などの城館跡、武田・甲府城下町遺跡などからの出土遺物であり、山梨県内では様々な場所で金の生産・加工が行われていたことが明らかとなってきている。

今回、埼玉県加須市に位置する騎西城武家屋敷跡第５次調査出土かわらけ（土－134）に金粒子の付着を確認した。

その詳細調査により、中世末から近世初頭における金生産に関する新たな知見が得られる可能性が高いと考えられたため、科学調査を実施した。

以下に、その調査結果について報告する。

調査資料

金粒子付着かわらけ　１点（土－134）

調査内容

○　エックス線透過撮影によるかわらけへの重元素の付着状態調査

かわらけ表面への金粒子やその他重元素類の付着状況の可視化を目的に、エックス線透過撮影を行った。

・使用機器

デジタルエックス線撮影システム（エクスロン・インターナショナル(株)製）

・撮影条件

管電圧：160kV　管電流：4.0mA

○　顕微鏡による詳細観察

実体顕微鏡を用いてかわらけ表面の詳細な観察を行った。

○　蛍光エックス線分析による付着元素類の非破壊定性分析

蛍光エックス線分析による非破壊定性分析を、金粒子部分や各付着物に対し実施した。

・使用機器

エネルギー分散型蛍光エックス線分析装置
SEA5230HTW
（エスアイアイ・ナノテクノロジー(株)製）

・分析条件

管電圧：50kV　管電流：自動
照射面積：1.直径1.8mm、2.3.直径0.1mm
照射時間：60秒　分析環境：真空

○　エックス線マイクロアナライザー付走査型電子顕微鏡(SEM-EDX)による付着元素類の分布調査

蛍光エックス線分析で得られた情報を元に、特徴的な部位について元素分布状態の確認を、エックス線マイクロアナライザー付走査型電子顕微鏡を用いて観察と元素のマッピング分析を実施した。

・使用機器

走査型電子顕微鏡：Quanta600（日本FEI(株)製）

エネルギー分散型エックス線マイクロアナライザー：Genesis2000（アメテック(株)製）

・分析条件

加速電圧：30kV　分析環境：30Pa

調査結果

○　エックス線透過撮影によるかわらけへの重元素の付着状態調査（口絵13）

図１ａには可視光画像、図１ｂにはエックス線透過撮影の画像を示す。

図１ｂにおいて数カ所にみられる黒点は、金粒子によるものと考えられるが、その他に重元素の付着による影状の部分は確認されなかった。

○　顕微鏡による詳細観察（口絵13）

エックス線透過画像を元に、黒点周辺部分を詳細観察したところ、金属粒子が多数確認された。その部分の顕微鏡画像をに示す。図２ａは図１ａ中１の顕微鏡画像（以後部位１）、図２ｂは図１ａ中２の顕

微鏡画像（部位２）、図２ｃは図１ａ中３の顕微鏡画像（部位３）である。

金属粒子は、部位１では金と銀が、部位２と３では銀とみられる粒子が各部位で確認された。

○　蛍光エックス線分析による付着元素類の非破壊定性分析（口絵14・15）

部位１、２、３について、蛍光エックス線分析を実施した。その結果を、図３ａ－１、２、３（部位１）、図３ｂ－１、２（部位２）、図３ｃ－１、２（部位３）に示す。部位１は直径1.8mm、部位２、３は直径0.1mmの範囲で分析を行っている。

図３ａ－１では、付着金属粒子とその周辺付着物の分析結果であるが、Ag以外にCu,Pbが確認された。図３ａ－２で　は、Au,Ag,CuやPbが、図３ａ－３ではAg以外には僅かにCu,Pbが確認される。図３ｂ－１ではAg,Cu,Pbを確認し、図３ｂ－２ではAgが最も強くみられるが、AuやCuも確認できる。図３ｃ－１でではAg,Cu,Pbを、図３ｃ－２でではAgが非常に強く確認された。

○　エックス線マイクロアナライザー付走査型電子顕微鏡（SEM-EDX）による付着元素類の分布調査（口絵15・16）

部位１について、SEMによる観察を口絵15・16に、EDXによるマッピング分析を行った結果を、口絵16に示す。口絵15図４ａは、SEMの２次電子像、図４ｂは反射電子像であり、口絵16はマッピング分析結果である。粒子は金粒子、銀粒子が確認され、金粒子ではAu以外にAg,Cuが、銀粒子にはCuが確認された。またPbは、金・銀粒子やその周辺に広がる様子が確認された。

考察

今回、騎西城武家屋敷跡出土かわらけ１点から金と銀の付着が確認されたことは、この地点で金銀に関連する作業を行っていたことが示唆される。

中でも、同一かわらけ中に金・銀粒子の確認は、金銀合金を生産している証拠である。中でも部位１では、非常に近い位置に金・銀粒子が確認されている。また部位２の金属粒子は、銀の強度が高い金銀合金粒子であることからも、金銀合金が生産されていることは間違いない。

いずれの部位から確認される鉛は、銀由来と考えられるものの、それが銀鉱石に含まれた鉛か灰吹法により意図的に添加された鉛かは不明である。また、わずかに確認される元素にビスマスがある。この元素は、銀鉱石に含まれる不純物として知られるが、ここで確認された量は微量であり、その由来などの詳細は不明である。

この様な金銀合金の生産遺物は、これまでに甲府城下町遺跡の確認事例しか知られておらず、非常に貴重な事例と考えられる。では、この合金を用いて何を制作したのかが気になるが、それについては不明であり、今後の調査を期待したい。

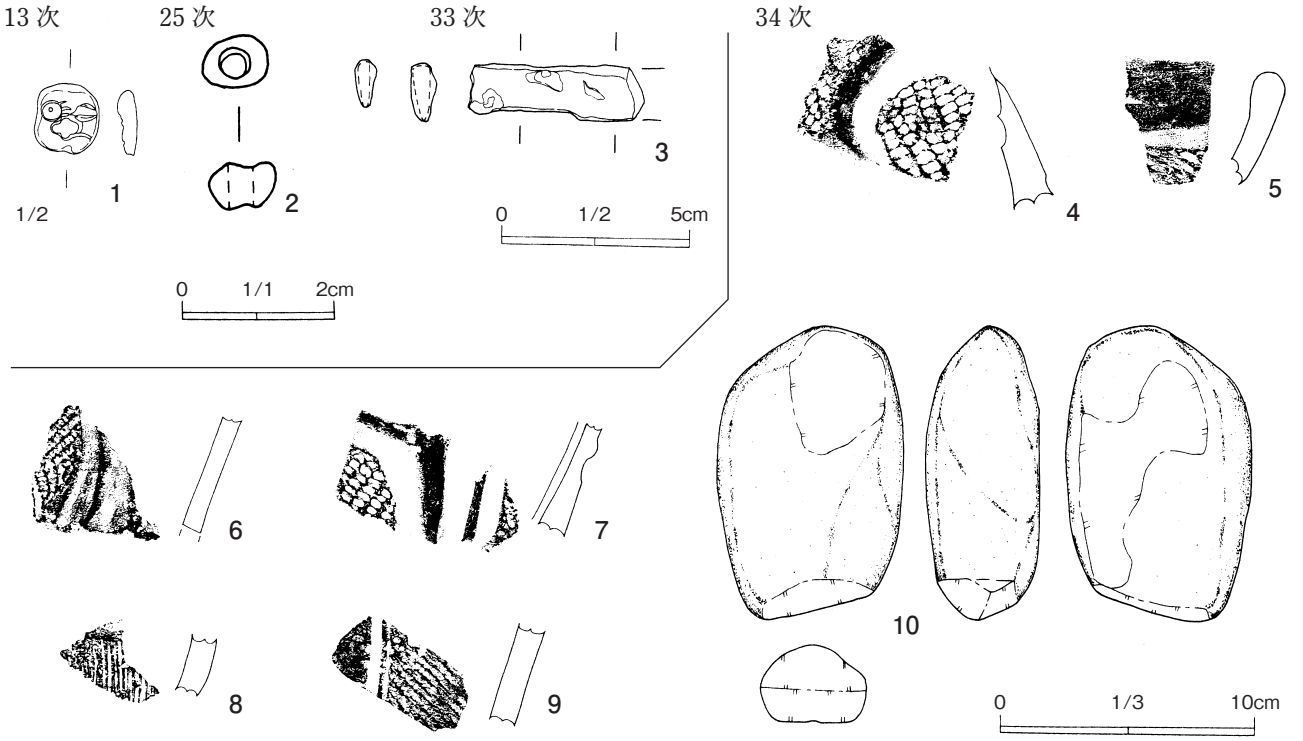
参考文献

１）山梨県立博物館「甲斐金山における金生産に関する自然科学的研究」2011

第Ⅳ章　出土遺物補遺

これまでに報告した調査区で、その後確認された遺物を補遺として掲載する。

１は13次のもので泥面子。２は25次のもので臼玉、長石製。古墳時代のもの。３は33次のもので刀子である。４～９は34次のもので縄文中期加曽利Ｅ期の土器である。10も34次のもので敲石である。下面中央の稜の両側に２面平坦面があり、また、表裏の一部にも平坦面がある。いずれも敲打及び磨り作業によるものと思われる。34次調査区周辺が中近世の作業空間と想定されるので、10も中近世所産の可能性を残す。



第87図　出土遺物補遺

法量の単位は㎝

図No.	遺物名	産地（材質）	調査区	出土地点	長さ	幅	厚さ	型式等	年代	遺物 ID	備考
1	泥面子	在地	第13次	一括	2.9	2.8	0.6				完形
2	臼玉	筑波山（長石）	第25次	一括	径0.8	—	—			0025－0001	0.7g
3	刀子	鉄	第33次	21壙	4.6	1.6	0.6			0033－0001	
4～9	縄文土器	土器	第34次	—	—	—	—	加曽利Ｅ			
10	敲石	石	第34次	２井	11.7	7.4	4.5			0034－0002	580g

第30表　出土遺物補遺一覧表

第Ⅴ章　まとめ

第１節　第４次調査

武家屋敷の東方で『武州騎西之絵図』（以下絵図）では道秀屋敷地周辺に相当する。

出土遺物から３・５号溝は明らかに廃城後である。１・２・４号溝が在城期の可能性を残す。遺物では13・14世紀の青磁碗・常滑鉢や14～16世紀の瀬戸美濃陶器があり在城期、さらにそれ以前にも活動空間であったと思われる。また、旧石器・縄文時代の出土遺物から同様での想定ができる。

第２節　第５次調査

城郭部南に巡る障子堀の南で、五の丸（仮称）の南方に位置する。『絵図』では『御蔵屋舗地』内の西側に相当する。

特徴的な遺構として断続する溝がある。障子堀と並行し東西方向に走行する。確認調査を含め４条の溝が二列に並行していた。市第３集報告の第13・18次調査でも確認されたもので、同様に覆土にロームの２次堆積があった。

また金粒・銀粒付着かわらけは付近に金・銀の加工施設があったことを想定させる。

さて、当地区の変遷のついては、以前に隣接する13・18次で３段階（１段階：断続する溝、２段階：円形等土壙の作業域・墓域、３段階：廃城後の斜行軸の長方形土壙）を想定した。今回はこれを参考に考察する。

第１段階は断続する溝（２～５号溝）である。各遺構は規則的に配置され13・18次とつながり東方のKB10区・17区・第30次まで延長し、東端まで170mを計る。相対的に古いもので北に位置する外堀（１溝）の軸に影響を与えたものであろう。平行する溝の幅は9.5mである。15世紀中～16世紀前半か。

第２段階は仮に、覆土にローム層２次堆積やロームブロックを多量に含む１・３・４・10号土壙群を置く。前段階の溝も同様で近接する可能性を有するためである。隣接では13次の１号溝・１号井戸、18次の５号土壙である。

第３段階は当地区では確認できず隣接の13次４号土壙、18次の１号井戸と３・４・６・10号土壙で取瓶や炭化物・骨などが出土し作業域・墓域を想定できる。およそ16世紀中頃か。

第４段階は１号井戸で13次の１号溝も同時期か。８号土壙は遺物の流れ込みか。騎西城廃城前の16世紀末から17世紀初めか。

第３節　第６次調査

武家屋敷の南端で水路・水田に臨む地点である。『絵図』では石塚半右衛門屋敷地南周辺に相当する。遺構が少なく在城時の土地利用が薄いものである。そのため、原始古代の黒色土層の遺りが良く、縄文時代の土器や剥片が散布していた。

第４節　第10次調査

武家屋敷の西端で水田に臨む地点である。『絵図』では木□長右衛門屋敷地南周辺に相当する。調査区を横断する１・２号溝は廃城後のもので18世紀以降である。この溝は隣接するKB９、第46・47次の溝とつながる。在城期の遺物は舶載皿・瀬戸美濃陶器・弾丸・小柄等がある。また、旧石器時代の硬質頁岩製尖頭器は騎西地域唯一である。

第５節　第11次調査

武家屋敷の南西部で『絵図』では富塚久太夫屋敷地周辺に相当する。

東端の１・２号溝は北接するKB２区の１・21号溝とつながり南方の44次６号溝とつながる。

16世紀末から17世紀初頭のものである。

第６節　第12次調査

武家屋敷の南西部で『絵図』では篠原忠右衛門屋敷地周辺に相当する。

南端の３号溝は西接する第７次の１号溝・KB１区の９b号溝・KB２区の18号溝とつながる。その北にある１号溝は西方で第21次の２号溝・KB２区の22号溝に、東方のKB１区の10b号溝・KB５区の10b号溝とつながる。

第88図　調査地点の推定位置

第７節　第46・47次調査

武家屋敷南西端で『絵図』では若林兵庫屋敷地周辺に相当する。

第46次の１号溝は西でKB９区の20号溝・10次の２号溝と、南方で第47次１号溝とつながる。第46次２号溝は西方でKB９区17号溝、南方で第47次８・７号溝とつながる。２つの溝は存在感を示すが、46次１号溝は16世紀中頃から17世紀前であるが他地区では延長がKB９区17世紀中頃・10次１号溝は18世紀以降で廃城後である。平行する46次１号溝も同様の時期であろう。

在城期の遺構としては、46次１号井戸・墓壙の２号土壙、47次の１号井戸が想定できる。

第８節　第53・54・55・56次調査

武家屋敷西寄りで『絵図』では加藤孫太夫屋敷地周辺に相当する。

第53次ではスラグやスス付着のかわらけが出土しており鋳造・鍛冶関連の作業空間があったものと思われる。16世紀か。また、墓壙が存在した。１・２号溝は隣接するKB８区に延長している。

第54次１号溝は第53次の３号溝につながるか。

第55次では周辺では珍しく南北方向の溝（４号溝）が走行する。出土遺物から13～14世紀の可能性がある。１号井戸は17世紀初頭のものと思われ荷札が出土している。

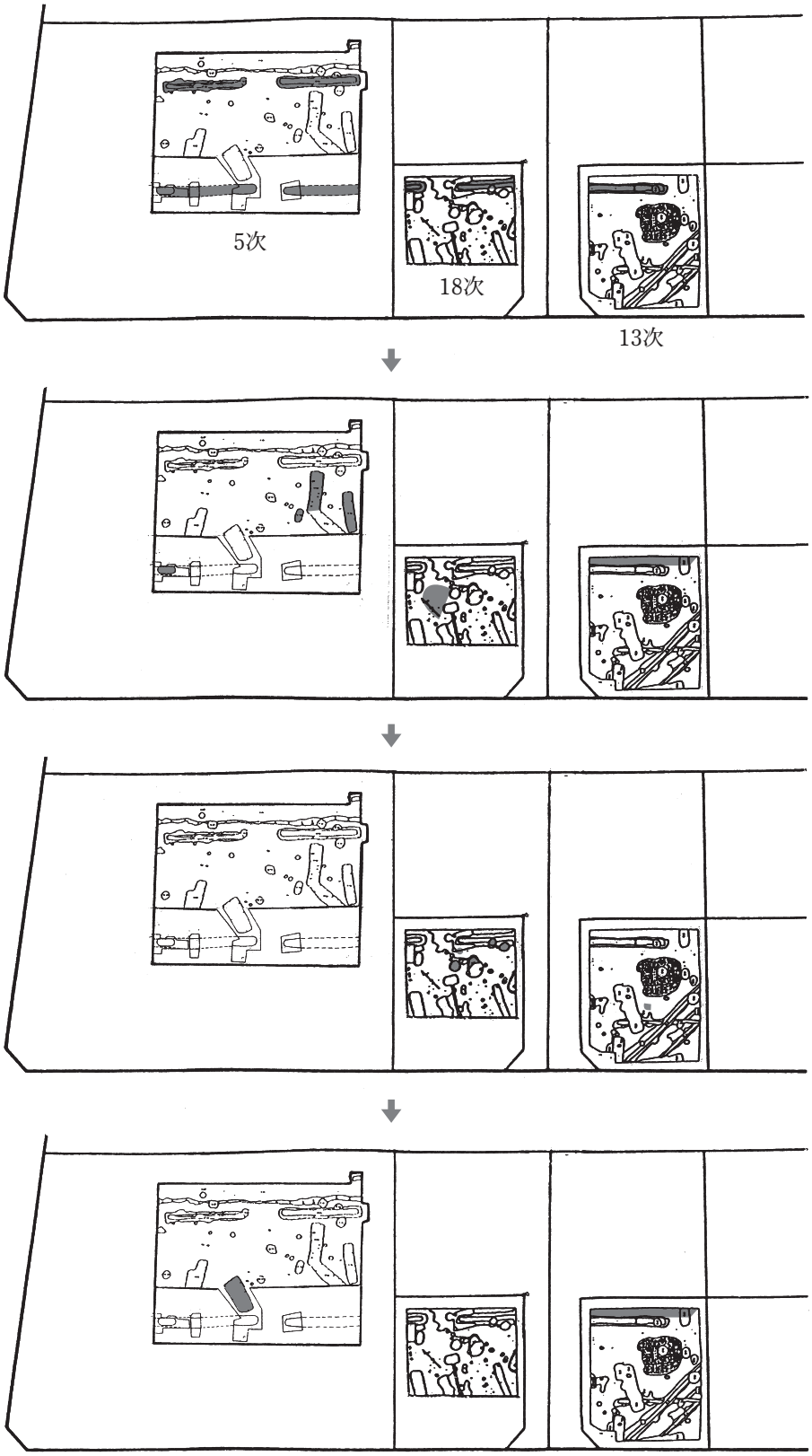
第56次の２号溝は東西方向に走行する。西寄りで深くなる。深さは70cmのものが長さ1.3mにわたり深さ120cmとなる。何らかの施設であろう。17世紀初頭か。

本地点は13～14世紀・16世紀代・17世紀初めの生活の痕跡が認められる。

特に17世紀初頭は『絵図』の頃で井戸（55次１井））や区画溝（56次２溝）が同時期の可能性を有する。加藤孫太夫の屋敷地の施設であろうか。

さて、55次１号井戸から出土した荷札であるが当遺跡の数少ない墨書木簡で荷札は唯一の出土例である。表裏に「アワビ２連なり　江戸より」「安兵衛様　勘久（三）郎」と墨書されている。江戸の勘久郎より安兵衛宛にアワビが２連送られたものと思われ、江戸との流通を物語る貴重な資料である。

第5次周辺



第89図　第５次周辺遺構の変遷

参考文献

秋本太郎　2008　「戦国期北関東のかわらけ－戦国大名支配との関連－」『中世東国の世界３戦国大名北条氏』

浅野晴樹　1988　「関東における中世在地産土器について」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』第４号

1991　「東国における中世在地系土器について－主に関東を中心に－」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集

大橋康二　1984　「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館

小野正敏　1982　「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』№２貿易陶磁研究会

2000　「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡　総合調査報告書　資料編』菊川町教育委員会

『騎西町史』考古資料編１　2001　騎西町教育委員会

『騎西町史』考古資料編２　1999　騎西町教育委員会

『騎西町史』通史編　2005　騎西町教育委員会

九州近世陶磁学会　2000　「九州陶磁の編年」　九州陶磁学会

2001　「国内出土の肥前陶磁」　東日本の流通をさぐる　九州陶磁学会

島村範久ほか　1997　「騎西武家屋敷跡城　妙光寺第１・２次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第２集

島村範久　2005　「騎西（私市）城跡」『シンポジウム　埼玉の戦国時代　検証　比企の城』資料集　史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会

2005　「騎西（私市）城跡」『戦国の城』

2009　「騎西城武家屋敷跡　第40次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第６集

嶋村英之　2011　「騎西城武家屋敷跡　第17・28・35・36・39・41・43次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第１集加須市教育委員会

2012　「騎西城武家屋敷跡第13・18・25・32・33・34・38・49次調査　騎西城跡第９・10次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第３集　加須市教育委員会

嶋村英之・島村範久・嶋村薫　2011　「騎西城武家屋敷跡　KB大英寺・１・２区調査－中近世編－」加須市埋蔵文化財調査報告書第２集　加須市教育委員会

2012　「騎西城武家屋敷跡　KB３・６・９区　第19・20・21・29次調査－中近世編－」加須市埋蔵文化財調査報告書第４集　加須市教育委員会

田中　信　1996「川越市内出土の中世土師器について－特に河越館跡および周辺出土を中心に－」『川越市埋蔵文化財調査報告書（ＸⅠ）』川越市教育委員会

2005　「山内上杉氏の土器（かわらけ）とは」『戦国の城』高志書院

2005　「出土遺物からみた山内上杉（越後上杉氏）の城・陣所」『シンポジウム　埼玉の戦国時代　検証　比企の城』資料集　史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会

2010　「葛西城と扇谷上杉氏のかわらけ」『葛西城と古河公方足利義氏』雄山閣

塚田良道　1989　「忍城跡の発掘調査」『行田市郷土博物館研究報告』Vol１行田市郷土博物館

中野晴久　1994　「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集

2005　「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集

服部実喜　2008　「かわらけから見た北条氏の権力構造」『中世東国の世界３戦国大名北条氏』

藤澤良祐　1987　「本業焼の研究（１）」研究紀要Ⅵ　瀬戸市歴史民俗資料館

1988　「本業焼の研究（２）」研究紀要Ⅵ　瀬戸市歴史民俗資料館

1989　「本業焼の研究（３）」研究紀要Ⅵ　瀬戸市歴史民俗資料館

2002　「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯

2008　「中世瀬戸窯の編年」

横田賢次郎・森田　勉　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』４

図　　版

調査前風景

完掘西側
（北より）

５号溝　完掘

遺構２　第４次－２

１号溝　完掘

２号溝　完掘

３号溝　完掘

４号溝　完掘

完掘（東より）

１号溝
第１トレンチ

１号溝　焙烙（土－70）出土

３号溝　かわらけ（土－82）出土

１号井戸　完掘

２号井戸　完掘

３号井戸　完掘

４号井戸　完掘

５号井戸　完掘

６号井戸　完掘

７号井戸　完掘

２・３号土壙　完掘

４号土壙　完掘

８号土壙　完掘

かわらけ（土－122）出土

４号土壙　かわらけ（土－96）出土

４号土壙　焙烙（土－97）出土

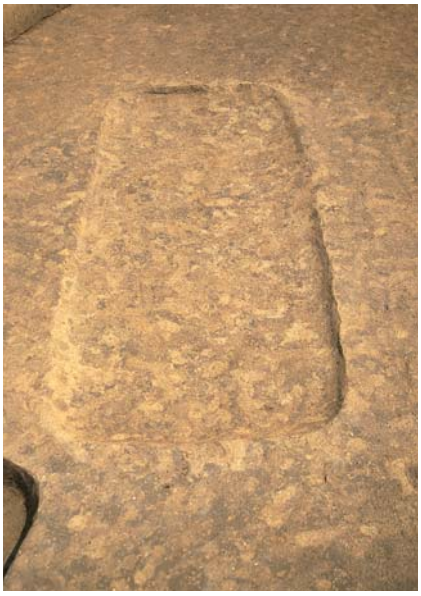
焙烙（土－137）出土

調査風景

調査前風景

完掘

１号溝　完掘



１号土壙　完掘

２号土壙　完掘

遺構８　第６次－２

３号土壙　完掘

４号土壙　完掘

縄文時代調査及び剥片出土

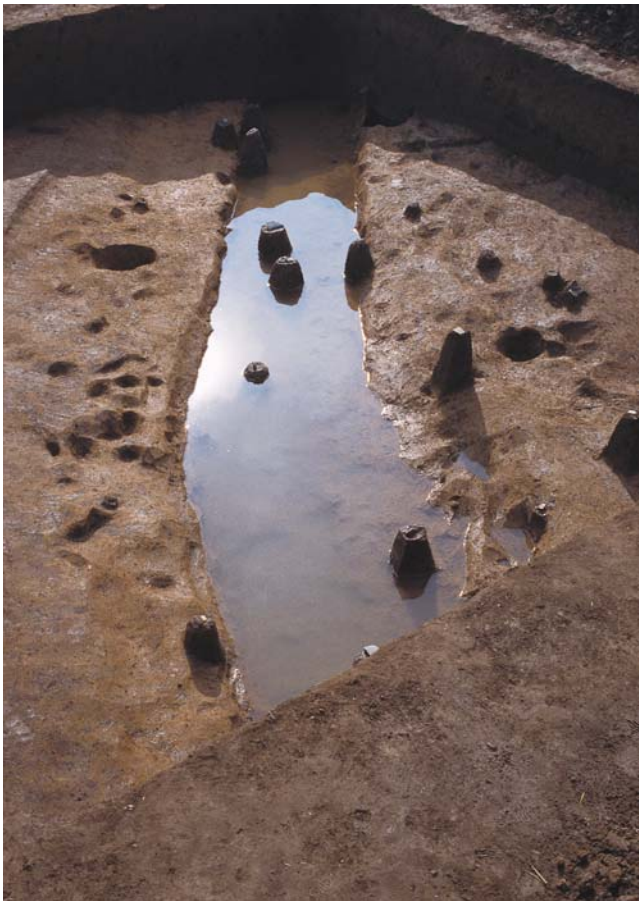
調査前風景

完掘（東から）

１号溝　完掘（西より）

１号溝　遺物出土

１号溝　石臼（石－９）出土



２号溝　完掘（西より）

２号溝　弾丸（金－27）出土

２号溝　筒形碗（土－159）出土

１号土壙　完掘

完掘（南より）

１号溝　遺物出土状況

１号溝　焙烙（土－182）出土

１号井戸　完掘

遺構12　第12次

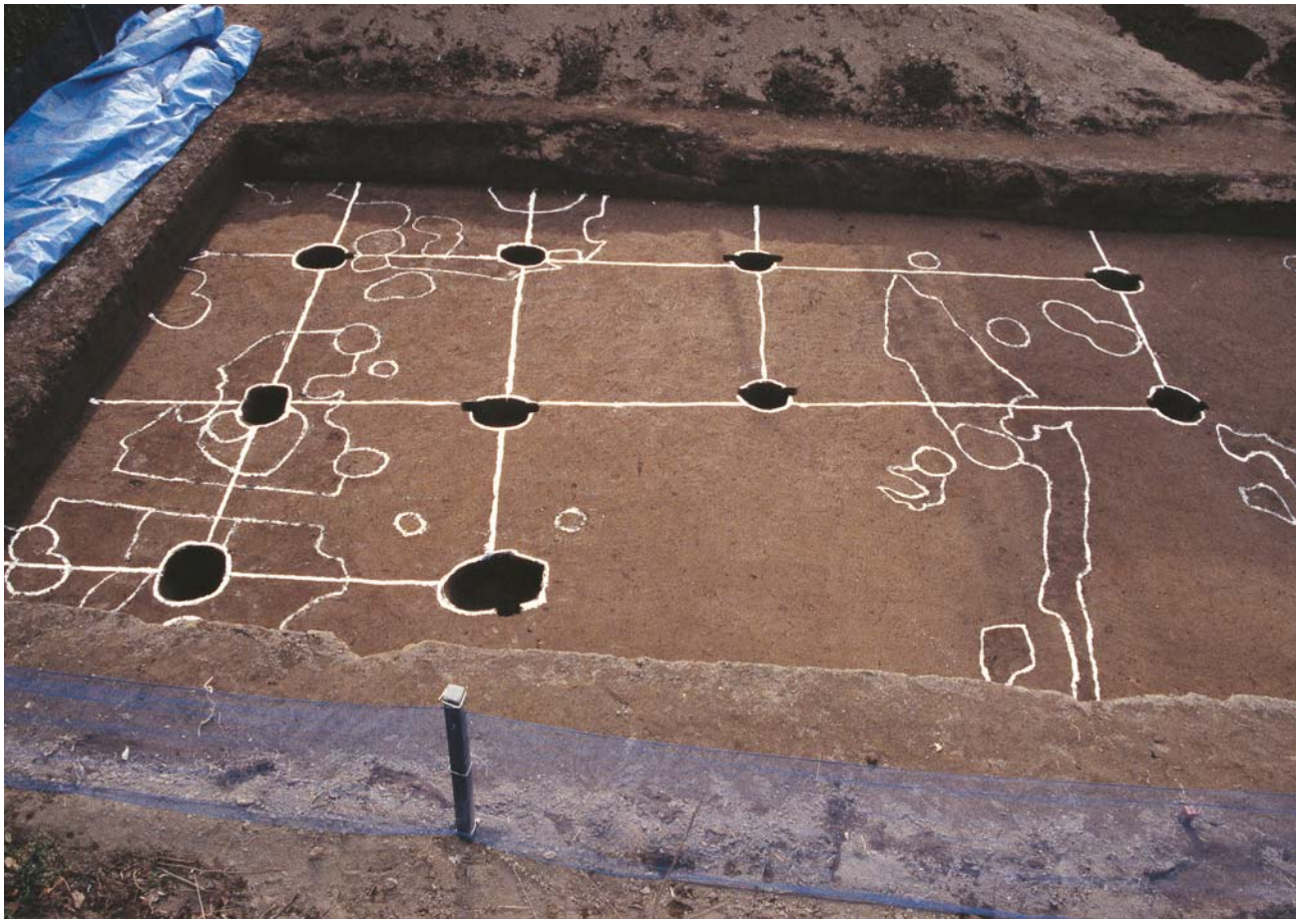
調査前風景

１・２号溝　完掘

１・２号溝　完掘

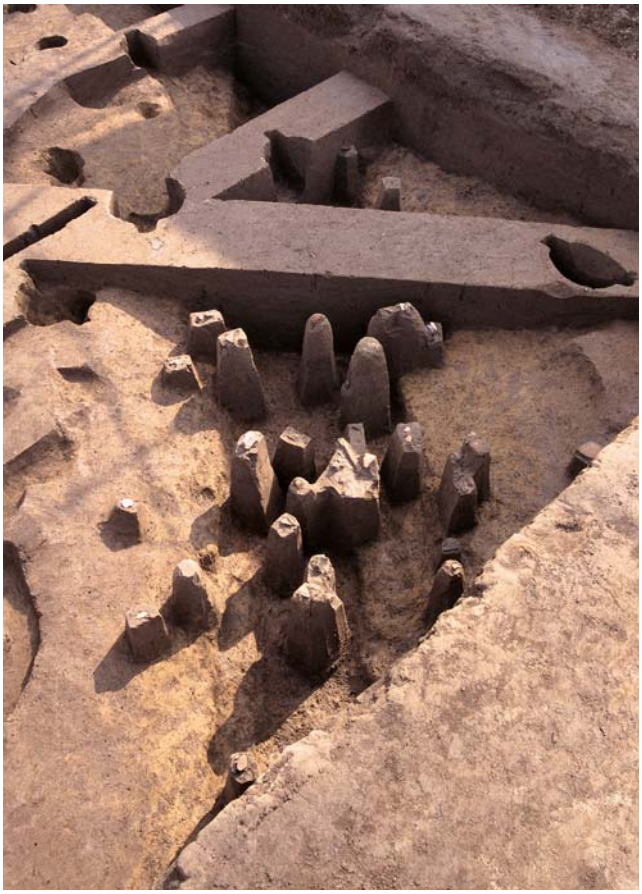
３号溝　完掘

完　掘



１号建物

１号溝　完掘



同　遺物出土状況

同　天目茶碗（土－196）出土

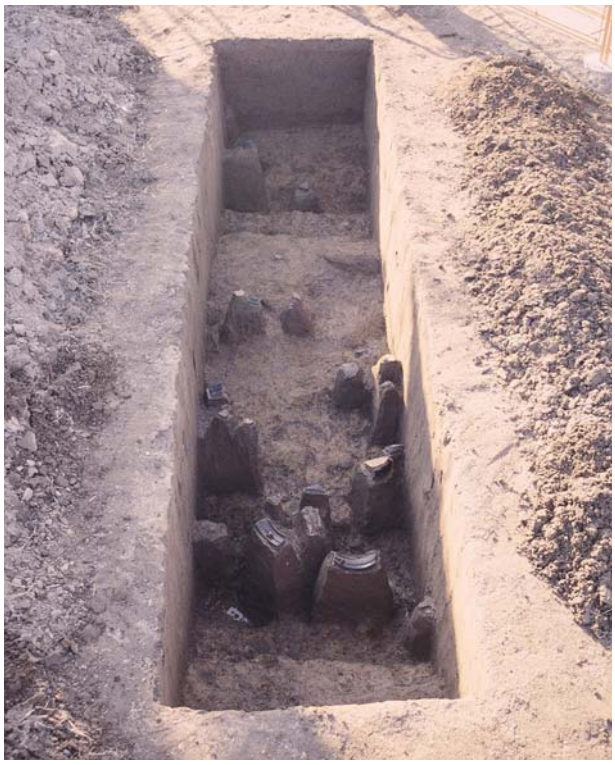
同　上（接合）

１号井戸　完掘

４号土壙　骨出土

５号土壙　鳥形土製品
（土－214）出土

１Ｔ　遺物出土



１Ｔ　完掘

２Ｔ　完掘

３Ｔ　完掘

遺構16　第47次－１

完　掘

１号溝　完掘

４号溝　２号土壙　完掘

６号溝　完掘

６号溝　遺物出土

同　上

５・７・８号溝　完掘

１号井戸　完掘

１号井戸　かわらけ出土

３号土壙　完掘

１Ｔ　骨出土

１Ｔ　骨出土

１Ｔ　加工石（石－93）出土

瀬戸美濃丸碗（土－320）出土

弾丸？（金－12）出土

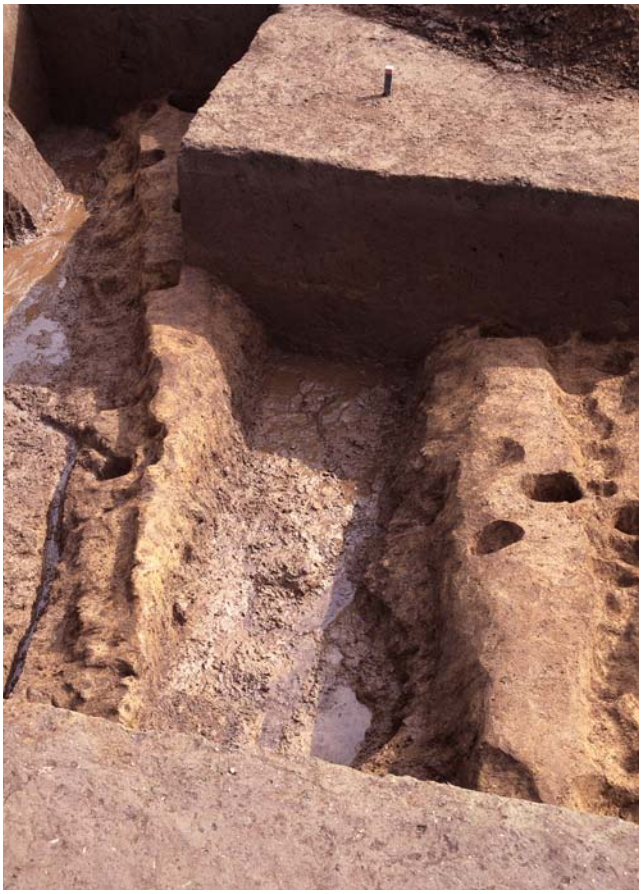
志戸呂碗（土－264）出土

調査前風景

完掘（東から）

遺構20　第53次－２

遺構確認状況



１号溝　完掘

２号溝　完掘

53次３号溝　完掘

同　４号溝　完掘

同　３号溝　在地甕（土－357）出土

同　１号井戸　完掘

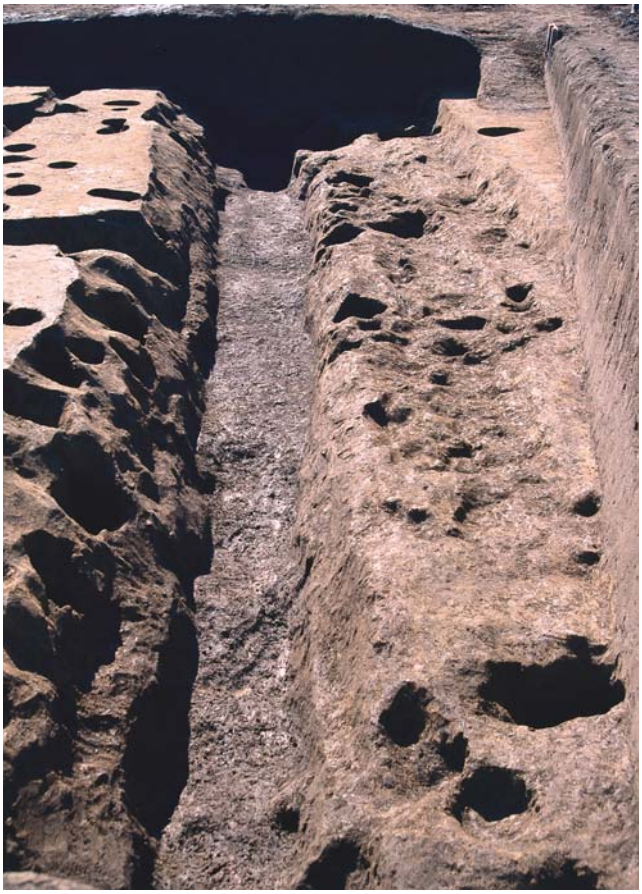
同　３号土壙　完掘

54次　完掘

遺構22　第55次－１

完掘（北から）

４号溝　完掘



同　完掘（北から）

４号溝　遺物出土

４号溝　土層堆積

４号溝南側　ロームブロック検出

１号井戸　志野皿出土・ロームブロック堆積

１号井戸　鋺（金－７）出土

遺構24　第56次－１

完掘（南から）

完掘（北から）

１号井戸　完掘

２号溝　志野皿（土－447）出土

同　かわらけ（土－450）出土

２号溝　完掘（西から）

２号溝　掘り込み

２号溝　西側木出土

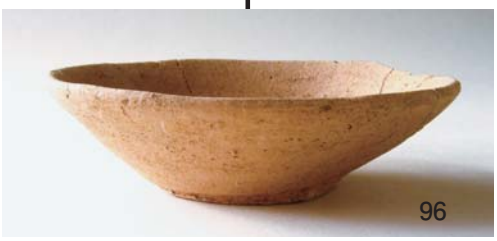
２号溝　同拡大

出土遺物１　第５次－１

64

82

91



96

100

122

かわらけ

焙烙

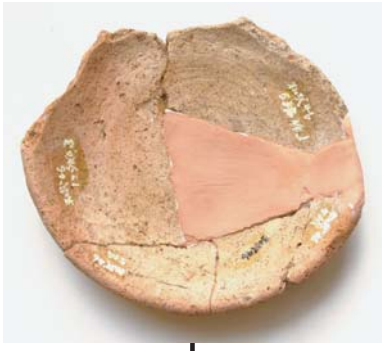
擂鉢

出土遺物３　第５次－３・11次・46次

敲石

スタンプ形石器

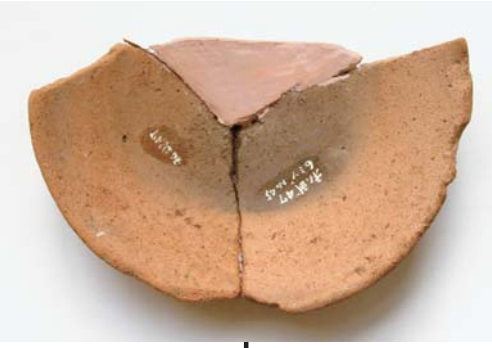
焙烙

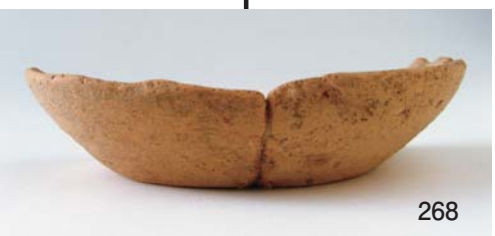


かわらけ

265

267





268

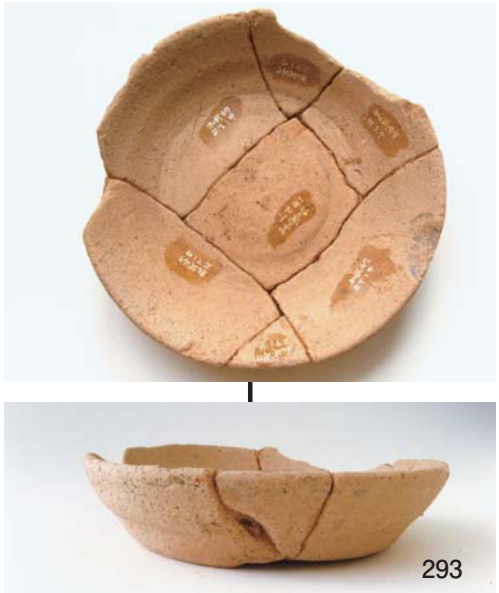
271

275

277

291

292


293

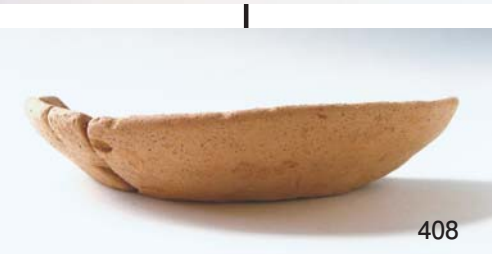
295

279

焙烙

354

407

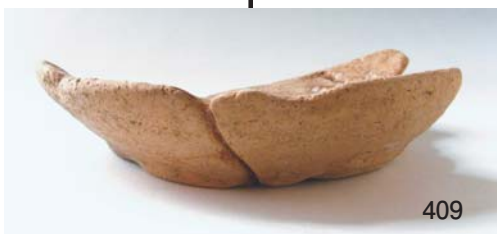

408

357

甕

402

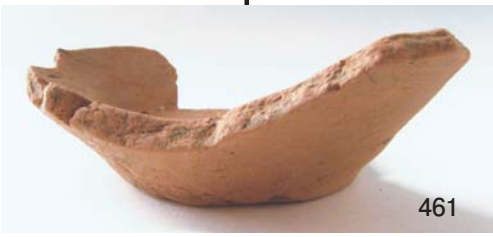
瓦


409

450

452

460



461

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14

鉄製品

23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

弾丸

15
16
17
18
19
20
21
22
33
34

銅製品

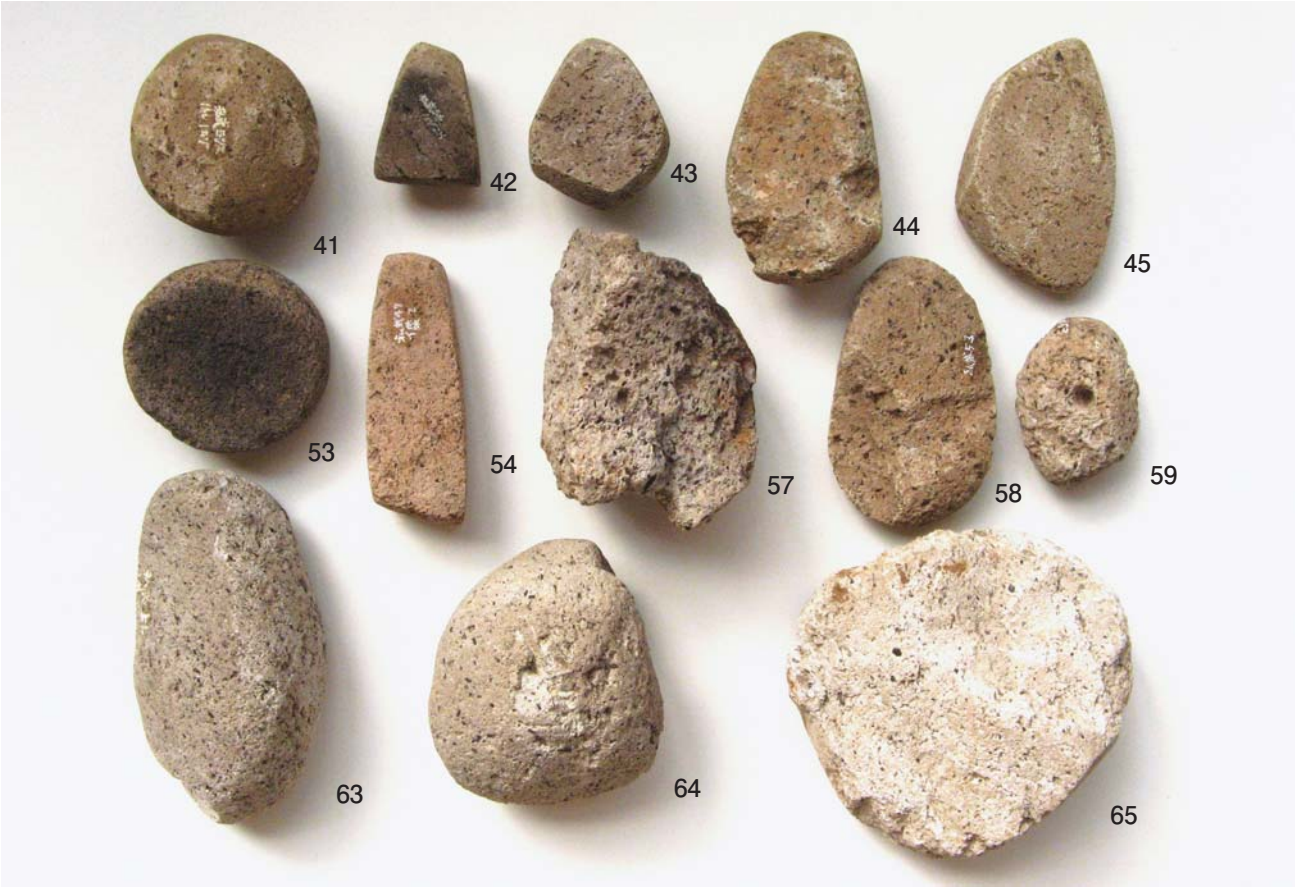
出土遺物９　石製品類－１

石臼

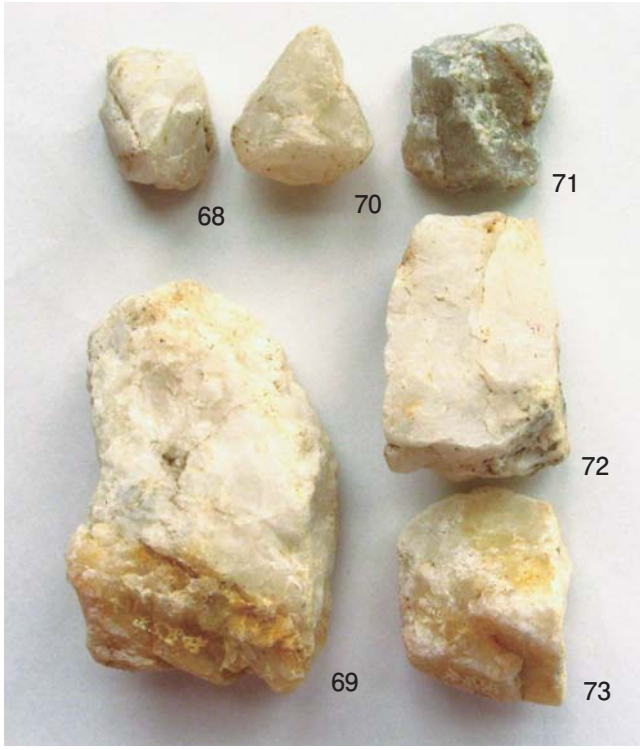
碁石

硯

砥石



磨石



火打石

加工石

出土遺物11　他時期

剥片

尖頭器

石鏃

石核

縄文土器

報　告　書　抄　録

フリガナ	キサイジョウブケヤシキアト
書名	騎西城武家屋敷跡第４～６・10～12・46・47・53～56次調査
副書名	
巻次	
シリーズ名	加須市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第５集
編著者名	嶋村英之　嶋村薫
編集機関	加須市教育委員会
所在地	〒347－8501　埼玉県加須市下三俣290番地
発行年月日	西暦2013年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
私市城 武家屋敷跡	埼玉県加須市 根古屋	11421	070					個人住宅 建設
	４次　152			36°5′59″	139°35′19″	19821115～1130	115	
	５次　201－１			36°6′14″	139°35′4″	19861208～ 19870123	200	
	６次81－１・４			36°6′3″	139°35′2″	19870525～0615	75	
	10次63－１			36°6′8″	139°34′53″	19881020～1104	54	
	11次仮38－３－１			36°6′6″	139°34′60″	19890920～1009	57	
	12次仮35－５			36°6′7″	139°35′00″	19891026～1129	76	
	46次仮18-11			36°6′7″	139°34′53″	19941201～ 19950314	87.3	
	47次仮18-11			36°6′7″	139°34′53″	19941201～ 19950314	59.5	
	53次　639－９			36°6′9″	139°35′00″	19981007～1106	35.2	
	54次　639-10			36°6′9″	139°34′60″	19981109～1113	8.33	
	55次　639－３			36°6′8″	139°34′58″	20011203～ 20020129	105	
	56次　639－５			36°6′7″	139°34′59″	20040415～0531	121	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
私市城 武家屋敷跡	城館跡	４次中近世	溝５／土壙１	陶磁器・尖頭器
		５次中近世	溝５／井戸７／土壙10	陶磁器・金銀粒子付着土器
		６次中近世	溝１／土壙４	陶磁器・縄文土器
		10次中近世	溝３／土壙１	陶磁器・弾丸・尖頭器
		11次中近世	溝４／井戸１／土壙７	陶器
		12次中近世	溝３／土壙８	陶磁器・石核
		46次中近世	溝９／井戸１／土壙35／建１	陶磁器・鳥形土製品・小柄
		47次中近世	溝12／井戸１／土壙６	陶磁器・磨石・骨
		53次中近世	溝４／井戸１／土壙１	土器類・取瓶
		54次中近世	溝２	
		55次中近世	溝６／井戸１／土壙２	陶磁器・荷札・縄文土器
		56次中近世	溝２／井戸１／土壙５	陶磁器・紡錘車

要　約

第５次調査区は城郭の南で『絵図』の御蔵屋舗周辺である。東へ延びる並行し断続する溝や金銀粒子が付着した土器が出土する当遺跡でも特殊な地域である。

また、第４次調査地点は本調査の東限界で周辺の成果が少ないが、16世紀代の瀬戸美濃陶器や13～14世紀の青磁が出土するなど区画整理地区と同様の傾向が見られた。

加須市埋蔵文化財調査報告書　第５集

騎西城武家屋敷跡

第４～６・10～12・46・47・53～56次調査

平成25年３月22日印刷
平成25年３月31日発行

発　行　加須市教育委員会
〒347－8501　埼玉県加須市下三俣290番地
印　刷　関東図書株式会社